茨城県教育財団文化財調査報告第166集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

熊の山遺跡
（下巻）

作業室用

平成12年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第166集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

熊の山遺跡
（下巻）

平成12年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

目　　次

－下　巻－

第3節　遺構と遺物
6　11区の遺構と遺物
(1)　竪穴住居跡
②　奈良・平安時代 …… 443
(2)　掘立柱建物跡 …… 609
(3)　溝 …… 620
(4)　道路状遺構 …… 626
(5)　地下式壙 …… 627
(6)　土坑 …… 631
(7)　遺構外出土遺物 …… 638
第4節　まとめ …… 640
写真図版

挿 図 目 次

－下 巻－

第360図　第733号住居跡実測図 …… 444
第361図　第733号住居跡出土遺物実測図 …… 445
第362図　第753号住居跡実測図 …… 446
第363図　第753号住居跡出土遺物実測図 …… 447
第364図　第754号住居跡実測図 …… 448
第365図　第754号住居跡出土遺物実測図 …… 449
第366図　第755号住居跡・出土遺物実測図 … 451
第367図　第756・757号住居跡実測図 …… 453
第368図　第756号住居跡出土遺物実測図 …… 454
第369図　第757号住居跡出土遺物実測図 …… 456
第370図　第759号住居跡実測図 …… 458
第371図　第759号住居跡出土遺物実測図 …… 458
第372図　第760号住居跡実測図 …… 460
第373図　第760号住居跡出土遺物実測図 …… 461
第374図　第762号住居跡実測図 …… 462
第375図　第762号住居跡出土遺物実測図 …… 463
第376図　第763号住居跡実測図 …… 465
第377図　第763号住居跡出土遺物実測図 …… 465
第378図　第765号住居跡実測図 …… 466
第379図　第765号住居跡出土遺物実測図 …… 467
第380図　第769・770号住居跡実測図 …… 469
第381図　第769号住居跡出土遺物実測図 …… 470
第382図　第770号住居跡出土遺物実測図 …… 471
第383図　第774・775号住居跡実測図 …… 472
第384図　第774号住居跡出土遺物実測図 …… 473
第385図　第775号住居跡出土遺物実測図 …… 474
第386図　第782号住居跡実測図 …… 476
第387図　第782号住居跡出土遺物実測図 …… 477
第388図　第784号住居跡実測図 …… 479
第389図　第784号住居跡出土遺物実測図 …… 480
第390図　第785号住居跡実測図 …… 482
第391図　第785号住居跡出土遺物実測図 …… 483
第392図　第789号住居跡実測図 …… 485
第393図　第789号住居跡出土遺物実測図 …… 486
第394図　第791・793号住居跡実測図 …… 487
第395図　第791号住居跡出土遺物実測図 …… 487
第396図　第793号住居跡出土遺物実測図 …… 488
第397図　第795号住居跡実測図 …… 490
第398図　第795号住居跡出土遺物実測図 …… 491
第399図　第798・799号住居跡実測図 …… 492
第400図　第798号住居跡出土遺物実測図 …… 493
第401図　第799号住居跡出土遺物実測図 …… 493
第402図　第802号住居跡実測図 …… 494
第403図　第802号住居跡出土遺物実測図 …… 495
第404図　第803号住居跡実測図 …… 496
第405図　第803号住居跡出土遺物実測図 …… 497
第406図　第809号住居跡実測図 …… 499
第407図　第809号住居跡出土遺物実測図 …… 500
第408図　第813号住居跡実測図 …… 501
第409図　第813号住居跡出土遺物実測図 …… 501
第410図　第814号住居跡実測図 …… 503
第411図　第814号住居跡出土遺物実測図 …… 504
第412図　第815・817・818号住居跡実測図 … 505
第413図　第817号住居跡出土遺物実測図 …… 506
第414図　第818号住居跡出土遺物実測図 …… 508
第415図　第820号住居跡・出土遺物実測図 … 509
第416図　第821号住居跡実測図 …… 511
第417図　第821号住居跡出土遺物実測図 …… 511
第418図　第823号住居跡実測図 …… 513
第419図　第823号住居跡出土遺物実測図 …… 514
第420図　第824・825・828号住居跡実測図(1) …… 515
第421図　第824・825・828号住居跡実測図(2) …… 516
第422図　第824号住居跡出土遺物実測図 …… 517
第423図　第825号住居跡出土遺物実測図 …… 518
第424図　第828号住居跡出土遺物実測図 …… 520
第425図　第830号住居跡実測図 …… 521

第426図　第830号住居跡出土遺物実測図 …… 521
第427図　第833号住居跡実測図 …… 523
第428図　第833号住居跡出土遺物実測図 …… 524
第429図　第834A号住居跡・出土遺物実測図 …… 526
第430図　第838号住居跡実測図 …… 527
第431図　第838号住居跡出土遺物実測図 …… 528
第432図　第839号住居跡実測図 …… 530
第433図　第839号住居跡出土遺物実測図 …… 531
第434図　第840号住居跡実測図 …… 533
第435図　第840号住居跡出土遺物実測図 …… 534
第436図　第841・844A・844B号住居跡実測図 …… 536
第437図　第841号住居跡出土遺物実測図 …… 537
第438図　第844A号住居跡出土遺物実測図 …… 538
第439図　第844B号住居跡出土遺物実測図 …… 539
第440図　第850号住居跡実測図 …… 541
第441図　第850号住居跡出土遺物実測図 …… 541
第442図　第851・852号住居跡実測図 …… 542
第443図　第855号住居跡実測図 …… 544
第444図　第855号住居跡出土遺物実測図 …… 544
第445図　第856・857号住居跡実測図 …… 546
第446図　第856号住居跡出土遺物実測図 …… 546
第447図　第857号住居跡出土遺物実測図 …… 547
第448図　第860号住居跡実測図 …… 549
第449図　第860号住居跡出土遺物実測図 …… 549
第450図　第861号住居跡実測図 …… 551
第451図　第861号住居跡出土遺物実測図 …… 551
第452図　第863号住居跡・出土遺物実測図 …… 553
第453図　第864号住居跡実測図 …… 555
第454図　第864号住居跡出土遺物実測図 …… 557
第455図　第866号住居跡・出土遺物実測図 …… 558
第456図　第867号住居跡実測図 …… 560
第457図　第868A・868B号住居跡実測図 …… 561
第458図　第868A号住居跡出土遺物実測図 …… 561
第459図　第868B号住居跡出土遺物実測図 …… 562
第460図　第869号住居跡・出土遺物実測図 …… 563
第461図　第871号住居跡・出土遺物実測図 …… 565
第462図　第872号住居跡・出土遺物実測図 …… 567
第463図　第873号住居跡・出土遺物実測図 …… 569
第464図　第874号住居跡実測図 …… 571
第465図　第874号住居跡出土遺物実測図 …… 572
第466図　第875号住居跡実測図 …… 573
第467図　第875号住居跡出土遺物実測図 …… 574
第468図　第878号住居跡・出土遺物実測図 …… 576
第469図　第879号住居跡実測図 …… 578
第470図　第879号住居跡出土遺物実測図 …… 579
第471図　第881号住居跡・出土遺物実測図 …… 582
第472図　第881号住居跡出土遺物実測図 …… 583
第473図　第882号住居跡実測図 …… 585
第474図　第882号住居跡出土遺物実測図 …… 586
第475図　第883号住居跡実測図 …… 587
第476図　第883号住居跡出土遺物実測図 …… 587
第477図　第884号住居跡実測図 …… 588
第478図　第884号住居跡出土遺物実測図 …… 589
第479図　第885号住居跡実測図 …… 590
第480図　第885号住居跡出土遺物実測図 …… 590
第481図　第886号住居跡実測図 …… 592
第482図　第886号住居跡出土遺物実測図 …… 593
第483図　第896号住居跡出土遺物実測図 …… 594
第484図　第896号住居跡実測図 …… 595
第485図　第897B号住居跡実測図 …… 596
第486図　第897B号住居跡出土遺物実測図 …… 597
第487図　第898号住居跡実測図 …… 598
第488図　第898号住居跡出土遺物実測図 …… 599
第489図　第902A・902B号住居跡実測図 …… 600
第490図　第902A号住居跡出土遺物実測図 …… 601
第491図　第902B号住居跡出土遺物実測図 …… 603
第492図　第28号掘立柱建物跡実測図 …… 609
第493図　第29号掘立柱建物跡実測図 …… 611
第494図　第30号掘立柱建物跡実測図 …… 612
第495図　第30号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 613
第496図　第31号掘立柱建物跡実測図 …… 614
第497図　第31号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 614

第498図　第32号掘立柱建物跡実測図 …… 615
第499図　第32号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 616
第500図　第33号掘立柱建物跡実測図 …… 617
第501図　第34号掘立柱建物跡実測図 …… 618
第502図　第36号掘立柱建物跡実測図 …… 619
第503図　第32号溝土層実測図 …… 620
第504図　第35号溝土層実測図 …… 621
第505図　第35号溝出土遺物実測図 …… 622
第506図　第36号溝土層実測図 …… 623
第507図　第37号溝土層実測図 …… 623
第508図　第38号溝土層実測図 …… 624
第509図　第39号溝土層実測図 …… 624
第510図　第39号溝出土遺物実測図 …… 624
第511図　第40号溝土層実測図 …… 625
第512図　第41号溝土層実測図 …… 625
第513図　第42号溝土層実測図 …… 626
第514図　第45号溝土層実測図 …… 626
第515図　第４号道路状遺構土層実測図 …… 626
第516図　第17号地下式壙実測図 …… 627
第517図　第18号地下式壙実測図 …… 628
第518図　第19号地下式壙実測図 …… 629
第519図　第20号地下式壙実測図 …… 630
第520図　第606号土坑実測図 …… 631
第521図　第606号土坑出土遺物実測図 …… 632
第522図　第607号土坑実測図 …… 633
第523図　第607号土坑出土遺物実測図 …… 634
第524図　第659号土坑実測図 …… 635
第525図　第707号土坑実測図 …… 636
第526図　第707号土坑出土遺物実測図 …… 636
第527図　遺構外出土遺物実測図 …… 639

表　目　次

－下　巻－

表11　熊の山遺跡11区住居跡一覧表 …… 604
表12　熊の山遺跡11区土坑一覧表 …… 637

写真図版目次

－下　巻－

４区
ＰＬ１　第401・407・416・417・911号住居跡完掘状況，第407号住居跡遺物出土状況，第911号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
ＰＬ２　第405・406・913・916号住居跡完掘状況，第405号住居跡竈遺物出土状況，第406号住居跡貯蔵穴遺物出土状況，第913・915・916号住居跡遺物出土状況
ＰＬ３　第409・411・412・415号住居跡完掘状況，第408・912号住居跡遺物出土状況，第287号土坑遺物出土状況，第11号掘立柱建物跡完掘状況
５区
ＰＬ４　第726・729～731号住居跡完掘状況，第728～731号住居跡遺物出土状況
ＰＬ５　第738・739・741B・744・746・750号住居跡完掘状況，第739号住居跡遺物出土状況，第744号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
ＰＬ６　第737・740・741A・743・745号住居跡完掘状況，第740号住居跡遺物出土状況，第745号住居跡竈完掘状況，５区完掘全景

6区

PL 7　第662・663・665・669・670号住居跡完掘状況，第662・663・665・671・686号住居跡遺物出土状況，6区完掘全景

8・9区

PL 8　第917～919・922・923・925・926号住居跡完掘状況，第924号住居跡・竈遺物出土状況

PL 9　第927～929・931・932号住居跡完掘状況，第926・929・930号住居跡遺物出土状況

PL 10　第933～938号住居跡完掘状況，第935号住居跡遺物出土状況，第932号竈遺物出土状況

PL 11　第942号住居跡完掘状況，第38・41・42・44～47号掘立柱建物跡完掘状況，第35号溝遺物出土状況

PL 12　第950～952号住居跡完掘状況，第950号住居跡竈遺物出土状況，第35号溝完掘状況，第7号道路状遺構完掘状況

PL 13　第953号住居跡遺物出土状況，第25・26号井戸跡完掘状況，第27号井戸跡土層断面，第16号地下式壙完掘状況，第681号土坑完掘・遺物出土状況

11区

PL 14　11区完掘全景，第733～736号住居跡完掘状況第733・734号住居跡遺物出土状況

PL 15　第752～754号住居跡完掘状況，第751～754号住居跡遺物出土状況，第751号住居跡炉完掘状況

PL 16　第756～760号住居跡完掘状況，第756・757・759・760号住居跡遺物出土状況，第758号住居跡竈遺物出土状況

PL 17　第761～764・766・767号住居跡完掘状況，第766号住居跡遺物出土状況

PL 18　第768～771号住居跡完掘状況，第767～773号住居跡遺物出土状況

PL 19　第772・774～776・778号住居跡完掘状況，第772・776・777号住居跡遺物出土状況

PL 20　第780・782・784号住居跡完掘状況，第779～781・783号住居跡遺物出土状況，第784号住居跡竈遺物出土状況

PL 21　第787～789号住居跡完掘状況，第785号住居跡竈完掘状況，第785～788号住居跡遺物出土状況

PL 22　第792・794・795号住居跡完掘状況，第789号住居跡竈完掘状況，第791・792・795号住居跡遺物出土状況，第792号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

PL 23　第796・798～801号住居跡完掘状況，第797・800号住居跡遺物出土状況

PL 24　第802・806・808・809・836・842号住居跡完掘状況，第803・804・807号住居跡遺物出土状況

PL 25　第810～818号住居跡完掘状況，第809号住居跡竈完掘状況，第809・839・842号住居跡遺物出土状況

PL 26　第818・820・821・823～825・828号住居跡完掘状況，第823号住居跡竈完掘状況，第823～825・828号住居跡遺物出土状況

PL 27　第827～829・831～833号住居跡完掘状況，第832号住居跡炉完掘状況，第833号住居跡遺物出土状況

PL 28　第834・835B・836号住居跡完掘状況，第834・835A・835B・836・837A・837B号住居跡遺物出土状況

PL 29　第837A・838～841号住居跡完掘状況，第836号住居跡竈遺物出土状況，第839・840号住居跡遺物出土状況

PL 30　第842・843・844A・844B・846号住居跡完掘状況，第843・845～847号住居跡遺物出土状況，第846号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

PL 31　第849・852～854・855A・855B・856・857・859～861・889・890号住居跡完掘状況

ＰＬ 32　第866・867・868A・868B・871・873～875号住居跡完掘状況，第863～865号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 33　第876～878・881号住居跡完掘状況，第877・879～881号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 34　第882・883・886・888・891号住居跡完掘状況，第888・891号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 35　第892・900・902A・902B・903号住居跡完掘状況，第892・897A・904号住居跡遺物出土状況
ＰＬ 36　第906号住居跡完掘状況，第28～34・36号掘立柱建物跡完掘状況
ＰＬ 37　第35・39～42号溝完掘状況，第35号溝土層確認状況
ＰＬ 38　第17～20号地下式壙完掘状況，第606・607・659・707号土坑完掘状況
4区
ＰＬ 39　第407・418・911・914号住居跡出土遺物
ＰＬ 40　第913号住居跡出土遺物
ＰＬ 41　第915・916号住居跡出土遺物
ＰＬ 42　第916号住居跡出土遺物
ＰＬ 43　第405・406・916号住居跡出土遺物
ＰＬ 44　第408・409・411号住居跡出土遺物
ＰＬ 45　第411・412・912号住居跡出土遺物
5区
ＰＬ 46　第726・728・730・731号住居跡出土遺物
ＰＬ 47　第729号住居跡出土遺物
ＰＬ 48　第729・732・739・742号住居跡出土遺物
ＰＬ 49　第744号住居跡出土遺物
ＰＬ 50　第744・746号住居跡出土遺物
ＰＬ 51　第746・748号住居跡出土遺物
ＰＬ 52　第748号住居跡出土遺物
ＰＬ 53　第737・740・741A・743・747号住居跡・遺構外出土遺物
6区
ＰＬ 54　第662・663号住居跡出土遺物
ＰＬ 55　第663・665号住居跡出土遺物
ＰＬ 56　第665・666・671・672・686号住居跡・第8号不明遺構出土遺物
8・9区
ＰＬ 57　第917～919・924・925・928～930号住居跡出土遺物
ＰＬ 58　第924～926・930・932・933号住居跡出土遺物
ＰＬ 59　第931～935号住居跡出土遺物
ＰＬ 60　第935・936・942号住居跡出土遺物
ＰＬ 61　第924・926・930・932・935・942号住居跡・第35号溝・遺構外出土遺物
ＰＬ 62　（9区）第950号住居跡出土遺物，（8区）第41・47号掘立柱建物跡・遺構外出土遺物
ＰＬ 63　第951・953号住居跡・第7号道路状遺構・第25号井戸跡・第16号地下式壙出土遺物
ＰＬ 64　第681号土坑・遺構外出土遺物
11区
ＰＬ 65　第733～735号住居跡出土遺物
ＰＬ 66　第735・751・752号住居跡出土遺物
ＰＬ 67　第752・753号住居跡出土遺物
ＰＬ 68　第754・756～758号住居跡出土遺物
ＰＬ 69　第759～761号住居跡出土遺物
ＰＬ 70　第761～765号住居跡出土遺物
ＰＬ 71　第766～768号住居跡出土遺物
ＰＬ 72　第769～772号住居跡出土遺物
ＰＬ 73　第773～777・779号住居跡出土遺物
ＰＬ 74　第780～782号住居跡出土遺物
ＰＬ 75　第782～786号住居跡出土遺物
ＰＬ 76　第787号住居跡出土遺物
ＰＬ 77　第787～791号住居跡出土遺物
ＰＬ 78　第792・794号住居跡出土遺物
ＰＬ 79　第795～799号住居跡出土遺物
ＰＬ 80　第800・801号住居跡出土遺物
ＰＬ 81　第802～807号住居跡出土遺物
ＰＬ 82　第808・809・811～814・817・818号住居跡出土遺物
ＰＬ 83　第819・821～826号住居跡出土遺物
ＰＬ 84　第827～832号住居跡出土遺物

ＰＬ 85　第832・833・834B・835B号住居跡出土遺物
ＰＬ 86　第836・837A・837B・838～840号住居跡出土遺物
ＰＬ 87　第840～843・844A・844B号住居跡出土遺物
ＰＬ 88　第845・846号住居跡出土遺物
ＰＬ 89　第846～850・855～857・859～861号住居跡出土遺物
ＰＬ 90　第858～861・863～865・868A・869号住居跡出土遺物
ＰＬ 91　第865・866・871～873号住居跡出土遺物
ＰＬ 92　第874～876・878～880号住居跡出土遺物
ＰＬ 93　第879・880～882・884・886号住居跡出土遺物
ＰＬ 94　第888号住居跡出土遺物
ＰＬ 95　第888号住居跡出土遺物
ＰＬ 96　第888号住居跡出土遺物
ＰＬ 97　第889～892号住居跡出土遺物
ＰＬ 98　第892・896・897A・897B号住居跡出土遺物
ＰＬ 99　第897A・898・900・902A・902B・903号住居跡出土遺物
ＰＬ100　第900・902A・903・904号住居跡出土遺物
ＰＬ101　第904・905号住居跡出土遺物
ＰＬ102　第794・801・845・876号住居跡，第30～32号掘立柱建物跡，第35号溝出土遺物
ＰＬ103　第606・607・707号土坑，遺構外出土遺物
ＰＬ104　出土遺物（ＳＩ734・735・754・766・780・788・796・800・836・860・883）
ＰＬ105　出土遺物（ＳＩ751・758・766・767・773・779・780・782・794・807・840・844A・845・858・865・888・892・896・898・904，ＳＢ31）
ＰＬ106　出土遺物（ＳＩ752・757・761・780・782・786・800・806・811・829・831・833・834A・835B・836・849・883・897A・900）
ＰＬ107　出土遺物（ＳＩ835B・839・840・848・849・863・877・879・886・891・892，遺構外）
ＰＬ108　出土遺物（ＳＩ754・757・846・855・873・875・898・902A・902B，ＳＫ607）
ＰＬ109　出土遺物（ＳＩ771・788・792・803・827・839・846・884・902B）
ＰＬ110　出土遺物（ＳＩ733・761・782・785・809・839・859・881・882・886・888・898・902A，ＳＤ39，遺構外）

付　　図

－下　巻－

付図１　熊の山遺跡８区遺構全体図
付図２　熊の山遺跡９区遺構全体図
付図３　熊の山遺跡11区遺構全体図

② 奈良・平安時代

第733号住居跡（第360図）

位置　調査11区の中央部，G11i0区。

重複関係　南部で第734号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸3.45mの長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は30～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第734号住居跡との重複のため不明確な南壁際を除き，巡っている。上幅15～20cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは115cm，両袖部幅は140cmである。天井部は崩落しているものの，袖部は比較的良好な状態で遺存し，内面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめられ，焼土の粒子が薄く堆積している。火床面には焼土の大ブロックが径約30cmの円形に広がっている。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈土層中，第5層が砂粒や粘土を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と思われる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	粘土粒子・炭化粒子・砂粒中量，焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2	黒 褐 色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
3	黒 褐 色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4	暗赤褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
5	暗赤褐色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子少量
6	黒 褐 色	炭化粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
7	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
8	暗赤褐色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
9	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，砂粒・炭化物少量
10	暗 褐 色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土粒子少量
11	赤 褐 色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量，炭化物少量

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P3はそれぞれ南東・南西・北西コーナー付近に位置し，径25～35cmの円形で，深さは21～22cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P4は径約50cmの円形で，深さは37cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー付近に設けられている。径約65cmの円形で，深さは22cmである。

貯蔵穴土層解説

1	褐 色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
2	褐 色	ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3	暗褐色	焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
4	暗褐色	焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
5	褐 色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

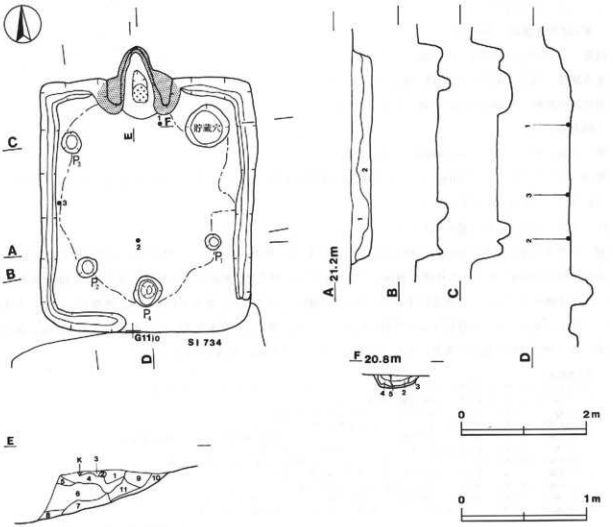
覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片511点，須恵器片76点及び鉄器1点（鉄鎌）が出土している。第361図1・2は土師器甕片である。1は竈手前の覆土下層から出土している。2は中央部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。3の須恵器蓋は，西壁際中央部の床面から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは，土師器や須恵器の甕体部細片で，その多くが覆土上層から出土していることから，本跡が廃絶された後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀前半と考えられる。

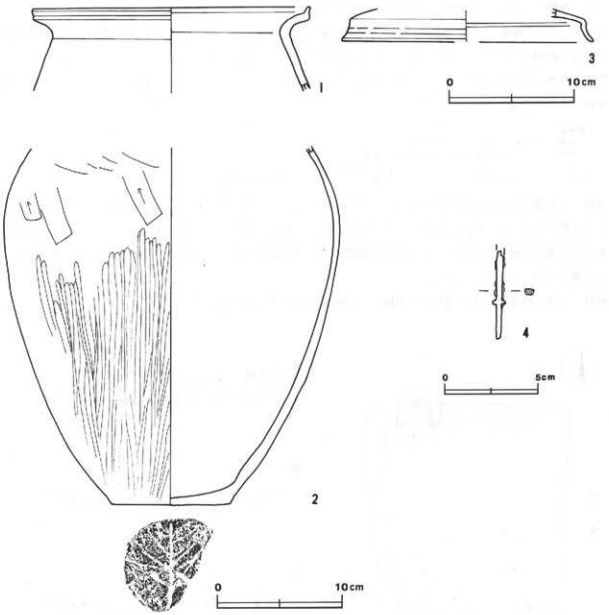


第360図　第733号住居跡実測図

第733号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第361図1	甕 土師器	A 22.4 B (6.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は屈曲して開く。口縁部は外反し，端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。頸部内面横方向のヘラ削り後，ナデ。外面ナデ。体部内・外面横方向のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110001　10% P L65 竈手前覆土下層
2	甕 土師器	B (28.6) C 9.4	底部から体底にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦方向のヘラ磨き，内面横方向のヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色　普通	P110002　55% P L65 中央部床面
3	甕 須恵器	A [20.2] B (2.5)	口縁部片。口縁部は端部がわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・礫 暗灰黄色 良好	P110493　10% 西壁際中央部床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第361図4	鉄鏃	(4.7)	0.7	0.3	(2.60)	覆土中	M11001　P L110



第361図　第733号住居跡出土遺物実測図

第753号住居跡（第362図）

位置　調査11区の中央部，G11f9区。

規模と平面形　長軸3.55m，短軸3.20mの長方形である。

主軸方向　N－3°－E

壁　壁高は15～25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西壁下を除き，巡っている。上幅約20cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦である。竈手前から中央部にかけて，特に踏み固められている。

竈　北壁のやや東寄りを壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。覆土が薄いためほとんど原形をとどめず，床面にわずかに残る袖部と火床部の焼土の広がりから規模が推定できる。焚口部から煙道部までは70cm，両袖部幅は75cmである。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，粘性・締まりの弱い焼土粒子

が薄く堆積している。火床面は，径約25cmの円形に焼土の大きなブロックが広がっている。

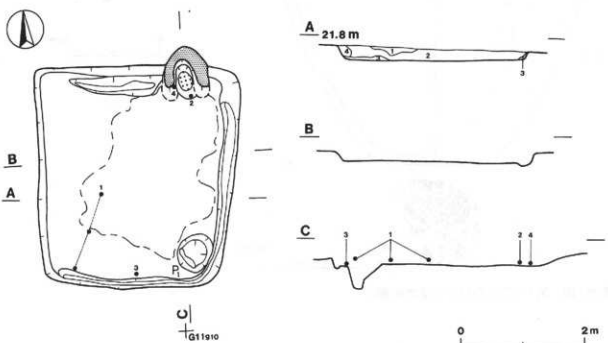
ピット　P1は南東コーナー部に位置し，長径60cm，短径50cmの楕円形で，深さは39cmである。位置や規模及び側面が傾斜していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。ロームブロックが比較的多く含まれているが，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片220点，須恵器片44点及び土製品1点（土玉）が出土している。第363図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は，南西コーナー付近の覆土下層から出土した3片が接合している。2の高台付坏は竈手前の覆土下層から正位で，3の皿は南壁際中央部の床面から直立した状態で出土している。4の甕は，竈内の覆土下層から出土している。

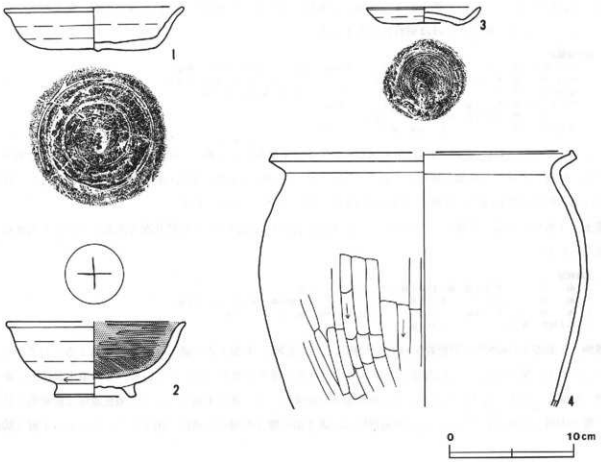
所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して10世紀前半と考えられる。



第362図　第753号住居跡実測図

第753号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第363図 1	坏 土師器	A 14.4 B 3.3 C 8.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外根して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部内面ナデ，外面回転ヘラ切り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P110041　80% P L.67　南西コーナー付近覆土下層
2	高台付坏 土師器	A [13.4] B 6.0 D 6.5 E 1.1	体部・口縁部一部欠損。高台は短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部，底部内面横方向のヘラ磨き。口縁部，体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P110042　70% P L.67 竈手前覆土下層 底部内面ヘラ記号



第363図　第753号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第363図 3	皿 土師器	A 9.2 B 1.4 C 6.2	完形。底部はアーチ状に上方に盛り上がる。体部は外方へ大きく開き，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部内面ロクロナデ，外面回転糸切り。	砂粒 にぶい褐色 普通	P110043　100% PL67 南壁際中央部床面
4	甕 土師器	A [24.2] B (20.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ，体部内面ヘラナデ，外面上半部ヘラナデ，下半部縦方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110044　20% PL67 竈内覆土下層

第754号住居跡（第364図）

位置　調査11区の中央部，G11e8区。

重複関係　第764号住居跡を掘り込み，第4号道路状遺構に竈西側から南壁にかけて掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.40m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は45～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，出入り口ピットから竈手前付近にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは90cm，両袖部幅は90cmである。袖部は比較的良好な状態で遺存し，内面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床

面とほぼ同じ高さで，もろい焼土が7～8㎝ほど堆積している。火床面は，径約25㎝の円形に焼土の大ブロックが広がっている。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土大ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土大ブロック中量，焼土中ブロック・小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子・焼土小ブロック微量
5　にぶい褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック少量
6　極暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，焼土中ブロック微量

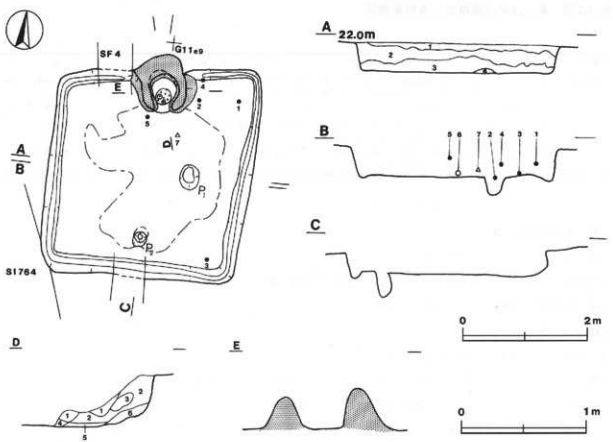
ピット　2か所（P1・P2）。P1は中央部からわずかに東壁寄りに位置し，径約35㎝の円形で，深さは31㎝である。位置，形状及び底面が硬化していることから柱穴と考えられる。P2は南壁際中央寄りに位置し，径約20㎝の円形，深さ40㎝で，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。各層にロームブロックが多量に含まれ，凹凸のある堆積状況であることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム大ブロック・炭化物中量，焼土中ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化物中量

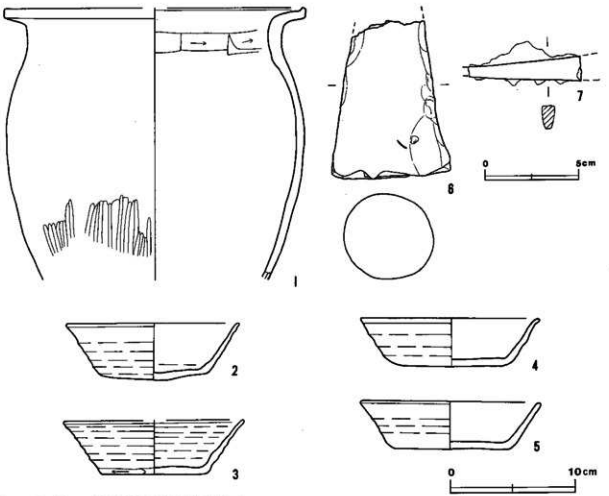
遺物　土師器片316点及び須恵器片84点，土製品1点（支脚），石器1点（砥石）及び鉄製品1点（刀子）が出土している。第365図1の土師器甕は北東コーナー付近の覆土中層から出土している。2の須恵器坏は，竈東側の床面から正位で出土している。3の須恵器坏は南東コーナー部の床面から，4の須恵器坏は竈東側に接して覆土中層から出土している。5の須恵器坏は，竈手前の覆土中層から逆位で出土している。6の土製支脚は



第364図　第754号住居跡実測図

竈内から，7の刀子は竈手前の覆土下層から出土している。覆土上層から出土した多くの土器片は，本跡が廃絶された後に一括投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀前半と考えられる。



第365図　第754号住居跡出土遺物実測図

第754号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第365図 1	甕 土師器	A [24.2] B (21.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。L縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ヘラナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P110049　20% PL68 北東コーナー付近 覆土中層
2	坏 須恵器	A 13.9 B 4.7 C 8.4	体部・口縁部一部欠損。丸味を帯びた平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P110045　70% PL68 竈東側床面
3	坏 須恵器	A [14.4] B 4.4 C 8.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面強いロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P110046　30% 南東コーナー部床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第365図4	坏 須恵器	A 14.0 B 3.9 C 8.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P110047 85% P L 68 竈東側覆土中層
5	坏 須恵器	A 14.2 B 3.7 C 9.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P110048 60% 竈手前覆土中層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)		
第365図6	土製支脚	(12.7)	5.9～9.6	(800.0)	竈内	D P 11004　P L 104

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第365図7	刀子	(6.1)	1.3	0.6	(10.0)	竈手前覆土下層	M11002　P L 108

第755号住居跡（第366図）

位置　調査11区の中央部，G12j2区。

重複関係　第758・778号住居跡及び第30号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.52m，短軸3.00mの長方形である。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は約10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁下と西壁下とで部分的に確認できる。上幅約20cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，南壁際及び南西コーナー部を除き踏み固められている。

竈　東壁やや南寄りを壁外へ70cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。南袖部は第30号掘立柱建物跡の柱穴の覆土上に構築しているためぜい弱で，調査の過程で崩れてしまった。焚口部から煙道部までは95cm，両袖部幅は105cmである。北袖部内面は火熱を受けて赤変硬化してしている。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，比較的締まった焼土の大・中ブロック及び焼土粒子が薄く堆積している。火床面は長径30cm，短径20cmの楕円形に焼土ブロックが広がっている。煙道は，緩やかな傾斜で立ち上がる。竈土層中，第2・5層が粘土粒子を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

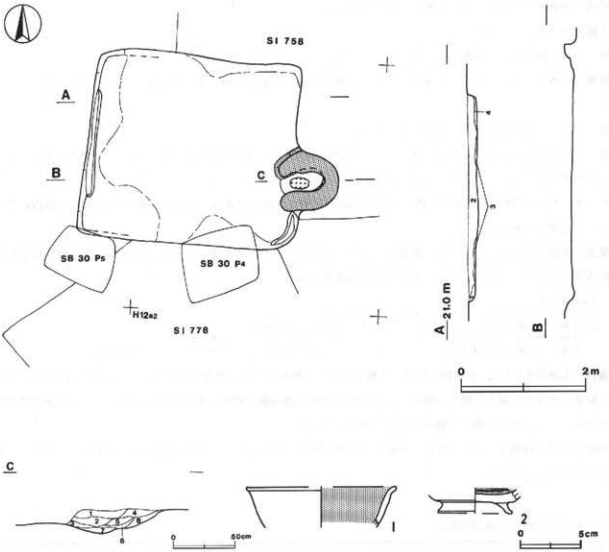
竈土層解説
1　黒褐色　炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量
2　黒褐色　粘土粒子多量，炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
4　黒褐色　炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
5　赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量
6　暗赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，炭化物少量
7　明赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子少量

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量

遺物　土師器片133点及び須恵器片12点が出土している。第366図1の土師器坏，2の土師器高台付坏は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や竈が東壁に付設されていることから，９世紀後半から10世紀初めと考えられる。



第366図　第755号住居跡・出土遺物実測図

第755号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第366図 1	坏 土師器	A〔12.0〕 B（3.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 に赤い橙色 普通	P110050　10% 覆土中
2	高台付坏 土師器	B（1.9） D〔6.0〕 E　0.8	高台部片。高台は比較的短く，「ハ」の字状に開く。	高台部内・外面ナデ。坏底部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P110051　10% 覆土中

第756号住居跡（第367図）

位置　調査11区の中央部，G12i1区。

重複関係　第758・767号住居跡及び第30号掘立柱建物跡を掘り込み，第757号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向　N－7°－E

壁　壁高は約20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西コーナー付近でだけ確認できた。上幅約20cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ70cmほど掘り込んで付設されている。第757号住居に掘り込まれ，煙道の端部をわずかに残すだけではとんど形をとどめていない。

ピット　P1は南壁際中央部に位置し，径約25cmの円形で，深さは26cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。炭化粒子及び焼土粒子が比較的多く含まれていることから，焼失家屋の可能性がある。

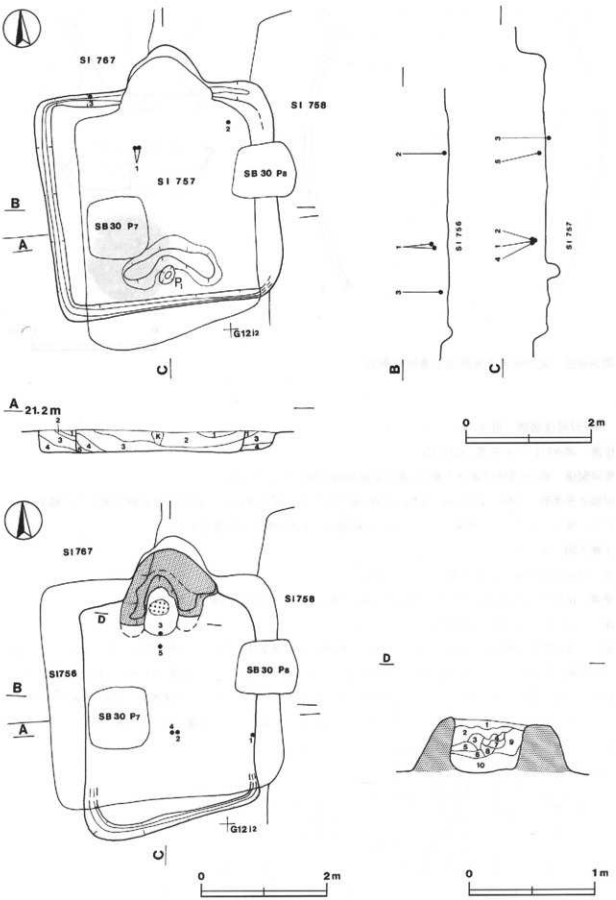
土層解説
1　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
3　暗褐色　炭化粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
4　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量

遺物　土師器片124点，須恵器片42点，土製品1点（支脚細片）及び鉄滓3点が出土している。第368図1の土師器甕は竈手前の覆土下層から横位で，2の須恵器坏は竈西側北壁際の覆土下層から横位で，3の須恵器捏鉢は北東コーナー寄りの覆土下層から正位で出土している。

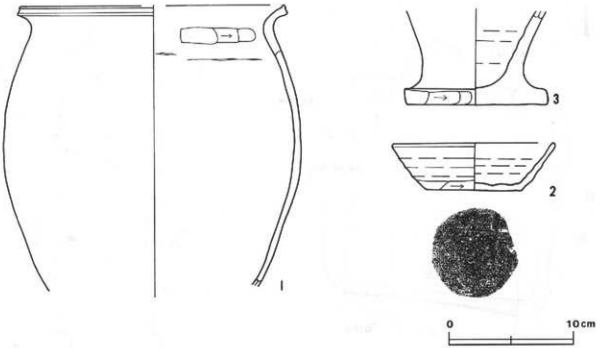
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀前半と考えられる。鉄滓が覆土中から出土しているが，鍛冶炉等は確認されなかった。

第756号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第368図 1	甕 土師器	A (20.2) B (22.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部は軽くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P110052 25% P L68 竈手前覆土下層
2	坏 須恵器	A 12.8 B 3.8 C 7.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部・方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・礫 黄灰色 普通	P110054 70% P L68 竈西側北壁際覆土下層
3	捏鉢 須恵器	B (7.7) C 10.2	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部領置ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P110053 20% P L68 北東コーナー寄り覆土下層



第367図　第756・757号住居跡実測図



第368図　第756号住居跡出土遺物実測図

第757号住居跡（第367図）

位置　調査11区の中央部，G12i1区。

重複関係　第756号住居跡及び第30号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［3.70］m，短軸［3.00］mの長方形と推定される。第756号住居跡の覆土中に構築されており，壁の立ち上がりが明確でないため，土層断面と床面の変化から推定した。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は約40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南壁下で確認されている。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦である。あまり踏み固められていない。

竈　北壁中央部を壁外へ75cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは125cm，両袖部幅は120cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面からわずかに高くなり，締まりの弱い焼土の大・中ブロック及び粒子が厚さ20cmほど堆積している。火床面は，径約30cmの円形に焼土ブロックが広がっている。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈覆土中，第10層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
2　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
3　暗　褐　色　炭化粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
4　灰 黄 褐 色　粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
5　黒　褐　色　炭化粒子・砂粒多量，炭化物・粘土粒子中量，焼土粒子少量
6　極 暗 褐 色　炭化粒子多量，粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
7　黒　褐　色　粘土粒子多量，炭化粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，炭化物・砂粒少量
9　黒　褐　色　粘土粒子多量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒中量，焼土大ブロック・小ブロック・粒子少量
10　にぶい赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。各層に炭化粒子が比較的多

量に含まれていることから焼失家屋の可能性がある。

土層解説
1　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
2　暗褐色　炭化粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
4　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量

遺物　土師器片264点，須恵器片71点，鉄製品１点（刀子片）及び石製品１点（有孔円板）が出土している。第369図１の土師器甕は東壁際南東コーナー寄りの床面から，２・４の須恵器坏は中央部の覆土下層から，３の須恵器坏は竈内から出土している。５の須恵器甕は竈手前の覆土下層から出土している。７の刀子は覆土中から，混入と思われる６の有孔円板は覆土中から出土している。遺物のほとんどは土師器や須恵器の甕体部細片である。

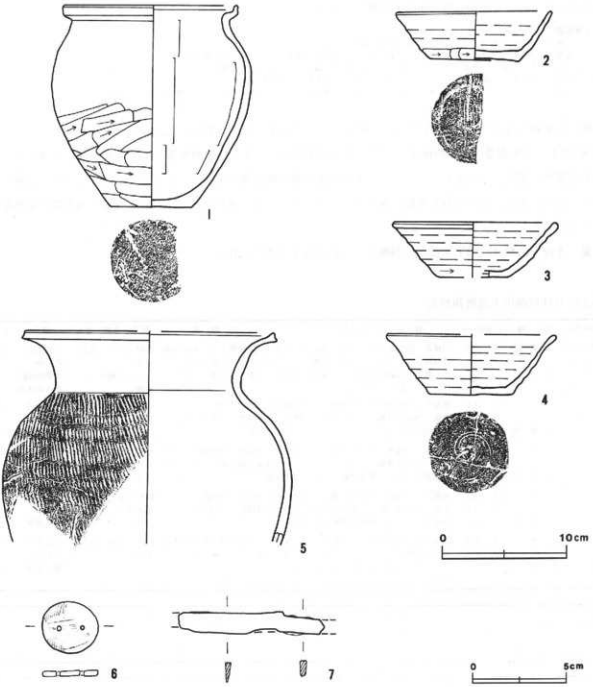
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀前半と考えられる。

第757号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第369図 1	甕 土師器	A 14.0 B 16.1 C 6.1	口縁部一部欠損。小形。平底。体部は外根して立ち上がり，頸部で屈曲して開き，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ヘラナデ，下半部ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P110055　85% P L 68 竈焚口南東コーナー寄りの床面
2	坏 須恵器	A 12.4 B 4.1 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外根して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤橙色　普通	P110057　50% P L 68 中央部覆土下層
3	坏 須恵器	A 12.8 B 4.4 C [5.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外根して立ち上がり，口縁部にいたる。端部は肥厚する。	口縁部，体部内・外面強いロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色　普通	P110058　45% P L 68 竈内
4	坏 須恵器	A [13.2] B 4.8 C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外根して立ち上がり，口縁部にいたる。端部は肥厚する。	口縁部，体部内・外面強いロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P110059　40% P L 68 中央部覆土下層
5	甕 須恵器	A [20.0] B (16.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向の平行叩き。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P110060　20% P L 68 竈手前覆土下層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第369図6	有孔円板	3.1	0.4	0.2	4.52	滑石	北東コーナー部床面	Q11004　P L 106

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第369図7	刀子	(7.8)	1.2	0.3	(8.5)	覆土中	M11003　P L 108



第369図　第757号住居跡出土遺物実測図

第759号住居跡（第370図）

位置　調査11区の中央部，G12i4区。

重複関係　第758号住居跡を掘り込み，第760号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.50m，短軸4.80mの長方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は15～25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは130cm，両袖部幅は95cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土粒子が約15cmの厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈土層中，第9・10層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，天井部の一部が崩落した層と考えられる。

竈土層解説
1　極暗褐色　炭化物少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　炭化物・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
7　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　砂粒多量，ローム粒子微量
9　暗　褐　色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子・粘土小ブロック中量，焼土粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
11　にぶい褐色　砂粒多量，炭化物・粘土粒子中量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4はいずれも径約30cmの円形で，深さは順に21cm，33cm，28cm，24cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径約30cmの円形，深さ35cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

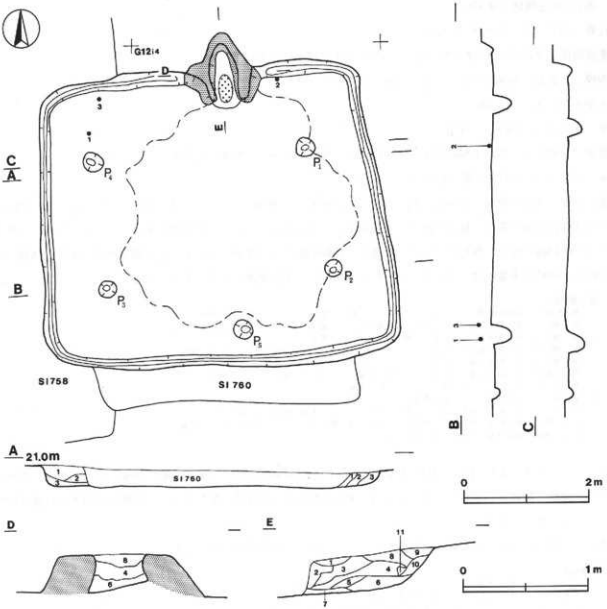
土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片204点及び須恵器片67点が出土している。第371図に示した土器はいずれも須恵器坏である。1・3は北西コーナー付近の覆土下層から正位で，2は竈東側北壁際の覆土下層から正位で出土している。1・2は3に比べて新しい様相を呈しており，第760号住居跡の遺物の可能性がある。

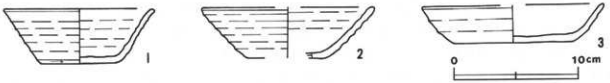
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀中頃と考えられる。

第759号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第371図 1	坏 須恵器	A 11.9 B 4.3 C 6.0	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P110065　60% PL69　北西コーナー付近覆土下層
2	坏 須恵器	A [13.8] B 4.1 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は軽く内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P110066　45% PL69　東側北壁際覆土下層
3	坏 須恵器	A [14.5] B 3.0 C 9.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。比較的器高が低い。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部丁寧なナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P110067　20% 北西コーナー付近覆土下層



第370図　第759号住居跡実測図



第371図　第759号住居跡出土遺物実測図

第760号住居跡（第372図）

位置　調査11区の中央部，H12i4区。

重複関係　第758・759号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.50m，短軸4.30mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は15～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～15cm，下幅５～10cm，深さ約５cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ65cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは105cm，両袖部幅は120cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土小ブロックや焼土粒子が多量に堆積している。火床面の焼土ブロック化は比較的弱い。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第５層が粘土粒子や砂粒を中量含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　にぶい褐色　砂粒多量，粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・粒子多量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
7　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・炭化粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量
9　にぶい褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

ピット　P1は径約30cmの円形，深さ40cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

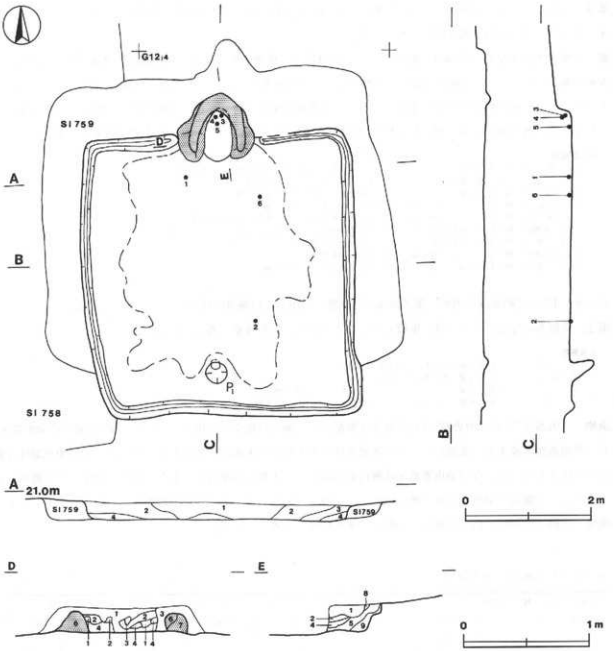
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片735点，須恵器片114点及び土製品１点（輪羽口細片）が出土している。第373図１の須恵器坏，６の須恵器甑は竈手前の床面から，２の須恵器坏は中央付近の床面から出土している。３・４の須恵器坏は竈内から出土している。５の須恵器高坏は竈内から出土した十数片が接合したものである。出土した土器片のほとんどは，土師器や須恵器の坏や甕の細片で，上層から出土していることから投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀後半と考えられる。

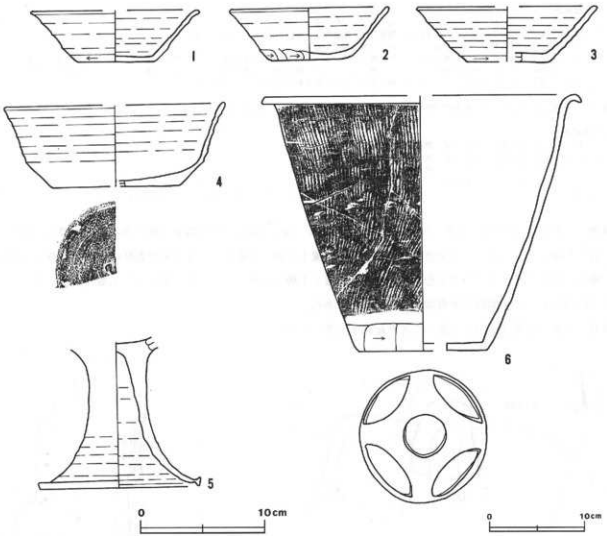
第760号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図 1	坏	A [13.6] B 4.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P110070　70% PL69 竈手前床面
	須恵器	C 6.2				
2	坏	A 12.8 B 4.1	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色　普通	P110071　95% PL69 中央付近床面
	須恵器	C 6.0				
3	坏	A [14.3] B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P110072　35% 竈内
	須恵器	C [6.5]				
4	坏	A [17.4] B 6.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は二段階に外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後がわずかに残る。底部粘土貼り付け痕。	砂粒・雲母・長石・礫 褐灰色 良好	P110073　25% 竈内
	須恵器	C [10.2]				



第372図　第760号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図 5	高坏 須恵器	B〈11.9〉 D 13.0 E〈10.5〉	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。端部は上下につまみ出されている。	脚部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色　普通	P110074　40% PL69 竈内
6	甕 須恵器	A [33.4] B 26.7 C 13.4	体部・口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は小さく，強く屈曲して開く。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向の平行叩き。	砂粒・長石・雲母・灰褐色 普通	P110075　80% PL69 竈手前床面



第373図　第760号住居跡出土遺物実測図

第762号住居跡（第374図）

位置　調査11区の中央部，G12c2区。

重複関係　第735号住居跡を掘り込み，第17号地下式壙に掘り込まれている。

規模と平面形　南部及び西部が調査区域外に延びているため，確認できたのは南北軸（4.80)m，東西軸（3.60）mである。北東コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は約30cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。第735号住居跡の覆土を掘り込んで構築しているため，竈全体が比較的脆弱である。焚口部から煙道部までは130cm，両袖部幅は105cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，締まりの強い焼土の大・中ブロックが約5cmの厚さで堆積している。火床面は径約35cmの円形に焼土のブロックが広がっている。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈土層中，第2・4層が粘土粒子や砂粒を中量含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

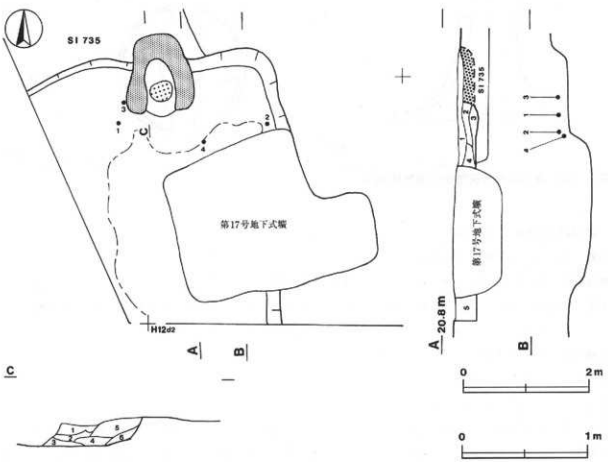
竈土層解説
1 黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
2 暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
3 黒　褐　色　炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4 赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量
5 にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量
6 暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

覆土　5層からなる。不連続な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

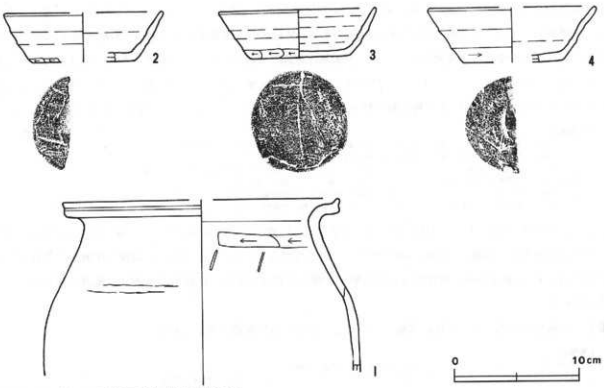
土層解説
1 暗　褐　色　炭化粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
2 にぶい褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒　褐　色　炭化粒子・砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量
4 黒　褐　色　炭化粒子・砂粒中量
5 褐　　色　ローム小ブロック多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片280点及び須恵器片42点が出土している。第375図1の土師器甕は竈手前の覆土下層から出土した数片が接合している。2の須恵器坏は東壁寄りの覆土下層から横位で，4の須恵器坏は竈手前の覆土下層から横位で出土している。3の須恵器坏は竈西側の覆土下層から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器や須恵器の甕体部細片である。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀後半と考えられる。



第374図　第762号住居跡実測図



第375図　第762号住居跡出土遺物実測図

第762号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第375図 1	甕 土師器	A [22.0] B (13.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110098 20% PL70 竈手前覆土下層
2	坏 須恵器	A [12.7] B 3.9 C [8.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄褐色 普通	P110099 30% PL70 東壁寄り覆土下層
3	坏 須恵器	A 12.6 B 3.8 C 7.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 暗灰黄色 普通	P110100 80% PL70 竈西隅覆土下層
4	坏 須恵器	A [13.4] B 4.4 C [7.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色 普通	P110016 30% PL70 竈手前覆土下層

第763号住居跡（第376図）

位置　調査11区の中央部，G11h8区。

重複関係　第761号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸3.60mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は35～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦である。第761号住居跡の覆土上に床が構築されているため，床質は黒色土であまり踏み固められていない。竈手前や出入り口北側及び西壁際から中央部にかけて，部分的に硬化面が広がっている。

竈　北壁中央部を壁外へ70cmほど掘り込んで，砂粒と黒褐色土で構築されいる。第761号住居跡の覆土を掘り込んで構築しているため，竈全体が比較的脆弱である。焚口部から煙道部までは90cm，両袖部幅は75cmである。袖部内面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，締まりの弱い焼土粒子と灰が約5cmの厚さで堆積している。火床面は，焚口部から煙道部まで焼土のブロックが覆っている。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第6層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいること，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒中量
2　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化物中量，焼土粒子少量
3　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量，粘土粒子少量
4　極暗褐色　炭化粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土中ブロック・小ブロック・粒子多量，炭化粒子・砂粒中量，炭化物・粘土粒子少量
6　明　褐　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

ピット　3か所（P1～P3）。P1は中央部の東壁寄りに位置し，径約30cmの円形で，深さは32cmである。P2は中央部西壁寄りに位置し，径約45cmの円形で，深さは44cmである。P1・P2は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は長径35cm，短径25cmの楕円形で，深さは17cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

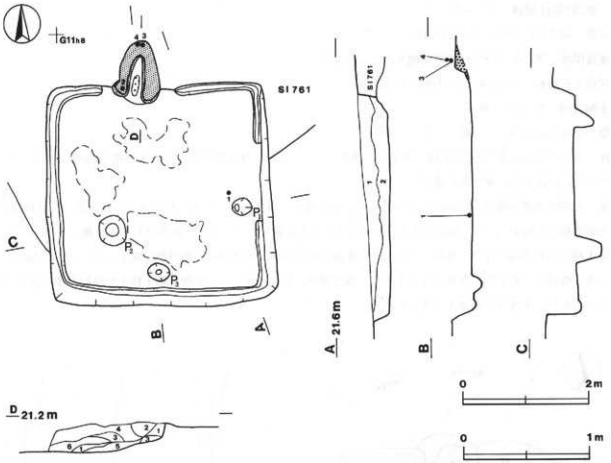
土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

遺物　土師器片230点及び須恵器片10点が出土している。第377図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は，東壁寄りの床面から正位で出土している。2の高台付坏底部片は，竈内から出土している。3・4の甕は，それぞれ竈煙道部から出土した数片が接合している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは，土師器の甕の体部細片である。

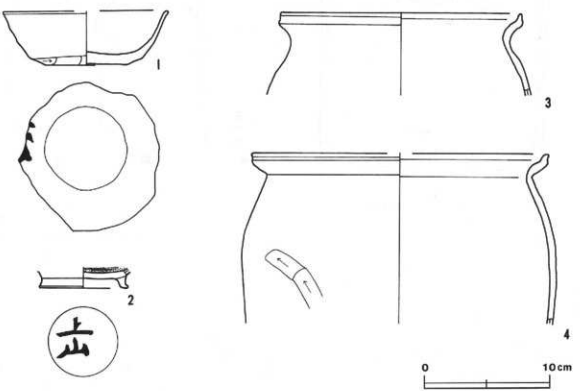
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀中頃と考えられる。

第763号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第377図 1	坏 土師器	A 13.2 B 6.3 C 6.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒 にぶい橙色 良好	P110101　70% PL70　東壁寄り 床面　体部外面墨書「上山」か
2	高台付坏 土師器	B（1.6） D 7.0 E 1.1	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部内面ヘラ磨き。底部には切り離し痕を残す。回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P110102　15% 竈内　底部外面墨書「上山」
3	甕 土師器	A 19.2 B（6.5）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P110103　5% PL70 竈煙道部
4	甕 土師器	A [23.6] B (13.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部，体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P110104　5% 竈煙道部



第376図　第763号住居跡実測図



第377図　第763号住居跡出土遺物実測図

第765号住居跡（第378図）

位置　調査11区の中央部，H12a1区。

重複関係　第752・778号住居跡を掘り込んでいる。

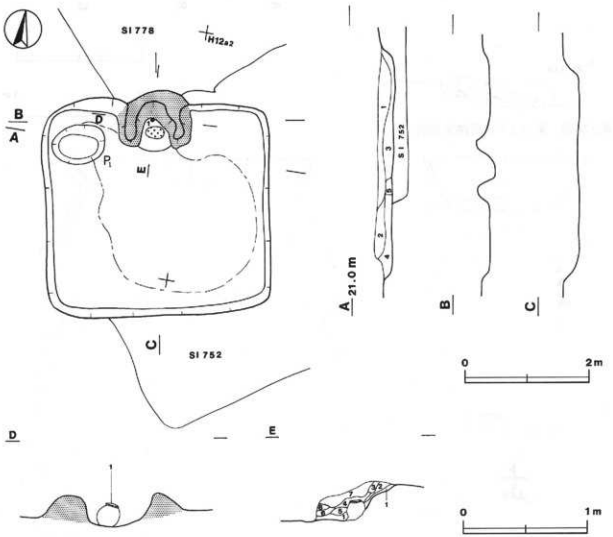
規模と平面形　一辺3.60mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は約25cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。第752号住居跡の覆土上に構築しているため，床は黒褐色土であまり踏み固められていない。中央付近に部分的に硬化面が確認できた。

竈　北壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは100cm，両袖部幅は110cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部はわずかに掘りくぼめられ，焼土粒子が約5cmの厚さで堆積している。火床面は長径30cm，短径20cmの楕円形に焼土のブロックが広がっている。煙道は，約45度の角度で立ち上がる。竈土層中，第1・4・5・6層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。



第378図　第765号住居跡実測図

覆土層解説
1 にぶい赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
2 暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
3 暗赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子中量，砂粒少量
4 にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
5 にぶい赤褐色　ローム粒子多量，炭化粒子・砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量
6 褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
8 赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量

ピット　P1は北西コーナー付近に位置し，長径85cm，短径70cmの楕円形で，深さは14cmである。位置的には貯蔵穴の可能性があるが，浅いことから性格は明確でない。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

第379図　第765号住居跡出土遺物実測図

土層解説
1 暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4 暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5 明赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片32点が出土している。第379図1の土師器甕は竈の火床部から逆位で出土している。出土状況や体部外面が二次的に火を受けていることから，支脚に転用されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀後半と考えられる。

第765号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第379図 1	甕 土師器	A 14.4 B 23.3 C 7.6	口縁部一部欠損。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ヘラ削り後，ナデ，下半部横方向のヘラ削り。底部木葉痕。	砂粒 にぶい褐色 普通	P110109 90% PL70 竈内

第769号住居跡（第380図）

位置　調査11区の中央部，G12g2区。

重複関係　第768・770号住居跡を掘り込み，第31号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸3.60mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は20～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅約10cm，下幅約5cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。北東コーナー部及び北西コーナー部はあまり踏み固められていない。

竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは110cm，両袖部幅は95cmである。天井部は，掛け口の前部を除き遺存している。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化が著しい。火床部は床面から約10cm掘りくぼめられ，焼土の小ブロックや炭化粒子が約5cmの厚さで堆積している。火床面は，径約35cmの円形に焼土のブロックが広がっている。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第2・4・5層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
4　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子中量，炭化物少量
5　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
7　暗褐色　砂粒少量，焼土小ブロック・粒子微量
8　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土中ブロック少量
9　褐色　砂粒多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
10　にぶい褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
11　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量
12　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子中量，炭化物少量
13　極暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子中量，焼土中ブロック・炭化物・砂粒少量
14　褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
15　暗褐色　ローム小ブロック多量，炭化物中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　P1は南壁際中央部に位置し，長径50cm，短径35cmの楕円形で，深さは30cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。各層にロームブロックや炭化粒子が多量に含まれていることや不連続な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

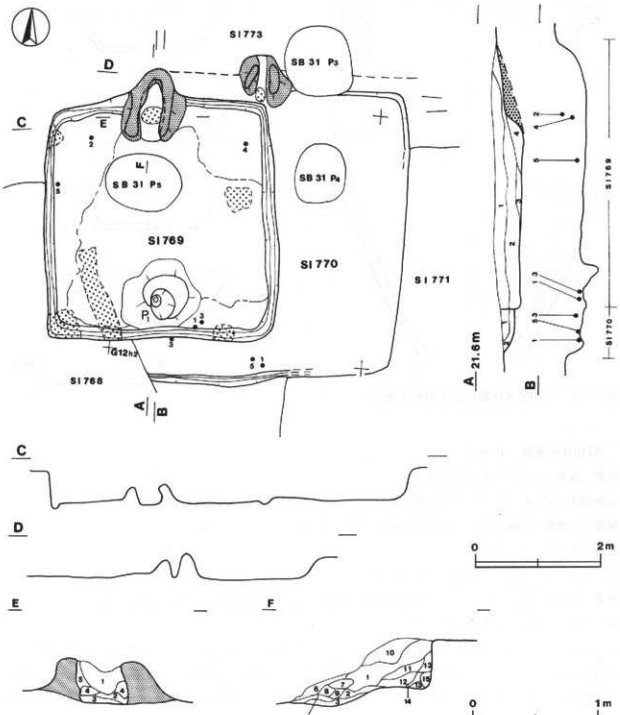
1　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
3　褐色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量，ローム大ブロック・炭化物少量
4　褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片170点及び須恵器片33点が出土している。第381図1の土師器甕は南壁際中央部の床面から正位で出土している。2の須恵器坏は北西コーナー付近の覆土中層から正位で出土している。3の須恵器坏は南壁際中央部の覆土下層から正位で，4の須恵器坏は北東コーナー付近の覆土下層から逆位で出土している。5の須恵器坏は北西コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後半と考えられる。

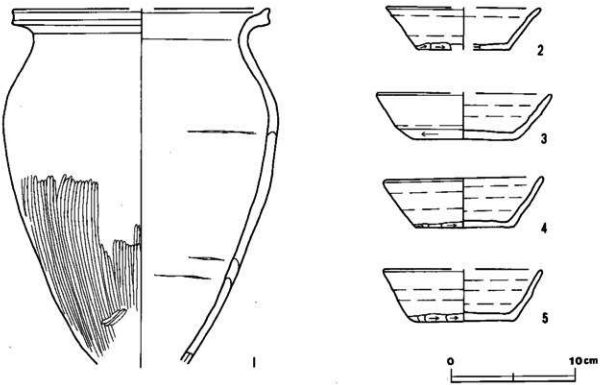
第769号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第381図 1	甕 土師器	A [20.6] B (28.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面上半部ヘラ削り後，ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。体部内面に輪積み痕。	砂粒・長石・石英にぶい橙色普通	P110134 40% P L72 南壁際中央部床面
2	坏 須恵器	A [12.4] B 3.4 C [7.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英黄灰色普通	P110135 20% 北西コーナー付近覆土中層
3	坏 須恵器	A [13.9] B 3.6 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。体部厚手。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・礫・雲母褐灰色普通	P110136 30% 南壁際中央部覆土下層



第380図　第769・770号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第381図 4	坏 須恵器	A 12.6 B 4.0 C 8.0	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラナデ。	砂粒・礫・雲母・石英 褐灰色 普通	P110137　98% P L.72　北東コーナー付近覆土下層
5	坏 須恵器	A [12.7] B 4.2 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・石英 灰褐色 普通	P110138　50% P L.72　北西コーナー寄り覆土下層



第381図　第769号住居跡出土遺物実測図

第770号住居跡（第380図）

位置　調査11区の中央部，G12g2区。

重複関係　第768・771・773号住居跡を掘り込み，第769号住居，第31号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.90m，短軸4.30mの長方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は30～35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁際で確認されている。上幅約10cm，下幅約5cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

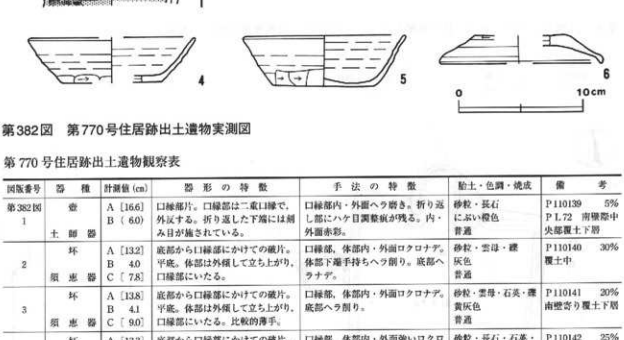
竈　北壁のやや東寄りを壁外へ10cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。第773号住居跡の覆土中に煙道部を構築しているため脆弱である。焚口部から煙道部までは推定で80cm，両袖部幅は推定で95cmである。両袖部は砂の割合の多い砂質粘土で構築し，内面は火熱を受けて赤変硬化が著しい。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，焼土が薄く堆積している。重複のため煙道の立ち上がりは確認できなかった。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片256点及び須恵器片67点が出土している。第382図1の土師器壺は南壁際中央部の覆土下層から出土しているが，4世紀頃の遺物で攪乱による混入と思われる。3の須恵器坏は南壁寄りの覆土下層から，5の須恵器坏は南壁際中央部の床面から出土している。2・4の須恵器坏，6の須恵器蓋は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後半と考えられる。



第382図　第770号住居跡出土遺物実測図

第770号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第382図 1	壺 土師器	A [16.6] B (6.0)	口縁部片。口縁部は二重口縁で，外反する。折り返した下端には刻み目が施されている。	口縁部内・外面ヘラ磨き。折り返し部にハケ目調整痕が残る。内・外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110139 5% PL72 南壁際中央部覆土下層
2	坏 須恵器	A [13.2] B 4.0 C (7.8)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・礫 灰色 普通	P110140 30% 覆土中
3	坏 須恵器	A [13.8] B 4.1 C (9.0)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。比較的薄手。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・礫 黄灰色 普通	P110141 20% 南壁寄り覆土下層
4	坏 須恵器	A [13.3] B 3.7 C (7.8)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面強いロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・礫・白色粒子 灰色 普通	P110142 25% PL72 覆土中
5	坏 須恵器	A 12.9 B 4.1 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面強いロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す。多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・礫・石英 黄灰色 普通	P110143 95% PL72 南壁際中央部床面
6	蓋 須恵器	A [13.1] B 2.2	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は平坦で，口縁部に向かって軽く外反しながら緩やかに下降する。端部は短く，垂下する。	天井部外面上半部回転ヘラ削り。下半部ロクロナデ。内面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英・礫 褐灰色 普通	P110144 30% 覆土中

第774号住居跡（第383図）

位置　調査11区の中央部，G11d0区。

重複関係　第775号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.10m，短軸3.05mの方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は25～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ10～15cmで，断面はU字形をしている。

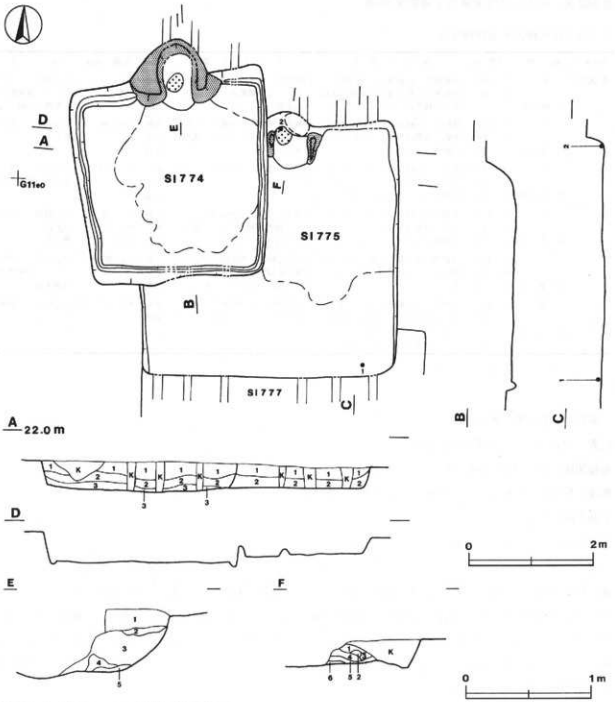
床　耕作機械による幅15～20cmの深い撹乱を受けている。東部の床面がより著しく踏み固められている。

竈　北壁中央部のわずかに東寄りを壁外へ60cmほど掘り込んで，少量の砂質粘土と黒褐色土で構築している。焚口部から煙道部までは130cm，両袖部幅は125cmである。袖部内面の焼土化は弱い。火床部は床面から約10cm掘りくぼめられ，焼土粒子が5cmほどの厚さで堆積している。煙道は，45度ほどの傾斜で立ち上がる。竈土層中，第4層が粘土粒子を中量含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子微量
3　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
4　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子微量

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

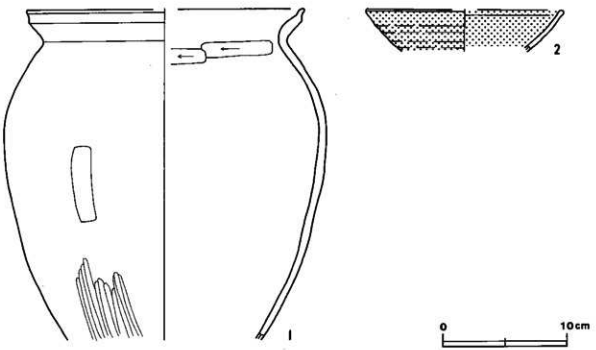
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック微量



第383図　第774・775号住居跡実測図

遺物　土師器片168点及び須恵器片36点が出土している。土師器片168点のうち21点は，内面を黒色処理した坏の口縁部片と高台付坏の底部から高台部にかけての細片である。第384図１の土師器甕，２の灰釉陶器片はともに覆土中から出土したものである。２の灰釉陶器の時期は10世紀後半であることから，流れ込んだものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀中頃と考えられる。



第384図　第774号住居跡出土遺物実測図

第774号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第384図 1	甕 土師器	A [22.2] B (26.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P110166 30% 覆土中
2	椀 灰釉陶器	A [14.0] B (4.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。内・外面には薄い緑色の釉がかかる。	砂粒 灰黄色 普通 金付着	P110167 5% PL73 覆土中 東山72号窯式

第775号住居跡（第383図）

位置　調査11区の中央部，G12e1区。

重複関係　第777号住居跡を掘り込み，第774号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.05m，短軸4.00mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は15～25cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，あまり踏み固められていない。

竈　北壁中央部に付設している。煙道部は攪乱により壊され，西袖は第774号住居に掘り込まれている。火床部はわずかに掘りくぼめられ，焼土の小ブロックや粒子が5cmほどの厚さで堆積している。

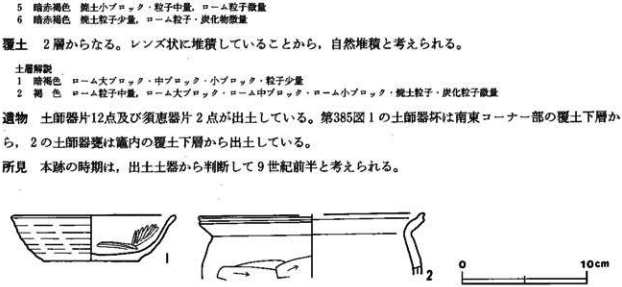
竈土層解説
1　暗 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，ローム粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片12点及び須恵器片2点が出土している。第385図1の土師器坏は南東コーナー部の覆土下層から，2の土師器甕は竈内の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀前半と考えられる。



第385図　第775号住居跡出土遺物実測図

第775号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第385図 1	坏 土師器	A 12.7 B 3.7 C 7.6	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き，外面強いロクロナデ。底部ヘラ切り後，ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110168　60% PL73 南東コーナー部覆土下層
2	甕 土師器	A [18.0] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられ，沈線が1条巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P110169　5% 竈覆土下層

第782号住居跡（第386図）

位置　調査11区の中央部，G11c5区。

重複関係　第783・786号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.80m，短軸4.60mの方形である。

主軸方向　N－12°－E

壁　壁高は20～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。特に，出入り口付近は床面の硬化が著しく，ブロック化して盛り上がっている。

竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは90cm，両袖部幅は120cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土が約8cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
3　暗赤褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
4　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量

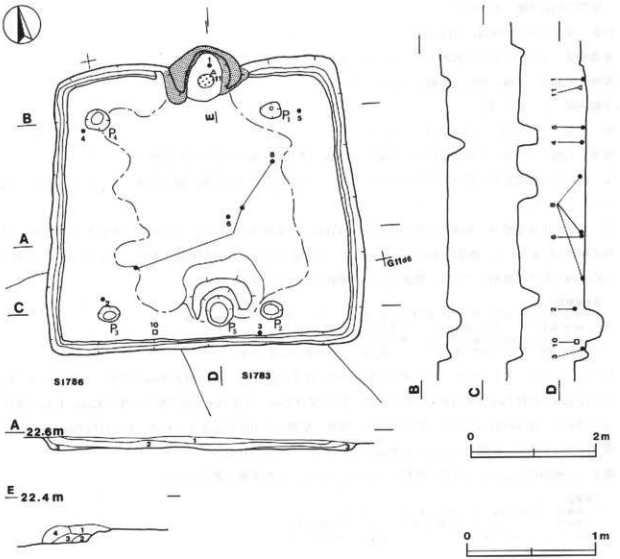
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，P1は径約30cmの円形で，深さ36cm，P2は長径35cm，短径25cmの楕円形で，深さ30cm，P3は長径35cm，短径25cmの楕円形で，深さ32cm，P4は径約35cmの円形で，深さは24cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径約50cmの円形で，深さは30cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片290点，須恵器片96点，土製品1点（鞴羽口片），石器1点（砥石片）及び鉄製品1点（釘片）が出土している。第387図に示した土器は，1が土師器で，2～8は須恵器である。1の甕は竈内から出土している。2の坏は，南西コーナー付近の覆土下層から斜位で出土している。3の坏は南壁際南東コーナー寄りの床面から出土している。4～6は高台付坏で，4は北西コーナー付近の床面から正位で，5は北東コーナー付近の床面から逆位で，6は中央付近の覆土下層から正位で出土している。7の蓋は覆土中から出土したもので，内面に墨が付着していることから硯に転用したものと考えられる。8の甕は，中央付近の覆土下層や床面から出土した3片が接合している。9の鞴羽口は覆土中から，10の砥石は南壁際中央付近の覆土下層から，11の鉄釘は竈内から出土している。鞴羽口が出土しているが，鍛冶炉などの施設は確認できなかった。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕体部細片で，本跡が廃絶された後に投棄されたものと考えられる。

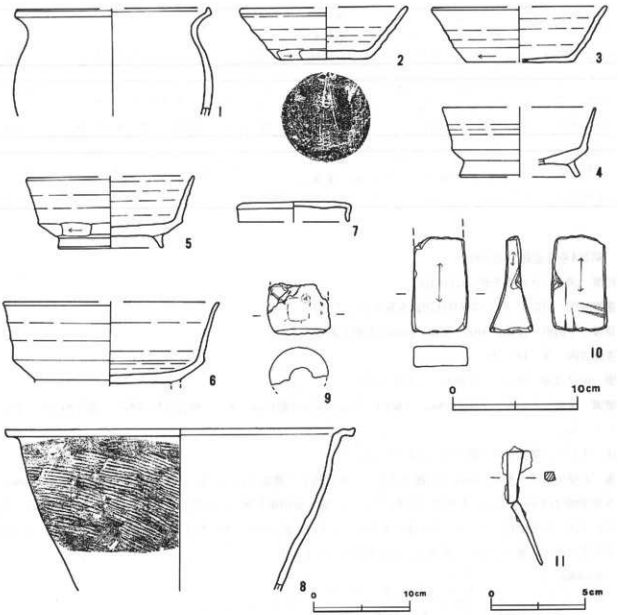
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後半と考えられる。



第386図　第782号住居跡実測図

第782号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第387図 1	甕 土師器	A [15.4] B (8.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・礫 にぶい赤褐色 普通	P 110201　10% P L 74 竈内
2	坏 須恵器	A [13.2] B 4.3 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・礫 褐灰色 普通	P 110202　60% P L 74　南西コーナー付近覆土下層
3	坏 須恵器	A [13.6] B 4.4 C [8.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。比較的薄手。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P 110203　45% P L 74　南壁際南東コーナー寄り床面
4	高台付坏 須恵器	A [12.2] B 5.6 D [9.2] E 1.2	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 110204　30% P L 75 北西コーナー付近床面



第387図　第782号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第387図 5	高台付坏 須恵器	A [13.4] B 5.8 D 8.4 E 1.0	体部・口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石にぶい赤褐色 普通	P110205　70% PL74 北東コーナー付近床面
6	高台付坏 須恵器	A [17.0] B (6.4)	底部から口縁部にかけての破片。大形。高台部欠損。体部は外傾して立ち上がり，頸部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石にぶい赤褐色 普通	P110206　50% 中央付近覆土下層
7	蓋 須恵器	A [8.8] B 1.6	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は平坦で，口縁部は垂下する。	天井部外面上半回転ヘラ削り。天井部外面下半，内面口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P110207　40% PL74 覆土中 硯転用
8	甕 須恵器	A 36.6 B (12.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は短く，水平方向に伸びる。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ，外面斜め方向の平行叩き。	砂粒・雲母・長石 明灰黄色 普通	P110208　30% PL74 中央付近覆土下層・床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第383図9	鞴羽口	(4.9)	(4.0)	(1.8)	(49.2)	覆土中	D P 11017	P L 105

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第383図10	砥石	(7.6)	4.5	1.6	(101)	凝灰岩	南壁際中央付近覆土下層	Q 11009	P L 106

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第383図11	鉄釘	(10.0)	0.5	0.5	(14.0)	竈内	M 11010	P L 110

第784号住居跡（第388図）

位置　調査11区の中央部，G11e4区。

重複関係　第779・783・786号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.90m，短軸4.60mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は30～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅約20cm，下幅10～15cm，深さは約15cmである。断面はU字形で，部分的にV字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは140cm，両袖部幅は145cmである。天井部は崩落していて，竈土層中第6層がその崩落土と思われる。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面からわずかに高くなり，焼土粒子が約5cmの厚さで堆積している。竈奥部が袋状に掘り込まれ，煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　炭化粒子多量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量
2　暗赤褐色　炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
3　暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
4　暗褐色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
5　暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物・砂粒少量
6　にぶい赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　炭化粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化物少量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
9　赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量
10　黒褐色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量

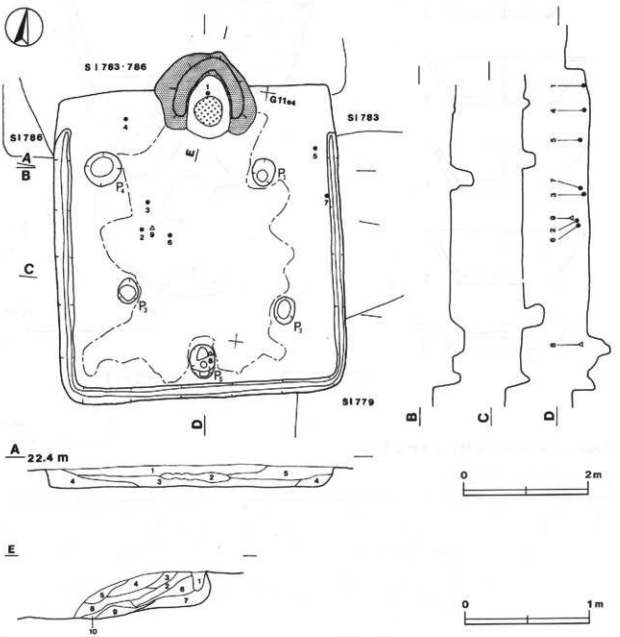
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，P1・P2・P4は径35～60cmの円形で，深さは22～38cm，P3は長径45cm，短径35cmの円形で，深さは23cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は長径50cm，短径40cmの楕円形で，深さは45cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

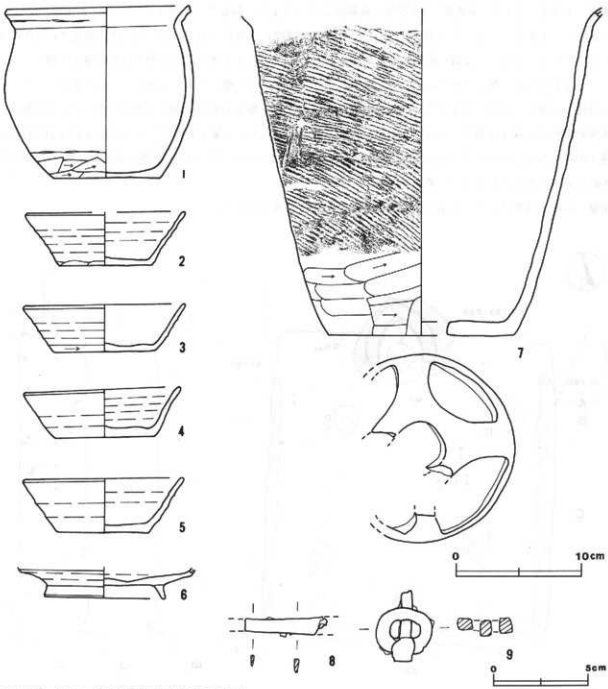
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　黒褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片512点，須恵器片261点及び鉄製品２点（刀子片，鞍金具）が出土している。第389図に示した土器は１が土師器で，２～７は須恵器である。１の甕は竈内から逆位で出土している。出土状況や二次的に火を受けていることから，支脚に転用されたものと思われる。２～５は坏で，２は中央付近の覆土中層から正位で，３は中央付近の覆土下層から正位で，４は北西コーナー付近の覆土下層から逆位で，５は北東コーナー付近の覆土下層から正位で出土している。６の盤は，中央付近の覆土中層から逆位で出土している。７の甑は，東壁際中央部の覆土下層から出土している。８の刀子片はＰ5地点の覆土下層から，９の鞍金具は中央付近の覆土中層から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器や須恵器の甕体部細片で，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀後半と考えられる。



第388図　第784号住居跡実測図



第389図　第784号住居跡出土遺物実測図

第784号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	甕 上師器	A 14.5 B 13.6 C 8.4	完形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれる。口縁部は外傾し，端部は軽くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石・石英・白色粒子 にぶい赤褐色 普通	P110213　100% PL75 底内
2	坏 須恵器	A [12.4] B 4.2 C 7.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・礫・白色粒子 灰色 普通	P110214　40% 中央付近覆土中層
3	坏 須恵器	A 12.8 B 3.8 C 8.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部粘土貼り付け後，ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・礫・白色粒子 黄灰色　普通	P110215　90% PL75 中央付近覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 4	坏 須恵器	A 12.5 B 3.9 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。底部粘土貼り付け後，ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲・白色粒子 灰色　普通	P110216　50% P L 75　北西コーナー付近覆土下層
5	坏 須恵器	A 12.6 B 4.4 C 7.3	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は粗く外反して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラナデ。	砂粒・長石・石英・白色粒子 黄灰色　普通	P110217　90% P L 75　北東コーナー付近覆土下層
6	盤 須恵器	B (2.4) D 9.8 E 1.1	高台部から底部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部，高台部内・外面ナデ。高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・雲・白色粒子 褐灰色 普通	P110218　80% 中央付近覆土中層
7	甕 須恵器	B (26.2) C 14.8	底部から体部にかけての破片。底部5孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラナデ，外面斜め方向の平行叩き，下端ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色　良好	P110219　50% P L 75 東壁際中央部覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第389図 8	刀子	(6.5)	1.5	0.3	(6.90)	P5地点覆土下層	M11012
9	鞍金具	(3.7)	3.0	1.0	(21.0)	中央付近覆土中層	M11013

第785号住居跡（第390図）

位置　調査11区の中央部，G11f5区。

重複関係　第781号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.65m，短軸3.45mの方形である。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は25～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅約10cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは95cm，両袖部幅は105cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から約10cm掘りくぼめられ，焼土粒子が約10cmの厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈土層中，第4・5層が粘土粒子や砂粒を中量含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・粘土小ブロック少量，砂粒少量
3　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
4　暗暗赤褐色　炭化粒子・灰多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，砂粒少量
5　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子多量，焼土中ブロック・砂粒少量
6　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量
7　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム小ブロック・粒子微量
9　褐　色　炭化物少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
10　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
11　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
12　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土中ブロック・炭化物・砂粒少量
13　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・粘土小ブロック少量
14　暗　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
15　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量

ピット　P1は南壁際中央部に位置し，長径40cm，短径30cmの楕円形で，深さは25cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

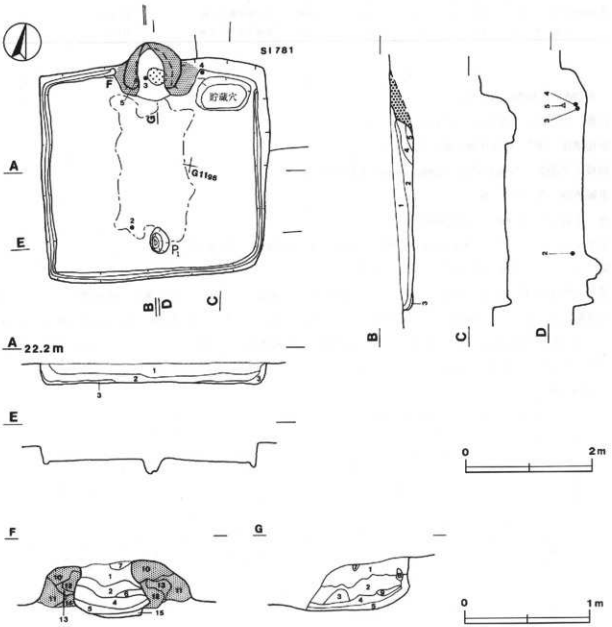
貯蔵穴　竈東側の北壁際に設置されている。長軸80cm，短軸50cmの長方形で，深さは15cmである。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

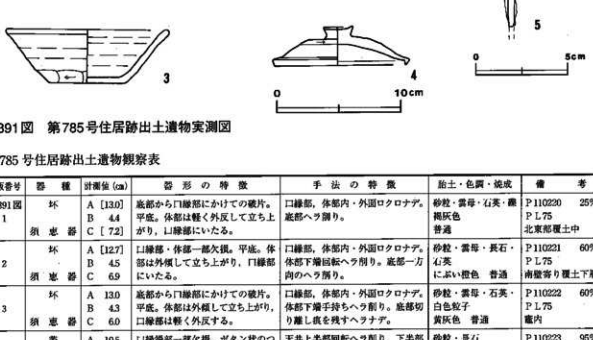
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物少量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中・小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
4　暗褐色　炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
5　暗褐色　炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒少量

遺物　土師器片121点及び須恵器片54点が出土している。第391図に示した土器はいずれも須恵器である。1～3は坏で，1は北東部の覆土中から，2は南壁寄りの覆土下層から，3は竈内から出土している。4の蓋は，竈東側の床面から逆位で出土している。5の鉄釘は，竈西袖上部から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀前半と考えられる。



第390図　第785号住居跡実測図



第391図　第785号住居跡出土遺物実測図

第785号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第391図 1	坏 須恵器	A [13.0] B 4.4 C [7.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は軽く外反して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・微 褐灰色 普通	P110220 25% PL75 北東部覆土中
2	坏 須恵器	A [12.7] B 4.5 C 6.9	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110221 60% PL75 南壁寄り覆土下層
3	坏 須恵器	A 13.0 B 4.3 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残すヘラナデ。	砂粒・雲母・石英・白色粒子 黄灰色 普通	P110222 60% PL75 竈内
4	壺 須恵器	A 10.5 B 3.1 G 0.8 F 2.3	口縁端部一部欠損。ボタン状のつまみが付く。天井部は平坦で，口縁部に向かってなだらかに下降する。口縁端部は短く垂下する。	天井上半部回転ヘラ削り，下半部ロクロナデ。内面ロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P110223 95% PL75 竈東側床面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第391図5	鉄	釘 (7.5)	0.7	0.6	(11.2)	竈西袖上部	M11014 PL110

第789号住居跡（第392図）

位置　調査11区の中央部，H12c4区。

重複関係　第793号住居，第659・707号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.15m，短軸4.10mの方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は35～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～20cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ45cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。天井部が部分的に残り，煙道端部が確認できる。焚口部から煙道部までは120cm，両袖部幅は110cmである。袖部内面，天井部内面ともに火熱を受けて赤変硬化が著しい。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土粒子や炭化粒子が約8cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第6層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，天井部の一部が崩落したものと考えられる。

竈土層解説
1 暗 褐 色 炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
2 暗 赤 褐 色 焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
3 暗 褐 色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量
4 暗 赤 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
5 暗 赤 褐 色 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土大・小ブロック少量
6 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子中量

ピット　3か所（P1～P3）。P1は北東コーナー付近に位置し，長径70cm，短径55cmの楕円形で，深さは70cm，P2は北西コーナー付近に位置し，長径70cm，短径60cmの楕円形で，深さは68cmである。P1・P2は規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は南壁際中央部に位置し，長径50cm，短径35cmの楕円形で，深さは33cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

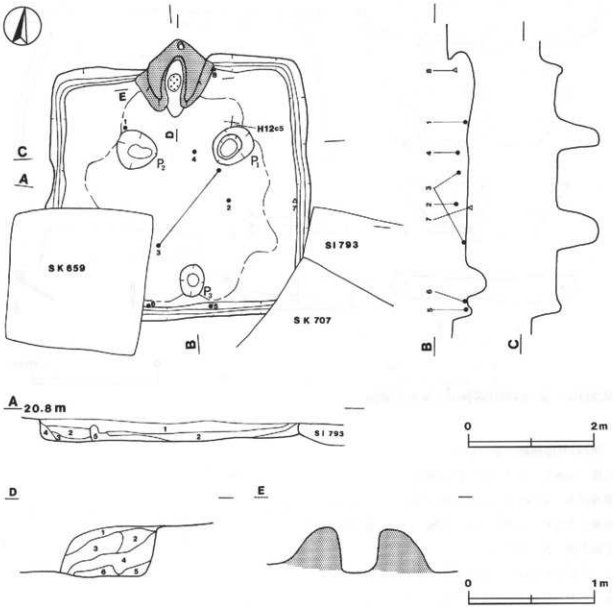
土層解説
1 暗褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
2 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子多量，炭化粒子少量
5 褐 色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片21点，須恵器片10点及び鉄製品2点（手鎌・鎌）が出土している。第393図1の土師器坏はP2付近の床面から，2の土師器甕は中央付近の覆土下層から出土している。3の須恵器坏は，中央付近の床面と覆土下層から出土した破片が接合している。4の須恵器坏は中央付近の床面から，5・6の須恵器高台付坏の高台部片は南壁際中央部の覆土下層や床面から出土している。5・6はともに底部と体部との境で意図的に打ち欠いている。また，底部外面に墨が付着していることから，硯に転用したものと考えられる。7の手鎌は東壁際中央部の床面から，8の鎌は竈東側の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後半と考えられる。

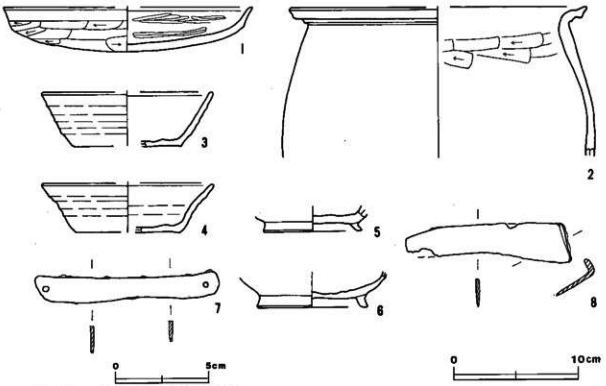
第789号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第393図 1	坏 土師器	A [20.0] B 3.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110255 40% P L77 P2付近床面
2	甕 土師器	A [23.6] B (12.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ，外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P110256 20% P L77 中央付近覆土下層
3	坏 須恵器	A [13.6] B 4.3 C [8.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・白色粒子 黄灰色　普通	P110257 40% P L77 中央付近床面と覆土下層
4	坏 須恵器	A [13.7] B 3.8 C [8.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は軽く外反して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・白色粒子 灰白色　普通	P110258 30% P L77 中央付近床面
5	高台付坏 須恵器	B (2.0) D 7.9 E 0.6	高台部片。高台は短く，「ハ」の字状に開く。	底部切り離し痕を残す回転ヘラナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 灰色 普通	P110259 30% P L77 南壁際中央部覆土下層 底部硯転用
6	高台付坏 須恵器	B (2.9) D 8.7 E 1.0	高台部片。高台は短く，「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P110260 35% P L77 南壁際中央部床面 底部硯転用



第392図　第789号住居跡実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第393図7	手鎌	9.8	1.7	0.2	9.0	東壁際中央部床面	M11016
8	鎌	13.3	3.2	0.3	39.0	竈東側覆土下層	M11017



第393図　第789号住居跡出土遺物実測図

第791号住居跡（第394図）

位置　調査11区の中央部，H12b6区。

重複関係　第788・794号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.85m，短軸2.75mの長方形である。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は約25cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　東壁やや南寄りを壁外へ15cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは70cm，両袖部幅は100cmである。第794号住居跡の覆土を掘り込んで構築しているため，竈全体が比較的脆弱である。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土粒子が約5cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第3・4・6・8層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，粘土小ブロック少量
2　黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
3　暗 褐 色　炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　黒 褐 色　粘土粒子多量，粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・粘土小ブロック少量，焼土粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量
8　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量

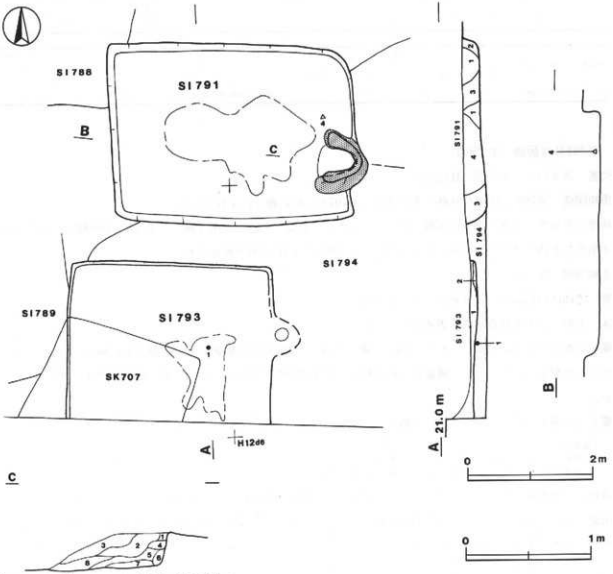
覆土　4層からなる。各層にロームブロックが比較的多く含まれることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

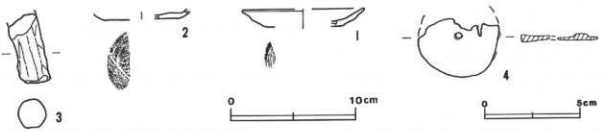
1　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム大・中ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム大ブロック少量
4　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片143点，須恵器片６点及び鉄製品１点（紡錘車）が出土している。第395図に示した土器はいずれも土師器である。１・２の皿，３の三足鍋の足部は覆土中から出土している。４の鉄製紡錘車は竈北袖外側の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や竈が東壁に付設されていることから判断して，９世紀末から10世紀初めと考えられる。



第394図　第791・793号住居跡実測図



第395図　第791号住居跡出土遺物実測図

第791号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第395図 1	皿 土師器	A [9.8] B 1.4 C [6.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外模して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110263 20% 覆土中
2	皿 土師器	B (0.5) C [5.8]	底部から体部にかけての破片。平底。	底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110264 20% 覆土中
3	三足鍋 土師器	B (5.5)	足部。足部はふんばる。	外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110265 5% PL77 覆土中

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第395図4	鉄製紡錘車	4.3	0.3	0.4	5.95	竈北袖外側覆土下層	M11020

第793号住居跡（第394図）

位置　調査11区の中央部，H12c5区。

重複関係　第789・794号住居跡を掘り込み，第707号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　南部が調査区域外へ延びているため，確認できたのは南北軸（2.50）m，東西軸3.25mである。北東及び北西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は約15cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

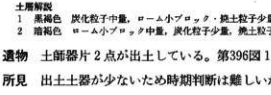
竈　東壁中央付近に付設している。残った覆土が薄く，第794号住居跡のもろい覆土中に構築しているため，ほとんど形を止めていない。構築材の砂質粘土と火床部の焼土の広がりから，竈の位置が推定できただけである。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片2点が出土している。第396図1の土師器坏は中央付近の床面から出土している。

所見　出土土器が少ないため時期判断は難しいが，出土した土師器坏の形状や竈が東壁に付設されていることから，9世紀末から10世紀初めと考えられる。



第396図　第793号住居跡出土遺物実測図

第793号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第396図 1	坏 土師器	A [12.8] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外模して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P110278 5% 中央付近床面

第795号住居跡（第397図）

位置　調査11区の中央部，H12b7区。

重複関係　第794・796号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸3.80mの長方形である。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は約40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　東壁やや南寄りを壁外へ80cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは140cm，両袖部幅は100cmである。天井部は崩落していたが，煙道が確認できた。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめられ，焼土の中・小ブロックが約10cmの厚さで堆積している。煙道は，45度ほどの角度で立ち上がる。竈土層中，第２・６・７層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることや堆積状況から，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・粘土大ブロック少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
3　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック微量
4　極 暗 褐 色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，焼土中・小ブロック少量，粘土大ブロック微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
6　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子中量，焼土粒子少量
7　赤　褐　色　焼土粒子多量，粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
8　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
9　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量

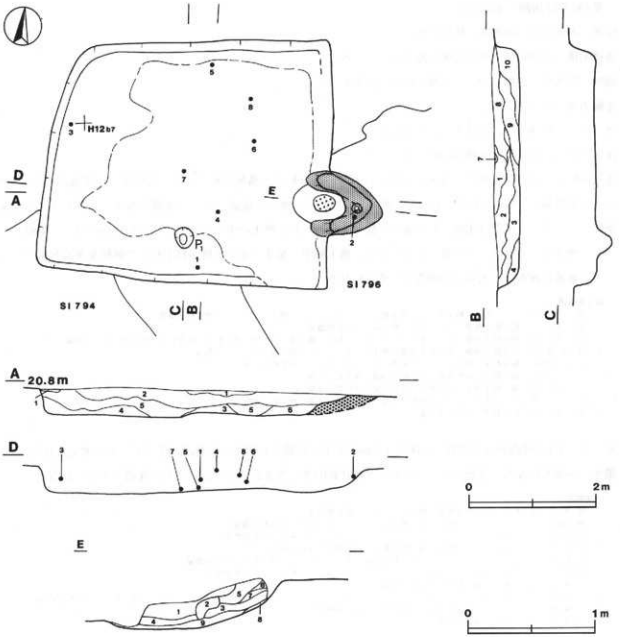
ピット　P1は径約30cmの円形で，深さは22cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　10層からなる。各層にロームブロックが比較的多く含まれることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
2　極暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
6　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
7　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
10　黒 褐 色　ローム粒子・炭化物微量

遺物　土師器片278点及び須恵器片24点が出土している。第398図に示した土器はいずれも土師器である。１・２は坏で，１は南壁際中央部の覆土下層から逆位で，２は竈内から斜位で出土している。３～８は皿で，３は西壁際中央部の覆土下層から斜位で，４は南壁寄りの覆土上層から正位で，５は北壁際中央部の覆土下層から逆位で，６は中央付近の覆土下層から正位で，８は北壁寄りの覆土下層から正位で出土している。７は中央付近の床面から出土している。

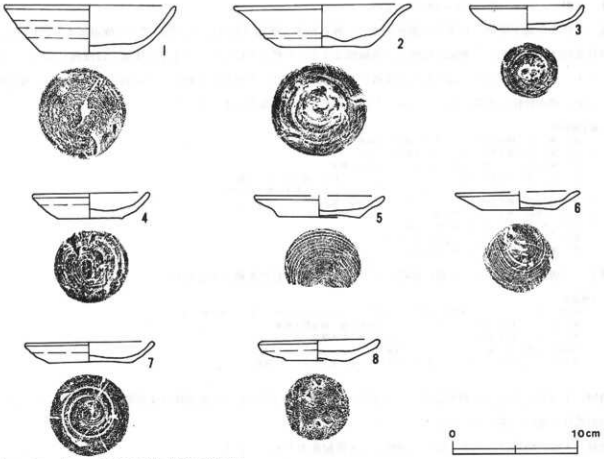
所見　本跡の時期は，出土土器や竈が東壁に付設されていることから判断して，10世紀前半と考えられる。



第397図　第795号住居跡実測図

第795号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第398図 1	坏 土師器	A 13.7 B 3.8 C 6.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P110286　60% P L 79　南壁際中央部覆土下層
2	坏 土師器	A 13.2 B 4.5 C 7.0	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい橙色　普通	P110287　100% P L 79 竈内
3	皿 土師器	A 9.2 B 1.9 C 4.6	完形。平底。体部は内彎して立ちあがり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい橙色　普通	P110288　100% P L 79　西壁際中央部覆土下層
4	皿 土師器	A 9.3 B 2.0 C 5.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい黄橙色　普通	P110289　90% P L 79 南壁寄り覆土上層



第398図　第795号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第398図 5	皿 土師器	A [10.4] B 1.8 C 6.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁端部は膨らむ。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P110290　60% PL79　北壁際中央部覆土下層
6	皿 土師器	A [10.0] B 1.5 C 5.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110291　70% 中央付近覆土下層
7	皿 土師器	A 10.3 B 1.6 C 6.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁端部は膨らむ。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P110292　95% PL79 中央付近床面
8	皿 土師器	A 9.6 B 1.7 C 5.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110293　90% PL79 北壁寄り覆土下層

第798号住居跡（第399図）

位置　調査11区の中央部，H13c1区。

重複関係　第799号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　東部を第799号住居に掘り込まれ，南部は調査区域外へ延びているため，確認できたのは南北軸（1.15）m，東西軸（3.54）mである。北西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－12°－E

壁　壁高は約15cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，あまり踏み固められていない。

竈　北壁中央部を壁外へわずかに掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは100cm，両袖部幅は90cmである。袖部は脆弱で，西袖部はほとんど残っていない。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土の中・小ブロックが約5cmの厚さで堆積している。煙道は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。竈土層中，第1層が砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

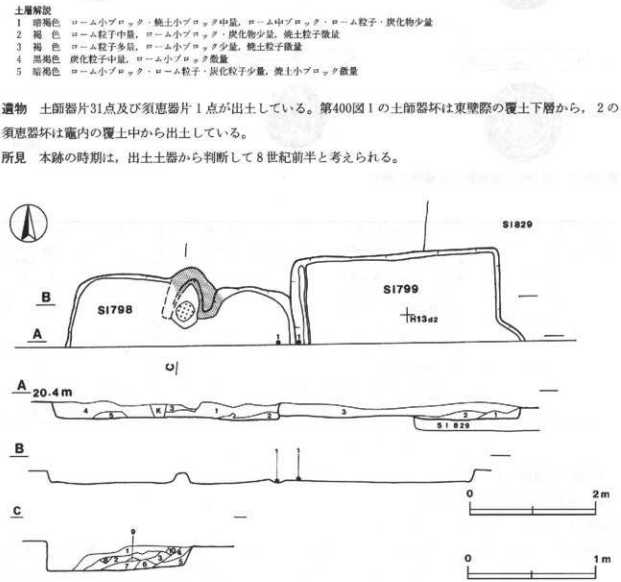
竈土層解説
1　暗　褐　色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子微量
4　極　暗　赤　焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土大・中ブロック中量，焼土小ブロック微量
7　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム小ブロック微量
8　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
9　暗　赤　褐　色　焼土大ブロック多量，焼土粒子中量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

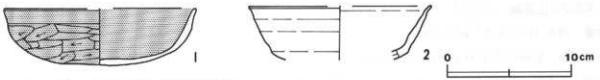
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量

遺物　土師器片31点及び須恵器片1点が出土している。第400図1の土師器坏は東壁際の覆土下層から，2の須恵器坏は竈内の覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀前半と考えられる。



第399図　第798・799号住居跡実測図



第400図　第798号住居跡出土遺物実測図

第798号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	坏 土師器	A［15.4］ B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面丁寧なナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・白色粒子・黒色粒子 橙色　普通	P 110305　50% P L 79 東壁際覆土下層
2	坏 須恵器	A［14.6］ B（4.2）	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。端部は軽く外傾する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・白色粒子 黄灰色 普通	P 110306　20% 竈内覆土中

第799号住居跡（第399図）

位置　調査11区の中央部，H13c1区。

重複関係　第798・829号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　南部が調査区域外へ延びているため，確認できたのは南北軸（2.10）m，東西軸4.55mである。北東及び北西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－87°－E

壁　壁高は約20cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　第829号住居跡の覆土を掘り込んで構築しているため脆弱で，調査の過程で崩れ落ちてしまい，ほとんど形を止めていない。構築材の砂質粘土と火床部の焼土の広がりから範囲が推定された。袖部幅が40cmまで測れるが，調査区域外へ延びているため全体は確認できない。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　炭化粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量
2　黒褐色　炭化物・粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片1点が出土している。第401図1の土師器皿は，西壁際中央部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や竈が東壁に付設されていることから判断して，10世紀前半と考えられる。

第401図　第799号住居跡出土遺物実測図

第799号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	皿 土師器	A 9.4 B 2.3 C 4.8	底部から口縁部にかけての破片。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P 110307　60% P L 79 西壁際中央部床面

第802号住居跡（第402図）

位置　調査11区の北部，F13g2区。

重複関係　第801号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.10m，短軸3.00mの長方形である。

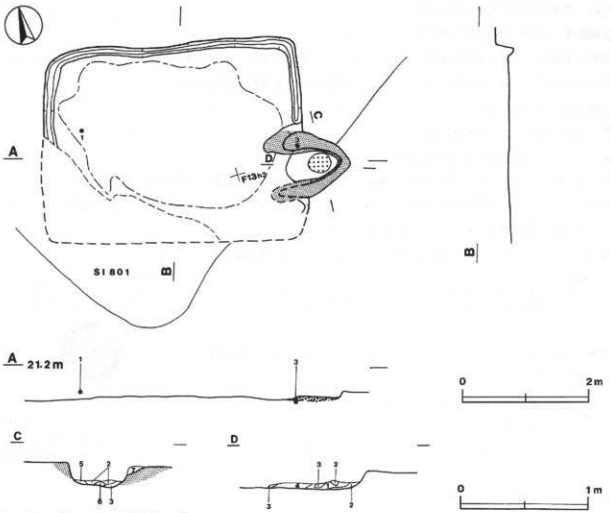
主軸方向　N－105°－E

壁　壁高は約15cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第801号住居跡との重複により不明確な部分を除き，巡っている。上幅10～20cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。南西部は攪乱を受けている。

竈　東壁南東コーナー寄りを壁外へ75cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されいる。焚口部から煙道部までは100cm，両袖部幅は95cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，粘性・締まりの弱い焼土粒子が約5cmの厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈覆土中，第1層が粘土粒子を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。



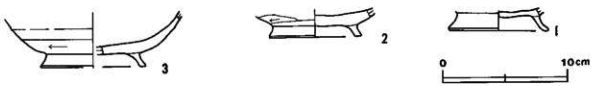
第402図　第802号住居跡実測図

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・粘土粒子少量
2　赤 褐 色　焼土粒子多量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，砂粒少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化材・炭化粒子・砂粒少量
5　褐　　色　粘土粒子・灰多量
6　明赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子少量
7　暗 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，粘土粒子少量

覆土　覆土が薄く，堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器片798点が出土している。第403図に示した土器はいずれも土師器高台付坏である。1は西壁寄りの覆土下層から出土している。2は覆土中から出土している。3は竈内から逆位で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や竈が東壁に付設されていることから判断して，9世紀後半から10世紀初めと考えられる。



第403図　第802号住居跡出土遺物実測図

第802号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	高台付坏 土師器	B（1.8） D　7.8 E　1.2	高台部片。高台は「ハ」の字状に開き，端部が開く。	底部ナデ。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 黒色粒子 にぶい橙色　普通	P110328　40% 西壁寄り覆土下層
2	高台付坏 土師器	B（2.3） D　7.4 E　0.9	高台部から体部下端にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	底部内面丁寧なナデ，外面糸切り痕を残すナデ。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P110329　30% PL81 覆土中
3	高台付坏 土師器	B（4.4） D［9.4］ E　1.1	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ロクロナデ。底部切り離し痕をわずかに残すナデ。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110330　40% PL81 竈内

第803号住居跡（第404図）

位置　調査11区の中央部，F13g0区。

規模と平面形　長軸3.85m，短軸3.00mの長方形である。

主軸方向　N－105°－E

壁　壁高は25～30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北西コーナー部を除き巡っている。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦である。耕作機械による床面に達する帯状の撹乱を受けている。撹乱を受けていない部分についてもあまり踏み固められていない。

竈　東壁やや南寄りを壁外へ55cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。耕作機械による撹乱を受けて，ほとんど形を止めていない。

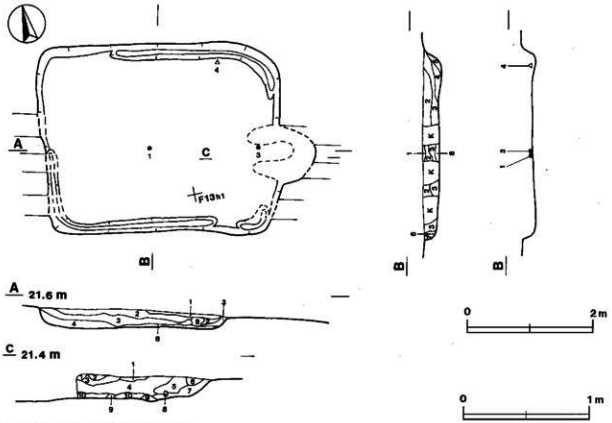
竈土層解説
1 黒 褐 色 焼土粒子・粘土粒子少量
2 赤 褐 色 焼土粒子多量
3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4 黒 褐 色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
5 灰 褐 色 粘土粒子多量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
6 褐 色 ローム粒子多量，粘土粒子少量
7 黒 褐 色 焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8 にぶい赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子多量
9 暗 赤 褐 色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
10 黒 褐 色 炭化粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量

覆土 9層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

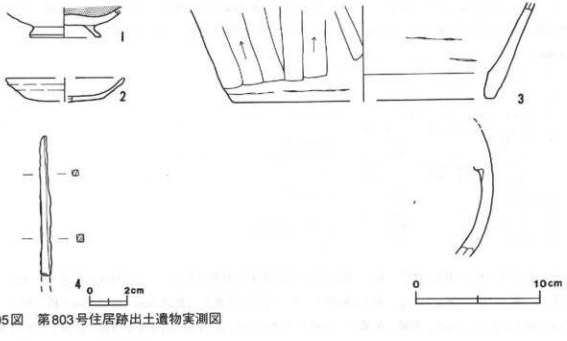
土層解説
1 黒 褐 色 ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
3 黒 褐 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
5 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
6 褐 色 ローム粒子多量
7 黒 褐 色 ローム中ブロック・炭化粒子少量
8 黒 褐 色 ローム粒子・炭化物少量
9 黒 褐 色 ローム小ブロック少量

遺物 土師器片102点，須恵器片20点及び鉄製品1点（紡錘車軸）が出土している。第405図に示した土器はいずれも土師器である。1の高台付坏は，中央部の床面から逆位で出土している。2の皿は，中央付近の覆土中から出土している。3の甑は，竈焚口部の覆土下層から斜位で出土している。4の不明鉄製品は，北壁際北東コーナー寄りの床面から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器や竈が東壁に付設されていることから判断して，10世紀初めと考えられる。



第404図 第803号住居跡実測図



第405図　第803号住居跡出土遺物実測図

第803号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	高台付坏 土師器	B〔2.4〕 D 5.6 E 0.9	高台部から体部下端にかけての破片。高台は比較的厚くて短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	底部内面丁寧な磨き，外面ナデ。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい橙色 普通	P110331 30% PL81 中央部床面
2	皿 土師器	A〔9.4〕 B 1.8 C〔6.0〕	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110332 40% PL81 中央付近覆土中
3	甕 土師器	B〔7.8〕 C〔20.4〕	底部から体部下位にかけての破片。5孔式か。	体部下位内面横方向のヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110333 5% 焚口部覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第405図4	不明鉄製品	(7.6)	0.4	0.3	(4.12)	北壁際北東コーナー寄り	M11024 PL109

第809号住居跡（第406図）

位置　調査11区の中央部，G12e0区。

重複関係　第836・842号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.55m，短軸4.50mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は約50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁際及び南壁際で確認されている。上幅約20cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは125cm，両袖部幅は115cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から15cmほど掘りくぼ

められ，焼土が約5㎝の厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈覆土中，第3・10層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1 灰　赤　色　焼土小ブロック中量，炭化物・粘土粒子・砂粒少量
2 にぶい赤褐色　砂粒多量，焼土小ブロック少量
3 灰　赤　色　焼土大ブロック・粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量
4 灰　赤　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
5 にぶい赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物中量，砂粒少量
6 灰　赤　色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
7 灰　赤　色　ローム大ブロック・焼土大ブロック・炭化物少量
8 灰　赤　色　ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土大ブロック・砂粒少量
9 赤　灰　色　砂粒多量，焼土小ブロック少量
10 にぶい赤褐色　砂粒多量，焼土小ブロック少量
11 にぶい赤褐色　ローム大ブロック・焼土大ブロック・炭化物少量
12 明赤褐色　焼土大・中ブロック多量
13 灰　赤　色　焼土大ブロック・炭化粒子少量
14 赤　灰　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
15 明赤褐色　焼土大・中ブロック多量

ピット　5か所（P1～P5）。P1・P2・P4はそれぞれ北東・南東・北西コーナー付近に位置し，径25～40㎝の円形で，深さは51～58㎝である。P3は南西コーナー付近に位置し，長径30㎝，短径25㎝の楕円形で，深さは55㎝である。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，長径30㎝，短径25㎝の楕円形で，深さは30㎝である。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

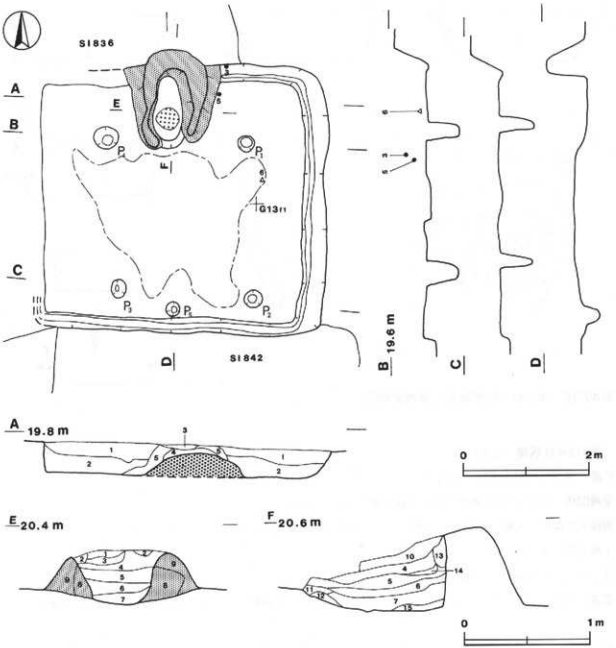
土層解説
1 灰　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
2 褐　色　ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量
3 にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物中量，粘土粒子少量
4 灰　赤　色　焼土小ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック少量
5 にぶい赤褐色　焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量

遺物　土師器片1,184点，須恵器片131点及び鉄製品1点（鎌）が出土している。第407図に示した土器はいずれも須恵器である。1・2の坏，4の高台付坏は覆土中から出土している。3の坏，5の甕は，竈東側の覆土下層から出土している。6の鎌は東壁寄りの覆土下層から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片及び須恵器甕の体部細片で，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀中葉と考えられる。

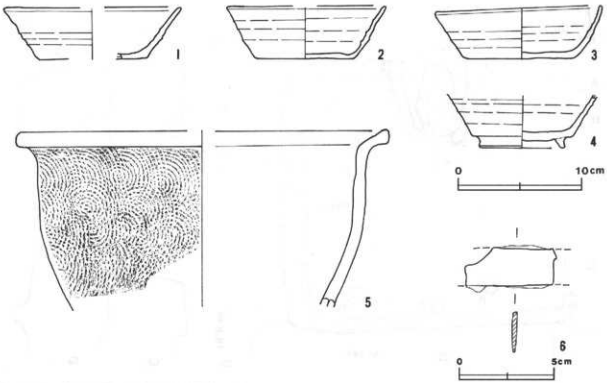
第809号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第407図 1	坏	A [14.2] B 4.1 C [8.5]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。比較的薄手。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P110359　20% 覆土中
	須恵器					
2	坏	A [12.8] B 4.2 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。比較的薄手。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・黒色粒子 灰白色　良好	P110360　30% P L.82 覆土中
	須恵器					
3	坏	A 13.2 B 4.2 C 8.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。比較的薄手。	口縁部，体部内・外面強いロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・黒色粒子 黄灰色　普通	P110361　70% P L.82 竈東側覆土下層
	須恵器					
4	高台付坏	B (4.3) D 6.9 E 0.8	高台部から体部にかけての破片。高台は狭く，「八」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・黒色粒子 灰黄色 良好	P110362　20% 覆土中
	須恵器					
5	甕	A [29.6] B (14.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部から口縁部は外反し，端部は上下につまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面同心円文叩き。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	P110363　20% P L.82 竈東側覆土下層
	須恵器					



第406図　第809号住居跡実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第407図6	鏃	(4.9)	1.9	0.2	(7.65)	裏壁寄り覆土下層	M11026　PL110



第407図　第809号住居跡出土遺物実測図

第813号住居跡（第408図）

位置　調査11区の中央部，F12j7区。

重複関係　第811号住居跡及び第35号溝を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［5.20］m，短軸［4.80］mの方形と推定される。

主軸方向　N－14°－E

壁　壁高は約10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西コーナー付近で確認されている。上幅約15cm，下幅約5cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，西部が踏み固められている。第811号住居跡と重複する東部の床面は，第811号住居跡の覆土を掘り込んで構築しているため黒褐色で，あまり踏み固められていない。

竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは60cm，両袖部幅は100cmである。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，約8cmの厚さで焼土が堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈覆土中，第1・5層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　赤　褐　色　焼土中ブロック・粒子多量，粘土粒子中量，砂粒少量
2　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
5　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
6　黒　褐　色　砂粒少量
7　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・粒子少量

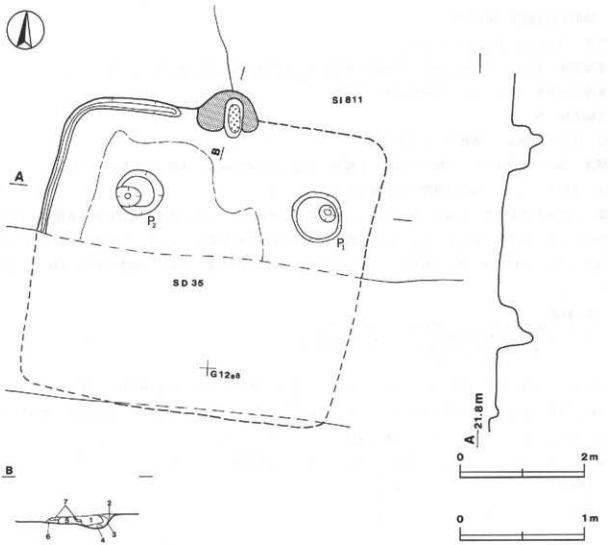
ピット　2か所（P1・P2）。P1・P2はそれぞれ北東及び北西コーナー付近に位置し，径約70cmの円形で，

深さは順に50cmと60cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

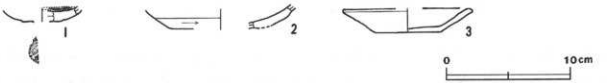
覆土　残った覆土が薄いため堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器片73点及び須恵器片6点が出土している。第409図1の土師器杯，2の土師器高台付杯，3の土師器皿はいずれも覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀後半と考えられる。



第408図　第813号住居跡実測図



第409図　第813号住居跡出土遺物実測図

第813号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	土師器 坏	B（1.1） C［3.0］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 にぶい橙色　普通	P110372　20% PL82 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 2	高台付坏 土師器	B (12)	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110373 覆土中 10%
3	皿 土師器	A [10.4] B 1.8 C 5.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外へ大きく開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 褐色 普通	P110374 PL82 覆土中 35%

第814号住居跡（第410図）

位置　調査11区の中央部，G12a7区。

重複関係　第815・816・817・825号住居跡を掘り込み，第818号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.50m，短軸4.30mの長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は約20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西部で確認された。上幅15～20cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，コーナー部及び壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。北部で第35号溝と重複し，上部は脆弱である。袖部幅は120cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土が約15cmの厚さで堆積している。煙道は，竈部で第35号溝と重複し，調査の過程で崩れてしまった。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　灰赤色　粘土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒少量
3　にぶい赤褐色　焼土中ブロック中量，焼土大ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量

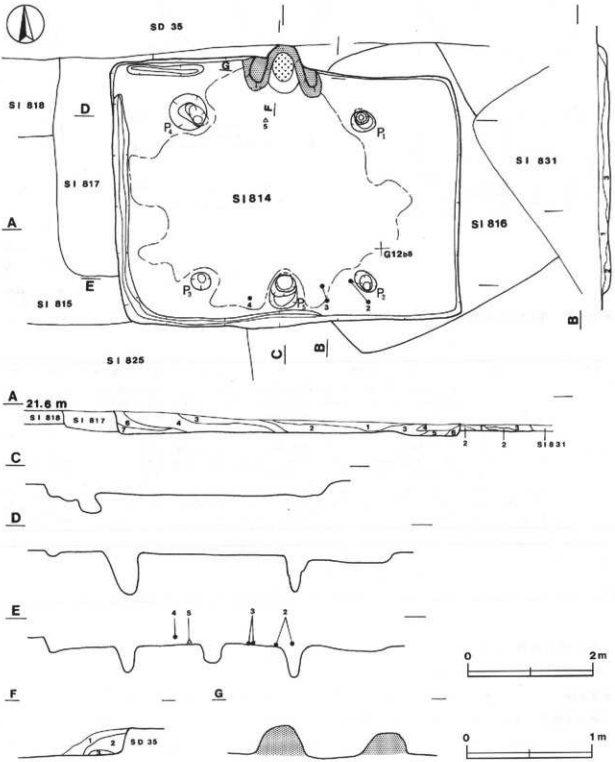
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径30～50cmの円形で，深さは42～70cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，長径60cm，短径40cmの楕円形で，深さは32cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量
2　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量
3　褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
5　明褐色　ローム大・中ブロック多量，ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　明褐色　ローム中ブロック多量，ローム粒子中量

遺物　土師器片320点，須恵器片37点及び鉄器１点（鉄鏃）が出土している。第411図に示した土器はいずれも須恵器である。１の坏は覆土中から，２～４は南壁際中央付近から出土している。２の坏は床面から斜位で出土した２片が接合している。３の高台付坏は床面から出土した２片が接合したものである。４の盤は覆土下層から出土している。５の鉄鏃は竈手前の床面から出土している。出土した土師器のほとんどは甕体部細片で，覆土上層から出土していることから，本跡廃絶後に投棄されたものと思われる。

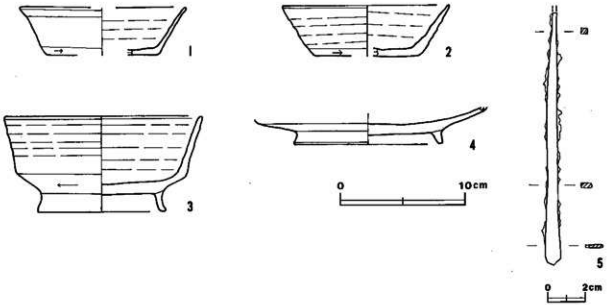
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀後半と考えられる。



第410図　第814号住居跡実測図

第814号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	坏 須恵器	A〔13.3〕 B 3.8 C〔8.8〕	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は軽く外反する。比較的厚手。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・黒色粒子 灰色　普通	P110375　15% 覆土中



第411図　第814号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 2	坏 須恵器	A 13.3 B 4.1 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・白色粒子 灰白色　普通	P110376　80% P L.82　南壁際中央付近床面
3	高台付坏 須恵器	A 15.8 B 7.6 D 10.2 E 1.8	高台部から口縁部にかけての破片。高台は比較的高く，「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P110377　90% P L.82 南壁際中央付近床面
4	盤 須恵器	B (2.9) D 11.7 E 1.0	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P110378　50% P L.82　南壁際中央付近覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第411図5	鉄鏃	(13.6)	1.0	0.3	(13.0)	覆土中	M11028

第815号住居跡（第412図）

位置　調査11区の中央部，G12a6区。

重複関係　第825号住居跡を掘り込み，第814・817・818号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　東部を第814号住居に，北部を第818号住居に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸(2.90)m，東西軸(2.90)mである。南西コーナーが直角であることから，平面形は方形または長方形と推定される。

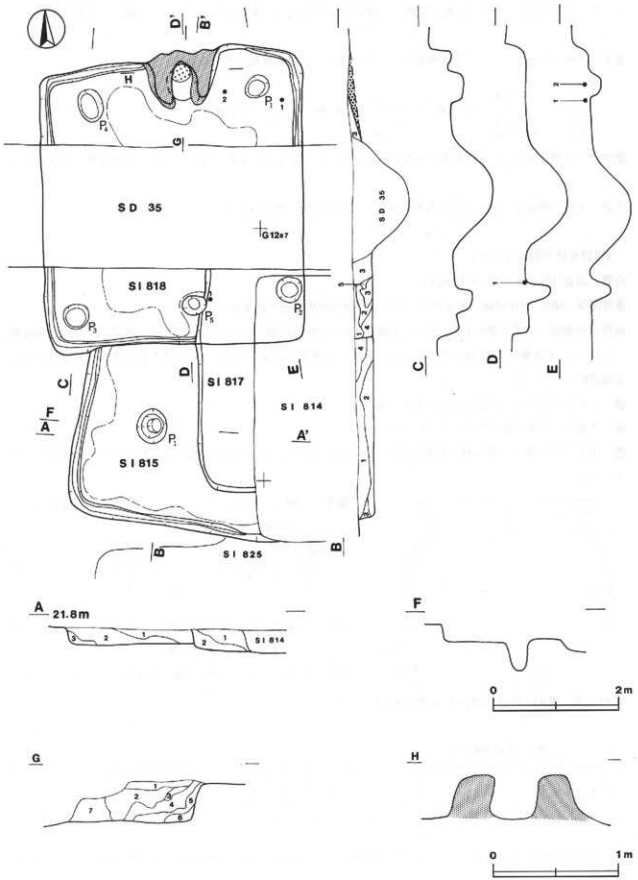
主軸方向　N－14°－E

壁　壁高は約50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　掘り込まれていない部分については，巡っている。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　出土遺物から竈を持つ時期と考えられるが，重複のため確認できなかった。



第412図　第815・817・818号住居跡実測図

ピット　P1は南西コーナー付近に位置し，径約50cmの円形で，深さは46cmである。位置から主柱穴と考えられる。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム大・小ブロック少量

遺物　土師器片261点及び須恵器片39点が出土している。出土した土器のほとんどは，土師器甕の体部細片である。

所見　本跡の時期は，出土土器や重複関係から8世紀中頃と考えられる。

第817号住居跡（第412図）

位置　調査11区の中央部，G12a6区。

重複関係　第815号住居跡を掘り込み，第814・818号住居に掘り込まれている。

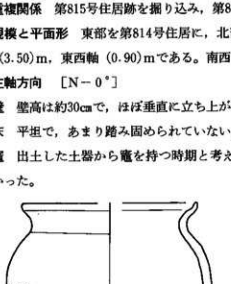
規模と平面形　東部を第814号住居に，北部を第818号住居に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸(3.50)m，東西軸(0.90)mである。南西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　[N－0°]

壁　壁高は約30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，あまり踏み固められていない。

竈　出土した土器から竈を持つ時期と考えられるが，第814・818号住居に掘り込まれているため確認できなかった。



第413図　第817号住居跡出土遺物実測図

覆土　2層からなる。ロームブロックが多量に含まれることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子中量

遺物　土師器片6点及び須恵器片1点が出土している。第413図1の土師器甕は西壁際の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や重複関係から8世紀後半と考えられる。

第817号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第413図 1	甕 土師器	A [14.0] B (10.8)	体部から口縁部にかけての破片。小形。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上半部ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英・黒色粒子 にぶい橙色 普通	P110379　10% P L.82 西壁際床面

第818号住居跡（第412図）

位置　調査11区の中央部，F12j6区。

重複関係　第814・815・817号住居跡及び第35号溝を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.50m，短軸4.20mの方形である。

主軸方向　N－1°－W

壁　壁高は約30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第35号溝と重複していない部分については，巡っているのが確認できた。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へわずかに掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは80cm，両袖部幅は100cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土が約5cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説
1　黒 褐 色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　暗赤紫色　ローム小ブロック少量
4　赤 灰 色　粘土粒子中量，ローム大ブロック・焼土大ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
5　暗赤褐色　ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土大ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物少量
7　暗赤褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径約40cmの円形で，深さは11～29cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，径約35cmの円形で，深さは35cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

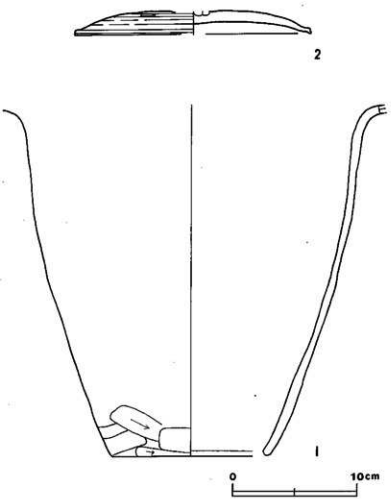
土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片106点，須恵器片11点及び鉄製品1点（紡錘車軸細片）が出土している。第414図1の土師器甑は北東コーナー付近の床面から，2の須恵器蓋は竈東側の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後半と考えられる。

第818号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 1	甑 土師器	B 28.2 C 12.6	体部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は外傾して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ，外面下端横方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・白色粒子 にぶい橙色 普通	P110511 70% PL82 北西コーナー付近 床面
2	蓋 須恵器	A [19.4] B 1.8	天井部片。天井部は口縁部に向かって緩やかに下降する。端部は下方に小さくつまみ出されている。	天井上半部回転ヘラ削り，下半部ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英・黒色粒子 灰色 普通	P110380 20% 竈東側覆土下層



第414図　第818号住居跡出土遺物実測図

第820号住居跡（第415図）

位置　調査11区の北部，F12i0区。

重複関係　第811号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［4.50］m，短軸［3.35］mの長方形と推定される。第811号住居跡を掘り込んで構築していて，壁の立ち上がりが不明確なため，土層面に表れた覆土の変化と床面のわずかな高低差で規模を推定した。

主軸方向　N－102°－E

壁　壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。耕作機械による帯状の撹乱を受けている。

竈　東壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。撹乱のため遺存状態が悪く，詳細は確認できなかった。

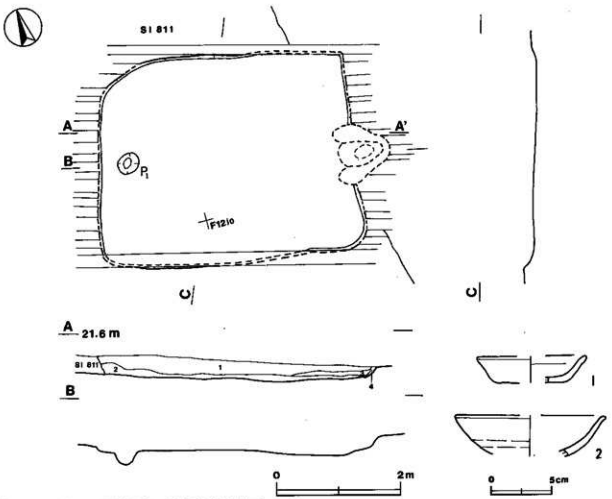
ピット　P1は西壁際中央部に位置し，径約35cmの円形で，深さは18cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材少量
3　暗褐色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物　土師器片７点が出土している。第415図１・２は皿で，ともに覆土中から出土している。

所見　本跡は，出土土器が極めて少ないため，時期は明確ではない。しかし，当遺跡で竈が東壁に敷設されている竪穴住居跡がいずれも９世紀末から10世紀にかけてのものであることから，本跡もそれらと同時期のものと考えられる。



第415図　第820号住居跡・出土遺物実測図

第820号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	皿 土師器	A［8.8］ B 2.1 C［5.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外方へ大きく開く。口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P 110383　10% 覆土中
2	皿 土師器	A［12.0］ B（3.7）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外方へ大きく開く。口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 110384　10% 覆土中

第821号住居跡（第416図）

位置　調査11区の中央部，G12a5区。

重複関係　第20号地下式壙に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.05m，短軸5.00mの方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は約10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第20号地下式壙に掘り込まれている部分を除き，巡っている。上幅約15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmである。断面はU字形で，部分的にV字形をしている。

床　平坦で，各コーナー及び壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へわずかに掘り込んで，砂質粘土で構築されている。覆土が10cmほどしか残っておらず，遺存状態は良くない。焚口部から煙道部までは85cm，両袖部幅125cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで，粘性・締まりの弱い焼土粒子と灰とが約5cmの厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈覆土中，第3層が砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　灰褐色　ローム中ブロック・粒子中量
2　暗赤褐色　焼土中ブロック・粒子中量，ローム大ブロック・炭化粒子少量
3　褐　色　砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　灰褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒褐色　焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

ピット　3か所（P1～P3）。P1～P3は各コーナー付近に位置し，径50～60cmの円形で，深さは50～78cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　2層からなる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

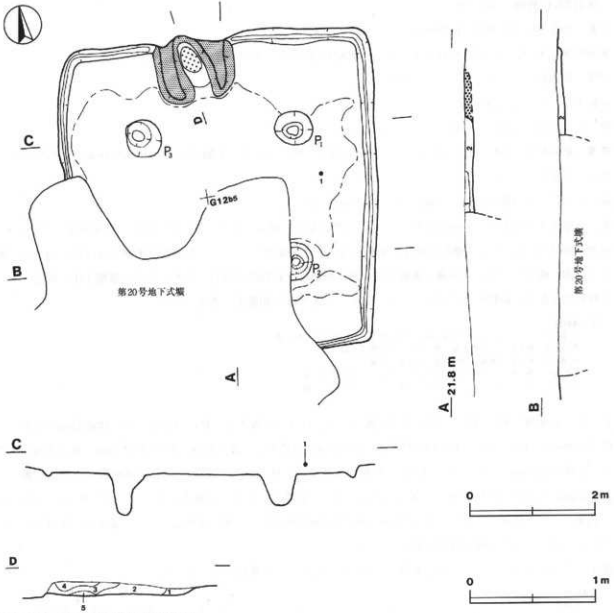
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片175点及び須恵器片3点が出土している。第417図1の土師器坏は東壁寄りの覆土下層から出土している。2の土師器坏，3の土師器甕は覆土中から出土している。

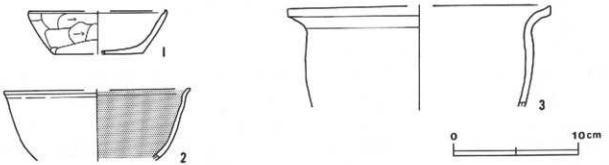
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して，9世紀後半と考えられる。

第821号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第417図 1	坏 土師器	A [11.0] B 3.4 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい橙色　普通	P110385　30% PL83 東壁寄り覆土下層
2	坏 土師器	A [14.6] B (5.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 暗灰黄色　普通	P110386　10% 覆土中
3	甕 土師器	A [20.8] B (6.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 褐色 普通	P110387　5% 覆土中



第416図　第821号住居跡実測図



第417図　第821号住居跡出土遺物実測図

第823号住居跡（第418図）

位置　調査11区の中央部，G12c6区。

重複関係　第822・825号住居跡を掘り込み，第824号住居及び第42号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　一辺4.95mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は15～25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第824号住居跡に掘り込まれている部分を除き，巡っている。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，南壁際中央部から竈にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは120cm，両袖部幅は120cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，締まりの弱い焼土小ブロックが薄く堆積している。煙道は，約70度の傾斜で立ち上がる。竈覆土中，第２・３・４層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　暗褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　灰褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，炭化材・炭化粒子・粘土粒子少量
5　暗赤褐色　ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・焼土粒子少量

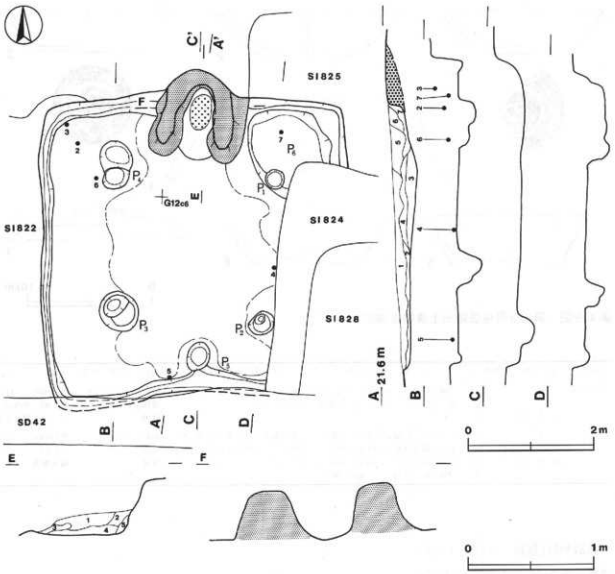
ピット　６か所（P1～P6）。P1～P4は各コーナー付近に位置する。P1・P2はともに径約35cmの円形で，深さは38cmと34cmである。P3は長径65cm，短径55cmの楕円形で，深さ35cm，P4は長径80cm，短径55cmの楕円形で，深さは26cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，長径50cm，短径35cmの楕円形で，深さは29cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は北東コーナー付近に位置し，長径170cm，短径120cmの楕円形で，深さは30cmである。覆土中に多量の灰が含まれていることから灰溜め施設と考えられる。

覆土　７層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土中ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗褐色　ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
4　暗褐色　炭化粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
5　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
7　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物　土師器片506点，須恵器片57点及び土製品１点（支脚細片）が出土している。第419図１～３は土師器坏で，１は覆土中から出土している。２は北西コーナー部の覆土下層から出土している。３は北西コーナー部の覆土中層から斜位で出土している。４の土師器甕は，中央付近の覆土下層から出土している。５の須恵器坏は，南壁際中央部の覆土下層から，６の須恵器坏は，北西コーナー付近の覆土下層から，７の須恵器蓋は竈東側の覆土下層から出土している。出土した土器で図示しなかったものは土師器甕の体部細片がほとんどで，床面から浮いた状態で出土していることから，本跡廃絶後に投棄されたものと思われる。

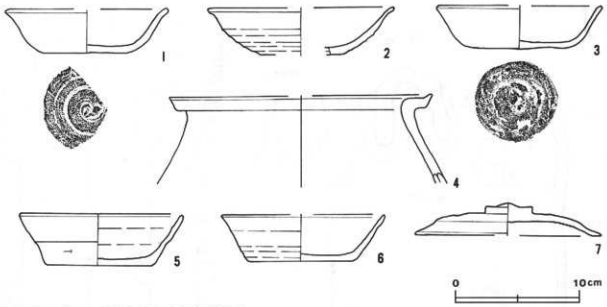
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀後半と考えられる。



第418図　第823号住居跡実測図

第823号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第419図 1	坏 土師器	A [13.0] B 3.5 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子に赤褐色　普通	P110396　20%覆土中
2	坏 土師器	A [15.0] B 3.7 C [6.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子・黒色粒子に赤褐色　普通	P110398　30%北西コーナー部覆土下層
3	坏 土師器	A [13.5] B 3.4 C 6.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。比較的薄手。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母に赤褐色　普通	P110399　40%北西コーナー部覆土中層
4	甕 土師器	A [21.0] B (7.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開き，口縁部は外反する。鍔部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子に赤褐色　普通	P110400　10%P L.83中央付近覆土下層
5	坏 須恵器	A 13.2 B 4.1 C 8.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面下半部回転ヘラ削り。底部ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英黒色粒子黄灰色　普通	P110401　70%P L.83　南壁際中央部覆土下層



第419図　第823号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第419図 6	坏 須恵器	A ［13.2］ B 3.7 C 8.5	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P110402 60% PL83 北西コーナー付近覆土下層
7	壺 須恵器	A ［15.0］ B 2.6 F 3.9 G 0.9	天井部から口縁部にかけての破片。平たい擬宝珠状のつまみが付く。天井部は平坦で，口縁部に向かって緩やかに下降する。端部は閉く。	つまみ部ナデ。天井上半部回転ヘラ削り，下半部ロクロナデ。内面ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P110403 25% PL83 竈東側覆土下層

第824号住居跡（第420・421図）

位置　調査11区の中央部，G12c7区。

重複関係　第823・825号住居跡を掘り込み，第828号住居及び第42号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.85m，短軸5.55mの方形である。

主軸方向　N－4°－E

壁　壁高は20～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

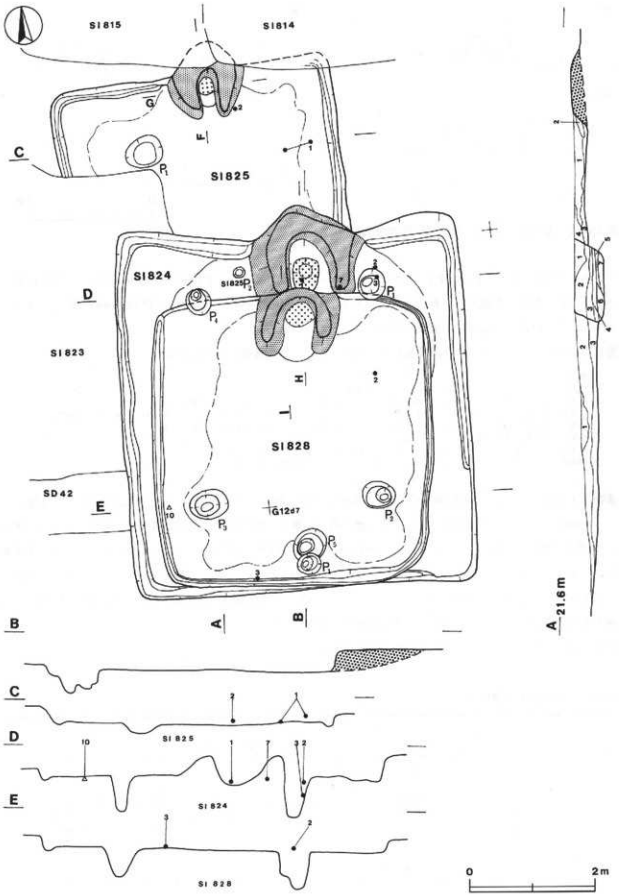
壁溝　南東コーナー部を除き，巡っている。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，各コーナー部及び壁際を除き踏み固められている。

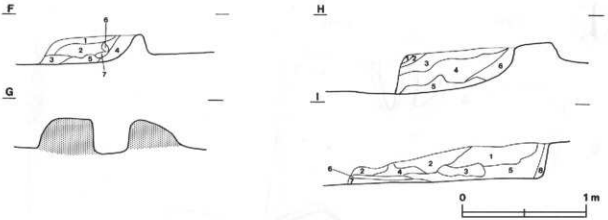
竈　北壁中央部を壁外へ55cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは115cm，両袖部幅は160cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，締まりの弱い焼土ブロックが約5cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈覆土中，第3層が砂粒を中量含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子・粘土大ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土大ブロック・砂粒少量
3　暗赤褐色　砂粒中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土大ブロック・炭化物少量
5　暗赤褐色　炭化物・粘土粒子・砂粒少量
6　暗赤褐色　焼土大ブロック・炭化粒子・粘土大ブロック少量



第420図　第824・825・828号住居跡実測図（1）



第421図　第824・825・828号住居跡実測図（2）

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，いずれも径約50㎝の円形で，深さは49～70㎝である。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，径約50㎝の円形で，深さは32㎝である。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

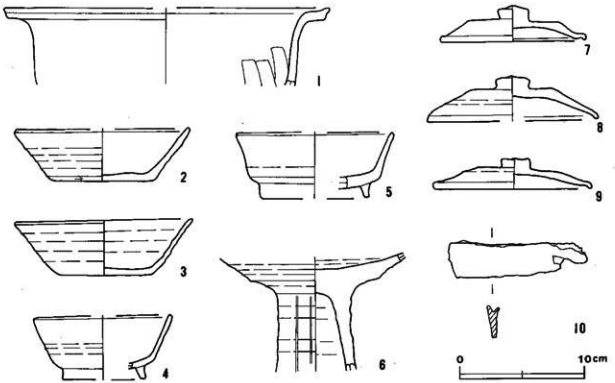
土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材少量
2　暗褐色　焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化材・炭化粒子少量
3　暗褐色　焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
4　暗褐色　粘土粒子中量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子少量
5　暗褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック中量
6　暗褐色　ローム大ブロック多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
7　黒褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物　土師器片1,112点，須恵器片273点及び鉄製品1点（鋤先）が出土している。第422図に示した土器は，1が土師器で，2～9は須恵器である。1の甕は竈内の覆土下層から，2の坏は竈東側の床面から，3の坏はP1の覆土中層から出土している。4・5の高台付坏，6の高坏は覆土中から出土している。7の蓋は竈東袖端部の床面から出土している。8・9の蓋は覆土中から出土している。10の鋤先は南西コーナー付近の床面から出土している。出土した土器で図示しなかったものの多くは土師器甕の体部細片及び須恵器甕の体部細片で，覆土上層から出土していることから，本跡廃絶後に投棄されたものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後半と考えられる。

第824号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第422図 1	甕 土師器	A [26.0] B（6.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色 普通	P110404　10% 竈内覆土下層
2	坏 須恵器	A [13.6] B 4.2 C 8.0	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・黒色粒子 黄灰色 普通	P110405　30% P L.83 竈東側床面
3	坏 須恵器	A 14.0 B 4.5 C 7.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子・黒色粒子 灰黄色 普通	P110420　80% P L.83 P1覆土中層



第422図　第824号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第422図 4	高台付坏 須恵器	A [10.8] B 5.0 D [6.6] E 1.0	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「八」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P110406　30% 覆土中
5	高台付坏 須恵器	A [12.2] B 5.2 D [8.4] E 1.2	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「八」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英・礫 灰色 普通	P110407　20% 覆土中
6	坏 須恵器	B (9.3)	脚部から坏部にかけての破片。脚部は筒状で，3方に透かしを切ろうとした痕が残る。坏体部はわずかに内湾して立ち上がる。	坏部内面ナデ，外面ロクロナデ。脚部内面ヘラナデ，外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P110408　50% 覆土中
7	蓋 須恵器	A 11.6 B 2.8 F 2.5 G 1.2	天井部一部欠損。平たい擬宝珠状のつまみが付く。天井上半部は平坦で，口縁部に向かって緩やかに下降する。端部は下方につまみ出され，内側に沈線1条が巡る。	つまみ部ナデ。内面ロクロナデ。外面上半部回転ヘラ削り，下半部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・黒色粒子 黄灰色 普通	P110409　80% P L.83 竈東袖端部床面
8	蓋 須恵器	A [13.6] B 3.5 F 2.7 G 0.8	天井部から口縁部にかけての破片。平たい擬宝珠状のつまみが付く。天井上半部は平坦で，口縁部に向かってなだらかに下降する。端部は下方につまみ出されている。	つまみ部ナデ。内面ロクロナデ。外面上半部回転ヘラ削り，下半部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・白色粒子 灰色 普通	P110410　30% 覆土中
9	蓋 須恵器	A 13.5 B 2.4 F 2.3 G 0.8	天井部から口縁部にかけての破片。平たい擬宝珠状のつまみが付く。天井上半部は平坦で，口縁部に向かってなだらかに下降する。端部は下方につまみ出されている。	つまみ部ナデ。内面ナデ。外面上半部回転ヘラ削り，下半部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・礫 灰色 普通	P110411　50% P L.83 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第422図10	鏃	11.1	3.0	0.9	50.0	南西コーナー付近床面	M11029

第825号住居跡（第420・421図）

位置　調査11区の中央部，G12b6区。

重複関係　第814・815・823・824号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　南部を第823・824号住居に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸（2.80）m，東西軸4.50mである。北西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－1°－W

壁　壁高は約20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　他の住居に掘り込まれている部分を除き，巡っている。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは75cm，両袖部幅は135cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，締まりの弱い焼土小ブロックが約5cmの厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈覆土中，第4・5・6・7層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることや堆積状況から，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗 褐 色　砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗赤褐色　砂粒多量，焼土大ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化材少量
3　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　砂粒多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子少量
5　暗赤褐色　砂粒多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量
7　赤 褐 色　砂粒多量，粘土粒子少量

ピット　2か所（P1，P2）。P1は北西コーナー付近に位置し，径約50cmの円形で，深さは16cmである。性格は不明である。P2は推定南壁際中央部に位置し，径約15cmの円形で，深さは20cmである。位置と規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　土師器片166点及び須恵器片7点が出土している。第423図1の土師器甕は，北東コーナー付近の床面と覆土下層から出土した2片が接合したものである。2の須恵器坏は，竈東側の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器及び重複関係から判断して8世紀前半と考えられる。

第423図　第825号住居跡出土遺物実測図

第825号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第423図 1	甕 土師器	A [22.6] B (4.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P110412 5% PL83 北東コーナー付近 床面と覆土下層
2	坏 須恵器	A [15.0] B 4.1 C [10.0]	底部から口縁部にかけての破片。丸みを帯びた平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラナデ。丁寧な調整。	砂粒・雲母・長石 灰白色 良好	P110413 30% PL83 竈東側覆土下層

第828号住居跡（第420・421図）

位置　調査11区の中央部，G12c7区。

重複関係　第824号住居跡を掘り込み，第42号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.85m，短軸5.55mの方形である。

主軸方向　N－5°－E

壁　壁高は約20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁西部を除き，巡っている。上幅約10cm，下幅約5cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へわずかに掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは100cm，両袖部幅は130cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，締まりの弱い焼土小ブロックが約5cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈覆土中，第1～3層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　焼土小ブロック・粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　暗 赤 褐 色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
3　にぶい暗褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・炭化材・粘土粒子・砂粒少量
5　灰　褐　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　黒　褐　色　ローム大ブロック・炭化粒子多量，粘土粒子・砂粒少量
7　黒　褐　色　焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・粘土粒子・砂粒少量
8　暗 赤 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

ピット　P1は南壁際中央部に位置し，径約45cmの円形で，深さは38cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなる。ロームブロックが比較的多く含まれていることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
2　黒褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子少量

遺物　土師器片209点及び須恵器片72点が出土している。第424図に示した土器はいずれも須恵器である。1の坏は覆土中から出土している。2の高台付坏は竈東側の覆土下層から，3の盤は南壁際中央部の床面から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片及び須恵器甕の体部細片で，本跡が廃絶された後に投棄されたもとの考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀後半と考えられる。

第424図　第828号住居跡出土遺物実測図

第828号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第424図 1	坏 須恵器	A [13.0] B 4.4 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・黒色粒子 褐灰色 普通	P 110419　40% 覆土中
2	高台付坏 須恵器	A 12.4 B 5.8 D 8.0 E 1.3	体部・口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開き，端部が開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P 110421　95% P L 84 竈東側覆土下層
3	盤 須恵器	A 15.4 B (3.0)	高台部欠損。口縁部一部欠損。体部は外方へ大きく開く。口縁部は上向く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石 黒色粒子 褐灰色　普通	P 110422　80% P L 84 南壁際中央部床面

第830号住居跡（第425図）

位置　調査11区の中央部，G12a9区。

重複関係　第827・831号住居跡を掘り込んでいる。北部で第35号溝とわずかに重複する。

規模と平面形　第831号住居跡を掘り込んで構築しているため明確ではないが，長軸［4.55］m，短軸3.95mの長方形と推定される。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は約10cmである。

壁溝　東壁際で確認されている。上幅約15cm，下幅約5cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。床面は第831号住居跡の覆土を踏み固めて構築している。

竈　北壁中央部を壁外へ20cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。第35号溝と重複しているため，焚口部と袖部の一部だけが確認できた。

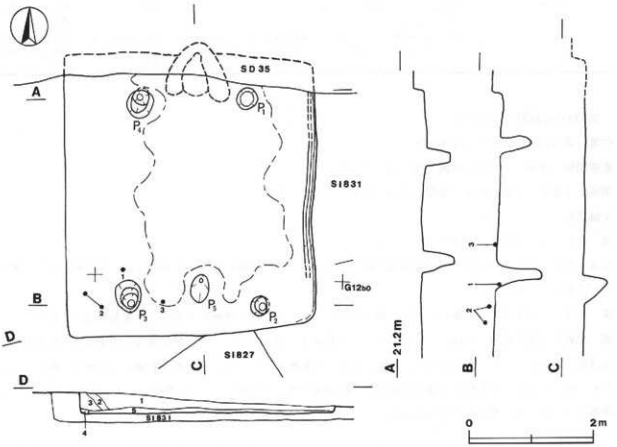
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径30～40cmの円形で，深さは49～54cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，長径45cm，短径30cmの楕円形で，深さは40cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。1～3層はレンズ状に堆積していることから自然堆積である。4・5層は床面である。

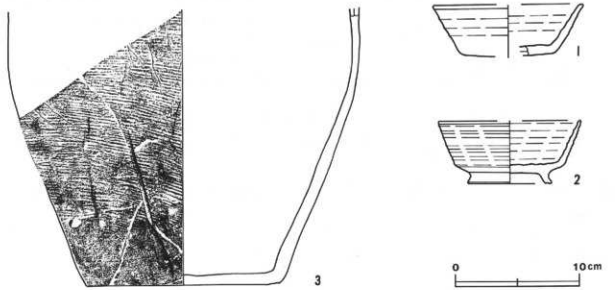
土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量

遺物　土師器片329点及び須恵器片26点が出土している。第426図に示した土器はいずれも須恵器で，南西コーナー付近から出土している。1の坏は床面から，2の高台付坏は覆土下層から，3の甕は床面から出土している。出土した土器で図示しなかったものの多くは土師器甕の体部細片で，本跡が廃絶された後に投棄されたものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀中頃と考えられる。



第425図　第830号住居跡実測図



第426図　第830号住居跡出土遺物実測図

第830号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第426図 1	坏 須恵器	A [12.0] B 4.1 C [7.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色 普通	P 110429 20% 南西コーナー付近 床面
2	高台付坏 須恵器	A [11.4] B 5.0 D 6.8 E 0.9	高台部から口縁部にかけての破片。高台は短く，「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面強いロクロナデ。底部ナデ。高台貼り付け。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P 110430 60% P L 84 南西コーナー付近 覆土下層
3	甕 須恵器	B (21.9) C 15.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラナデ，外面中位斜め方向の平行叩き，下位横方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・黒色粒子 灰黄色 普通	P 110431 40% 南西コーナー付近 床面

第833号住居跡（第427図）

位置　調査11区の中央部，G12d8区。

重複関係　第836・904号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.60m，短軸4.35mの方形である。

主軸方向　N－4°－W

壁　壁高は30～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東コーナー付近及び南壁際東部を除き，巡っている。上幅約15cm，下幅約5cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，出入り口から竈にかけて，踏み固められている。耕作機械による帯状の撹乱を受けている。

竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは95cm，両袖部幅は110cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から15cmほど掘りくぼめられ，締まりの弱い焼土粒子と細かな炭化物が約10cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈覆土中，第11層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　赤褐色　ローム粒子中量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗赤褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子多量
6　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・砂粒少量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量
9　暗赤褐色　灰多量，焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子少量
10　暗赤褐色　ローム大ブロック多量
11　暗赤褐色　粘土粒子中量，砂粒少量
12　黒色　炭化粒子多量，焼土粒子中量
13　灰褐色　ローム大・中ブロック多量
14　黒褐色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，炭化材・粘土粒子少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナ付近に位置し，径30～40cmの円形で，深さは23～33cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，径約40cmの円形で，深さは34cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

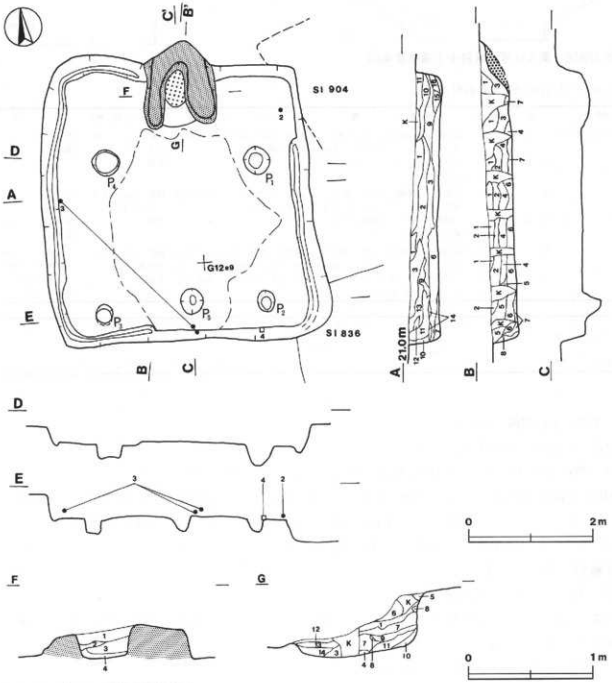
覆土　16層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　灰褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量，炭化粒子微量
4　赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
5　褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
8　褐色　ローム粒子中量

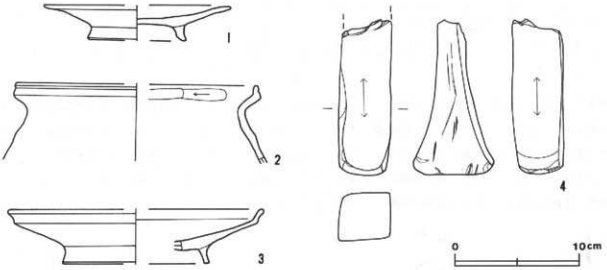
9　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化材微量
10　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化材・炭化物微量
11　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
12　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
13　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
14　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
15　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
16　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物　土師器片626点，須恵器片13点及び石器1点（砥石）が出土している。第428図1の土師器高台付皿は竈内覆土中から出土している。2の土師器甕は北東コーナー部の床面から出土している。3の須恵器盤は南壁際中央部と西壁際中央部の覆土下層から出土した数片が接合したものである。4の砥石は南壁際南東コーナー寄りの床面から出土している。耕作機械による撹乱を受けて，破砕された多数の土器細片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀中頃と考えられる。



第427図　第833号住居跡実測図



第428図　第833号住居跡出土遺物実測図

第833号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 1	高台付皿 土師器	A [15.0] B 2.8 D [7.6] E 1.4	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外方へ大きく開き，口縁部は外反する。	口縁部，体部，高台部内・外面ナデ。高台貼り付け。	砂粒・長石・赤色粒子にぶい橙色 普通	P.110444 30% 竈内
2	甕 土師器	A [19.2] B (6.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ナデ。	砂粒・雲母・石英にぶい赤褐色 普通	P.110445 10% P.L.85 北東コーナー部床面
3	壺 須恵器	A [20.4] B 4.4 D [11.8] E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外方へ大きく開き，小さな稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面，体部内面ロクロナデ。体部外面回転ヘラ削り。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P.110446 40% 南壁際中央部覆土下層と西壁際中央部覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第428図4	砥石	(12.5)	4.1	3.4	(326.0)	凝灰岩	南壁際南東コーナー寄り床面	Q.11025 P.L.106

第834A号住居跡（第429図）

位置　調査11区の中央部，G12d5区。

重複関係　第834B・835A・835B号住居跡を掘り込み，第42号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　南北軸4.10m，東西軸［4.10］mの方形と推定される。第835B号住居跡を掘り込んで構築していて，壁の立ち上がりが不明確なため，土層面に表れた覆土の変化と床面のわずかな高低差で規模を推定した。8か所あるピットの配置から，本跡内で規模の拡張が行われたものと考えられる。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は約20cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北東コーナー付近及び北西コーナー付近で確認されている。上幅約20cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，竈手前から中央付近が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ20cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは75cm，両袖部幅は95cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土が約5cmの厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈覆土中，第2層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
2　黒　褐　色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化物少量
3　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　暗　褐　色　焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
7　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土小ブロック少量
8　暗　褐　色　焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

ピット　8か所（P1～P8）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，長径45～60cm，短径30～40cmの楕円形で，深さは32～53cmである。規模と配置から拡張前の主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，径約35cmの円形で，深さは28cmである。位置から拡張前の出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7はそれぞれ南東・南西コーナー付近に位置し，長径55cmと45cm，短径35cmと40cmの楕円形で，深さは66cmと62cmである。P8は南壁際中央部に位置し，長径40cm，短径30cmの楕円形で，深さは24cmである。P6・P7は規模と配置から，P1・P4と合わせて拡張後の主柱穴と考えられる。P8は位置から拡張後の出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　灰褐色　ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量
2　褐　色　ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
3　灰褐色　ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
4　褐灰色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5　灰褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック少量

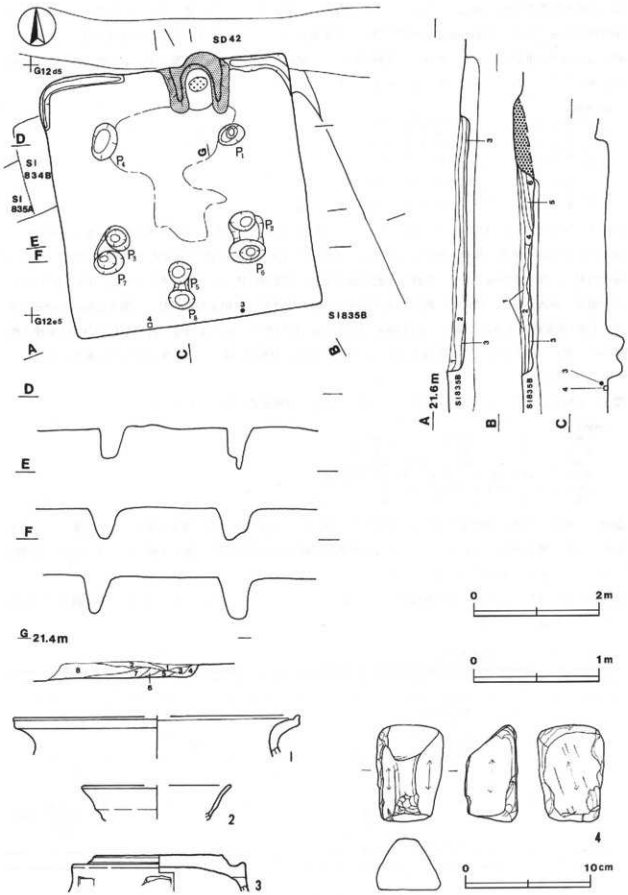
遺物　土師器片11点，須恵器片32点及び石器1点（砥石）が出土している。第429図1の土師器甕，2の須恵器坏はともに覆土中から出土している。3の須恵器円面硯は南壁際中央部の覆土下層から，4の砥石は南壁際南西コーナー寄りの床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や重複関係から判断して9世紀と考えられる。また，主柱穴の配置から，拡張を行った住居跡と考えられる。

第834A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図1	甕 土師器	A [22.8] B (3.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110447　5% PL中
2	坏 須恵器	A [13.4] B (2.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　良好	P110448　5% 覆土中
3	円面硯 須恵器	A 13.6 B (3.0)	脚台部上端から硯面部にかけての破片。脚台部には7条の透かしが入る。硯部は平坦で浅うか。外堤は比較的低い。	内堤部，海部，外堤部，脚台部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P110510　30% 南壁際中央部覆土下層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第429図4	砥石	7.6	5.3	4.0	194.0	凝灰岩	南壁際南西コーナー寄り床面	Q11026　PL106



第429図　第834A号住居跡・出土遺物実測図

第838号住居跡（第430図）

位置　調査11区の中央部，G12i9区。

重複関係　南西コーナー付近を第701号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸2.82mの長方形である。

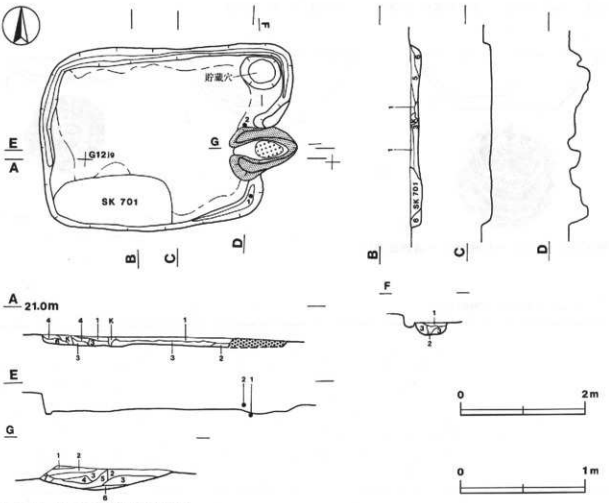
主軸方向　N－88°－E

壁　壁高は12～18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第701号土坑に掘り込まれている部分を除き全周している。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，全体が踏み固められている。

竈　東壁の中央南東コーナー寄りを壁外へ55cmほど掘り込んで，砂質粘土と黒褐色土で構築されている。焚口部から煙道部までは105cm，両袖部幅は85cmである。袖部内面は焼土が覆っている。火床部は，炭化物と焼土が約10cmの厚さで堆積している。火床面は緩やかに低くなり，中央部は約10cm掘り下げられ，焼土ブロックが火床面を形成している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈覆土中，第3・4・7層が粘土粒子を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。



第430図　第838号住居跡実測図

竈土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化材・粘土粒子少量
3 黒 褐 色 粘土粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4 灰 褐 色 粘土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
5 黒 褐 色 炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化材少量
6 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
7 暗赤褐色 炭化粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量

貯蔵穴 北東コーナー部の北壁際に設けられている。長径70cm，短径55cmの楕円形で，深さは32cmである。

貯蔵穴土層解説
1 黒褐色 ローム大ブロック中量
2 褐 色 ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
3 黒褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
2 黒褐色 砂粒中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子多量，ローム大ブロック中量
4 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
5 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗褐色 ローム中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 土師器片427点及び須恵器片51点が出土している。第431図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は南東コーナー部の壁溝底部から，2の高台付坏は竈北側の覆土下層から出土している。3の土師器皿は覆土中から出土している。出土遺物で図示しなかったものの多くは土師器甕の体部細片で，本跡が廃絶された後に投棄されたものと思われる。

所見 本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀後半と考えられる。

第431図 第838号住居跡出土遺物実測図

第838号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第431図 1	坏 土 師 器	A [15.0] B 4.3 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面弱いロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110478 50% 南東コーナー部壁溝底部
2	高台付坏 土 師 器	A 13.3 B 5.4 D 5.8 E 0.8	高台部から口縁部にかけての破片。高台は短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ，体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P110479 60% P L.86 竈北側覆土下層
3	皿 土 師 器	A 9.8 B 1.8 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外方へ大きく開き，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110480 90% P L.86 覆土中

第839号住居跡（第432図）

位置　調査11区の中央部，H12a9区。

規模と平面形　長軸3.90m，短軸2.88mの長方形である。

主軸方向　N－95°－E

壁　壁高は40～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～20cm，下幅10～18cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　東壁の中央やや南寄りを壁外へ50cmほど掘り込んで，砂質粘土と黒褐色土で構築されているが，脆弱で遺存状態は良くない。袖部及び竈内覆土中から，袖部の補強に用いたと思われる雲母片岩が出土している。焚口部から煙道部までは100cm，両袖部幅は80cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から約10cm掘りくぼめられ，焼土が薄く堆積している。煙道は，45度ほどの角度で立ち上がる。竈覆土中，第2層が砂粒を中量含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　褐　灰　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　褐　灰　色　砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・砂粒少量
4　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土大ブロック・炭化材・粘土粒子少量
6　灰　赤　色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
7　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
8　暗　赤　灰　色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
9　にぶい赤褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
10　明　赤　褐　色　焼土中ブロック多量
11　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
12　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量

覆土　23層からなる。ロームブロックが比較的多量に見られることや不連続な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

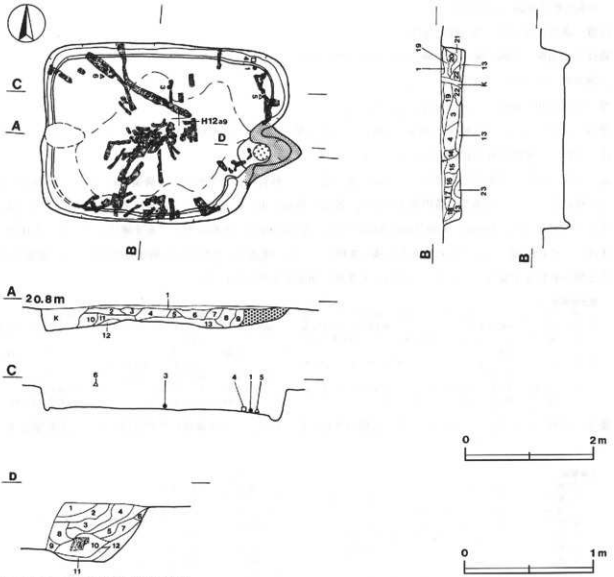
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　灰　褐　色　ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化材少量
3　灰　褐　色　ローム中ブロック・粒子少量
4　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物少量
5　暗　褐　色　ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量
7　暗　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
8　暗　褐　色　ローム大・中ブロック少量
9　暗　褐　色　ローム大ブロック・炭化材・焼土中ブロック少量
10　暗　褐　色　ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
11　暗赤褐色　ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
12　暗　褐　色　ローム粒子少量
13　黒　色　ローム粒子少量
14　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
15　暗　褐　色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
16　黒　褐　色　ローム中ブロック・粒子少量
17　暗　褐　色　ローム大・中・小ブロック少量
18　暗　褐　色　ローム中ブロック少量
19　暗　褐　色　ローム中・小ブロック少量
20　黒　褐　色　ローム中ブロック少量
21　灰　褐　色　ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
22　暗　褐　色　ローム大ブロック・粒子少量
23　灰　褐　色　ローム大ブロック・炭化物少量

遺物　土師器片556点，須恵器片88点，石器1点（砥石）及び鉄製品2点（紡錘車軸，火打金）が出土している。第433図に示した土器はいずれも土師器である。1の高台付坏は，北東コーナー部の床面から正位で出土している。2の皿は覆土中から，3の甕は北壁寄りの床面から出土している。4の砥石は北東コーナー部の床面から，5の紡錘車軸は北東コーナー付近の床面から，6の火打金は北西コーナー付近の覆土中層から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕や土師器坏の細片で，本跡が廃絶された後に投棄されたものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀末から10世紀初めと考えられる。

第839号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第433図 1	高台付坏	A 13.6	体部・口縁部一部欠損。高台は短く，「八」の字状に開く。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面，体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。底部ヘラ切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110481　90% P L 86 北東コーナー部床面
	土師器	B 5.1				
		D 5.7				
		E 0.9				

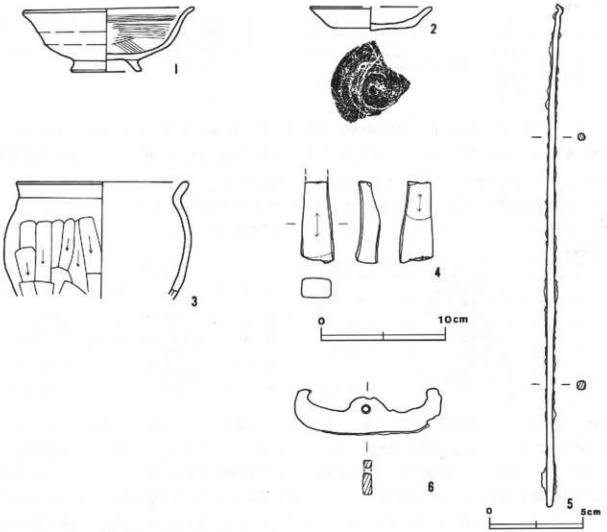


第432図　第839号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第433図 2	皿 土師器	A [9.8] B 1.8 C 6.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・石英に赤い橙色 普通	P110482 40% 覆土中
3	甕 土師器	A 13.6 B (9.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・に赤い橙色 普通	P110483 30% P L 86 北壁寄り床面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第433図4	砥石	(11.4)	2.6	1.5	(39.0)	凝灰岩	北東コーナー部床面	Q11030　P L 107

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第433図5	鉄製紡錘車軸	26.7	(径) 0.4	−	−	21.0	北東コーナー付近床面	M11032　P L 109
6	火打金	8.0	2.5	0.5	0.3	22.0	北西コーナー付近覆土中層	M 11033　P L 110



第433図　第839号住居跡出土遺物実測図

第840号住居跡（第434図）

位置　調査11区の中央部，G12f6区。

重複関係　第835B・886号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸5.20m，短軸4.90mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は30～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～20cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，コーナー部及び壁際を除き踏み固められている。西壁際の比較的広い範囲は，あまり踏み固められていない。

竈　北壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは130cm，両袖部幅は125cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめられ，締まりの弱い焼土小ブロックや焼土粒子，炭化物が薄く堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1 黒　褐　色　砂粒中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗　褐　色　砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3 暗　褐　色　砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
4 暗　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
5 暗　褐　色　砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6 暗　褐　色　砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
7 灰　褐　色　砂粒中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
8 灰　褐　色　焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量
9 にぶい褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は長径60～80cm，短径35～60cmの楕円形で，深さは46～54cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。いずれのピットも，柱痕が内側にわずかに傾いている。P5は南壁際中央部に位置し，長径約40cmの円形で，深さは29cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は南西壁際に位置し，径約50cmの円形で，深さは22cmである。性格は不明である。

覆土　14層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

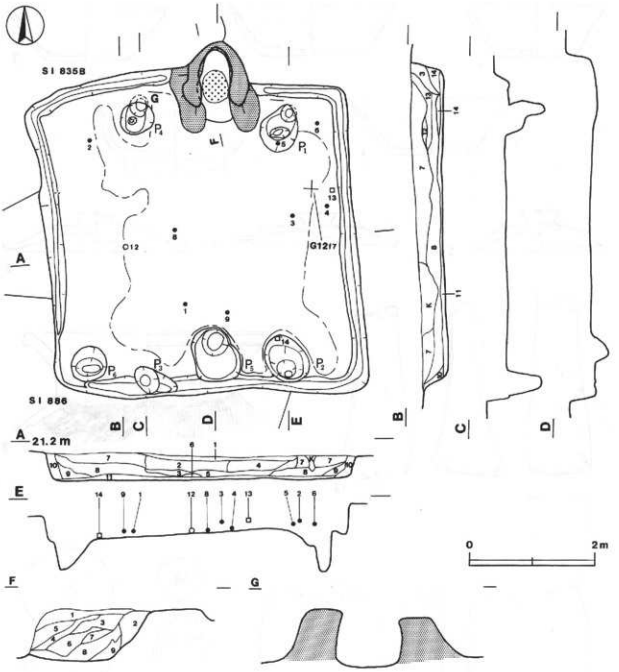
1 暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2 暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
3 黒　褐　色　炭化粒子多量，炭化物少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
4 暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
5 暗 赤 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量
7 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
8 暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
9 暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
10 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
11 暗　褐　色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
12 赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
13 暗 赤 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
14 褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片653点，須恵器片328点，土製品3点（土玉2，紡錘車1）及び石器2点（砥石）が出土している。第435図に示した土器はいずれも須恵器である。1～4は坏で，1は中央付近の床面から，2は北西コーナー付近の覆土下層から，3は東壁寄りの覆土下層から，4は東壁際の床面から出土している。5の高台付坏はP1地点の覆土下層から，6の蓋は北東コーナー部の覆土下層から，7の蓋は覆土中から，8の蓋は中央付近の床面から，9の甕は南壁寄りの床面から出土している。10の土玉は覆土中から，11の土玉は竈内覆土中から，12の紡錘車は中央付近の床面から，13の砥石は東壁際中央部の覆土下層から，14の砥石はP2付近の床面から出土している。出土した土器で図示しなかったものはほとんどが土師器甕の体部細片や須恵器の甕，坏の細片である。南壁寄りの覆土中層から土器細片がまとまって出土しており，一括投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀末から9世紀初めと考えられる。

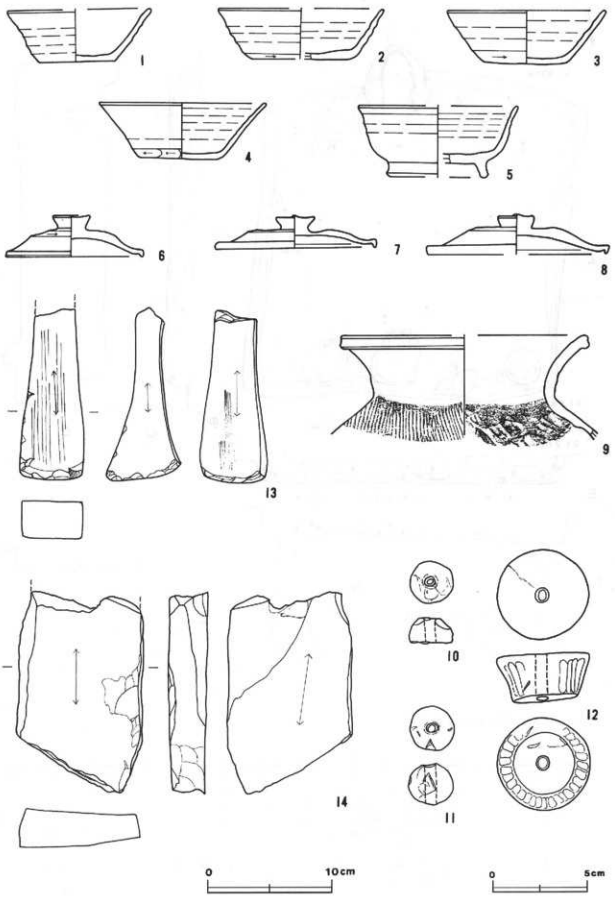
第840号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 1	坏 須恵器	A [11.4] B 4.1 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 褐灰色 普通	P110484　40% P L.86 中央付近床面
2	坏 須恵器	A [13.0] B 4.0 C [7.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 黄灰色　普通	P110485　30% P L.86　北西コーナー付近覆土下層
3	坏 須恵器	A 12.6 B 4.3 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・礫 褐灰色 普通	P110486　95% P L.86 東壁寄り覆土下層
4	坏 須恵器	A 13.2 B 4.4 C 6.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P110487　80% P L.87 東壁際床面
5	高台付坏 須恵器	A [12.6] B 5.7 D [7.6] E 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「八」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，軽く外反して口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ切り痕がわずかに残る。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・黒色粒子 褐灰色 普通	P110488　30% P1地点覆土下層



第434図　第840号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 6	壺 須恵器	A 11.0 B 3.3 F 3.0 G 1.2	天井部から口縁部にかけての破片。平たい擬宝珠状のつまみが付く。天井部は平坦で，口縁部に向かって二段に下降する。口縁端部は下方につまみ出されている。	つまみ部ナデ。天井部外面上半部回転ヘラ削り，下半部ロクロナデ。内面ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P 110489　70% P L 87 北東コーナー部覆土下層
7	壺 須恵器	A 12.8 B 2.6 F 3.0 G 1.1	天井部から口縁部にかけての破片。平たい擬宝珠状のつまみが付く。天井部は平坦で，口縁部に向かって二段に下降する。口縁端部は下方につまみ出されている。	つまみ部ナデ。天井部外面上半部回転ヘラ削り，下半部ロクロナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 110490　70% P L 87 覆土中



第435図　第840号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 8	壺 須恵器	A [14.2] B 3.2 F 2.9 G 1.1	天井部から口縁部にかけての破片。平たい擬宝珠状のつまみが付く。天井部は平坦で，口縁部に向かって軽く外反しながら下降する。口縁端部は下方につまみ出されている。	つまみ部ナデ。天井部外面上半部回転ヘラ削り，下半部ロクロナデ。内面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・黒色粒子 灰色 普通	P110491 80% P L87 中央付近床面
9	甕 須恵器	A [19.6] B (7.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部には沈線が1条巡り，下方につまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面は棒状工具による磨き処理る。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P110492 5% P L87 南壁寄り床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第435図10	土玉	2.3	1.4	0.5	5.6	覆土中	D P 11030	P L 105
11	土玉	2.4	2.2	0.5	9.25	竈内覆土中	D P 11031	P L 105
12	土製紡錘車	4.8	2.6	0.7	61.5	中央付近床面	D P 11032	P L 105

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第435図13	砥石	(13.7)	5.2	3.0	(371.0)	凝灰岩	東壁際中央部覆土下層	Q11031	P L 107
14	砥石	(16.0)	9.9	3.1	(861.7)	凝灰岩	P2地点床面	Q11032	P L 107

第841号住居跡（第436図）

位置　調査11区の中央部，G12f8区。

重複関係　第844A号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［2.80］m，短軸［2.70］mの方形と推定される。第844A号住居跡を掘り込んで構築していて，壁の立ち上がりが不明確なため，土層面に表れた覆土の変化と床面のわずかな高低差で推定した。

主軸方向　N－93°－E

壁　壁高は約10～15cmで，外傾して立ち上がる。

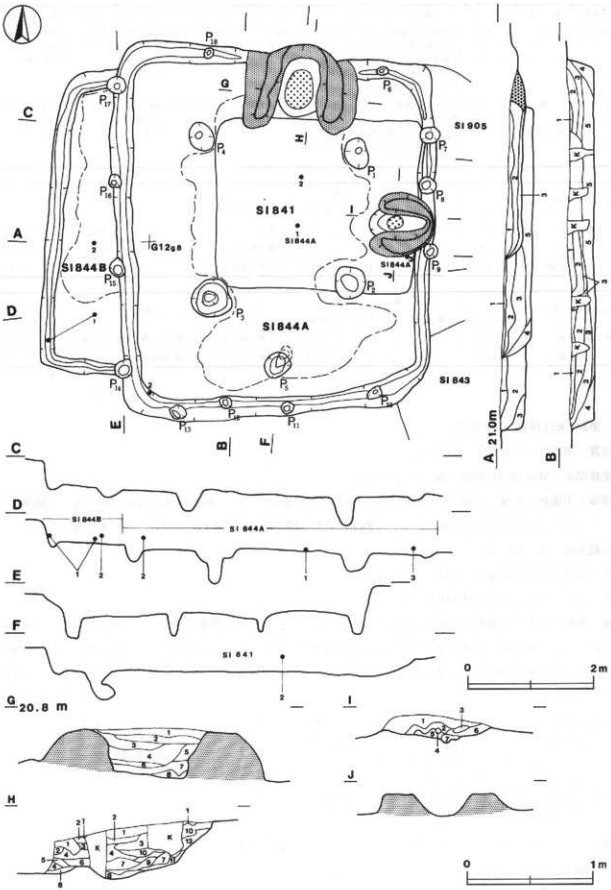
床　平坦である。あまり踏み固められていない。

竈　東壁の中央やや南寄りを壁外へ25cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。覆土が薄く，上部は削られている。焚口部から煙道部までは95cm，両袖部幅は105cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から15cmほど掘りくぼめられ，焼土が薄く堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　明赤褐色　焼土中ブロック中量，焼土大ブロック・炭化粒子少量
3　明赤褐色　焼土大ブロック多量，炭化粒子少量
4　明赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
5　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
7　明赤褐色　焼土大ブロック多量

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

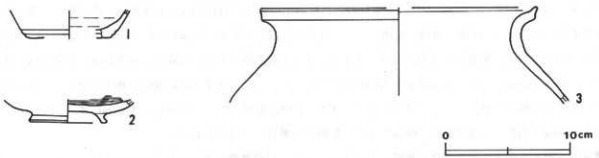
土層解説
1　黒　色　ローム小ブロック・粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐灰色　粘土粒子・砂粒少量



第436図　第841・844A・844B号住居跡実測図

遺物　土師器片487点及び須恵器片109点が出土している。第437図1の土師器坏，3の土師器甕は覆土中から出土している。2の土師器高台付坏は，中央付近の床面から出土している。出土した土器で図示しなかったものの多くは細片で，重複する第844A号住居跡からの混入と思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀後半と考えられる。



第437図　第841号住居跡出土遺物実測図

第841号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 1	坏 土師器	B（23） C［6.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P110494　5% 覆土中
2	高台付坏 土師器	B（1.9） D　6.2 E　0.8	高台部から体部にかけての破片。高台は短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部下端内面ヘラ磨き，外面ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。高台部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P110495　20% P L87 中央付近床面
3	甕 土師器	A［22.0］ B（7.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110496　5% P L87 覆土中

第844A号住居跡（第436図）

位置　調査11区の中央部，G12f8区。

重複関係　第843・844B・905号住居跡を掘り込み，第841号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.00m，短軸5.05mの長方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は約35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～25cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，南壁際中央付近から竈にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ20cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは105cm，両袖部幅は175cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土が薄く堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈覆土中，第4・8層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材・粘土粒子・砂粒少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土粒子少量

5　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，炭化材・粘土粒子・砂粒少量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
7　暗赤褐色　炭化粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，粘土粒子・砂粒少量
8　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・灰少量
9　極暗赤褐色　炭化粒子多量，焼土粒子中量
10　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，粘土粒子少量
11　暗赤褐色　焼土粒子多量，砂粒中量，焼土大ブロック少量
12　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒多量

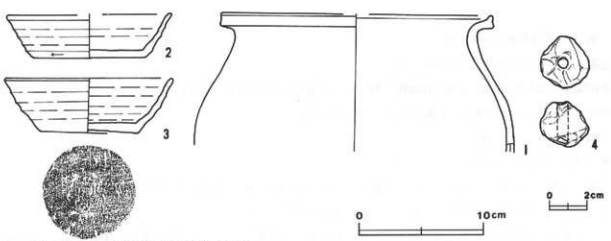
ピット　18か所（P1～P18）。P1は北東コーナー付近に位置し，長径50cm，短径35cmの楕円形で，深さは48cmである。P2～P4は南東・南西・北西コーナー付近に位置し，径50～60cmの円形で，深さは32～53cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，長径45cm，短径35cmの楕円形で，深さは51cmである。底部は南西方向から柱を差したように，北東方向に袋状に掘り込まれている。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P18は壁溝に沿っておおむね等間隔に並ぶピット列で，径20～30cmの円形で，深さは17～68cmである。配置から壁柱穴と考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　色　ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土中ブロック少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量
5　黒褐色　ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片662点及び須恵器片132点が出土している。第438図1の土師器甕は中央付近の床面から，2の須恵器坏は南西コーナー部の覆土中層から，3の須恵器坏は東壁際中央部の覆土下層から出土している。4の球状土錘は，覆土中から出土している。出土した土器のほとんどは土師器や須恵器の甕体部細片や坏細片で，本跡廃絶後に投棄されたものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後半と考えられる。



第438図　第844A号住居跡出土遺物実測図

第844A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第438図 1	甕 土師器	A [21.8] B (11.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲して開く。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・礫に赤い赤褐色 普通	P110505　20% PL87 中央付近床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第438図 2	坏	A [13.0]	底部から口縁部にかけての破片。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・	P110506 30%
		B 3.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，	体部下端回転ヘラ削り。底部回転	石英	南西コーナー部覆
	須恵器	C 8.8	口縁部にいたる。	ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り。	灰黄褐色 普通	土中層
3	坏	A 13.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・黒色粒子	P110507 90%
		B 4.5	部は外傾して立ち上がり，口縁部	体部下端回転ヘラ削り。底部一方	黄灰色	P L87 東壁際中
	須恵器	C 7.6	にいたる。	向のヘラ削り。	普通	央部覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第438図4	球状土錘	2.8	2.6	0.6	16.0	覆土中	D P11005 P L105

第844B号住居跡（第436図）

位置　調査11区の中央部，G12f7区。

重複関係　第844A号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　第844A号住居に東部を掘り込まれているため，確認できたのは南北軸4.80m，東西軸(1.35)mである。北西及び南西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－5°－E

壁　壁高は約30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　重複のため確認できない部分を除き，巡っている。上幅約20cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦である。確認できる部分については，壁際を除き踏み固められている。

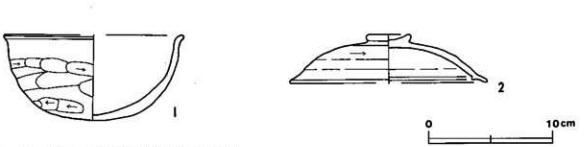
竈　出土遺物から竈を持つ時期と考えられるが，第844A号住居に掘り込まれているため確認できない。

覆土　3層からなる。第844A号住居に大部分を掘り込まれているため，一部の土層の堆積状況しか確認できないが，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土中ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土小ブロック少量

遺物　土師器片21点及び須恵器片2点が出土している。第439図1の土師器坏は南西コーナー部の覆土下層から出土した2片が接合している。2の須恵器蓋は西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀前半と考えられる。



第439図　第844B号住居跡出土遺物実測図

第844B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第439図 1	坏 土師器	A [14.4] B 6.9	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110508 30% P L 87 南西コーナー部覆土下層
2	壺 須恵器	A [15.8] B 3.9 F 3.4 G 0.6	天井部から口縁部にかけての破片。ボタン状のつまみが付く。天井部から口縁部に向かって，丸味みを帯びて緩やかに下降する。口縁部には切いかえりが付く。	つまみ部内・外面ナデ。天井部，口縁部内面ナデ。天井部外面上半部回転ヘラ削り，下半部ロクロナデ。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P110509 50% P L 87 西壁寄り覆土下層

第850号住居跡（第440図）

位置　調査11区の西部，G10c4区。

重複関係　中央部で第606号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.84m，短軸3.30mの長方形である。

主軸方向　N－83°－E

壁　壁高は4～38cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁中央部から北東コーナー部にかけて壁下を巡っている。上幅12～15cm，下幅4～8cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦である。ピットは確認されなかった。

竈　東壁中央を壁外に20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，両袖部幅100cmである。火床部は床面を約8cm掘りくぼめており，赤変硬化している。天井部は崩落しており，砂粒及び粘土粒子が多量に含まれている第1・6～8層が，崩落土と考えられる。特に第6・8層は赤変状態から被熱した天井部の崩落土と考えられる。煙道は，火床部から外傾して立ち上がる。

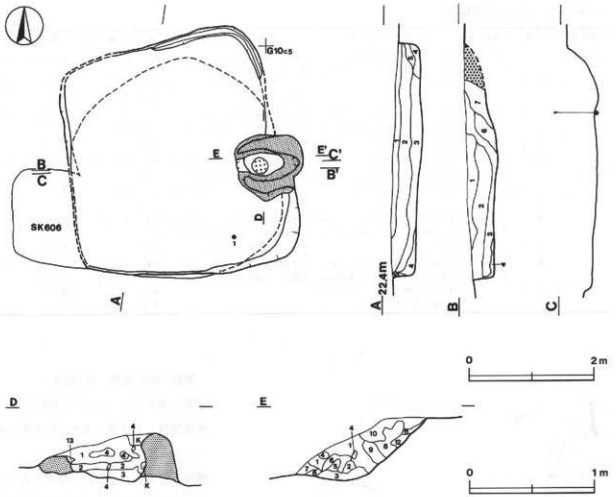
竈土層解説
1 褐　色　砂粒多量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
2 赤　褐　色　焼土中ブロック多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3 暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量，炭化粒子少量
4 暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，砂粒中量，ローム粒子少量
5 赤　褐　色　焼土中ブロック・粒子多量，焼土小ブロック中量
6 にぶい黄橙色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量
7 暗　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，砂粒少量
8 橙　色　焼土粒子・粘土ブロック多量，焼土小ブロック少量
9 橙　色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土ブロック多量，ローム粒子少量
10 明　褐　色　ローム粒子・砂粒多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
11 明　褐　色　粘土粒子・砂粒中量
12 褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
13 橙　色　粘土粒子多量

覆土　7層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

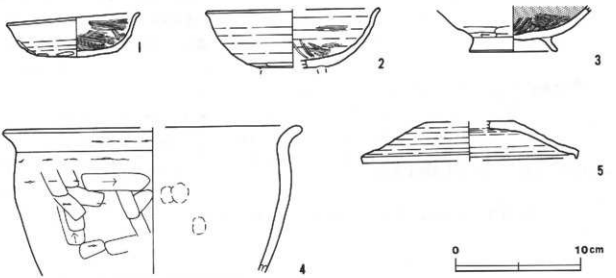
土層解説
1 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
4 褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量
5 明褐色　ローム大・中ブロック中量，ローム粒子少量
6 褐　色　ローム粒子・砂粒多量，焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
7 褐　色　砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量

遺物　土師器片362点，須恵器片46点，土製品（支脚片）2点，鉄滓1点，陶器片1点が出土している。第441図1の土師器坏は，南東コーナー部の床面から出土している。2・3の土師器高台付坏，4の土師器甕，5の須恵器蓋は，それぞれ覆土中から出土している。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。



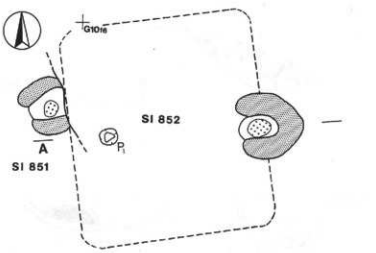
第440図　第850号住居跡実測図



第441図　第850号住居跡出土遺物実測図

第850号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第441図 1	坏 土師器	A 10.5 B 3.4 C 6.5	完形。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。端部は丸く収めている。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	P112060 100% P L.89 南東コーナー部床面
2	高台付坏 土師器	A [14.0] B (4.6)	底部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面体部ロクロナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P112061 10% P L.89 覆土中
3	高台付坏 土師器	B (3.6) D 6.7 E 1.2	高台部から体部下位にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面丁寧なヘラ磨き。外面ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P112062 10% P L.89 覆土中
4	甕 土師器	A [23.6] B (11.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面指頭押圧。体部外面輪積み痕。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P112063 10% P L.89 覆土中
5	壺 須恵器	A [17.2] B (3.1)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに降下する。口縁部は屈曲し短く垂下する。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・黒色粒子 灰色 普通	P112064 20% P L.89 覆土中



第442図　第851・852号住居跡実測図

第851号住居跡（第442図）

位置　調査11区の西部，G10f5区。

重複関係　北東部が第852号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　大部分が削平されており，詳細は不明である。確認できたのは竈袖部及び火床部だけである。

竈　袖部には，わずかではあるが，粘土粒子・砂粒が残存している。火床面は赤変硬化している。

遺物　土師器坏片1点と土師器甕片1点が出土しているが，いずれも細片である。

所見　本跡は大部分が削平されており，床面・壁及び壁溝，ピットや覆土の堆積状況も確認できなかった。時期は判断できる出土土器がないため不明であるが，9世紀後葉から10世紀と考えられる第852号住居に掘り込まれていることから，それ以前と考えられる。

第852号住居跡（第442図）

位置　調査11区の西部，G10f6区。

重複関係　西部で第851号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　大部分が削平されており，壁や壁溝は確認できなかったが，床質や竈の痕跡から，長軸［3.50］m，短軸［3.30］mの方形と推定される。

主軸方向　N－86°－E

床　ほぼ平坦である。

竈　削平されており，確認できたのは，東壁際中央に砂質粘土で構築されている袖部の残りと赤変硬化した火床部である。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅100cmと推定される。

ピット　西壁中央からやや南に位置すると推定され，上端径28cm，下端径18cmの円形で，深さ25cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　覆土が薄いため，堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器甕細片４点，土製品（支脚片）１点が出土しているが，細片のため，図示できる遺物はない。

所見　本跡の時期は，出土土器や住居の形態から判断して，９世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。

第855号住居跡（第443図）

位置　調査11区の西部，G10j9区。

重複関係　東部で第41号溝を掘り込んでいる。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置しているため詳細は不明であるが，長軸6.36m，短軸（2.80）mの方形と推定される。

壁　壁高は42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西部から北部にかけての一部で壁下を巡っている。上幅20～32cm，下幅８～16cm，深さ約８cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　付設されていたと考えられるが，遺存している部分においては確認されなかった。

ピット　３か所（P1～P3）。北壁やや中央部寄りに位置するP1・P2は，それぞれ上端径30cm，42cm，下端径20cm，26cmのほぼ円形で，深さ21cm，61cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。西壁中央寄りに位置するP3は，径約30cmで，深さ12cmである。やや北に寄っているものの，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　14層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

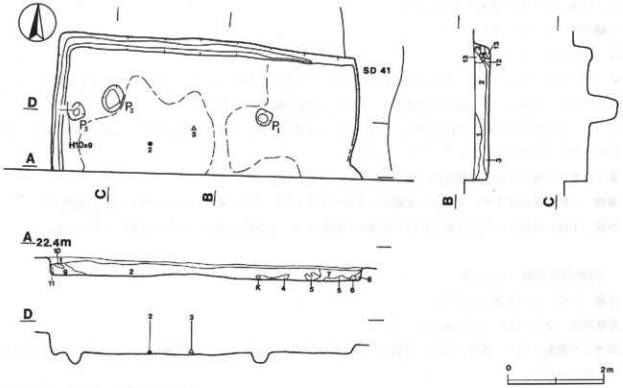
土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2	極暗褐色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	褐色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
5	灰褐色	粘土・砂粒多量，焼土小ブロック・粒子中量
6	赤褐色	焼土小ブロック多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量
7	褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
8	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量
9	褐色	ローム中ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
10	赤褐色	焼土大・中ブロック多量，焼土粒子中量
11	明褐色	ローム大・中ブロック多量，ローム粒子少量
12	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・粘土少量
13	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，ローム大ブロック・焼土小ブロック少量
14	褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量

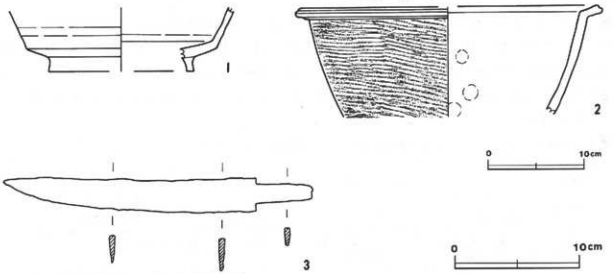
遺物　土師器片696点，須恵器片59点，鉄器１点（短刀），陶器片２点が出土している。第444図１の須恵器高台付坏は，それぞれ覆土中から出土している。２の須恵器甕は，中央部からやや西寄りの床面直上から出土し

ている。3の短刀は，中央部床面直上から出土している。覆土中から出土した陶器片は，撹乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後葉と考えられる。



第443図　第855号住居跡実測図



第444図　第855号住居跡出土遺物実測図

第855号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第444図 1	高台付坏 須恵器	B (5.0) D [11.7] E 1.2	高台部から体部にかけての破片。高台は「八」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。高台貼り付け。	砂粒・礫・黒色粒子 灰色 普通	P 112070 5% 覆土中
2	鉢 須恵器	A [31.0] B (11.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位の平行叩き，内面ナデ。体部内面指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P 112071 5% P L 89 中央部やや西側床面直上

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第444図3	短刀	24.8	2.7	0.5	96.0	中央部床面直上	M112003 PL108

第856号住居跡（第445図）

位置 調査11区の西部，G10j7区。

重複関係 南部で第859号住居跡を，東部で第857号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸［3.90］m，短軸［3.70］mの方形と推定される。

主軸方向 N－7°－W

壁 壁高は17cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東部の一部の壁下を巡っている。上幅10～12cm，下幅2～4cmである。

床 ほぼ平坦であり，竈付近から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部を壁外に60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cm，両袖部幅110cmである。第7層の下部が赤変していることから火床部と考えられる。火床部は，床面を約4cm掘りくぼめている。煙道は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3 暗赤褐色 焼土粒子微量
4 暗赤褐色 砂粒中量，焼土粒子少量，焼土中・小ブロック微量
5 にぶい赤褐色 砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 にぶい赤褐色 砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量
7 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
8 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

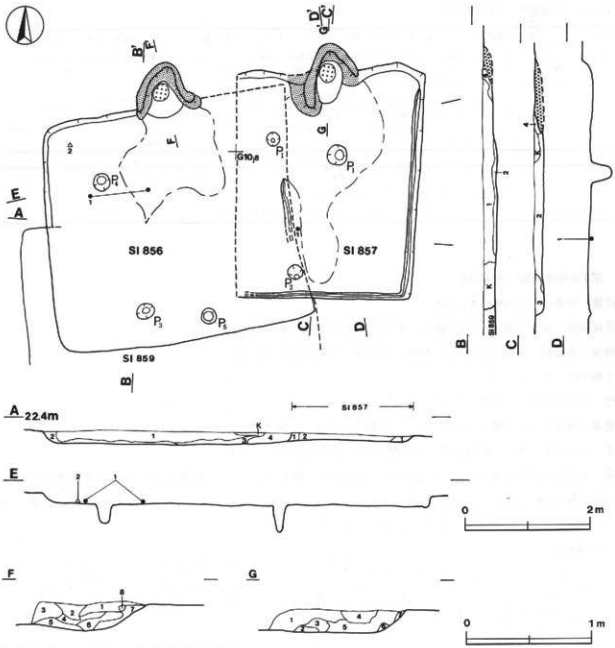
ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー寄りに位置し，上端径24～28cm，下端径6～12cmの円形で，深さ30～42cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央のやや中央部寄りに位置するP5は径約24cmで，深さ14cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

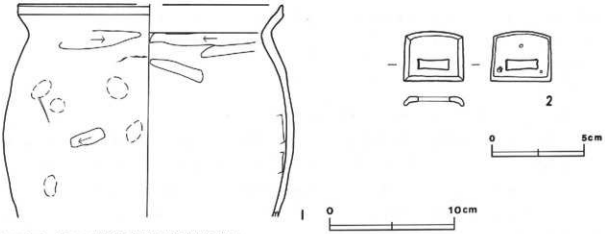
土層解説
1 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片324点，須恵器片55点，銅製品1点（巡方），鉄滓1点，陶器片1点が出土している。第446図1の土師器甕は，中央部からやや北寄りの床面から出土した破片と北西部床面から出土した破片が接合したのもである。2の腰帯具（巡方）は，北西コーナー部床面から出土している。覆土中から出土した陶器片は，撹乱による混入と考えられる。鉄滓が覆土中から出土しているが，鍛冶炉などは確認されなかった。

所見 本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀中葉と考えられる。



第445図　第856・857号住居跡実測図



第446図　第856号住居跡出土遺物実測図

第856号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第446図1	壺 土師器	A [21.0] B (16.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部で屈曲して，口縁部は外反する。縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。内面ナデ。体部外面指頭押圧。体部外面輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・石英 赤褐色 普通	P112073 20% PL89 中央部床面 北西部床面

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第446図2	匙	3.1	2.6	0.5	11.0	青銅	北西コーナー部床面	M112004 PL110

第857号住居跡（第445図）

位置　調査11区の西部，G10j8区。

重複関係　西部で第856号住居跡を，南西部で第859号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.08m，短軸［2.82］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東コーナー部から南部にかけての壁際を巡っている。上幅10～16cm，下幅2～4cm，深さ約4cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cm，両袖部幅90cmである。第5層は焼土小ブロックを多量に含み，下部が赤変硬化しており，火床部と考えられる。煙道は，火床部から外傾して，緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土小ブロック多量，ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
7　にぶい褐色　粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　竈の焚き口から約70cmほど南に位置するP1は，上端径30cm，下端径12cmの円形で，深さ34cmである。性格は不明である。

覆土　4層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片130点，須恵器片2点，陶器片2点が出土している。土師器片は，ほとんどが甕の細片である。第447図1の須恵器坏は中央部床面から斜位で出土している。陶器片2点が覆土中から出土しているが，撹乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀後葉と考えられる。

第447図　第857号住居跡出土遺物実測図

第857号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第447図 1	坏 須恵器	A 13.5 B 4.3 C 5.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部二方向のヘラ割り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 灰色　普通	P 112075　60% P L.89 中央部床面

第860号住居跡（第448図）

位置　調査11区の西部，G10g9区。

規模と平面形　長軸3.56m，短軸3.00mの長方形である。

主軸方向　N－8°－E

壁　壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅8～22cm，下幅2～8cm，深さ約6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央よりやや東を壁外に70cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅86cmである。天井は崩落しており，粘土ブロックが多量に含まれる第9～11層が崩落土と考えられる。第7層は焼土中・小ブロック・焼土粒子が多量に含まれ，下部が赤変硬化していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼十小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック少量
4　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック・粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック少量
7　暗赤褐色　焼土中・小ブロック・粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量
8　暗赤褐色　焼土中ブロック・粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
9　暗褐灰色　粘土ブロック多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
10　灰　褐　色　粘土粒子・粘土ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
11　灰　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量

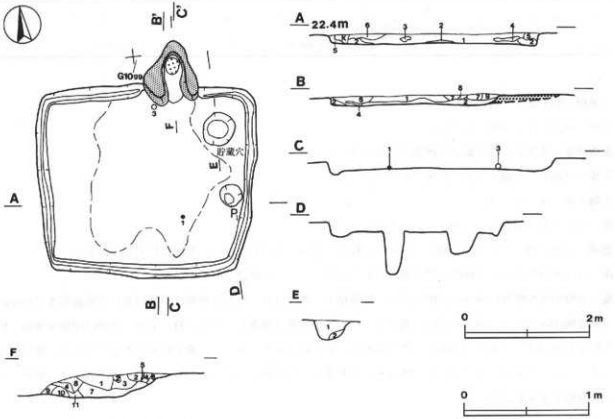
ピット　東壁際中央に位置するP1は，上端径36cm，下端径14cmの円形で，深さ68cmである。性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部やや中央部寄りで確認された。径約50cmのほぼ円形で，深さは34cmである。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム大・中ブロック中量，炭化材少量
2　褐　色　ローム中ブロック・粒子中量

覆土　9層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
4　明褐色　ローム中ブロック・粒子多量，焼土粒子中量
5　明褐色　ローム大ブロック多量，ローム中ブロック中量
6　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子中量
7　褐　色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
8　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量，焼土小ブロック・粒子中量，焼土中ブロック少量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土大ブロック微量

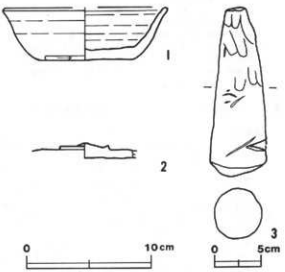


第448図　第860号住居跡実測図

遺物　土師器片116点，須恵器片７点，土製品２点（支脚）が出土している。第449図１の須恵器坏は南部の覆土下層から出土し，２の須恵器蓋は覆土中から出土している。

３の土製品（支脚）は，竈西袖際の床面から斜位で出土している。その他，土師器片は甕細片が104点，坏細片が12点出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀前葉と考えられる。



第449図　第860号住居跡出土遺物実測図

第860号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第449図 1	坏 須恵器	A [12.8] B 4.2 C 7.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部回転ヘラ削り。底部切り離し痕を残す回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P112081　40% PL89 南部覆土下層
2	蓋 須恵器	B (1.2) F 3.8 G 0.5	天井部片。天井部は頂部が平坦で，つまみはボタン状。	天井頂部は回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	P112082　5% PL90 覆土中

図版番号	種　別	計　測　値			出　土　地　点	備　　考	
		長さ(cm)	径　(cm)	重量(g)			
第449図3	土製支脚	18.1	2.1～6.0	5120	竈西袖際床面	D P 112005	PL104

第861号住居跡（第450図）

位置　調査11区の西部，G11j2区。

重複関係　東部を第33号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.18m，短軸2.90mの長方形である。

主軸方向　N－81°－W

壁　壁高は32～54cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　ほぼ全周している。上幅14～30cm，下幅3～20cm，深さ約6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。ピットは確認されなかった。

竈　西壁中央を壁外に60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅80cmである。袖部は良好に遺存している。天井部は崩落しており，特に第10・11層は山砂を多量，粘土粒子も中量含んでおり，崩落土と考えられる。第8層は焼土ブロック・焼土粒子が多量に含まれ，硬化していることから火床部と考えられる。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。また，第9層では，火熱を受けた砂粒が多量確認された。

竈土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム鉄子・炭化粒子微量
4　褐　色　砂粒・炭化粒子多量
5　赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　焼土小ブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量
8　赤褐色　焼土大・中ブロック・粒子多量，炭化物中量，炭化粒子少量
9　褐　色　焼土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
10　黒褐色　砂粒多量，粘土粒子中量
11　褐　色　砂粒多量
12　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量
13　褐　色　ローム大・中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子少量

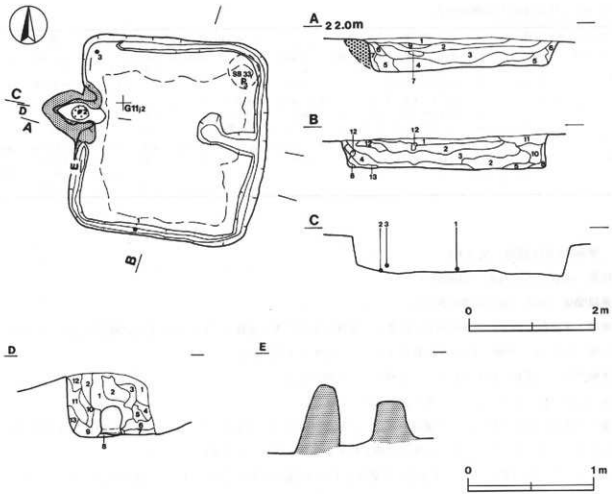
覆土　13層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

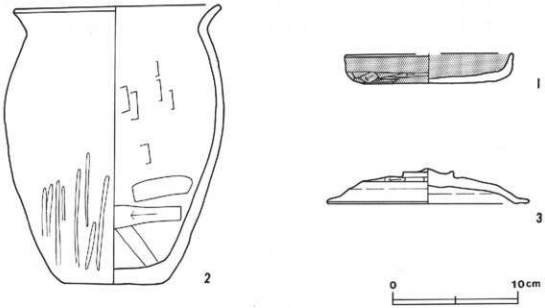
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
4　明褐色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム大ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
5　明褐色　ローム中ブロック・砂粒多量，ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
6　灰褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
7　褐灰色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
10　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
11　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
12　暗褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
13　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片218点，須恵器片15点，土製品（支脚片）3点，鉄滓1点が出土している。第451図1の土師器坏は，南壁際の覆土下層から出土している。2の土師器甕は竈内の火床部から逆位で，3の須恵器蓋は北西コーナー際の覆土下層から逆位でそれぞれ出土している。覆土中から鉄滓が1点出土しているが，鍛冶炉などは確認できなかった。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀前葉と考えられる。



第450図　第861号住居跡実測図



第451図　第861号住居跡出土遺物実測図

第861号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第451図 1	坏 土師器	A [13.2] B 2.3 C 12.4	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色　普通	P112083　50% PL89 南壁際覆土下層
2	甕 土師器	A 16.2 B 22.3 C 8.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部でくびれ口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰褐色 普通	P112085　90% PL90 竈内
3	甕 須恵器	A 16.0 B 2.8 G 0.6 F 4.0	完形。天井部は緩やかに開く。口縁部に退化したかえりをもつ。つまみはボタン状。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P112086　100% PL90 北西コーナー際覆土下層

第862A号住居跡（第319図）

位置　調査11区の西部，G10i2区。

重複関係　東部で第35号溝を掘り込んでいる。

規模と平面形　西部が調査区域外に位置し，東部が第35号溝と重複しているため全容は確認できなかったが，長軸［4.02］m，短軸（3.00）mの範囲である。平面形は不明である。

主軸方向　大部分が削平されており主軸方向は不明である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

竈　大部分が削平されており，確認できたのは袖部の残存部と火床部だけである。袖部の残存部は砂粒と粘土粒子からなるブロックである。火床部は焼土粒子を多量に含み，赤変硬化している。

ピット　3か所（P1～P3）。北東部に位置するP1と西部に位置するP2・P3の上端は径20～36cm，下端は径6～14cmの円形で，深さ24～26cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　削平されており覆土が薄いため，堆積状況の詳細は不明である。

遺物　土師器片76点，須恵器片19点，土製品1点（支脚）が出土している。覆土中から出土した土師器片は甕の細片で，須恵器片も甕の細片が14点，坏の細片が5点出土しているが，細片であり図示できる遺物はない。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀と考えられる。

第863号住居跡（第452図）

位置　調査11区の西部，G10c0区。

重複関係　南部が第865号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.75m，短軸［2.92］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－0°

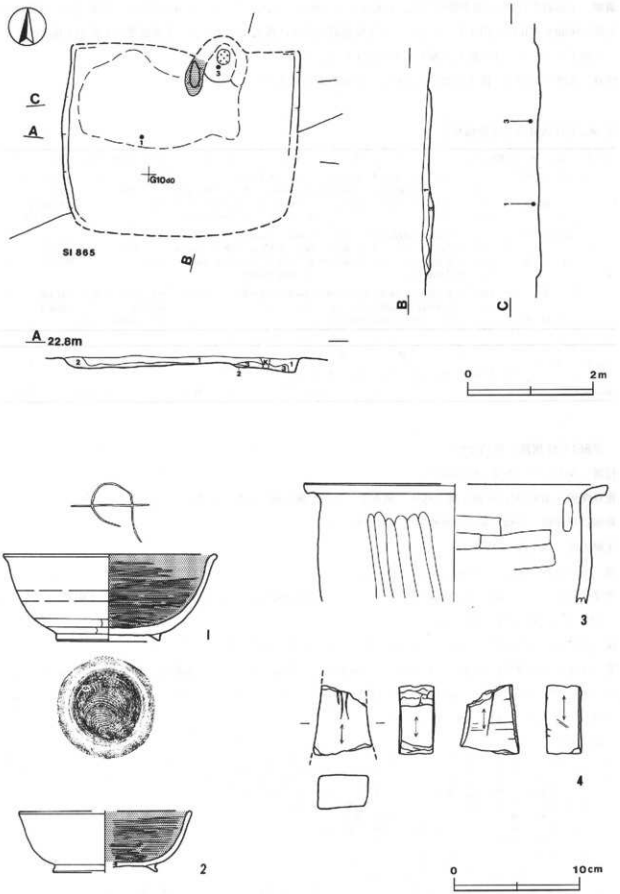
床　ほぼ平坦であり，北西部が特に踏み固められている。ピットは確認されなかった。

竈　北壁中央やや東寄りに砂質粘土で構築された西袖部の一部と赤変硬化した火床面が確認できた。規模は，推定で焚口部から煙道部まで70cm，両袖部幅90cmである。

覆土　3層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　明　褐　色　ローム大・中ブロック多量，焼土小ブロック中量
3　褐　　色　焼土小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量



第452図　第863号住居跡・出土遺物実測図

遺物　土師器片110点，須恵器片３点，石製品１点（砥石）が出土している。第452図１の土師器高台付坏は中央部の床面から正位で出土している。２の土師器高台付坏は覆土中から，３の土師器甕は北部の床面からそれぞれ出土している。４の砥石は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して10世紀前半と考えられる。

第863号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第452図 1	高台付坏 土師器	A 16.6 B 7.0 D 7.1 E 0.6	口縁部・体部一部欠損。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。外面下端回転ヘラ削り。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転糸切り。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子に富む黄褐色 普通	P112087　90% P L.90 中央部床面 底部内面線刻
2	高台付坏 土師器	A [13.6] B 4.9 D 8.0 E 0.7	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ。口縁部・体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子に富む橙色 普通	P112088　10% P L.90 覆土中
3	甕 土師器	A [24.0] B (9.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子に富む赤褐色　普通	P112089　5% 北部床面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第452図4	砥石	(5.5)	4.6	2.8	(99.4)	砂岩	覆土中	Q112004　PL.107

第864号住居跡（第453図）

位置　調査11区の西部，G10e0区。

重複関係　第865号住居跡を掘り込み，南東部が第41号溝を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.56m，短軸4.38mの方形である。

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は10～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東コーナー部付近は確認できなかったが，それ以外は巡っている。上幅18～30cm，下幅６～12cm，深さ約６cmで，断面はU字形である。

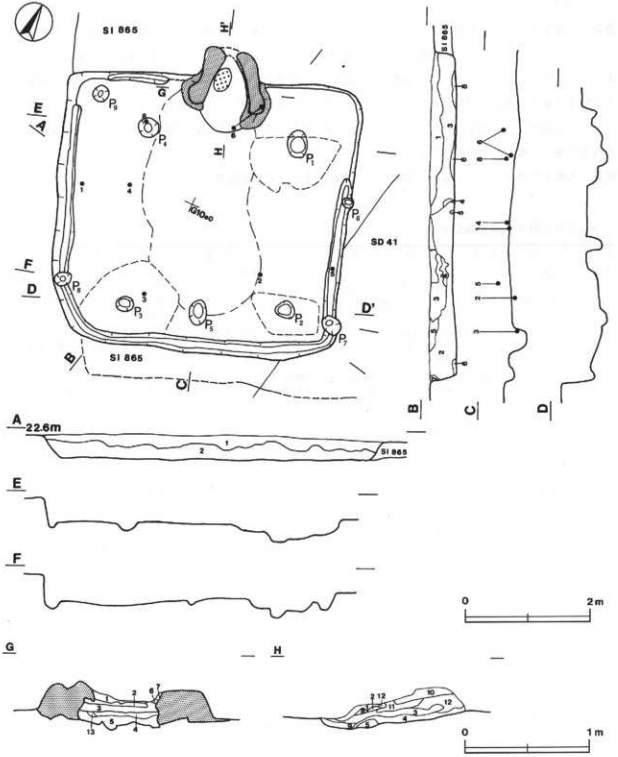
床　撹乱を受けているものの，ほぼ平坦であり，特に中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖部幅140cmである。第４層は焼土粒子が多量に含まれ，赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化物・炭化粒子微量
2　灰　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
3　褐　灰　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
5　暗　赤　褐　色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
6　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック微量
9　暗　赤　褐　色　砂粒中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
10　灰　白　色　粘土粒子多量，砂粒中量
11　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土中・小ブロック少量
12　暗　赤　褐　色　ローム小ブロック多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
13　暗　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量

ピット　9か所（P1～P9）。各コーナーからやや中央部寄りのP1～P4の上端は径26～30cm，下端は径12～20cmの円形で，深さ13～36cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央に位置するP5は長径20cm，短径16cm，深さ25cmの楕円形である。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は径18～30cmの円形で，深さは13～21cmである。性格は不明である。



第453図　第864号住居跡実測図

覆土　8層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

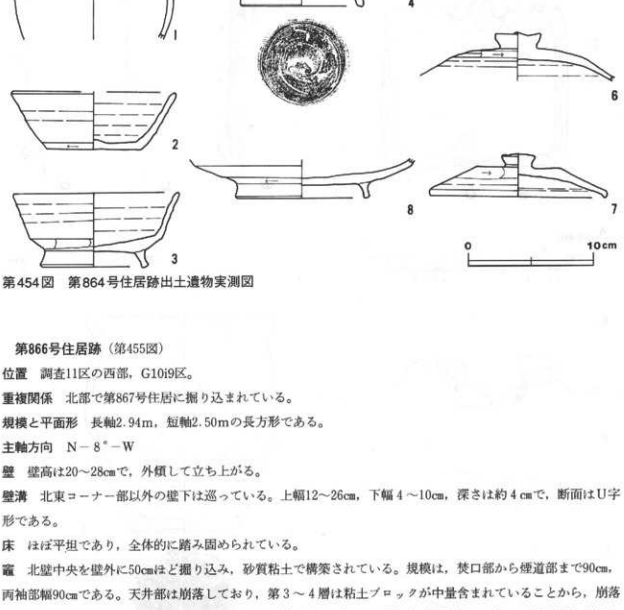
1　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量
2　暗　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量，炭化物・砂粒少量
3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子少量
7　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
8　灰黄褐色　ローム粒子・粒土ブロック多量，焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片1051点，須恵器片175点が出土している。第454図1の土師器甕は，西部の床面から出土した破片が接合したものである。2の須恵器坏は，南東部床面から出土している。3の須恵器高台付坏は，南西部の床面から正位で出土している。4の須恵器高台付坏は，西部中央の床面から出土している。5の須恵器蓋は，東壁際南部寄りの覆土中層から逆位で出土している。6の須恵器蓋は，竈東袖付近から出土した破片と竈焚き口付近の床面直上から出土した破片が接合したものである。7の須恵器蓋は，覆土中から，8の須恵器盤は，北西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。

第864号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第454図 1	甕 土師器	A [12.4] B (8.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。頸部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P112091　20% P L 90 西部床面
2	坏 須恵器	A [12.9] B 4.6 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P112093　60% 南東部床面
3	高台付坏 須恵器	A 13.1 B 5.9 D 8.2 E 1.2	口縁部・体部一部欠損。高台はほぼ底下する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P112094　90% 南西部床面
4	高台付坏 須恵器	A 16.7 B 6.3 D 9.5 E 1.2	口縁部・体部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P112095　70% P L 90 西部中央床面
5	蓋 須恵器	A 12.3 B 3.0 F 2.4 G 0.7	完形。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは扁高なボタン状。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・白色粒子 黄灰色 普通	P112096　100% P L 90 東壁際南部寄り覆土中層
6	蓋 須恵器	B (3.8) F 3.6 G 1.3	天井部から外周部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。つまみは扁高のボタン状。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。ロクロ目は間い。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P112097　40% 竈東袖部付近，竈焚き口付近床面直上
7	蓋 須恵器	A 14.0 B 3.4 F 2.7 G 1.2	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは扁高のボタン状。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部，口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P112098　40% P L 90 覆土中
8	盤 須恵器	B (3.1) D 10.4 E 1.2	高台部から体部にかけての破片。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P112099　50% 北西部覆土下層



第454図　第864号住居跡出土遺物実測図

第866号住居跡（第455図）

位置　調査11区の西部，G10i9区。

重複関係　北部で第867号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸2.94m，短軸2.50mの長方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は20～28cmで，外傾して立ち上がる。

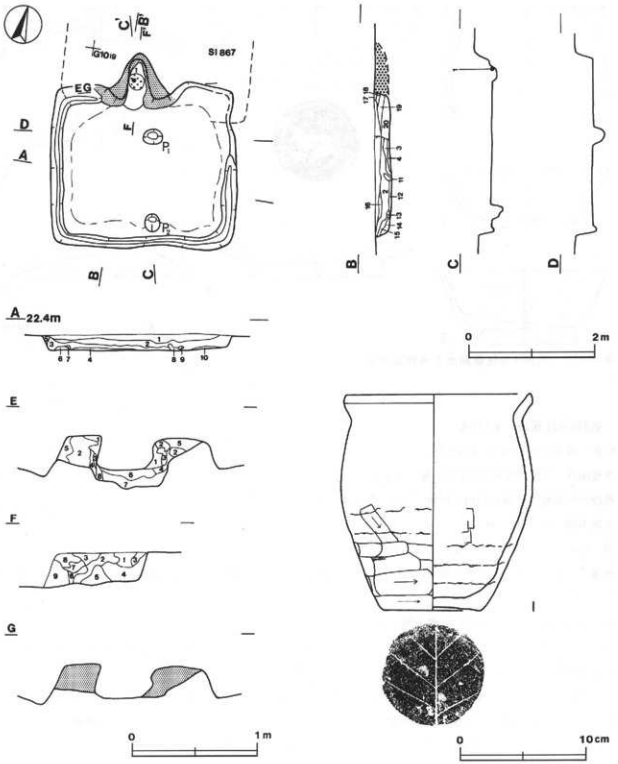
壁溝　北東コーナー部以外の壁下は巡っている。上幅12～26cm，下幅4～10cm，深さは約4cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cm，両袖部幅90cmである。天井部は崩落しており，第3～4層は粘土ブロックが中量含まれていることから，崩落土と考えられる。第6層の下部は，火を受けた砂粒や焼土ブロックが多量確認されたことから火床部と考えられる。また，第5層から多量の土師器甕片が出土している。袖部の内側は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土大ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・粘土ブロック中量，ローム中ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土ブロック多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　灰白色　粘土ブロック多量
6　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，ローム小ブロック・粘土ブロック少量
7　暗褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・粘土ブロック少量
8　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム大ブロック・山砂中量
9　明褐色　ローム大・中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・粒子少量



第455図　第866号住居跡・出土遺物実測図

ピット　2か所（P1・P2）。竈東袖部から約30cmほど中央部寄りに位置するP1の，上端は径30cm，下端は径16cmのほぼ円形で，深さ17cmである。性格は不明である。南壁際の中央に位置するP2の，上端は径約22cm，下端は径14cm，深さ18cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　20層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
7　黒褐色　炭化粒子多量，ローム小ブロック微量
8　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9　暗褐色　砂粒少量，ローム粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子少量
11　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
13　暗褐色　ローム粒子・砂粒微量
14　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
15　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
16　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
17　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
18　暗褐色　ローム小ブロック中量
19　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
20　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量

遺物　土師器片141点，須恵器片12点，陶器片１点が出土している。第455図１の土師器甕は，竈内の火床部から底部を上にして土圧で押しつぶされた状態で出土している。陶器片は攪乱により混入したものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀中葉と考えられる。

第866号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第455図 1	甕 土師器	A 14.7 B 17.2 C 7.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ。口縁部は外傾する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ヘラナデ。底部木葉痕。体部内・外面輪積み痕。	砂粒・雲母・石英にぶい赤褐色 普通	P112112 80% P L 91 竈内

第867号住居跡（第456図）

位置　調査11区の西部，G10h9区。

重複関係　南部で第866号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［3.00］m，短軸［2.40］mの長方形と推定される。本跡は大部分が削平されており，床面がほぼ露出した状態で確認された。壁も確認できなかったため，規模と平面形は床質及びピットの規模と配置から推定した。

主軸方向　N－0°

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

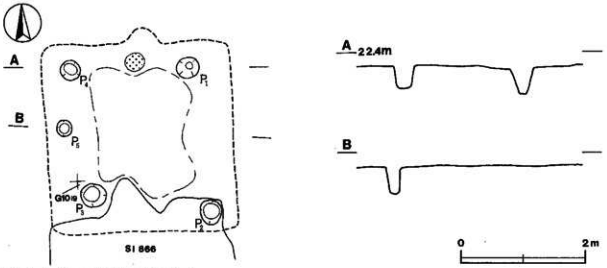
竈　北壁中央部から火床部と思われる赤変硬化部が確認できただけである。

ピット　５か所（P1～P5）。各コーナー部からやや中央部寄りに位置するP1～P4の，上端は径30～40cm，下端は径10～24cmの円形で，深さ37～55cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。西壁際中央に位置するP5の，上端は径約22cm，下端は径14cm，深さ42cmである。性格は不明である。

覆土　覆土が薄いため，堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器片40点が出土している。大部分が甕の細片と考えられるが，図示できる遺物はない。

所見　本跡の時期は，９世紀中葉と考えられる第866号住居跡の確認面において，本跡の床面の一部が確認されたことから，９世紀中葉以降の住居跡と考えられる。



第456図　第867号住居跡実測図

第868A号住居跡（第457図）

位置　調査11区の西部，G11c2区。

重複関係　中央部から南部が第868B号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸2.86mの長方形である。

主軸方向　N－6°－E

壁　壁高は10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西部から南部にかけて，また，北東コーナー部の壁下を巡っているのが確認できた。上幅10～16cm，下幅4～6cm，深さ約3cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，踏み固められている。ピットは確認されなかった。

竈　北壁中央を壁外に60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで80cm，両袖部幅80cmである。第2層は，支脚と考えられる雲母片岩が横位の状態で出土しており，下面が火床面と考えられる。覆土下層から土師器坏片が数点出土している。煙道は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒 褐 色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土中・小ブロック微量
5　暗赤褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗 褐 色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 褐 色　粘土粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量

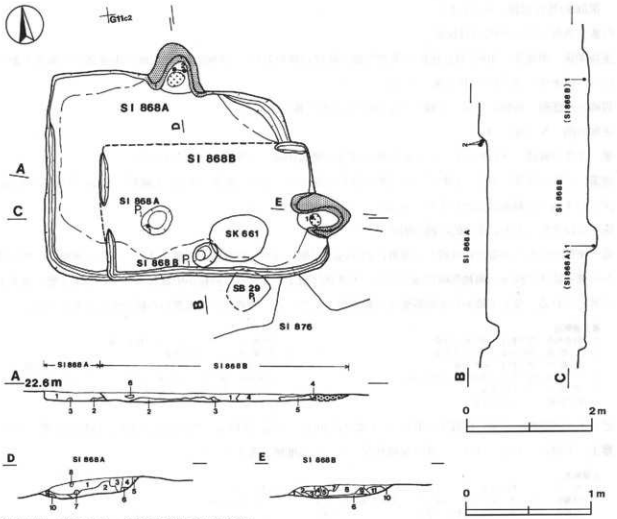
ピット　西壁からやや中央寄りに位置するP1の，上端は径50cm，下端は径30cmのほぼ円形で，深さ18cmである。性格は不明である。

覆土　3層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
2　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
3　明褐色　ロームブロック

遺物　土師器片154点，須恵器片8点が出土している。第458図1の土師器坏は，P1内の覆土下層から正位で出土している。2の土師器坏は，竈内から出土した2片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。



第457図　第868A・868B号住居跡実測図

第458図　第868A号住居跡出土遺物実測図

第868A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第458図 1	坏 土師器	A 17.1 B 5.0 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面，体部ロクロナデ。口縁部，体部内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P112113　50% PL90 P1内覆土下層
2	坏 土師器	A〔18.6〕 B（5.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面，体部ロクロナデ。口縁部，体部内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P112114　20% 覆内

第868B号住居跡（第457図）

位置　調査11区の西部，G11c2区。

重複関係　南東部で第876号住居跡，第29号掘立柱建物跡のP4を，第868A号住居跡の中央部から南部を掘り込み，南東部で第661号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.40m，短軸［2.08］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－96°－E

壁　北部は確認できなかったが，それ以外の部分は壁高10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南部や西部，また，北東コーナー部の壁下を巡っているのが確認できた。上幅10～14cm，下幅4～6cm，深さ約4cmで，断面はほぼU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

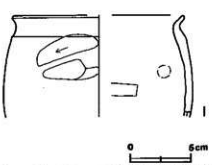
竈　東壁中央から南寄りに位置し，壁外に約50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで86cm，両袖部幅70cmである。天井部は崩落しており，砂粒が中量含まれている第2層が崩落土と考えられる。覆土下層から土師器甕片が数点出土している。煙道は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
2　灰 褐 色　砂粒中量，炭化粒子少量
3　灰 褐 色　焼土粒子・砂粒微量
4　灰 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　暗 褐 色　炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子少量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量
8　暗 褐 色　ローム粒子微量
9　暗赤褐色　焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
11　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　南壁際の中央に位置するP1の，上端は径40cm，下端は径16cm，深さ21cmである。性格は不明である。

覆土　6層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
2　明褐色　ローム大・中ブロック多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
3　明褐色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム大ブロック中量
4　明褐色　ローム大ブロック・粒子多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，焼土中・小ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・砂粒中量



第459図　第868B号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片27点が出土している。第459図1の土師器甕は，竈内から出土したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して10世紀と考えられる。

第868B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第459図 1	甕 土師器	A［13.6］ B（8.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面横位のヘラナデ。体部内面指頭押圧。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P112115 10% 竈内

第869号住居跡（第460図）

位置　調査11区の西部，G11g3区。

重複関係　東部から西部で第873号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［3.80］m，短軸［2.80］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－106°－E

壁　壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

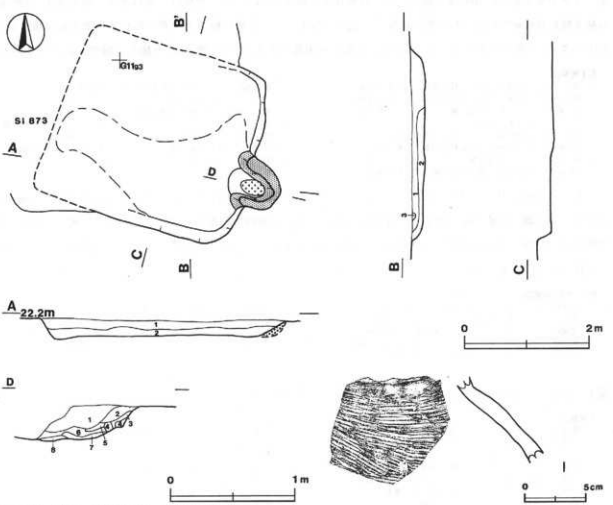
床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。ピットは確認されなかった。

竈　南東壁中央を壁外に40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで88cm，両袖部幅90cmである。第7層は焼土粒子を中量含んでおり，赤変していることから，下部が火床部と考えられる。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
2　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック微量
3　暗赤褐色　ローム大ブロック少量，焼土小ブロック・粘土小ブロック微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量
5　暗赤褐色　焼土粒子少量，粘土中・小ブロック微量
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・粒子・炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック微量



第460図　第869号住居跡・出土遺物実測図

遺物　土師器片102点，須恵器片７点が出土している。いずれも細片のため図示できないが，土師器は坏が６点，甕が96点，須恵器甕は７点である。第460図１の須恵器甕の体部片は南西部覆土下層から出土し，外面に横位の平行叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，８世紀中葉と考えられる第873号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降と考えられる。

第871号住居跡（第461図）

位置　調査11区の西部，G11h1区。

重複関係　北部で第872号住居跡を掘り込み，東部を第879号住居に掘り込まれ，南部の壁際を第669号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.90m，短軸4.84mの方形である。

主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は20～24cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東部が第879号住居跡と重複しているため確認できなかったが，全周していたと推定される。上幅20～32cm，下幅４～16cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅約100cmである。天井部は崩落しており，第４・６・７層が崩落土と考えられる。第８層は焼土粒子を中量含み，下部が赤変していることから，下部が火床部と考えられる。煙道は，外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	褐　色	砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子微量
2	明赤褐色	焼土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐　色	砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
5	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子中量，砂粒少量
6	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7	暗褐色	砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
8	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
9	褐　色	ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
10	褐　色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，焼土粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
12	暗褐色	砂粒少量，焼土小ブロック・粘土小ブロック微量
13	黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量

ピット　５か所（P１～P５）。各コーナー部からやや中央部寄りに位置するP１～P４の上端は径56～70cmのほぼ円形で，下端は径約12cmの円形で，深さ46～68cmである。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP５の上端は径54cmで，下端は径22cmのほぼ円形で深さ27cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

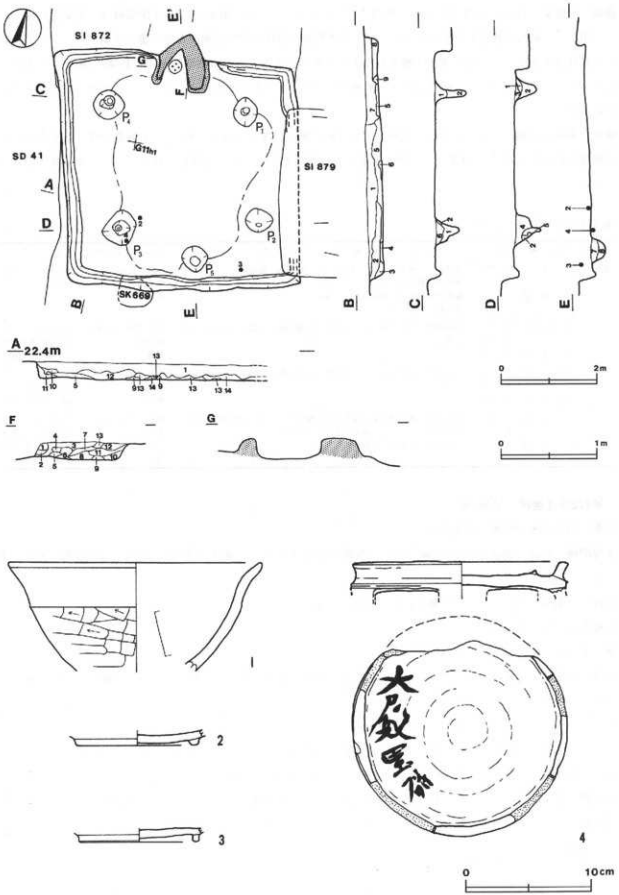
P１～P５土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3	黒褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム大・中・小ブロック少量，炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

覆土　14層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム小ブロック・粒子微量
4	暗褐色	砂粒・粘土粒子中量，ローム小ブロック微量
5	黒褐色	ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
6	褐　色	ローム小ブロック・粒子少量
7	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9	褐　色	ローム粒子多量
10	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
11	暗褐色	ローム小ブロック少量
12	黒褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13	暗褐色	ローム小ブロック微量
14	暗褐色	ローム中・小ブロック・粒子微量



第461図　第871号住居跡・出土遺物実測図

遺物　土師器片441点，須恵器片20点，陶器片１点が出土している。第461図１の土師器鉢は，北東部の覆土中から出土した破片が接合したものである。２の須恵器高台付坏は中央部南西寄りの覆土下層から，３の須恵器高台付坏は南東コーナー部の覆土中層から出土したものである。４の須恵器円面硯はＰ3際の床面から正位で出土したもので，裏面に「大殿墨ヵ研」と墨書されている。１の土師器鉢と陶器片１点は攪乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀中葉から後葉と考えられる。「大殿墨ヵ研」と墨書された円面硯が出土しているが，「大殿」は大形の建物の意と思われ，そのような建物が存在したことを示唆すると考えられる。

第871号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第461図 1	鉢 土師器	A 20.2 B (8.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 明赤褐色 普通	P112117　10% 覆土中
2	高台付坏 須恵器	B (12) D 9.7 E 0.4	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・黒色粒子 灰白色 普通	P112118　5% 中央部南西寄り覆土下層　転用硯ヵ
3	高台付坏 須恵器	B (11) D 9.2 E 0.7	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P112119　5% P L91　南東コーナー部覆土中層　転用硯ヵ
4	円面硯 須恵器	A 16.6 B (2.6)	硯面部片。脚台部欠損。縁部は外反気味に立ち上がる。硯面は平坦で池部よりもわずかに高い。	硯面ナデ。海から縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 灰色 良好	P112120　50% P L91　P３際床面　硯背面墨書「大殿墨ヵ研」

第872号住居跡（第462図）

位置　調査11区の西部，G11g1区。

重複関係　北部で第667号土坑を掘り込み，南部を第871号住居に，東部を第874号住居に，北西部を第41号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.50m，短軸5.12mの方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は６～24cmで，外傾して立ち上がる。

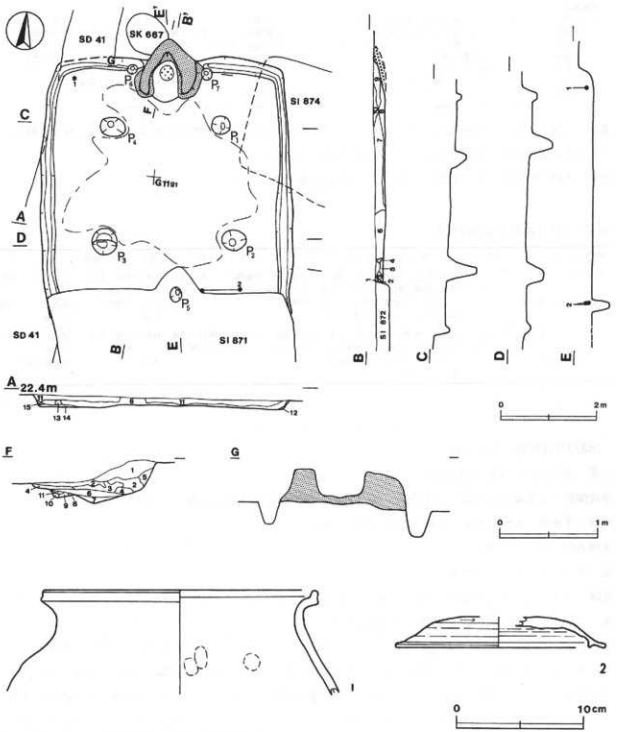
壁溝　南部で一部確認できなかったが，それ以外の壁下は巡っている。上幅14～34cm，下幅８～16cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中心部が特に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖部幅140cmである。天井部は崩落しており，第２層は砂粒は中量含んでいることから崩落土と考えられる。第４層は焼土小ブロック・焼土粒子が多量含まれ，下部が赤変硬化していることから火床部と考えられる。袖部内側は，火を受けて赤変硬化している。煙道は，外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒中量，焼土粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量
3　灰褐色　焼土小ブロック・粒子中量
4　赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，炭化粒子少量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子少量
6　褐　色　ローム粒子中量，焼土中ブロック・粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子中量
8　暗褐色　ローム粒子中量，砂粒少量，焼土小ブロック微量
9　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
10　黒褐色　ローム粒子少量
11　にぶい褐色　ローム粒子多量



第462図　第872号住居跡・出土遺物実測図

ピット　7か所（P1～P7）。各コーナーから中央部寄りで確認されたP1～P4の上端は径40～54cm，下端は径12～20cmの円形で，深さ27～66cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央で確認されたP5は径24cmで，深さ36cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。北壁竈袖際で確認されたP6・P7は，それぞれ径約20cm，深さ25cm，30cmである。性格は不明であるが，竈施設に伴う柱穴の可能性も考えられる。

覆土　15層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3 暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
4 暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
6 暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
7 暗褐色　ローム人ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒微量
9 暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒微量
10 暗褐色　焼土粒子・砂粒微量
11 暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
12 暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
13 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
14 黒褐色　ローム小ブロック微量
15 黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片458点，須恵器片48点が出土している。第462図1の土師器甕は北西コーナー部の覆土下層から，2の須恵器蓋は南部の床面直上から，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀前葉と考えられる。

第872号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第462図 1	甕 土師器	A 21.6 B (8.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜ナデ。内面ヘラナデ。体部内面指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P112121　10% PL91 北西コーナー部覆土下層
2	蓋 須恵器	A 16.3 B (2.4)	天井部・外周部一部欠損。つまみ欠損。天井部は丸く，外周部は，なだらかに下降する。口縁部は内面にかえりをもつ。	天井頂部ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P112122　80% PL91 南部床面直上

第873号住居跡（第463図）

位置　調査11区の西部，G11g3区。

重複関係　北部竈付近を第875号住居に，中央部から南部を第869号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸3.90mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

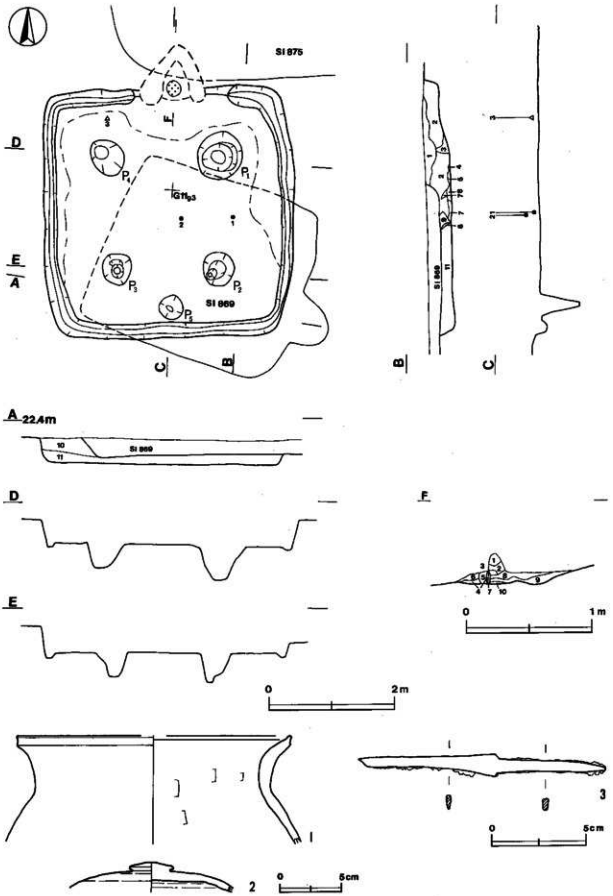
壁　壁高は38～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅14～30cm，下幅6～20cm，深さ約8cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，P4付近は特に踏み固められている。

竈　第875号住居に掘り込まれているため，全容は確認できなかった。北壁中央部に砂質粘土で構築された袖部と覆土の一部が確認できた。規模は，焚口部から煙道部まで約90cm，両袖部幅約100cmと推定される。天井部は崩落しており，砂粒が多量に含まれる第2・3層が崩落土と考えられる。特に第3層が焼土粒子を中量含み赤変していることから，被熱した天井部の崩落土と考えられる。第5・6層は，焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子などが多量に確認されたことから，火床部と考えられる。

竈土層解説
1 褐色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック中量
2 灰褐色　砂粒多量
3 にぶい橙色　ローム粒子・砂粒多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4 赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰多量，ローム粒子・炭化物中量
5 暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6 極暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子多量，ローム粒子・砂粒中量
7 暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量
8 にぶい赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
9 暗赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土小ブロック微量
10 暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量



第463図　第873号住居跡・出土遺物実測図

ピット　5か所（P1～P5）。各コーナーからやや中央部寄りで確認されたP1～P4の，上端は径48～70cm，下端は径16～20cmの円形で，深さ37～55cmである。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は，径約38cmで，深さ63cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　11層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒微量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
11　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片94点，須恵器片4点，鉄器2点（刀子）が出土している。第463図1の土師器甕は，東部の覆土下層から出土している。2の須恵器蓋は，中央部の覆土中層から出土している。3の刀子は，北西部の床面直上から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀中葉と考えられる。

第873号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 1	甕 土師器	A [21.6] B (8.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P112123　5% PL91 東部覆土下層
2	蓋 須恵器	B (2.4) F　3.4 G　0.8	天井部から外周部にかけての破片。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。つまみはボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P112116　50% 中央部覆土中層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第463図3	刀子	13.0	1.2	0.3	11.0	北西部床面直上	M112007　PL108

第874号住居跡（第464図）

位置　調査11区の西部，G11f1区。

重複関係　北部で第876号住居跡を，西部で第872号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［2.96］m，短軸2.78mの方形と推定される。

主軸方向　N－104°－E

壁　南部から西部にかけて第872号住居跡と重複している部分は確認できなかったが，それ以外は壁高32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北部から東部の竈袖部にかけての壁下を巡っている。上幅20～34cm，下幅4～10cmである。

床　ほぼ平坦であり，竈から中央部にかけて踏み固められている。

竈　南東壁中央を壁外に50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cm，両袖部幅90cmである。天井部は崩落しており，第5・6層は砂粒を中量から多量に含んでいることから崩落土と考えられる。特に5層は，赤変状態から被熱した天井部の崩落土と考えられる。煙道は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子中量，ローム中ブロック少量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　灰黄褐色　砂粒多量，焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量
6　灰 白 色　砂粒多量

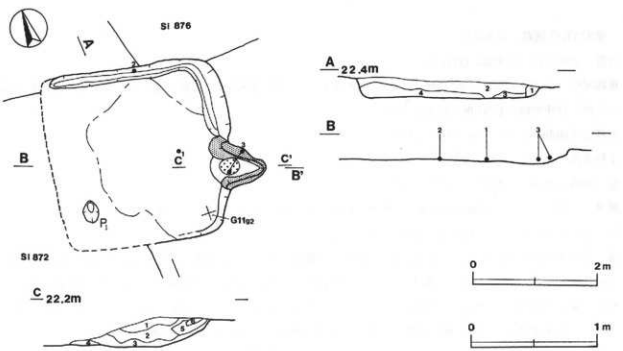
ピット　西コーナー部際に位置し，長径30cm，短径24cmの楕円形で，深さ24cmである。性格は不明である。

覆土　4層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片185点，須恵器片19点，土製品1点（支脚片）が出土している。第465図1の土師器高台付坏は，中央部やや東寄りの床面から，2の土師器甕は，北壁際の床面からそれぞれ出土している。3の土師器甕は，竈内から出土した2片が接合したものである。

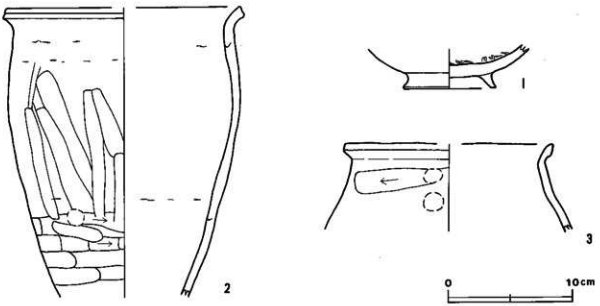
所見　本跡の時期は，遺物から判断して10世紀前葉と考えられる。



第464図　第874号住居跡実測図

第874号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第465図 1	高台付坏 土師器	B（3.5） D 7.1 E 1.3	高台部から体部下位にかけての破片。平底。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色　普通	P 112124　10% P L 92 中央部床面
2	甕 土師器	A［18.5］ B（23.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位ヘラ削り後，横位のヘラナデ。中位から上位縦位のヘラナデ。内面後位のヘラナデ。体部内・外面輪積み痕。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	P 112125　40% 北壁際床面
3	甕 土師器	A［16.6］ B（7.0）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P 112126　5% 竈内覆土下層，竈北袖部覆土下層



第465図　第874号住居跡出土遺物実測図

第875号住居跡（第466図）

位置　調査11区の中央部，G11e3区。

重複関係　南部から北部で第876号住居跡を，南西コーナー部で第873号住居跡を掘り込んでいる。北西部で第28号掘立柱建物跡のP3に掘り込まれている。

規模と平面形　1辺4.50mの方形である。

主軸方向　N－4°－W

壁　壁高は26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅18～34cm，下幅8～18cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

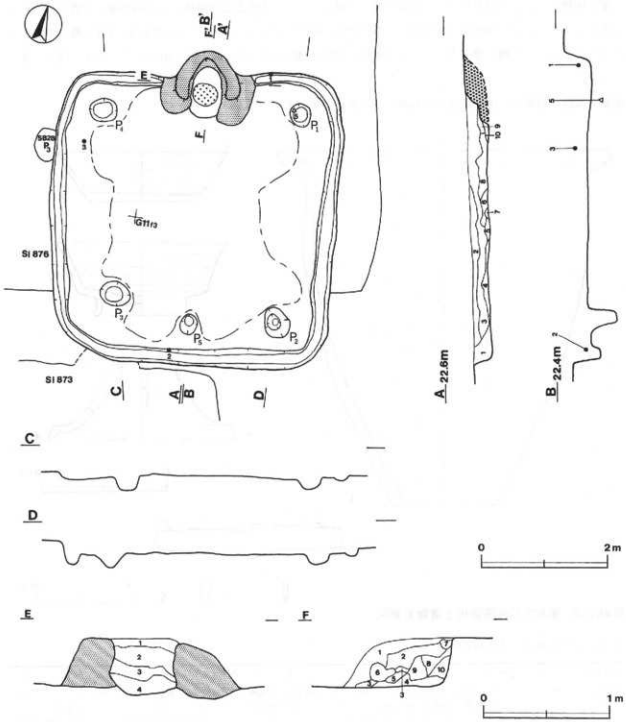
竈　北壁中央を壁外に50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで116cm，両袖部幅150cmである。第4層は焼土ブロック・焼土粒子を多量に含み，赤変硬化しており，火床部と考えられる。袖部内面は，火を受けて赤変硬化している。天井部は崩落しており，砂粒が多量含まれる第2層や粘土ブロックが多量含まれる第5層が崩落土と考えられる。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・砂粒中量，焼土粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子・砂粒多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子・砂粒多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化粒子少量
5　灰 白 色　粘土ブロック多量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒中量
7　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，炭化物微量
8　暗赤褐色　砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
9　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・炭化物微量
10　灰 褐 色　砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

ピット　5か所（P1～P5）。各コーナー部に位置するP1～P4の上端は径32～44cm，下端は径20～30cmのほぼ円形で，深さ16～22cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央に位置するP5は，径約26cmで，深さ46cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。



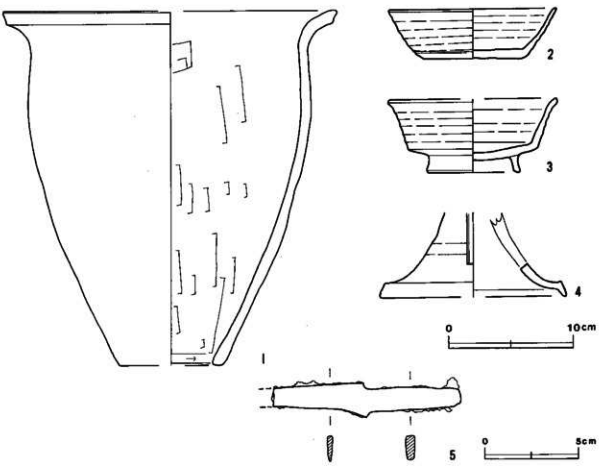
第466図　第875号住居跡実測図

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
4　暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
5　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　黒褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・流土粒子少量，炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
9　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量
10　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片1,231点，須恵器片56点，鉄器1点（刀子）が出土している。第467図1の土師器甕は，北東部

の覆土中層から，2の須恵器坏は，南壁際覆土中層から，3の須恵器高台付坏は，北西部覆土中層からそれぞれ出土している。4の須恵器高台付坏は，覆土中から出土したものである。5の刀子は，P1の覆土中層から出土している。その他，甕と考えられる土師器の細片が覆土中から1,062点ほど出土しているが，図示できるものはない。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後葉と考えられる。



第467図　第875号住居跡出土遺物実測図

第875号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第467図 1	甕 土師器	A [26.6] B 28.4 C 8.3	底部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から中位ナデ。下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P112127　40% P L92 北東部覆土中層
2	坏 須恵器	A 13.3 B 5.0 C 7.7	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す回転ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・黒色粒子 灰色　普通	P112128　70% P L92 南壁際覆土中層
3	高台付坏 須恵器	A 13.4 B 5.9 D 7.4 E 1.3	口縁部・体部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・長石・石英・雲母 灰色 普通	P112129　50% 北西部覆土中層
4	高坏 須恵器	D [15.0] E (6.7)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色　普通	P112130　10% P L92 覆土中

図版番号	種　別	計　測　値				出 土 地 点	備　　考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第467図5	刀　子	(10.3)	1.8	0.5	(17.0)	P1内覆土中層	M112008	PL108

第878号住居跡（第468図）

位置　調査11区の西部，G11i1区。

重複関係　第33号掘立柱建物を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.20m，短軸2.74mの長方形である。

主軸方向　N－88°－E

壁　壁高は16～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅18～30cm，下幅4～10cm，深さ約3cmで，断面はほぼU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　東壁中央部を壁外に60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cm，両袖部幅74cmである。第6層は焼土粒子を中量含んで下部が赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　砂粒少量，焼土小ブロック・粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
5　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
7　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P4は各コーナー部に位置し，P1の上端は長径64cm，短径40cm，下端は長径44cm，短径24cmの楕円形で，深さは24cmである。P2～P4の上端は径36～42cm，下端は径18～26cmのほぼ円形で，深さ27～31cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

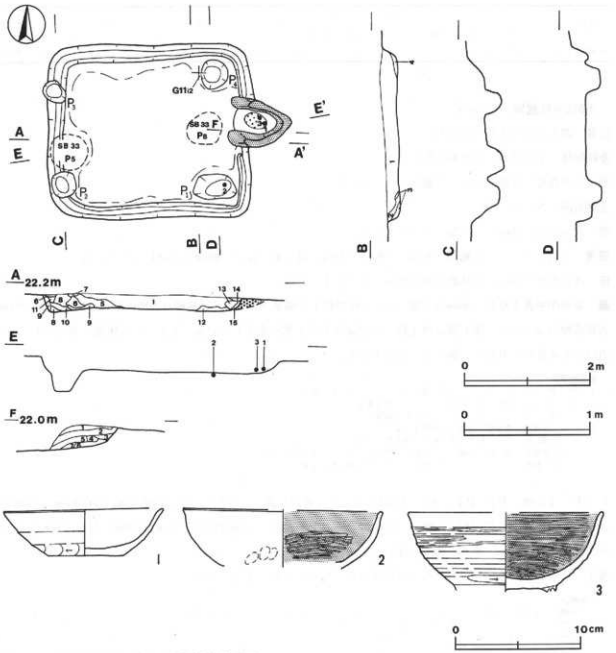
覆土　15層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
7　黒褐色　ローム小ブロック微量
8　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
9　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子少量
11　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
12　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土大ブロック・焼土小ブロック微量
13　暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・粒子微量
14　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
15　褐　色　ローム中ブロック・粒子少量，焼土小ブロック・粒子微量

遺物　土師器片167点，須恵器片34点，土製品1点（支脚片），灰釉陶器片1点が出土している。第468図1の土師器坏は，竈内から逆位で出土している。2の土師器坏は南東部P1内の覆土中層から，3の土師器高台付坏は竈内から逆位で出土している。灰釉陶器片が覆土中から出土しているが，細片のため器種は不明である。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。



第468図　第878号住居跡・出土遺物実測図

第878号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第468図 1	坏 土師器	A 12.7 B 3.8 C 5.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P112140　60% P L 92 竈内
2	坏 土師器	A [15.8] B (4.6)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・体部外面ロクロナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き。体部外面輪の痕押圧。内面黒色処理。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色　普通	P112141　20% P L 92　南西部 P 1 内覆土中層
3	高台付坏 土師器	A [15.4] B (6.3) D [8.0] E (0.5)	底部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P112142　40% P L 92 竈内

第879号住居跡（第469図）

位置　調査11区の西部，G11h2区。

重複関係　西部で第871号住居跡を，南東部で第32・34号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.60m，短軸3.46mの方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は46cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅２～８cm，下幅16～28cm，深さ約８cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　竈は北壁中央やや東寄りを壁外に約70cmほど掘り込み砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで140cm，両袖部幅100cmである。第４・５層は焼土ブロックを多量に含んで赤変硬化していることから火床部と考えられる。煙道は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	褐	色	ローム粒子多量，焼土粒子・砂粒中量
2	褐	色	砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
3	赤　褐	色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4	褐	色	焼土中・小ブロック多量
5	暗	色	焼土中・小ブロック多量，焼土大ブロック・炭化粒子少量
6	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
7	褐	色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土小ブロック・粒子少量
8	赤　褐	色	焼土中・小ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
9	赤　褐	色	炭化材多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
10	褐	色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
11	褐	色	炭化材多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
12	褐	色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
13	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
14	褐	色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
15	にぶい褐	色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子微量
16	褐	色	ローム粒子・砂粒中量
17	灰　褐	色	砂粒多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
18	にぶい赤褐	色	焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
19	明　褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
20	褐	色	砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
21	赤　褐	色	焼土粒子・砂粒多量，炭化粒子中量

ピット　４か所（P1～P4）。各コーナー際に位置するP1～P3の上端は径30～50cm，下端は径10～26cmのほぼ円形で，深さ約18cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁中央からやや中央部寄りに位置するP4は径36cmで，深さ23cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　11層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

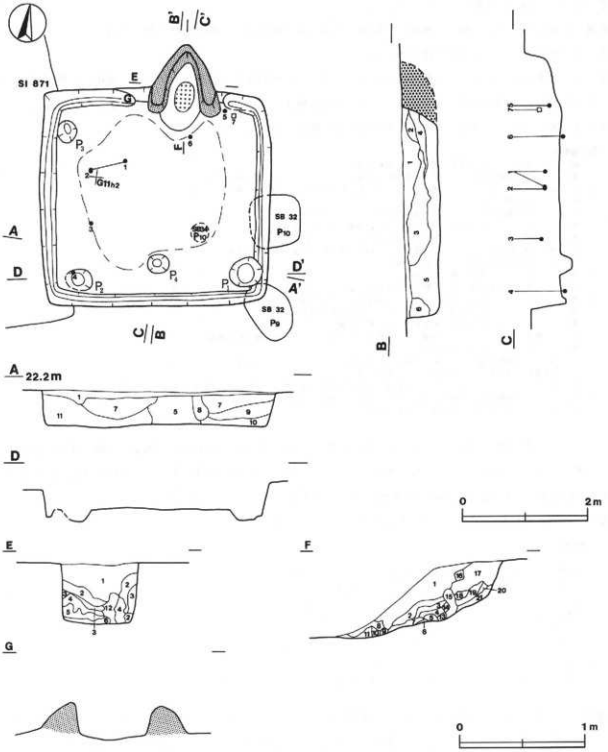
土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
6	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量
7	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
10	黒褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
11	黒褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

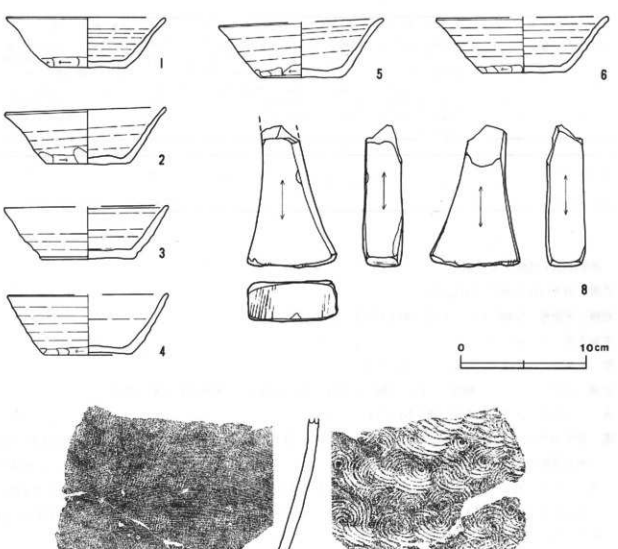
遺物　土師器片308点，須恵器片122点，土製品25点（支脚片），石製品１点（砥石）が出土している。第470図１の須恵器坏は，中央部やや北寄りの覆土中層から出土した破片と中央部やや北西寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。２の須恵器坏は，中央部やや北西寄りの覆土中層から正位で出土している。３の須恵器坏は，中央部西寄りの覆土中層から斜位で出土している。４の須恵器坏は，P2内の覆土中層から出

土している。5・6の須恵器坏は，竈東袖付近の覆土下層と竈焚き口付近の床面からそれぞれ出土したものである。7の須恵器甕体部片は中央部からやや北寄りの覆土下層から出土している。外面に横位の平行叩きが施され，内面には同心円状の当て具痕が認められる。8の砥石は，竈東袖際の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して，9世紀中葉と考えられる。



第469図　第879号住居跡実測図



第470図　第879号住居跡出土遺物実測図

第 879 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 1	坏 須恵器	A 12.5 B 4.0 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 褐灰色 普通	P112143　80% P L 92　中央部やや北寄り覆土中層，中央部やや北西寄り覆土中層
2	坏 須恵器	A 12.6 B 4.6 C 6.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はやや外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P112144　70% P L 92　中央部やや北西寄り覆土中層
3	坏 須恵器	A [12.9] B 4.2 C 7.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P112145　60% 中央部から西寄り覆土中層
4	坏 須恵器	A [12.6] B 4.8 C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P112146　30% P 2 内覆土中層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	施土・色調・焼成	備考
第470図 5	坏	A [13.0]	底部から口縁部にかけての破片。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・	P112147 30%
		B 4.7	平底。体部は外傾して立ち上がり。	ロクロ目弱い。体部下端手持ちへ	石英・赤色粒子	P L 93 竈東袖部付
	須恵器	C 6.4	口縁部にいたる。	ラ削り。底部二方向のヘラ削り。	にぶい黄褐色 普通	近覆土下層
6	坏	A [13.6]	底部から口縁部にかけての破片。	口縁部から体部内・外面ロクロナ	砂粒・長石・石英	P112148 40%
		B 4.4	平底。体部は外傾して立ち上がり。	デ。体部下端手持ちヘラ削り。底	灰色	竈焚き口付近床面
	須恵器	C 6.6	口縁部はやや外反する。端部は丸	部不定方向のヘラ削り。	普通	
			く収めている。			

図版番号	機別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第470図8	砥石	(11.1)	7.1	3.2	(297.0)	凝灰岩	竈東袖部覆土中層	Q112006 P L 107

第881号住居跡（第471図）

位置　調査11区の西部，G11g4区。

規模と平面形　長軸5.18m，短軸5.00mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は20～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅20～32cm，下幅8～24cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に90cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで140cm，両袖部幅150cmである。天井部は崩落しており，第1～4層が粘土粒子・砂粒を多量含んでおり，崩落土と考えられる。第5～8層は焼土中・小ブロック・粒子を中量から多量含み，第6・8層は炭化物を中量含んでいることから，下部が火床部と考えられる。袖部内面は火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　灰褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　灰白色　粘土粒子・砂粒多量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土中ブロック多量，焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，炭化物・炭化粒子少量
8　暗褐褐色　焼土小ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
9　灰褐色　ローム粒子・粘土粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
10　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は各コーナー部寄りに位置し，上端は径54～74cm，下端は径18～28cmの円形で，深さ51～81cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央に位置するP5は径約22cmの円形で，深さ33cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3の南側に隣接するP6は径約30cmの円形で，深さ53cmである。性格は不明であるが，位置的にP3の補助柱穴の可能性も考えられる。

覆土　9層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　焼土小ブロック・粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
8　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

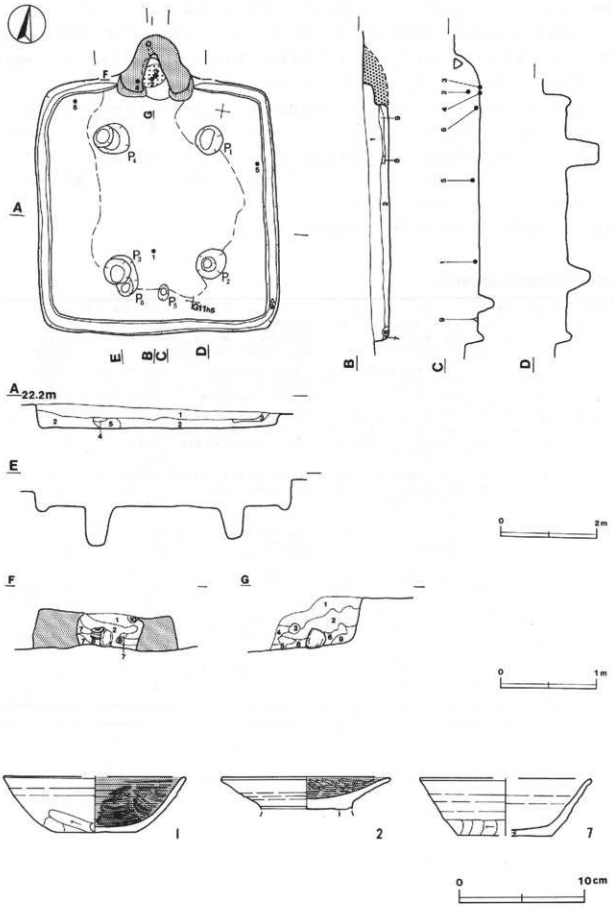
遺物　土師器片1,127点，須恵器片450点，灰釉陶器片５点，鉄器１点（鉄鎌），鉄滓１点，礫３点が出土している。第471図１の土師器坏は，中央部の覆土下層から出土している。２の土師器高台付皿，第472図の土師器甕は，それぞれ竈内から逆位で出土している。４の土師器甕は，竈西袖部内から逆位で出土しており，補強材に使用されたものと考えられる。覆土中から出土した５・６は，土師器坏片に「上山」と墨書されている。７の須恵器坏は東部中央寄りの覆土下層から，８の須恵器鉢は北西コーナー寄りの覆土下層から出土している。９の鉄鎌は，南東コーナー際の床面直上から出土している。図示しなかったが，覆土中から出土した灰釉陶器片５点のうち１点は猿投窯黒笹90号窯式の長頸瓶頸部片と考えられる。また，３点は美濃窯光ケ丘１号窯式の坏片と考えられる。鉄滓１点が覆土中から出土しているが，鍛冶炉などは確認できなかった。竈内及び床面から覆土下層にかけて土器片が多数出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀末葉と考えられる。

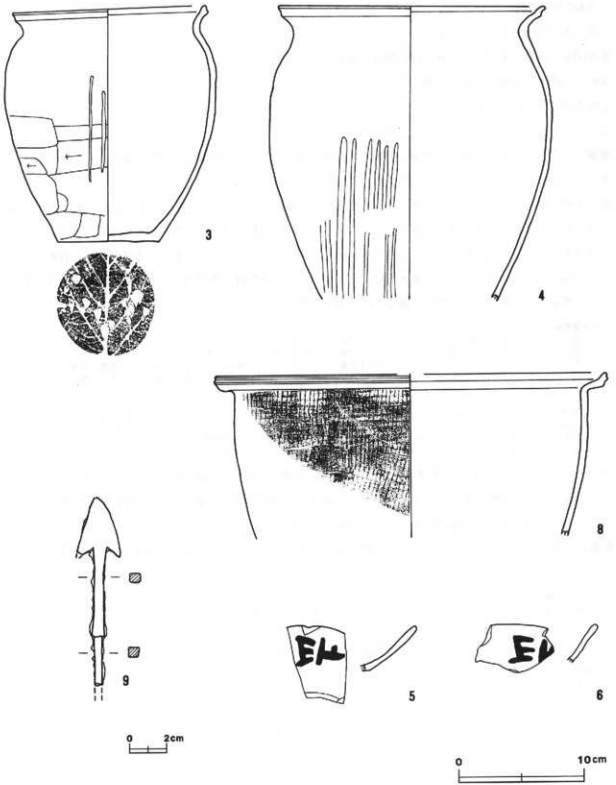
第881号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第471図 1	坏 土師器	A [14.2] B 4.4 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・にぶい橙色 普通	P112154　30% PL93 中央部覆土下層
2	高台付皿 土師器	A 13.3 B (2.5)	口縁部・体部一部欠損。高台部欠損。体部は外傾して立ち上がり口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面，体部ロクロナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・白色粒子・礫 明赤褐色　普通	P112155　60% PL93 竈内
第472図 3	甕 土師器	A 15.3 B 18.7 C 8.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部中位から下位にかけて横位のヘラ削り。上位ナデ。内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・長石・石英・白色粒子 明赤褐色 普通	P112156　90% PL93 竈内
4	甕 土師器	A 21.0 B (23.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P112157　30% PL93 竈西袖部内
5	坏 土師器	A [15.2] B 3.5	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部外面上位ロクロナデ。体部外面中位から下位ヘラ削り。内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P112330　5% 覆土中体部外面 墨書「上山」
6	坏 土師器	A [15.6] B (2.9)	体部から口縁部にかけての破片。	口縁部，体部外面上位ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P112331　5% 覆土中体部外面 墨書「上山」
第471図 7	坏 須恵器	A [13.6] B 4.5 C [7.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・灰黄色 普通	P112158　30% PL93　東部中央寄り覆土下層
第472図 8	鉢 須恵器	A [30.8] B (13.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P112159　10% PL93　北西コーナー部寄り覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第472図9	鉄鎌	9.9	2.3	0.5	19.0	南東コーナー部壁際床面直上	M112009　PL110



第471図　第881号住居跡・出土遺物実測図



第472図　第881号住居跡出土遺物実測図

第882号住居跡（第473図）

位置　調査11区の西部，G11i4区。

重複関係　西部で第32・34号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.20m，短軸3.10mの方形である。

主軸方向　N－105°－E

壁　壁高は14～32cm で，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅８～20cm，下幅４～10cm，深さ約４cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　東壁中央部を壁外に60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cm，両袖部幅90cmである。天井部は崩落しており，第１～５層が砂粒を多量に，粘土粒子を中量含んでいることから崩落土と考えられる。特に第４・５層は焼土中・小ブロックを中量含んでおり，赤変状態から被熱した天井部が崩落したものと考えられる。第８層は焼土小ブロックや炭化材を多量含んでおり，下部が火床部と考えられる。煙道は，火床部より外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　ローム粒子・砂粒多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子・砂粒多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　砂粒多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　砂粒多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子・砂粒多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　黒褐色　炭化材・炭化物多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
7　明褐色　ロームブロック
8　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化材多量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化物・炭化粒子少量
9　褐　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，焼土中・小ブロック少量

ピット　２か所（P1・P2）。南壁中央からやや東部に位置するP1の上端は径26cm，下端は径６cmの円形で，深さ62cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP2は径14cmの円形，深さ21cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南西コーナー部で確認された。長径62cm，短径54cmの楕円形で，深さは28cmである。底部から土師器坏が出土している。

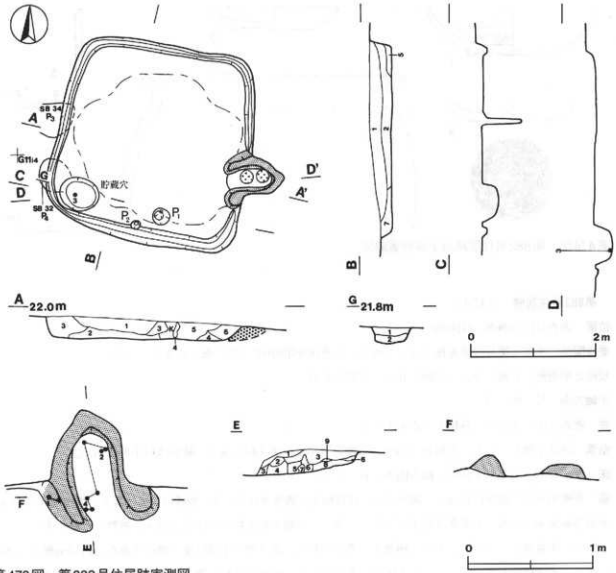
貯蔵穴土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

覆土　７層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・粘土ブロック少量，焼土小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片149点，須恵器片33点，鉄製品１点（釘）が出土している。第474図１の土師器高台付坏は竈西袖内から逆位で出土しており，補強材として使用されたものと考えられる。２の土師器皿は，竈内から正位で出土している。３の土師器坏は，貯蔵穴内底面から逆位で出土している。４の土師器甕は，竈内から土圧でつぶれた状態で出土している。５の釘は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して10世紀前葉と考えられる。

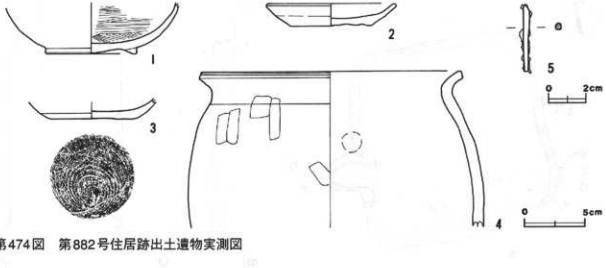


第473図　第882号住居跡実測図

第882号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第474図 1	高台付坏 土師器	B (4.1) D 7.0 E 0.5	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して外上方へ開く。	体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部ナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P112160 40% 竈西袖部内
2	皿 土師器	A 10.2 B 1.8 C 6.4	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。底部はやや突出する。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P112161 80% PL93 竈内
3	坏 土師器	B (1.6) C 6.6	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下端回転ヘラ削り。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P112162 40% PL93 貯蔵穴内底面
4	甕 土師器	A 21.7 B (12.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外傾する。口縁部直下に稜が巡り，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。体部内面指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P112163 30% PL93 竈内

図版番号	機別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第474図5	鉄 釘	(3.5)	0.35	0.3	(1.24)	覆土中	M112010 PL110



第474図　第882号住居跡出土遺物実測図

第883号住居跡（第475図）

位置　調査11区の西部，G10j0区。

重複関係　東部で第41号溝を掘り込んでおり，中央部を第610号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.58m，短軸3.48mの方形である。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は30～36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　ほぼ全周している。上幅16～24cm，下幅6～10cm，深さ約6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　東壁中央部を壁外に15cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで84cm，両袖部幅90cmである。天井部は崩落しており，第3・6層が粘土粒子を中量に含み，被熱した粘土中ブロックも少から中量含んでいることから，崩落土と考えられる。第9層の下面は第5層の下面から約10cm掘りくぼめており，赤変硬化していることから火床面と考えられる。袖部は良好に遺存しており，北袖の内側は火熱を受け赤変硬化している。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　赤　褐　色　粘土粒子中量，粘土中ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
5　灰　褐　色　粘土粒子・灰中量，焼土粒子少量
6　暗赤褐色　粘土中ブロック・粒子中量，焼土粒子・灰少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
8　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
9　赤　褐　色　焼土大ブロック

ピット　3か所（P1～P3）。北東コーナー部に位置するP1の上端は径28cm，下端は径18cmの円形で，深さ26cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP3は，径30cmの円形で，深さ17cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。中央部やや北寄りに位置するP2の上端は径42cm，下端は径36cmの円形で，深さ20cmである。性格は不明である。

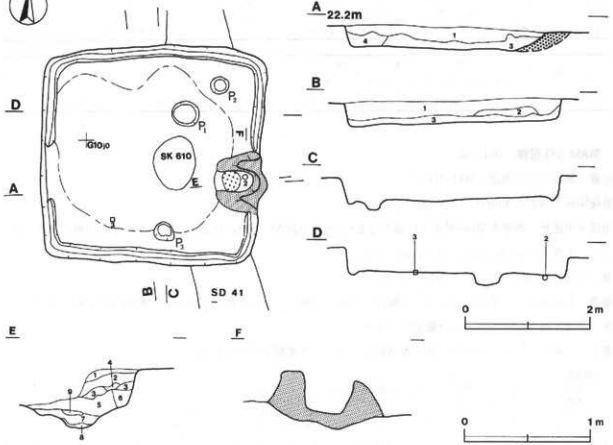
覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

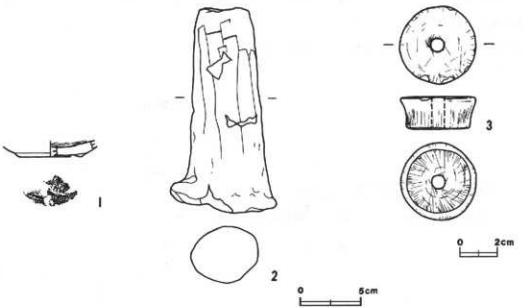
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片324点，須恵器片11点，土製品１点（支脚），石製品１点（紡錘車）が出土している。第476図１の土師器高台付坏は，覆土中から出土している。２の支脚は竈火床部から立位で，３の石製紡錘車は南西部の床面から横位で，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して10世紀前葉と考えられる。



第475図　第883号住居跡実測図



第476図　第883号住居跡出土遺物実測図

第883号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 1	高台付坏 土師器	B (1.3) C [5.0] E 0.3	高台部から底部にかけての破片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。体部内面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P112332 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)		
第476図2	土製支脚	15.3	3.9～9.4	473.0	竈火床部	DP112010 P L 104

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第476図3	紡錘車	4.0	1.7	0.7	46.1	滑石	南西部床面	Q 112007 P L 106

第884号住居跡（第477図）

位置　調査11区の西部，H11a1区。

重複関係　西部を第609号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　西部を第609号土坑に掘り込まれ，南部が調査区域外に位置しているため全容は確認できなかったが，東西（1.80）m，南北（0.52）mである。

壁　壁高は40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁壁下で一部巡っている。上幅12～22cm，下幅4～8cm，深さ約6cmで，断面はU字形である。

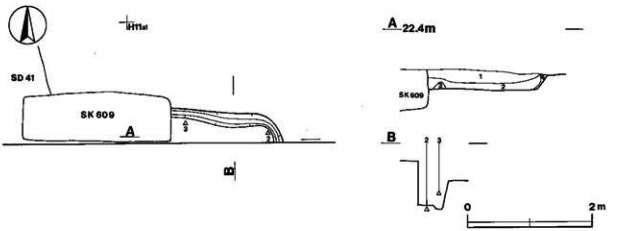
床　ほぼ平坦である。ピットは確認できなかった。

覆土　4層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

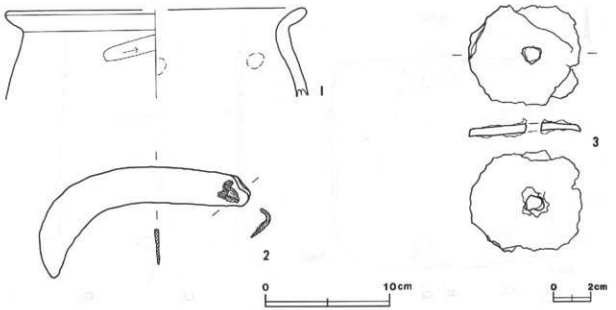
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック・粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化材中量
3　明褐色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム大ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子少量

遺物　土師器片78点，須恵器片7点，鉄製品2点（鎌1点，紡錘車1点）が出土している。第478図1の土師器甕は，覆土中から出土している。2の鎌は，北東コーナー部壁際の床面から出土している。3の鉄製紡錘車は，北壁際の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀と考えられる。



第477図　第884号住居跡実測図



第478図　第884号住居跡出土遺物実測図

第884号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478図 1	甕 上師器	A (23.4) B (7.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。体部内面指頭押圧。	砂粒・雲母に赤い微色 普通	P112171 覆土中 5% PL93

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第478図2	鍛	16.7	3.2	0.3	52.0	北東コーナー部壁際床面	M112011 PL109

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第478図3	鉄製紡錘車	(6.0)	0.8	0.8	(45.0)	北部壁際覆土下層	M112012 PL109

第885号住居跡（第479図）

位置　調査11区の西部，G10i3区。

重複関係　西部で第35号溝を，南部で第36号溝を掘り込んでいる。

規模と平面形　東西［3.52］m，南北［3.36］mの方形と推定される。

主軸方向　N－2°－E

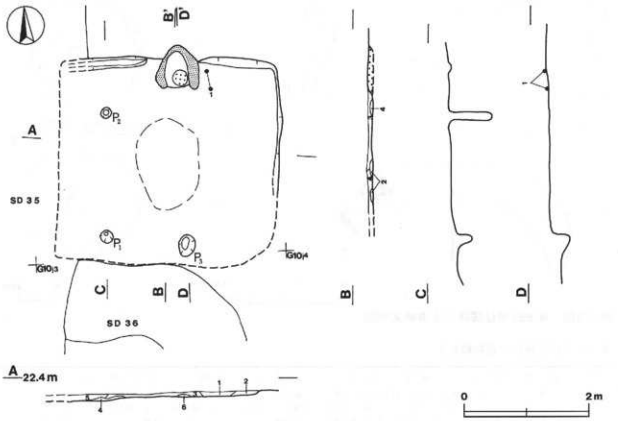
壁　北部と東部の一部で確認できた。壁高は6㎝で，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁中央部から北西コーナーにかけて巡っている。規模は，上幅16～20㎝，下幅8～10㎝，深さ4㎝で，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

竈　大部分が削平されているが，砂質粘土で構築されている袖部の残存部と火床面が確認できた。北壁中央部を壁外に20㎝ほど掘り込み，規模は焚口部から煙道部まで70㎝，両袖部幅68㎝である。

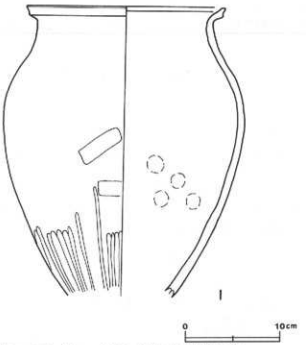
ピット　3か所（P1～P3）。P1～P2は北西及び南西コーナー寄りに位置し，それぞれ上端径20㎝，18㎝，下端径4㎝，8㎝の円形で，深さ25㎝，69㎝である。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際に位置する



第479図　第885号住居跡実測図

P3は径34cmの円形で，深さ18cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。



第480図　第885号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1　黒褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
5　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片65点，須恵器片5点，陶器片1点が出土している。第480図1土師器甕は，竈東袖付近の覆土下層から横位で出土している。陶器片が出土しているが，撹乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀と考えられる。

第885号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第480図 1	甕 土師器	A [20.6] B (30.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位ナデ。中位から下位最位のヘラ磨き。内面ヘラナデ。体部内面指頭押圧。	砂粒・長石・石英にふい赤褐色 普通	P112172 30% 竈東袖部付近覆土下層

第886号住居跡（第481図）

位置　調査11区の東部，G12g6区。

重複関係　南東部で第888号住居跡を掘り込み，北東部を第840号住居に，西部を第36号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.48m，短軸6.44mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は20～34cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第840号住居跡と重複している北東部や第888号住居跡と重複している南東部においては確認できなかったが，全周していたと推定される。上幅14～30cm，下幅３～８cm，深さ約８cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　大部分が第840号住居に掘り込まれており確認できたのは砂質粘土で構築された西袖部の一部である。

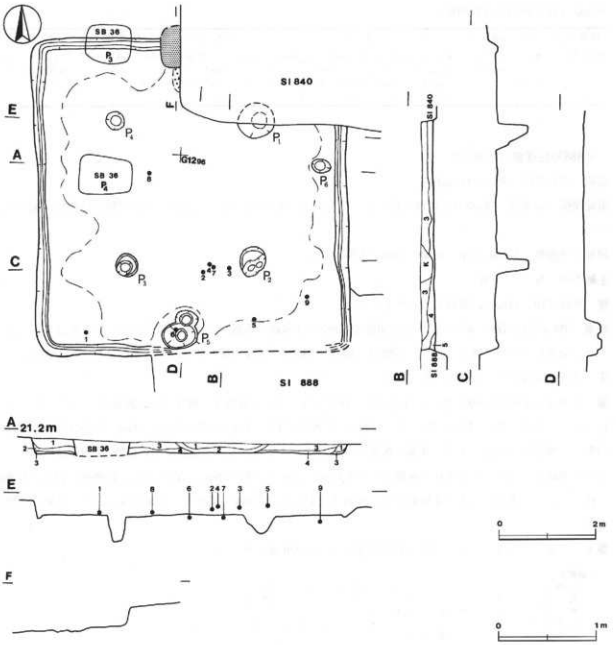
ピット　６か所（P1～P6）。各コーナー寄りに位置するP1～P4の上端は径36～76cm，下端は径14～20cmの円形で，深さ55～68cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は円形ピット２穴が連結しており，それぞれの規模は上端径44cm，74cmで，深さ32cm，35cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。東壁際中央に位置するP6は，径40cmの円形で，深さ30cmである。性格は不明である。

覆土　５層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
3　褐　色　ローム大ブロック中量，ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5　黒褐色　ローム中ブロック・炭化物少量

遺物　土師器片774点，須恵器片53点，鉄製品１点（釘），石製品１点（砥石）が出土している。第482図１の土師器坏は，南西コーナー部壁際の覆土下層から正位で出土している。２の土師器坏は，中央部の覆土中層から出土してる。３の土師器高台坏は中央部覆土上層から逆位で，４の土師器高台付坏は中央部覆土上層から逆位でそれぞれ出土している。５の土師器高台付皿は，南部中央やや東寄りの覆土上層から正位で出土している。３～５はいずれも混入と考えられる。６の須恵器坏は南部壁際P5内床面から逆位で，７の須恵器坏は中央部床面から出土してる。８の須恵器坏は中央部覆土下層から逆位で，９の須恵器坏は南東部床面から逆位で，それぞれ出土したものである。10の砥石は覆土中から，11の釘は南西部覆土中から出土している。

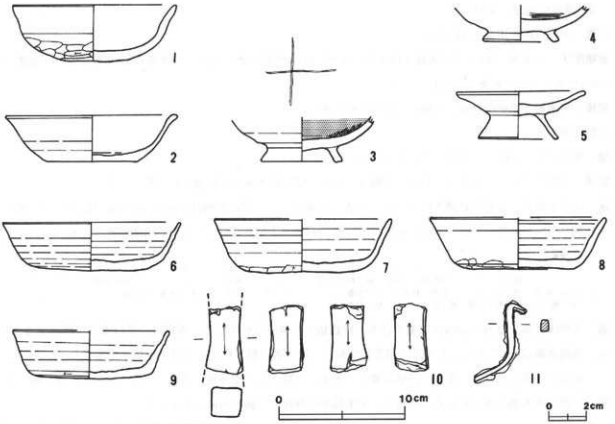
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀前葉と考えられる。また，覆土上層から出土した３～５の土師器が９世紀後葉と考えられることから，埋没途中で混入したと考えられる。



第481図　第886号住居跡実測図

第886号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第482図 1	坏 土師器	A 12.9 B 4.5	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内部横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰褐色 普通	P 112173　100% P L 93　南西コーナー部覆土下層
2	坏 土師器	A 13.4 B 3.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部，体部内・外面横ナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・石英・赤色粒子 橙色 普通	P 112174　90% P L 93 中央部覆土中層
3	高台付坏 土師器	B (3.6) D 6.2 E 1.2	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して外上方へ開く。	体部ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P 112175　20% 中央部覆土上層 内面緻密



第482図　第886号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第482図 4	高台付坏 土師器	B (2.9) D 5.6 E 0.9	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部ナデ後，高台貼り付け。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P112176　10% 中央部覆土上層
5	高台付皿 土師器	A 10.2 B 3.8 D 6.2 E 2.0	高台部一部欠損。高台は大きく「ハ」の字状に開く。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P112177　95% P L93 南部中央やや東寄り覆土上層
6	坏 須恵器	A 14.2 B 3.8 C 9.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P112178　70% P L93　南部壁際 P5内床面
7	坏 須恵器	A [14.0] B 4.3 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P112179　50% 中央部床面
8	坏 須恵器	A [13.8] B 4.1 C 8.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，上位で軽く外反し，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目顕い。体部下端回転ヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 暗灰黄色 普通	P112180　60% P L93 中央部覆土下層
9	坏 須恵器	A [12.4] B 3.9 C 7.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端から底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P112181　70% 南東部床面

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第482図10	砥石	(5.3)	3.0	2.5	(57.7)	凝灰岩	覆土中	Q112008　P L107

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第482図11	鉄釘	(4.3)	0.5	0.6	(6.95)	南西部覆土中	M112013　P L110

第896号住居跡（第484図）

位置　調査11区の東部，G12i6区。

重複関係　北東部で第888号住居跡を南東部で第897A号住居跡を掘り込み，中央部を第897B号住居，南部で第898号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.44m，短軸6.36mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は40～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～24cm，下幅4～10cm，深さ約8cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。北東コーナー部に長軸184cm，短軸88cmの長方形で，深さ12cmの掘り込みが確認できた。覆土に炭化粒子・灰が中量含まれていることから，灰溜の施設と考えられる。

灰層土層解説

1　暗赤灰色　灰中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・砂粒・粘土ブロック少量
3　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
4　灰　褐　色　ローム粒子・灰中量，炭化物・粘土粒子少量
5　にぶい褐色　ローム中ブロック・粒子中量
6　灰　白　色　粘土粒子多量，灰少量

竈　北壁中央部を壁外に10cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖部幅170cmである。天井部は崩落しており，第2層が粘土粒子を多量，砂粒を中量含んでいることから，崩落土と考えられる。第3・11層は焼けて赤変した焼土粒子を多量に含んでいることから，第15層と第3層の一部が火床部と考えられる。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量
2　灰　褐　色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土中・小ブロック少量
3　暗　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒（焼けた砂）少量
4　黒　褐　色　炭化粒子多量，粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量
6　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
7　灰　褐　色　砂粒中量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
9　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量
10　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒少量
11　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒少量

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は各コーナー寄りに位置し，上端は径70～80cm，下端は径26～28cmのほぼ円形で，深さ50～73cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6はそれぞれ径20cm，36cmの円形で，深さ25cm，23cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

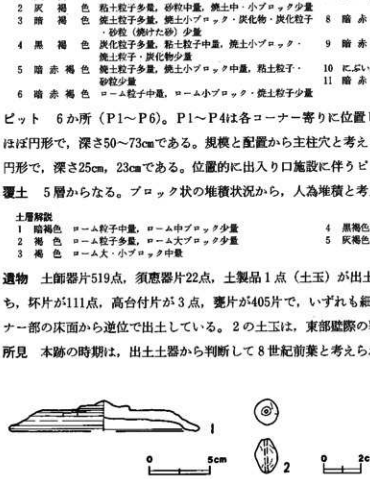
覆土　5層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

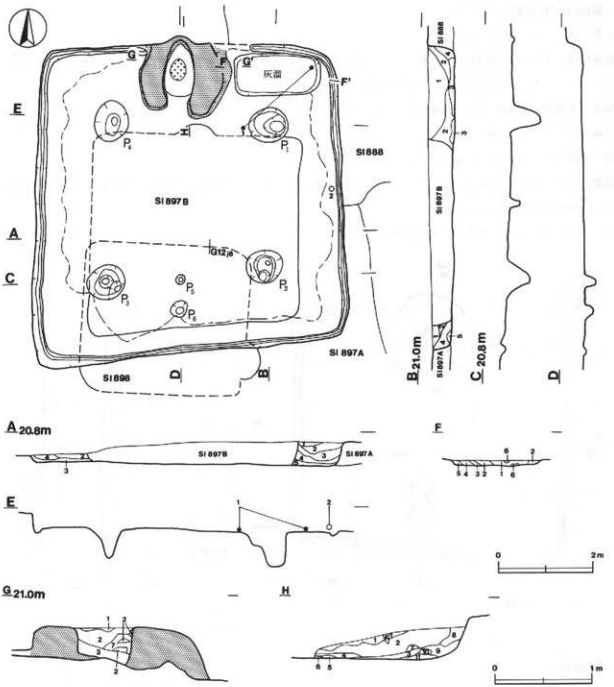
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量
3　褐　色　ローム大・小ブロック中量
4　黒褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
5　灰褐色　粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片519点，須恵器片22点，土製品1点（土玉）が出土している。出土している土師器片519片のうち，坏片が111点，高台付片が3点，甕片が405片で，いずれも細片である。第483図1の須恵器蓋は北東コーナー部の床面から逆位で出土している。2の土玉は，東部盛際の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀前葉と考えられる。



第483図
第896号住居跡出土遺物実測図



第484図　第896号住居跡実測図

第896号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第483図1	壺 須恵器	A [14.8] B 2.5 F 3.8 G 0.8	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は笠形をしている。ボタン状のつまみが付く。口縁部内側にかえりをもつ。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 112284　20% P L 98 北東コーナー部床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第483図2	土玉	1.3	1.7	0.1	2.02	東部標準覆土下層	D P 112013　P L 105

第897B号住居跡（第485図）

位置　調査11区の東部，G12i5区。

重複関係　第896号住居跡を，北東コーナー部で第888号住居跡を，中央部から南部で第897A号住居跡を掘り込んでいる。南部を第898号住居に掘り込まれている。

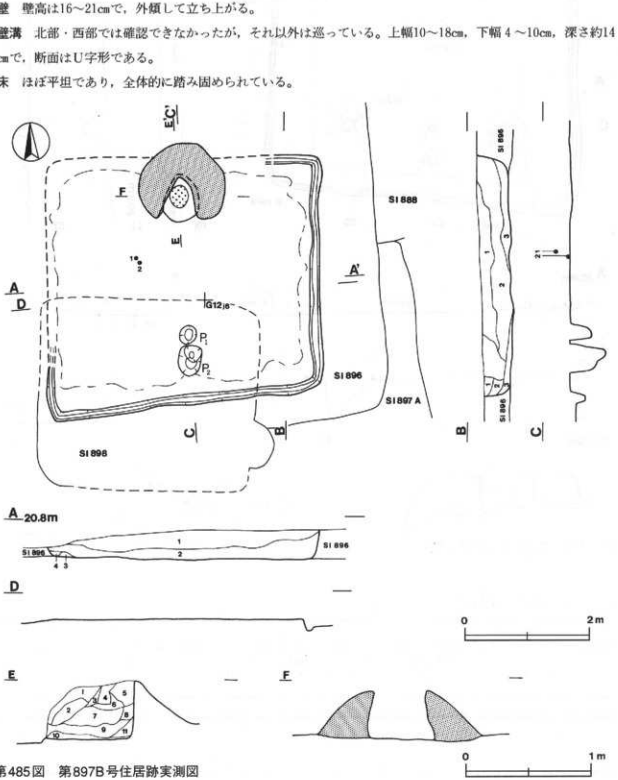
規模と平面形　長軸4.43m，短軸［4.11］mの方形と推定される。

主軸方向　N－4°－W

壁　壁高は16～21cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北部・西部では確認できなかったが，それ以外は巡っている。上幅10～18cm，下幅4～10cm，深さ約14cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。



第485図　第897B号住居跡実測図

竈　北壁中央部に砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで126cm，両袖部幅140cmである。第10層は焼土中ブロックを中量含み赤変しており，下部が火床部と考えられる。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土大ブロック少量
2　暗赤灰色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒少量
4　褐色　焼土大ブロック中量
5　にぶい橙色　焼土大ブロック・炭化物少量
6　暗赤褐色　ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒少量
7　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子・炭化物少量
8　暗赤褐色　焼土粒子少量
9　赤黒色　焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土大ブロック少量
10　赤褐色　焼土中ブロック中量，焼土大ブロック・焼土粒子・炭化物少量
11　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・砂粒少量

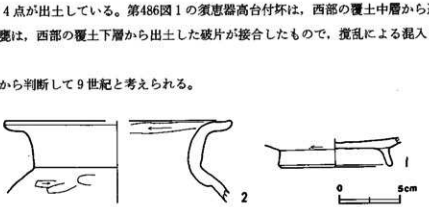
ピット　2か所（P1・P2）。P1・P2はそれぞれ径26cm，38cmでの円形で，深さは24cm，40cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐色　ローム小ブロック多量
4　暗褐色　ローム粒子多量

遺物　土師器片65点，須恵器片4点が出土している。第486図1の須恵器高台付坏は，西部の覆土中層から逆位で出土している。2の須恵器甕は，西部の覆土下層から出土した破片が接合したもので，撹乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀と考えられる。



第486図　第897B号住居跡出土遺物実測図

第897B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第486図 1	高台付坏 須恵器	B（2.3） D 8.8 E 1.5	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P112283 20% P L98 西部覆土中層
2	甕 須恵器	A [18.2] B（6.6）	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 明赤褐色 普通	P112285 5% 西部覆土下層

第898号住居跡（第487図）

位置　調査11区の東部，G12j5区。

重複関係　北部で第896・897B号住居跡を，北部から南部で第897A号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸［3.10］mの長方形である。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

竈　東壁中央部やや南寄りに砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで70cm，両袖部幅70cm

である。天井部は崩落しており，第1層が崩落土と考えられる。火床面から石製支脚が立位の状態で出土している。煙道は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　黒 褐 色　粘土粒子少量
2　赤 褐 色　焼土粒子多量
3　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
4　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量

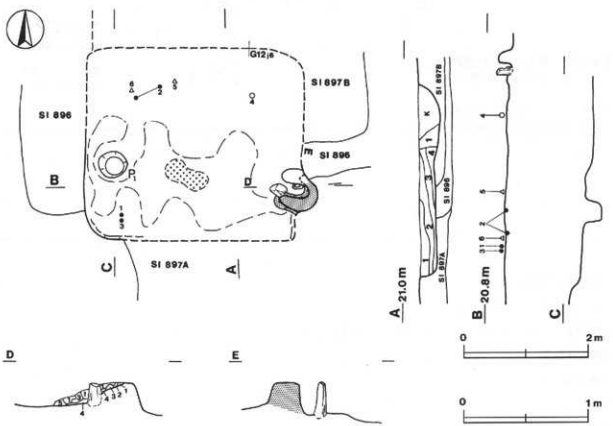
ピット　西壁際中央からやや南寄りに位置するP1の上端は径44cm，下端は径28cmの円形で，深さ29cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

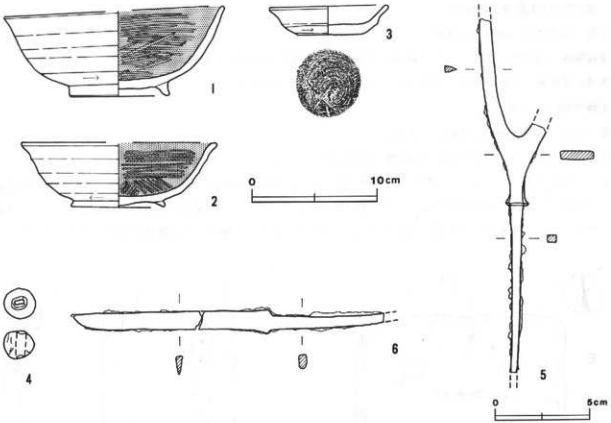
土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
3　黒褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物少量
4　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子・炭化物少量

遺物　土師器片1,141点，須恵器片45点，土製品1点（土玉），鉄器3点（鉄鎌1点・刀子2点），鉄滓1点，陶器片1点が出土している。第488図1の土師器高台付坏は，南西部の覆土下層から出土している。2の高台付坏は，北部の床面から出土した破片と北部壁際の床面から出土した破片が接合したものである。3の土師器皿は，南西部の覆土下層から出土したものである。4の土玉は，北東コーナー部の覆土下層から出土している。5の鉄鎌は，北部中央壁際の覆土下層から出土している。6の刀子は北西部の覆土下層から出土している。陶器片は撹乱による混入と考えられる。土師器片の大部分は甕の細片で，覆土上層から出土しており，本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して10世紀中葉と考えられる。



第487図　第898号住居跡実測図



第488図　第898号住居跡出土遺物実測図

第898号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第488図 1	高台付坏 土師器	A [17.3] B 7.1 D 7.8 E 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。	口縁部，体部ロクロナデ。口縁部，体部内面丁寧なヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子に赤い橙色 普通	P 112286 60% P L 99 北東部覆土下層
2	高台付坏 土師器	A [15.6] B 5.1 D 7.4 E 0.5	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面，体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子に赤い褐色 普通	P 112287 30% 北部床面，北部壁際床面
3	皿 土師器	A 9.3 B 2.3 C 5.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外頽して立ち上がり口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P 112288 80% P L 99 南西部覆土下層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第488図4	土玉	1.7	1.4	0.5	3.34	北東コーナー部付近覆土下層	D P 112014　P L 105

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第488図5	鉄鏃	(18.6)	(3.6)	0.45	(28.0)	北部中央壁際覆土下層	M 112015　腐蝕　P L 110
6	刀子	(16.5)	1.3	0.4	(18.0)	北西部覆土下層	M 112016　P L 108

第902A号住居跡（第489図）

位置　調査11区の東部，G12j8区。

重複関係　南部から北部にかけて第900号住居跡を，北部で第902B号住居跡を掘り込んでいる。

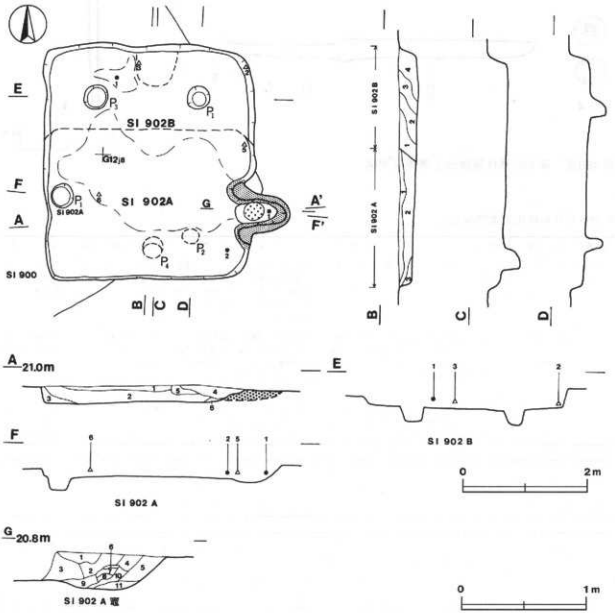
規模と平面形　長軸3.30m，短軸［2.37］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は13～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部を中心に踏み固められている。

竈　東壁中央部から南寄りに砂質粘土で構築されており，壁外に60cmほど掘り込んでいる。規模は，焚口部から煙道部まで86cm，両袖部幅70cmである。第11層は焼土大ブロックを中量含み赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床部より緩やかに立ち上がる。第4・5層から土師器坏が正位で出土している。



第489図　第902A・902B号住居跡実測図

竈土層解説

1 暗　褐　色　ローム中・小ブロック少量
2 暗 赤 褐 色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
3 暗 赤 褐 色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・粘土大ブロック・炭化物少量
4 極暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
5 暗 赤 褐 色　焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化物・砂粒少量
6 赤　褐　色　焼土大ブロック多量
7 にぶい赤褐色　焼土粒子中量，灰少量
8 赤　褐　色　焼土中ブロック多量
9 にぶい赤褐色　ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量
10 にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・灰少量
11 にぶい赤褐色　焼土大ブロック中量，ローム大ブロック少量

ピット　西壁際中央に位置するP1の上端は径32cmの円形で，深さ15cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

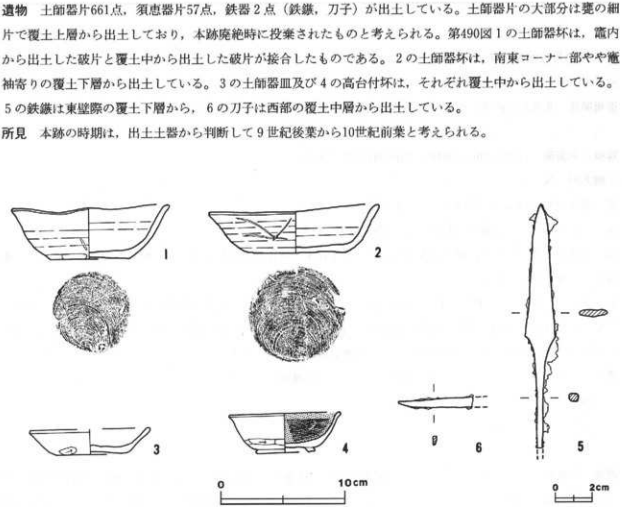
覆土　6層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3 褐　色　ローム大ブロック・炭化物少量
4 黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
5 褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化物少量
6 褐　色　ローム粒子多量

遺物　土師器片661点，須恵器片57点，鉄器2点（鉄鏃，刀子）が出土している。土師器片の大部分は甕の細片で覆土上層から出土しており，本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。第490図1の土師器杯は，竈内から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。2の土師器杯は，南東コーナー部やや竈袖寄りの覆土下層から出土している。3の土師器皿及び4の高台付杯は，それぞれ覆土中から出土している。5の鉄鏃は東壁際の覆土下層から，6の刀子は西部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。



第490図　第902A号住居跡出土遺物実測図

第902A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第490図 1	坏 土師器	A 12.6 B 4.2 C 6.4	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P112293 90% PL99 竈内
2	坏 土師器	A 13.5 B 3.8 C 7.5	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P112294 70% PL99 南東コーナー部覆土下層 体部外面「大」刻書
3	皿 土師器	A [9.6] B 2.0 C 5.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は大きく外傾して，口縁部にいたる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒 橙色 普通	P112295 40% 覆土中
4	高台付坏 土師器	A 9.0 B 3.1 C 5.6 D 4.6 E 0.3	完形。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P112296 100% PL100 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第490図5	鉄鏃	12.9	1.6	0.4	18.0	東壁際覆土下層	M112018 PL110
6	刀子	(4.0)	0.5	0.2	(2.02)	西部覆土中層	M112019 PL108

第902B号住居跡（第489図）

位置　調査11区の東部，G12i8区。

重複関係　北部から西部で第900号住居跡を掘り込み，中央部から南部にかけて第902A号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸3.31mの長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は30～34cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，竈からP3にかけて踏み固められている。

竈　北壁際中央でわずかに掘り込みがみられ，焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土粒子が中量確認された。竈覆土の一部と考えられる。

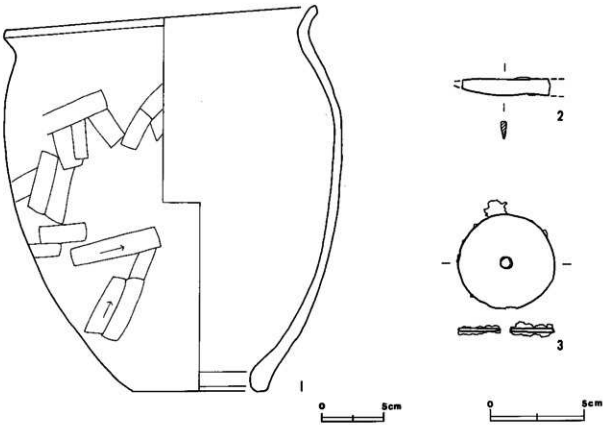
ピット　4か所（P1～P4）。P1～P3は各コーナー寄りに位置し，上端は径26～36cm，下端は径16～28cmの円形で，深さ24～28cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央で確認されたP4は径30cmの円形で，深さ28cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐色　ローム小ブロック・粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐色　ローム小ブロック少量
4　褐色　ローム大ブロック・炭化物少量

遺物　土師器片2点，鉄器1点（刀子），紡錘品1点（紡錘車）が出土している。第491図1の土師器椀は，北部壁寄りの覆土中層から横位で出土している。2の刀子は北東コーナー部壁際の床面直上から，3の鉄製紡錘車は北部中央壁際の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や重複関係から判断して9世紀後葉以前と考えられる。



第491図　第902B号住居跡出土遺物実測図

第902B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第491図 1	甕 土師器	A 24.5 B 30.6 C 10.5	口縁部・体部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・礫 赤褐色 普通	P112297 70% PL99 北部盤寄り覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第491図2	刀子	(4.6)	0.9	0.3	(4.42)	北東コーナー壁際床面直上	M112020 PL108

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第491図3	鉄製紡錘車	5.2	0.2	0.5	15.0	北部中央盤際覆土下層	M112021 PL109

表 11　熊の山遺跡 11 区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
733	G11i0	N- 0°	長方形	4.00 × 3.45	30～35	平坦	全周	－	3	1	竈	1	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・甕・壺)・鉄鏃	SI734→本跡
734	G11j0	N- 18°-W	方 形	4.30 × 4.20	40	平坦	全周	－	3	2	竈	－	自然	土師器(坏・甕)，土製支脚	本跡→SI733・第19号地下式横
735	H12h1	N- 25°-W	不 明	4.85 ×(2.55)	20～40	平坦	全周	－	2	－	竈	－	自然	土師器(坏・甕)，土製支脚・鞴羽口	本跡→SI762
751	H12b3	N- 30°-E	長方形	3.90 × 3.40	50	平坦	全周	－	3	－	炉	1	自然	土師器(坏・器台・甕・台付甕)，石製勾玉	本跡→SI752
752	H12a2	N- 43°-W	長方形	6.10 × 4.90	70	平坦	全周	－	2	1	竈	1	自然	土師器(坏・鉢・甕・ミニチュア土器)	SI751・778→本跡→SI765
753	G11f9	N- 3°-E	長方形	3.55 × 3.20	15～25	平坦	一部	－	－	1	竈	－	自然	土師器(坏・高台付坏・皿・甕)，須恵器(坏・甕)	
754	G11e8	N- 0°	方 形	3.40 × 3.30	45～50	平坦	全周	－	1	1	竈	－	人為	土師器(高台付坏・甕)，須恵器(坏・甕)，土製支脚，砥石，刀子	SI764→本跡→SP4
755	G12j2	N- 90°-E	長方形	3.52 × 3.00	10	平坦	一部	－	－	－	竈	－	人為	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・甕)，土玉	SI758・778・SB30→本跡
756	G12i1	N- 7°-E	方 形	3.50 × 3.40	20	平坦	一部	－	－	－	竈	－	人為	土師器(甕)，須恵器(坏・壺・擂鉢)，土製支脚	SI758・767→SB30→本跡→SI757
757	G12i1	N- 0°	[長方形]	[3.70] × [3.00]	40	平坦	一部	－	－	－	竈	－	人為	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・甕)，有孔円板，刀子	SI756・SB30→本跡
758	G12i3	N- 0°	方 形	7.50 × 7.10	35～50	平坦	全周	－	6	2	竈	－	自然	土師器(坏・高坏・甕)，球状土錘	本跡→SI755・756・759・760・SB30
759	G12i4	N- 3°-W	長方形	5.50 × 4.80	15～25	平坦	全周	－	4	1	竈	－	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・甕・蓋)	SI758→本跡→SI760
760	H12i4	N- 0°	方 形	4.50 × 4.30	15～20	平坦	全周	－	－	1	竈	－	人為	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・高坏，蓋・甕・瓶)，鉄鏃，鞴羽口	SI758→SI759→本跡
761	G11h8	N- 35°-W	方 形	6.75 × 6.55	30～60	平坦	全周	1	4	1	竈	1	自然	土師器(坏・高坏・甕)，土製支脚，有孔円板	SI764→本跡→SI763・SP4
762	G12c2	N- 8°-W	不 明	(4.80) × (3.60)	30	平坦	－	－	－	－	竈	－	人為	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・甕)	SI735→本跡→第17号地下式横
763	G11h8	N- 0°	方 形	3.70 × 3.60	35～50	平坦	全周	－	2	1	竈	－	自然	土師器(坏・高台付坏・甕)，須恵器(坏・高台付坏)	SI761→本跡
764	G11f8	N- 18°-W	方 形	5.20 × 5.00	10～35	平坦	全周	－	2	1	炉	1	自然	土師器(坏・高坏・器台・甕)	本跡→SI754・761, SK654・655
765	H12a1	N- 10°-W	方 形	3.60 × 3.60	25	平坦	－	1	－	－	竈	－	自然	土師器(坏・甕)	SI778→SI752→本跡
766	G11c8	N- 20°-W	方 形	8.00 × 8.00	20～45	平坦	全周	－	4	1	－	－	自然	土師器(坏・高坏・甕)，球状土錘，土製支脚	本跡→第18号地下式横・SP4
767	G12i1	N- 0°	方 形	4.80 × 4.80	35～55	平坦	全周	－	4	1	竈	－	自然	土師器(坏・甕)，球状土錘，不明鉄製品	SI768→本跡→SI756
768	G12h1	N- 37°-W	長方形	4.20 × 3.70	30	平坦	－	－	－	－	－	1	自然	土師器(坏・高坏・壷・甕)，須恵器(坏・甕)	本跡→SI767・776, 本跡→SI770→SI769
769	G12g2	N- 10°-W	方 形	3.70 × 3.60	20～45	平坦	全周	－	－	1	竈	－	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・甕)	SI768→SI770→本跡→SB31
770	G12g2	N- 8°-W	長方形	4.90 × 4.30	30～35	平坦	一部	－	－	－	竈	－	自然	土師器(坏・甕・壺)，須恵器(坏・甕)	SI768・771・773→本跡→SI769→SB31
771	G12g3	N- 5°-E	方 形	5.70 × 5.45	15～40	平坦	全周	－	4	2	竈	－	自然	土師器(坏・高坏・甕)，須恵器(坏)，鎌	本跡→SI770
772	G12i3	N- 50°-W	長方形	3.60 × 3.20	40～65	平坦	全周	－	2	－	炉	1	自然	土師器(坏・高坏・壷・甕)	本跡→SI773
773	G12i2	N- 0°	方 形	5.00 × 4.60	50～60	平坦	全周	－	4	1	竈	－	自然	土師器(坏・甕・椀)，土玉	SI772→本跡→SI770, SB31
774	G11d0	N- 5°-W	方 形	3.10 × 3.05	25～50	平坦	全周	－	－	－	竈	－	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・甕)，灰釉陶器	SI775→本跡
775	G12e1	N- 0°	方 形	4.05 × 4.00	15～25	平坦	－	－	－	－	竈	－	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(甕)	SI777→本跡→SI774
776	G11g0	N- 22°-W	方 形	3.70 × 3.50	15～20	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器(高坏・器台・甕)	SI768→本跡
777	G12f1	N- 0°	方 形	4.60 × 4.45	16～28	平坦	－	－	－	－	炉	－	自然	土師器(坏・異形器台・甕・台付甕)	本跡→SI775→本跡→SB31
778	H12a2	N- 28°-W	不 明	[4.20] × (1.65)	10	平坦	－	－	－	－	竈	－	自然	土師器(甕)	本跡→SI752→765, 本跡→SB30→SI755
779	G11e5	N- 8°-W	方 形	6.00 × 5.70	25～50	平坦	全周	－	4	1	竈	1	自然	土師器(坏・高坏・器台・甕)，石製勾玉	SI781・783→本跡→SI784
780	G11f6	N- 35°-W	方 形	7.65 × 7.65	25～55	平坦	全周	－	4	2	竈	－	自然	土師器(坏・高坏・甕・椀)，土玉，土製支脚，管玉	

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
781	G11f6	N-14°-W	不明	2.85 × (1.70)	12～22	平坦	−	−	−	−	炉	−	自然	土師器(甕)	本跡→SI779・785
782	G11c5	N-12°-E	方形	4.80 × 4.60	20～40	平坦	全周	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・甕),須恵器(坏・高台付坏・蓋・甕),鞴羽口,礪石,鉄釘	SI783→SI786→本跡
783	G11d4	N-25°-W	方形	7.72 × 7.20	30～45	平坦	全周	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・甕)	本跡→SI779→SI784,本跡→SI786→SI782
784	G11e4	N-10°-W	方形	4.90 × 4.60	30～40	平坦	全周	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕・鉢・瓶),刀子,バグ	SI783→SI779・786→本跡
785	G11f5	N-15°-W	方形	3.65 × 3.45	25～40	平坦	全周	−	−	1	竈	1	自然	土師器(坏・甕),須恵器(坏・高坏・壺・甕),鉄釘	SI781→本跡
786	G11d4	N-15°-W	方形	5.48 × 5.21	44～48	平坦	全周	−	4	1	竈	1	自然	土師器(坏・甕),石製紡錘車	SI783→本跡→SI782・784
787	H11a9	N-2°-W	方形	3.15 × 3.05	20～30	平坦	全周	−	−	1	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕・甑),刀子	
788	H12b5	N-8°-W	方形	4.75 × 4.50	40～45	平坦	全周	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕),土製支脚,鉄釘	本跡→SI791
789	H12c4	N-5°-W	方形	4.15 × 4.10	35～40	平坦	全周	−	2	1	竈	−	自然	土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕),刀子,錐	本跡→SI793→SK707,本跡→SK669
790	H12c8	N-19°-W	不明	8.10 × (7.60)	45	平坦	全周	−	4	−	−	1	自然	土師器(坏・甕),	本跡→SI796→SI797
791	H12b6	N-90°-E	長方形	3.85 × 2.75	25	平坦	−	−	−	−	竈	−	人為	土師器(坏・甕・皿・三足鍋),須恵器(坏・甕),鉄製紡錘車	SI788・794→本跡
792	G12b0	N-28°-W	方形	6.20 × 6.15	20～30	平坦	全周	2	4	2	竈	1	自然	土師器(坏・高坏・甕),鉄製紡錘車軸	本跡→SI797・892
793	H12c5	N-90°-E	不明	3.25 × (2.50)	15	平坦	−	−	−	−	竈	−	自然	土師器(坏)	SI789・794→本跡→SK707
794	H12c6	N-37°-W	方形	7.25 × 7.25	40	平坦	全周	−	3	−	竈	1	人為	土師器(坏・高坏・甕・手捏土器),土玉,土製勾玉	本跡→SI793→SK707,本跡→SI791・795
795	H12b7	N-90°-E	長方形	4.20 × 3.80	40	平坦	−	−	−	1	竈	−	人為	土師器(坏・皿・甕),須恵器(坏・甕)	SI794・796→本跡
796	H12b8	N-28°-W	方形	6.50 × 6.20	45～50	平坦	全周	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕),土製支脚	SI790→本跡→SI795・797
797	H12b9	N-15°-W	方形	3.55 × 3.50	55	平坦	全周	−	−	1	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕)	SI790・796→本跡,SI792→本跡
798	H13c1	N-12°-E	不明	(3.54) × (1.15)	15	平坦	−	−	−	−	竈	−	自然	土師器(坏・甕),須恵器(坏)	本跡→SI799
799	H13e1	N-87°-E	不明	4.55 × (2.10)	20	平坦	−	−	−	−	竈	−	自然	土師器(皿)	SI798・829→本跡
800	F13f3	N-20°-W	方形	6.10 × 6.00	40～55	平坦	全周	−	4	2	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕・甑),土製支脚,砥石	SI801・805→本跡
801	F13g2	N-28°-W	方形	7.75 × 7.60	40	平坦	全周	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・壺・甕・手捏土器),須恵器(平瓶),土製勾玉	SI808→本跡→SI802,本跡→SI800
802	F13g2	N-105°-E	長方形	4.10 × 3.00	15	平坦	全周	−	−	−	竈	−	不明	土師器(坏・高台付坏・甕・手捏土器)	SI801→本跡
803	F13g0	N-105°-E	長方形	3.85 × 3.00	25～30	平坦	一部	−	−	−	竈	−	自然	土師器(坏・高台付坏・蓋・甕),須恵器(坏,蓋),鉄製紡錘車	
804	F13d1	N-16°-W	不明	7.10 × (6.10)	20～25	平坦	−	1	3	1	−	−	自然	土師器(坏・高坏・甕・手捏土器)	SI812→本跡→SI807・SD32
805	F12e9	N-26°-W	不明	3.80 × (3.35)	10	平坦	一部	−	−	−	炉	−	自然	土師器(坏・高坏・甕)	本跡→SI807
806	G13f4	N-30°-W	不明	6.90 × (6.10)	80	平坦	一部	1	1	−	竈	−	自然	土師器(坏,高坏・甕),須恵器(はそう),白玉,鉄鏃	本跡→SI800
807	F12f0	N-10°-W	方形	6.85 × 6.75	50～60	平坦	全周	−	4	2	竈	−	自然	土師器(坏・甕・ミニチュア土器),土玉,環状土錘,土製紡錘車	SI812→SI804→本跡,SI805→本跡
808	F13g1	N-7°-W	不明	2.70 × (1.30)	15	平坦	−	−	−	−	−	−	自然	土師器(坏・高坏・甕)	本跡→SI801
809	G12f0	N-0°	方形	4.55 × 4.50	50	平坦	一部	−	4	1	竈	−	自然	土師器(甕),須恵器(坏・壺・甕),鐘	SI836→SI842→本跡
810	F12f8	N-20°-E	[隅丸長方形]	[5.95] × [5.00]	0	平坦	−	−	3	1	炉	−	不明		
811	F12f8	N-17°-W	方形	9.90 × 9.50	25～50	平坦	一部	5	6	1	竈	1	自然	土師器(坏・高坏・甕・鉢・甑),白玉	本跡→SI813・820・SD35
812	F12d0	N-20°-W	不明	(5.35) × (2.45)	10	平坦	全周	−	−	−	炉	−	不明	土師器(坏・甕)	本跡→SI804→SI807・SD32
813	F12j7	N-14°-E	不明	[5.20] × [4.80]	10	平坦	一部	−	2	−	竈	−	自然	土師器(坏・皿・甕),須恵器(坏・甕)	SI811→SD35→本跡
814	G12a7	N-0°	長方形	5.50 × 4.30	20	平坦	一部	−	4	1	竈	−	人為	土師器(坏・甕),須恵器(坏・高台付坏・鉢)	SI816→本跡,SI825→SI815→SI817→本跡→SI818

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設					覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							屋溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
815	G 12a6	N- 14°-E	不明	(2.90)×(2.90)	50	平坦	全周	−	1	−	竈	−	自然	土師器(坏甕), 須恵器(坏・甕)	SI825→本跡→SI817→SI814→SI818
816	G 12a8	N- 25°-W	不明	4.45 ×(3.45)	10	平坦	−	−	−	−	−	−	人為	土師器(坏・甕)	本跡→SI814・831
817	G 12a6	N- 0°	不明	(3.50)×(0.90)	30	平坦	−	−	−	−	−	−	自然	土師器(坏・甕), 須恵器(甕)	SI815→本跡→SI814→SI818
818	F 12j6	N- 1°-W	方形	4.50 × 4.20	30	平坦	全周	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕・鉢), 須恵器(坏・蓋・甕), 鉄製紡錘車軸	SD35→本跡, SI815→SI817→SI814→本跡
819	G 12c4	N- 12°-W	不明	4.70 ×(4.40)	15	平坦	−	−	−	−	−	−	自然	土師器(坏・甕)	本跡→SI822→SI823・第20号地下式壙・SD42
820	F 12i0	N-102°-E	不明	[4.50]×[3.35]	20〜30	平坦	−	−	−	1	竈	−	自然	土師器(坏・鉢・甕)	SI811→本跡
821	G 12a5	N- 9°-W	方形	5.05 × 5.00	10	平坦	全周	−	3	−	竈	−	−	土師器(坏・甕), 須恵器(坏・甕)	本跡→第20号地下式壙
822	G 12c5	N- 2°-W	不明	(4.45)×(2.40)	25	平坦	−	−	1	1	竈	−	自然	土師器(坏・甕)	SI819→本跡→SI823・第20号地下式壙・SD42
823	G 12c6	N- 3°-W	方形	4.95 × 4.95	15〜25	平坦	全周	1	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・甕), 須恵器(坏・甕・蓋), 土製支脚	SI822→本跡, SI825→本跡→SI824→SD42
824	G 12c7	N- 4°-E	方形	5.85 × 5.55	20〜40	平坦	全周	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕), 須恵器(坏・高坏・高台付坏・蓋・甕), 鉄鏃	SI825→SI823→本跡→SI828→SD42
825	G 12b6	N- 1°-W	不明	4.50 ×(2.80)	20	平坦	全周	1	−	1	竈	−	自然	土師器(坏・甕), 須恵器(坏・甕)	本跡→SI823→SI824, 本跡→SI815→SI814
826	F 13i4	N- 6°-E	不明	8.00 ×(2.20)	45	平坦	−	−	−	−	−	−	自然	土師器(坏・高坏・高台付坏・甕・鉢)	
827	G 12b9	N-121°-W	長方形	3.70 × 3.20	10	平坦	−	−	−	−	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕), 鎌	SI832→SI831→本跡→SI830
828	G 12c7	N- 5°-E	方形	5.85 × 5.55	20	平坦	全周	−	−	1	竈	−	人為	土師器(坏・高坏・甕), 須恵器(坏・高台付坏・蓋)	SI824→本跡→SD42
829	H 13c2	N- 2°-E	不明	(4.02)×(2.80)	40	平坦	全周	−	1	−	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕・ミニチュア土器), 砥石	本跡→SI799
830	G 12a9	N- 2°-W	[長方形]	[4.55]× 3.95	10	平坦	一部	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕), 須恵器(坏・高台付坏・甕)	SI831→SD35→本跡
831	G 12a9	N- 33°-W	方形	6.50 × 6.35	20	平坦	全周	1	4	1	竈	1	自然	土師器(坏・高坏・甕), 砥石, 臼玉	SI832→本跡→SI827, 本跡→SD35→SI830, SI816→本跡
832	G 12b8	N- 57°-W	長方形	4.90 × 3.90	10〜35	平坦	一部	−	2	1	炉2	−	自然	土師器(坏・高坏・埦・器台・甕)	本跡→SI831→827
833	G 12d8	N- 4°-W	方形	4.60 × 4.35	30〜40	平坦	全周	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・高台付鉢・甕), 須恵器(坏・甕・壺), 砥石	SI804→SI836→本跡
834A	G 12d5	N- 8°-W	[方形]	4.10 ×[4.10]	20	平坦	一部	−	6	2	竈	−	自然	土師器(甕), 須恵器(坏・甕・蓋)	SI835A→SI834B→SI835B→本跡→SD42
834B	G 12d5	N- 18°-W	不明	[3.00]×(1.40)	10	平坦	−	−	2	−	−	−	−	土師器(坏・高坏・甕・器台)	SI837A・835A→本跡→SI835B→SI834A
835A	G 12d5	N- 18°-W	不明	6.60 ×(0.85)	15	平坦	−	−	−	−	−	−	自然	土師器(高坏)	SI837A→本跡→SI834B→SI835B→SI834A
835B	G 12d5	N- 27°-W	方形	6.90 × 6.70	25〜40	平坦	全周	−	4	−	竈	1	自然	土師器(坏・高坏・埦・甕・瓶・手捏・ミニチュア土器), 土製支脚	SI837A・837B→SI835A→SI834B→本跡→SI834A, 本跡→SI840, 本跡→SB36, 本跡→SK716・720
836	G 12e0	N- 14°-W	方形	6.15 × 6.15	70	平坦	全周	2	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・甕), 土製支脚, 臼玉	SI842・904→本跡→SI809・833
837A	G 12d4	N- 39°-W	[方形]	4.75 ×[4.55]	25〜30	平坦	−	−	2	−	−	−	人為	土師器(坏・高坏・埦・甕)	SI837B・本跡→SI835A→SI834B→SI835B, 本跡→SB36・SK717・SD42
837B	G 12e4	N- 38°-W	不明	(3.30)×(2.20)	10	平坦	−	−	2	−	−	−	自然	土師器(坏・高坏・甕)	本跡・SI837A→SI835B・SB36・SK716・

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
															717
838	G12j9	N-88°-E	長方形	4.00 × 2.82	12~18	平坦	全周	−	−	−	竈	1	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・甕)	本跡→SK701
839	H12a9	N-95°-E	長方形	3.90 × 2.88	40~50	平坦	全周	−	−	−	竈	−	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・甕)，須恵器(坏・甕)，砥石，鉄製紡錘車軸，火打金	
840	G12i6	N-3°-W	方形	5.20 × 4.90	30~40	平坦	全周	1	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・高台付坏・壺・甕・甑)，土玉，土製紡錘車，砥石	SI835B・886→本跡
841	G12i8	N-93°-E	[方形]	[2.80]×[2.70]	10~15	平坦	−	−	−	−	竈	−	自然	土師器(坏・高台付坏・甕)，須恵器(坏・甕)	SI844A→本跡
842	G12i0	N-8°-W	方形	4.80 × 4.60	40~45	平坦	全周	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕)	本跡→SI843→SI836→SI809
843	G12g9	N-22°-W	方形	7.50 × 7.40	35~40	平坦	全周	2	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・高坏・甕・甑)	SI905→本跡→SI844A，SI842→本跡
844A	G12i8	N-2°-W	長方形	6.00 × 5.05	35	平坦	全周	13	4	1	竈	−	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・高台付坏・甕)，土玉	SI844B→本跡→SI841，SI905→SI843→本跡
844B	G12i7	N-5°-E	不明	4.80 ×(1.35)	30	平坦	全周	−	−	−	−	−	自然	土師器(甕)，須恵器(坏・壺)	本跡→SI844A
845	G13a3	N-10°-E	[方形]	[7.00]×(6.70)	40	平坦	一部	1	2	1	竈	−	人為	土師器(坏・ミニチュア土器)，土玉，勾玉	SI847→本跡→SD35
846	G13d2	N-5°-E	[長方形]	8.80 ×(5.14)	10~50	平坦	全周	2	3	1	竈	1	人為	土師器(坏・高坏・甕・ミニチュア土器)，須恵器(坏)，鎌，刀子	SI848→本跡→SD35
847	G13a2	−	[方形]	[6.00]×[5.54]	25	平坦	一部	−	−	−	−	−	自然	土師器(坏)	本跡→SI845→SD35
848	G13c3	−	−	(2.40)×(1.90)	−	平坦	−	−	−	−	炉	−	−	土師器(甕・器台)，砥石	本跡→SI846→SD35
849	G13f2	N-6°-E	[方形]	5.00 × (3.80)	20~48	平坦	一部	−	2	2	竈	−	人為	土師器(坏)，砥石，紡錘車	SI889→本跡→SD45→SD35
850	G10c4	N-83°-E	長方形	3.84 × 3.30	4~38	平坦	一部	−	−	−	竈	−	人為	土師器(坏・高台付坏・甕)，須恵器(壺)	SK606→本跡
851	G10f5	−	−	−	−	−	−	−	−	−	竈	−	−		本跡→SI852
852	G10f5	N-86°-E	[方形]	[3.50]×[3.30]	−	平坦	−	−	−	1	竈	−	−		SI851→本跡
853	G10j3	N-84°-E	[長方形]	[3.10]×[2.40]	−	平坦	−	2	−	−	竈	−	人為	土師器(坏)	本跡→SD36・SD35・SK598
854	G10j6	N-3°-E	[方形]	[3.80]×[3.60]	−	平坦	−	−	3	−	竈	−	−		
855	G10j9	N-90°-E	[長方形]	6.36 ×(2.80)	42	平坦	一部	−	2	1	−	−	人為	須恵器(高台付坏・甕)，短刀	SD41→本跡
856	G10j7	N-7°-W	[方形]	3.90 × 3.70	17	平坦	一部	−	4	1	竈	−	自然	土師器(甕)，鎌力	SI857・SI859→本跡
857	G10i8	N-0°	[長方形]	4.08 ×[2.82]	16	平坦	一部	1	−	−	竈	−	人為	須恵器(坏)	SI859→本跡→SI856
858	G10b7	−	[長方形]	5.70 ×[4.16]	8	平坦	−	−	−	−	炉	−	自然	土師器(高坏・甕・ミニチュア土器)，土玉	本跡→SD38・SD35
859	G10j7	N-5°-W	[長方形]	4.70 ×(3.94)	8~22	平坦	一部	−	4	1	竈	−	自然	土師器(坏)，須恵器(提瓶)，鉄	本跡→SI856・SI857
860	G10g9	N-8°-E	長方形	3.56 × 3.00	18	平坦	全周	1	−	−	竈	1	人為	須恵器(坏・壺)，支脚	
861	G11j2	N-81°-W	長方形	3.18 × 2.90	32~54	平坦	全周	−	−	−	竈	−	人為	土師器(坏・甕)，須恵器(壺)	本跡→SB33
862A	G10i2	N-0°	[長方形]	[4.02]×(3.00)	−	平坦	−	−	3	−	竈	−	−		SD35→本跡
862B	G10j2	−	−	−	−	平坦	−	−	−	−	竈	−	−		本跡→SD35
863	G10c0	N-0°	[長方形]	3.75 ×[2.92]	−	平坦	−	−	−	−	竈	−	人為	土師器(高台付坏・甕)，砥石	SI865→本跡
864	G10e0	N-20°-W	方形	4.56 × 4.38	10~40	平坦	一部	4	4	1	竈	−	人為	土師器(甕)，須恵器(坏・高台付坏・壺・盤)	SD41，SI865→本跡
865	G10d0	N-21°-W	長方形	8.30 × 6.54	20~30	平坦	一部	2	2	−	竈	1	人為	土師器(坏・高坏・鉢・甕・甑)，須恵器(坏)，土玉	本跡→SI864・863・SD41・SB28・29
866	G10f9	N-8°-W	長方形	2.94 × 2.50	20~28	平坦	一部	1	−	1	竈	−	人為	土師器(甕)	本跡→SI867
867	G10h9	N-0°	[方形]	[3.00]×[2.40]	−	平坦	−	1	4	−	−	−	−		SI866→本跡
868A	G11c2	N-6°-E	長方形	3.80 × 2.86	10	平坦	一部	−	−	−	竈	−	人為	土師器(坏)	本跡→SI868B
868B	G11c2	N-96°-E	[長方形]	3.40 ×[2.08]	10	平坦	一部	1	−	1	竈	−	人為	土師器(甕)	SI876→SI839→SI868A→本跡→SK661

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 整溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
869	G11g3	N-106°-E	[長方形]	[3.80]×[2.80]	20	平坦	−	−	−	−	竈	−	自然	須恵器(甕)	SI873→本跡
871	G11h1	N- 11°-W	方 形	4.90 × 4.84	20~24	平坦	全周	−	4	1	竈	−	人為	土師器(鉢), 須恵器(高台付坏・円面硯)	SI872→本跡→SI879・SK669
872	G11g1	N- 5°-W	方 形	5.50 × 5.12	6~24	平坦	一部	2	4	1	竈	−	人為	土師器(甕), 須恵器(壺)	SK667→本跡→SI871・874, SD41
873	G11g3	N- 3°-W	方 形	4.00 × 3.90	38~42	平坦	全周	−	4	1	竈	−	人為	土師器(甕), 須恵器(壺), 刀子	本跡→SI869→SI875
874	G11f1	N-104°-E	[方形]	[2.96] × 2.78	32	平坦	一部	1	−	−	竈	−	人為	土師器(高台付坏・甕)	SI872・SI876→本跡
875	G11e3	N- 4°-W	方 形	4.50 × 4.50	26	平坦	全周	−	4	1	竈	−	人為	土師器(甑), 須恵器(坏・高台付坏・高坏), 刀子	SI876→SI873→SE28→本跡
876	G11e2	N- 8°-W	方 形	8.52 × 8.36	32~42	平坦	全周	6	4	1	竈	1	人為	土師器(坏・高坏・甕), 勾玉	SI865→本跡→SE28・29, SK666→SI875→SI874・868B
877	G11h3	N- 9°-W	方 形	3.58 × 3.40	26~34	平坦	一部	3	3	−	竈	−	人為	砥石	本跡→SE34
878	G11i1	N- 88°-E	長方形	3.20 × 2.74	16~20	平坦	全周	−	4	−	竈	−	人為	土師器(坏・高台付坏)	SB33→本跡
879	G11h2	N- 5°-W	方 形	3.60 × 3.46	46	平坦	全周	−	3	1	竈	−	人為	須恵器(坏・甕), 砥石	SI871→本跡→SB32・34
880	H11a4	N- 6°-W	−	7.00 × (2.90)	60	平坦	全周	1	2	−	竈2	1	人為	土師器(坏・甕)	本跡→SD40
881	G11g4	N- 10°-W	方 形	5.18 × 5.00	20~50	平坦	全周	1	4	1	竈	−	人為	土師器(坏・高台付皿・甕), 須恵器(坏・鉢), 鉄鏃	
882	G11i4	N-105°-E	方 形	3.20 × 3.10	14~32	平坦	全周	−	1	1	竈	1	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・甕), 釘	SB32・34→本跡
883	G10j0	N- 90°-E	方 形	3.58 × 3.48	30~36	平坦	全周	1	1	1	竈	−	自然	土師器(高台付坏), 支脚, 紡錘車	SD41→本跡→SK610
884	H11a1	−	−	(1.80) × (0.52)	40	平坦	一部	−	−	−	−	−	人為	土師器(甕), 鎌, 鉄製紡錘車	本跡→SK609
885	G10i3	N- 2°-E	[方形]	[3.52]×[3.36]	6	平坦	一部	−	2	1	竈	−	自然	土師器(甕)	SD35・36→本跡
886	G12g6	N- 3°-W	方 形	6.48 × 6.44	20~34	平坦	全周	1	4	1	竈	−	人為	土師器(坏・高台付坏・高台付皿), 須恵器(坏), 砥石, 釘	SI888→本跡→SI840・SI836
888	G12h6	N- 7°-W	方 形	8.00 × 7.80	48~52	平坦	全周	1	4	1	竈	1	人為	土師器(坏・高坏・鉢・甕・甑・ミニチュア土器), 須恵器(ハソウ), 管玉, 白玉, 不明銅製品	SI903→本跡→SI886・896・900・897A
889	G13h2	N- 17°-W	方 形	5.20 × 5.00	38	平坦	全周	2	3	1	竈	−	人為	土師器(坏)	本跡→SI849・890
890	G13h2	N- 0°	−	[4.60]×(2.40)	30	平坦	一部	−	−	1	竈	−	自然	土師器(甑)	SI889→SI906→本跡→SD45・35
891	G13a2	N- 10°-W	方 形	5.70 × 5.60	6~30	平坦	全周	−	4	1	竈	1	人為	土師器(坏・甕・甑), 有孔石製品	本跡→SI892
892	G13j1	N- 25°-W	方 形	8.00 × 7.90	20~56	平坦	全周	−	4	1	竈	1	人為	土師器(坏・高坏・甕・ミニチュア土器), 勾玉, 砥石	SI891→SI792→本跡
896	G12i6	N- 3°-W	方 形	6.44 × 6.36	40~50	平坦	全周	−	4	2	竈	−	人為	須恵器(甕), 土玉	SI888→SI897A→本跡→SI897B→SI898
897A	G12j6	N- 10°-W	方 形	5.73 × 5.71	32~40	平坦	一部	−	2	1	−	−	人為	土師器(坏・鉢・甕・甑), 臼玉	本跡→SI896→SI897B→SI898
897B	G12i5	N- 4°-W	[方形]	4.43 × [4.11]	16~21	平坦	一部	−	−	2	竈	−	人為	須恵器(高台付坏・甕)	SI897A・SI888→SI896→本跡→SI898
898	G12j5	N- 90°-E	[長方形]	3.50 × [3.10]	16	平坦	−	−	−	1	竈	−	自然	土師器(高台付坏・皿), 土玉, 鉄鏃, 刀子	SI897A→SI896→SI897B→本跡
900	G12i7	N- 32°-W	方 形	4.90 × 4.78	37	平坦	全周	−	4	2	竈	−	人為	土師器(坏・甕), 臼玉	SI903→SI888→本跡→SI902B→SI902A
902A	G12j8	N- 90°-E	[長方形]	3.30 × [2.37]	13~20	平坦	−	−	−	1	竈	−	人為	土師器(坏・高台付坏), 鉄鏃, 刀子	SI900→SI902B→本跡
902B	G12i8	N- 0°	長方形	3.80 × 3.31	30~34	平坦	−	−	3	1	竈	−	人為	土師器(甑), 刀子, 鉄製紡錘車	SI900→本跡→SI902A
903	G12h8	N- 45°-E	[長方形]	[4.54] × [4.28]	14	平坦	一部	1	3	2	炉2	−	人為	土師器(坏・器台・甕)	本跡→SI900→SI888・SK709
904	G12d0	−	[方形]	[4.40] × [4.20]	−	平坦	−	1	−	−	炉	−	−	土師器(坏・器台・異形器台・甕), 管玉	本跡→SI833・SI836
905	G12g9	−	[方形]	[4.95] × [4.65]	34	平坦	一部	−	4	1	炉	−	人為	土師器(坏・甕)	本跡→SI843→SI844A→SI841
906	G13i2	−	−	6.08 × (2.60)	30	平坦	一部	2	2	−	−	−	人為		本跡→SI890→SD45→SD35

(2) 掘立柱建物跡

第28号掘立柱建物跡（第491図）

位置　調査11区の西部，G11e1区。

重複関係　西部で第865号住居跡を，東部で第876号住居跡を掘り込んでいる。また東部を第875号住居跡に掘り込まれている。

規模　梁行２間，桁行３間の側柱式の建物跡で，芯々間の梁行長約4.2m，桁行長約6.2mである。柱間寸法は梁行1.9～2.3m，桁行2.0～2.2mである。柱穴は，平面形が長径0.5m～1.1m，短径0.4～1.0mの円形や楕円形，隅丸長方形で，深さ24～59cmである。

桁行方向　N－8°－W

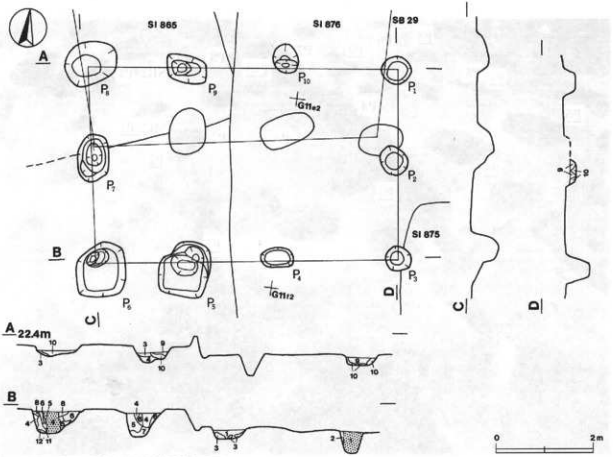
柱穴覆土　P3の第１層とP6の第４層は柱の抜き取り痕と考えられる。それを除く各層は突き固められていることから，埋土である。

P1～P10土層解説（各柱穴共通）

1	暗褐色	ローム小ブロック少量	
2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量	
3	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量	
4	褐　色	ローム小ブロック少量	
5	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量	
6	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量	
7	褐　色	ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量	
8	褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	
9	黒褐色	ローム小ブロック，焼土粒子微量	
10	黒褐色	ローム小ブロック・粒子微量	
11	褐　色	ローム小ブロック・粒子少量	
12	褐　色	ローム小ブロック微量	

遺物　土師器片101点，須恵器片20点がP1～P6，P8の埋土や柱の抜き取り層から出土している。細片のため図示できないものの，土師器甕片が96点，須恵器甕片14点及び坏片２点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や重複する竪穴住居跡との新旧関係から判断して８世紀後葉以降と考えられる。



第492図　第28号掘立柱建物跡実測図

第29号掘立柱建物跡（第493図）

位置　調査11区の西部，G11d1区。

重複関係　西部で第865号住居跡を，東部で第876号住居跡を，P6で第41号溝をそれぞれ掘り込み，第868A・868B号住居にP1が，第28号掘立柱建物にP2がそれぞれ掘り込まれている。

規模　梁行1間，桁行3間の側柱式の建物跡で，芯々間の梁行長約4.1m，桁行長約5.8mである。柱間寸法は桁行1.8～2.2mである。柱穴は，平面形が長径0.9～1.1m，短径0.5～0.7mの円形や楕円形，隅丸長方形で，深さ12～37cmである。

桁行方向　N－16°－W

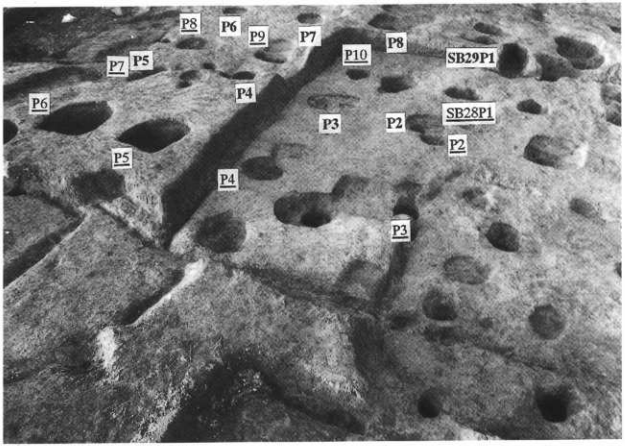
柱穴覆土　柱の抜き取り痕は確認できなかった。第4層が突き固められている。

P1～P6土層解説（各柱穴共通）

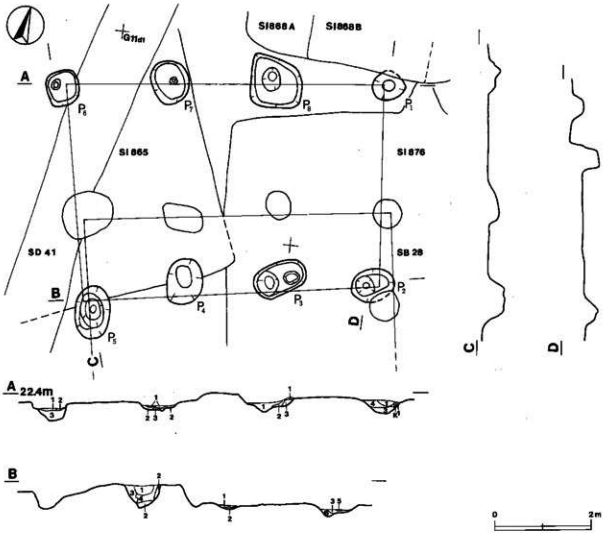
1　褐　色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・粒子中量，硬い。
5　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子微量
6　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片18点がP5を除く柱穴の埋土から出土している。いずれも古墳時代後期と考えられる甕や坏の細片である。

所見　本跡の時期は，6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる第865・876号住居跡を掘り込み，8世紀後葉と考えられる第28号掘立柱建物に掘り込まれていることから判断して，6世紀後葉から7世紀前葉以降，8世紀後葉以前と考えられる。



第28・29号掘立柱建物跡確認状況



第493図　第29号掘立柱建物跡実測図

第30号掘立柱建物跡（第494図）

位置　調査11区の中央部，G12j2区。

重複関係　第758・778号住居跡を掘り込み，第755～757号住居に掘り込まれている。

規模　梁行２間，桁行２間の総柱式の建物跡で，梁行長約4.3～4.5m，桁行長約5.3mである。梁間は2.2m，桁間は2.7mである。柱穴は，平面形が長軸0.8～1.2m，短軸0.7～1.0mの不整長方形で，深さは30～60cmである。

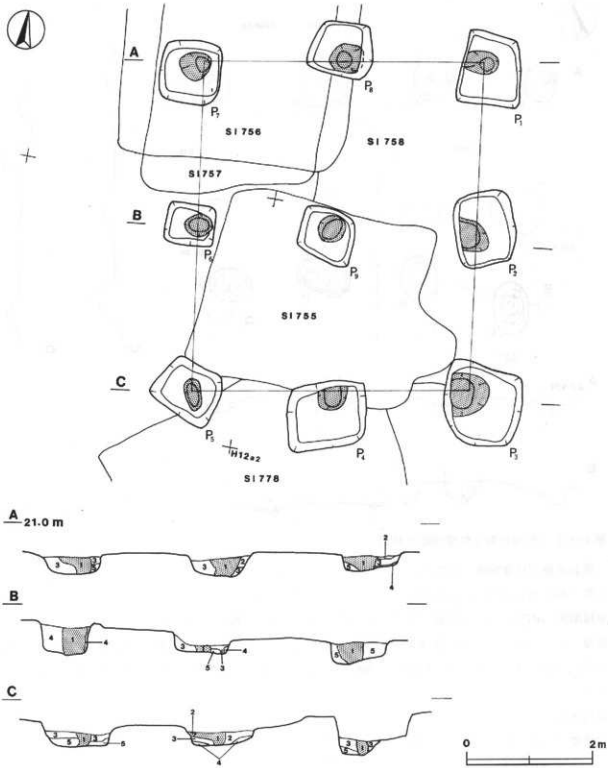
桁行方向　N－7°－W

柱穴覆土　第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固めていることから，埋土である。

土層解説（各柱穴共通）
1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

遺物　P1～P9の埋土から，土師器片114点及び須恵器片14点が出土している。第494図１の須恵器坏はP7の埋土から，２の須恵器蓋はP1の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器や重複する竪穴住居跡との新旧関係から，８世紀中頃と考えられる。



第494図　第30号掘立柱建物跡実測図

第30号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第495図 1	坏 須恵器	A [12.6] B 4.2 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・黒色粒子 褐灰色 普通	P110513 40% PL102 P7覆土中

第495図　第30号掘立柱建物跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第495図 2	壺 須恵器	B（1.8）	天井部片。つまみ部欠損。天井部は丸味を帯びて緩やかに下降する。	天井部外面回転ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色　普通	P110525　5% P L 102 P 1 覆土中

第31号掘立柱建物跡（第496図）

位置　調査11区の中央部，G12f1区。

重複関係　第769・770・773・777号住居跡を掘り込んでいる。

規模　梁行２間，桁行３間の側柱式の建物跡で，梁行長5.1m，桁行長5.6mの東西棟である。梁間は2.6m，桁間は2.8mである。柱穴は，平面形が長軸（径）1.0～1.4m，短軸（径）0.9～1.2mの隅丸長方形や楕円形で，深さは80～82cmである。

桁行方向　N－4°－W

柱穴覆土　第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固めていることから，埋土である。

土層解説（各柱穴共通）
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
5　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム大ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
8　暗褐色　粘土粒子多量

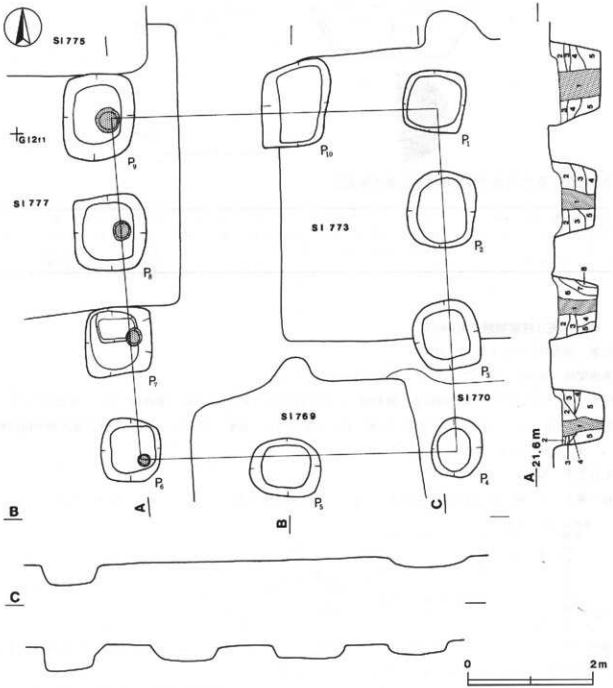
遺物　P1～P10の埋土から，土師器片42点及び須恵器片７点が出土している。第496図１の土師器甕の口縁部片はP5の埋土から，２の土玉はP6の覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土した遺物や９世紀前半に位置づけられる第769・770号住居跡の床面を掘り込んでいることから，それ以降と考えられる。

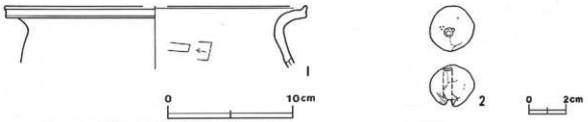
第31号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第497図 1	甕 土師器	A（24.0） B（5.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は強く屈曲して開く。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110129　5% P L 102 P5 覆土中

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径（cm）	長さ（cm）	孔径（cm）	重量（g）		
第497図2	土　玉	2.4	2.2	0.5	9.25	P6 覆土中	D P 11033　P L 105



第496図　第31号掘立柱建物跡実測図



第497図　第31号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第32号掘立柱建物跡（第498図）

位置　調査11区の西部，G11h3区。

重複関係　P1・P3・P11・P12が第34号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。P9・P10が第879号住居に，P4が第882号住居に掘り込まれている。

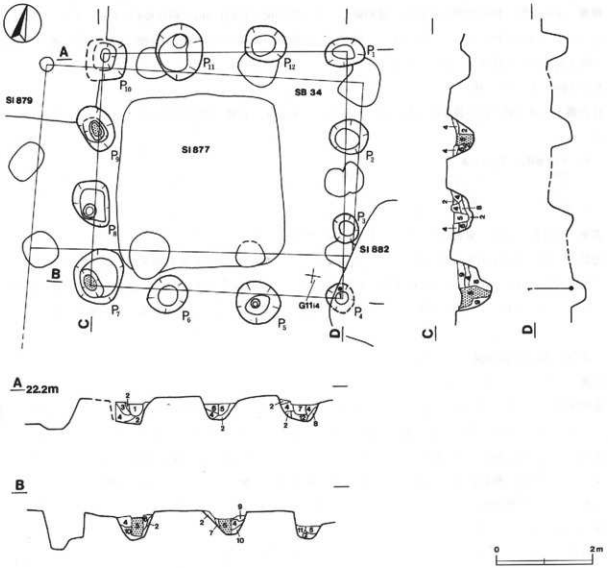
規模　梁行3間，桁行3間の側柱の建物跡で，芯々間の梁行長約5.1m，桁行長約5.2mである。柱間寸法は梁行1.6～1.8m，桁行1.6～1.8mである。柱穴は，平面形が長軸（径）0.5～1.2m，短軸（径）0.5～1.0mの隅丸長方形，楕円形で，深さ35～80cmである。

桁行方向　N－8°－W

柱穴覆土　第5層は柱の抜き取り痕と考えられる。それを除く各層は突き固められていることから，埋土である。

P1～P12土層解説（各柱穴共通）

1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
2　にぶい褐色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
4　褐　　色　ローム小ブロック・粒子少量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック微量
7　暗　褐　色　ローム中・小ブロック少量
8　褐　　色　ローム小ブロック少量
9　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
10　褐　　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム大ブロック微量
11　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
12　暗　褐　色　ローム小ブロック少量



第498図　第32号掘立柱建物跡実測図

第499図　第32号掘立柱建物跡出土遺物実測図

遺物　土師器片29点，須恵器片３点がＰ1，Ｐ3～Ｐ6，Ｐ8の埋土から出土している。第499図１の須恵器高台付坏は，Ｐ4の埋土上層から逆位で出土している。

所見　本跡の時期は出土土器から判断して，９世紀前葉以前と考えられる。

第 32 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第499図 1	高台付坏	B (6.0)	高台部から体部にかけての破片。体部は下位に稜を有し，外経して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 黄灰色　普通	P 112164　20% P L 102 P 4 覆土上層
	須恵器	D [12.6]				
		E　2.1				

第33号掘立柱建物跡（第500図）

位置　調査11区の西部，G11i1区。

重複関係　南部が第861号住居跡を掘り込み，西部が第878号住居に掘り込まれている。

規模　梁行２間，桁行２間の総柱式の建物跡で，芯々間の梁行長約4.0m，桁行長約4.6mである。柱間寸法は梁行1.9～2.1m，桁行2.2～2.4mである。柱穴は，平面形が長軸0.6～0.8m，短軸0.5～0.8mの隅丸方形または隅丸長方形で，深さ35～55cmである。

桁行方向　N－5°－W

柱穴覆土　第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。それを除く各層は突き固められていることから，埋土である。

Ｐ1～Ｐ8土層解説（各柱穴共通）
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
2　褐　色　ローム小ブロック中量
3　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量

遺物　土師器片11点，須恵器片３点が，Ｐ1・Ｐ4の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は出土土器が細片のため不明であるが，本跡のＰ3が６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる第861号住居跡を掘り込み，Ｐ5・Ｐ8が９世紀後葉から10世紀前葉と考えられる第878号住居に掘り込まれていることから，本跡は６世紀後葉から７世紀前葉以降，９世紀後葉から10世紀前葉以前と考えられる。

第34号掘立柱建物跡（第501図）

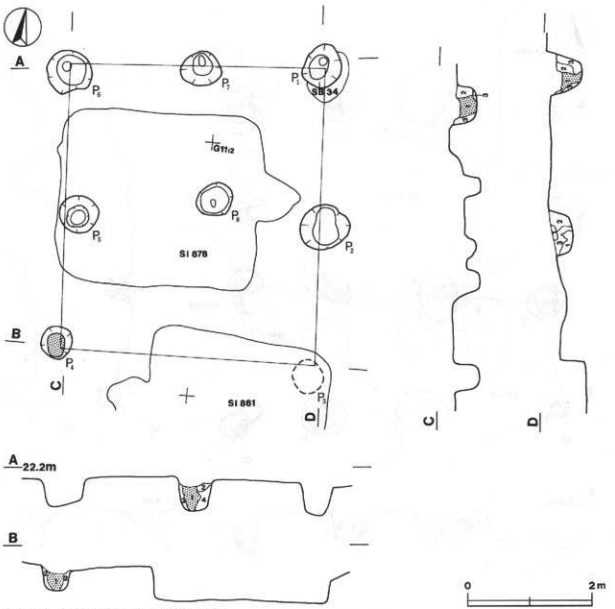
位置　調査11区の西部，G11h3区。

重複関係　第877号住居跡をＰ13・Ｐ14がそれぞれ掘り込んでいる。第879号住居にＰ10が，Ｐ3が第882号住居に，Ｐ6・Ｐ7が第40号溝に，東側部分が第32号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模　梁行３間，桁行３間の総柱式の建物跡で，芯々間の梁行長約6.4m，桁行長約6.5mである。柱間寸法は梁行2.1～2.3m，桁行1.9～2.6mである。柱穴は，平面形が長軸（径）0.3～1.0m，短軸（径）0.3～0.8mの不整長方形，不整方形，または楕円形，円形で，深さ42～80cmである。

桁行方向　N－10°－W

柱穴覆土　第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。それを除く各層は突き固められていることから，埋土である。



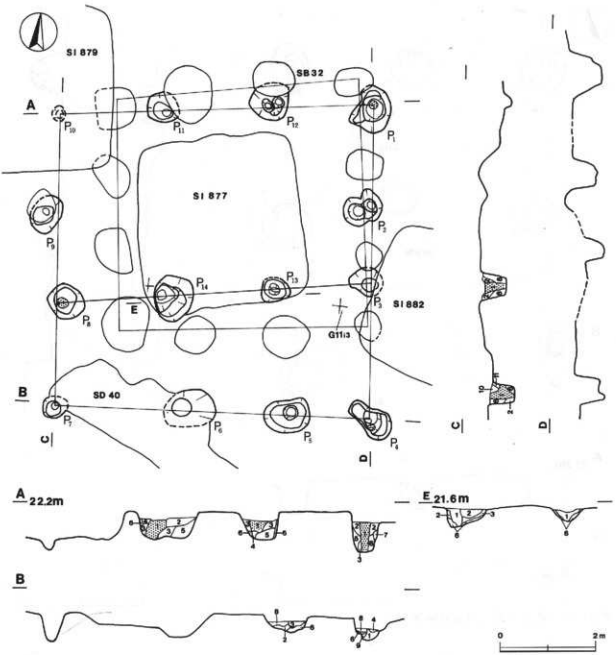
第500図　第33号掘立柱建物跡実測図

P1～P14土層解説（各柱穴共通）

1　暗褐色　ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム中・小ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
6　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
8　暗褐色　ローム小ブロック微量
9　明褐色　ローム大ブロック多量，ローム中ブロック中量
10　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
11　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量

遺物　土師器片98点，須恵器片８点が，P2・P6・P7・P10を除く各柱穴の抜き取り痕や埋土から出土している。そのうち土師器片93点は甕の体部細片である。また，土師器坏の細片が５点，須恵器甕の体部細片が７点，須恵器坏小片が１点出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や重複している遺構の時期から判断して，８世紀後葉から９世紀前葉と考えられる。



第501図　第34号掘立柱建物跡実測図

第36号掘立柱建物跡（第502図）

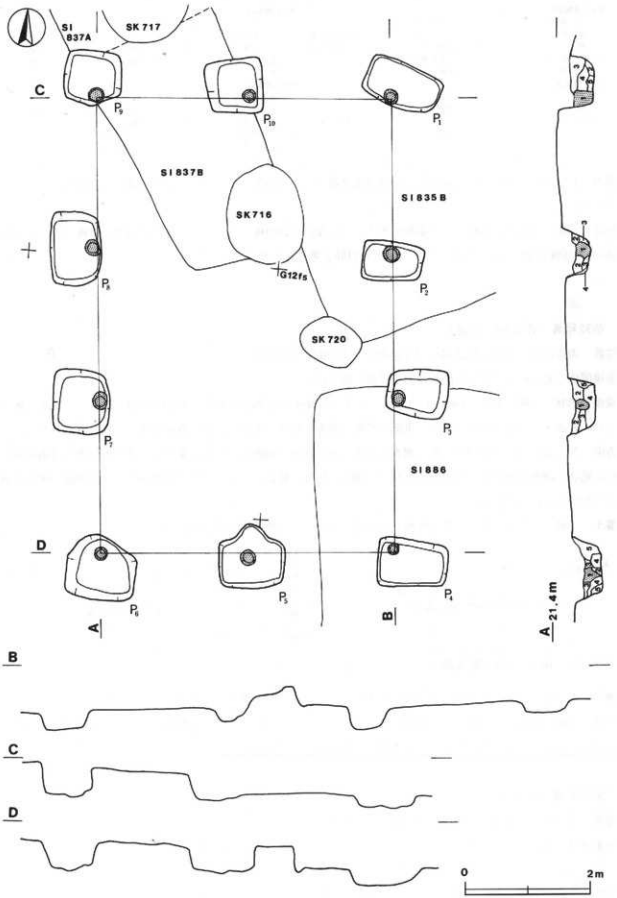
位置　調査11区の中央部，G12f5区。

重複関係　第835B・837A・837B・886号住居跡を掘り込んでいる。

規模　梁行２間，桁行３間の側柱式の建物跡で，梁行長4.7m，桁行長7.2mの南北棟である。梁間は2.4m，桁間は2.4mである。柱穴は，長軸0.9～1.2m，短軸0.7～0.9mの長方形で，深さは50～60cmである。

桁行方向　N－5°－W

柱穴覆土　各層とも第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層はロームブロックを多く含んで硬く締まっていることから，埋土と考えられる。



第502図　第36号掘立柱建物跡実測図

P6土層解説
1 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
3 褐色 ローム大ブロック中量，ローム小ブロック・粒子少量
4 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物少量
5 明褐色 ローム大ブロック多量

P8土層解説
1 褐色 ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
2 褐色 ローム大ブロック多量
3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
4 にぶい褐色 ローム小ブロック多量

P7土層解説
1 黒褐色 ローム中ブロック中量
2 明褐色 ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量
3 にぶい褐色 ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
4 褐色 ローム中ブロック多量，ローム大ブロック少量
5 褐色 ローム小ブロック多量

P9土層解説
1 褐色 ローム小ブロック中量
2 灰褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3 にぶい褐色 ローム中ブロック中量，ローム大・小ブロック少量
4 灰褐色 ローム大・中・小ブロック少量
5 にぶい褐色 ローム大・中ブロック中量

遺物 P6～P9の埋土から土師器片23点及び須恵器片3点が出土している。いずれも細片で，混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は，判断できる遺物が出土していないため明確ではないが，8世紀前葉に位置づけられる第886号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降と考えられる。

(3) 溝

第32号溝（第503図，付図3）

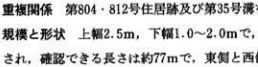
位置 調査11区の北部，F12c8区～F13d3区，F12c8区～G12b3区。

重複関係 第804・812号住居跡及び第35号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 上幅2.5m，下幅1.0～2.0mで，深さは最深部で40cmである。調査区域内ではクランク状に確認され，確認できる長さは約77mで，東側と西側で調査区域外へ延びている。断面は浅い「W」字形である。

方向 N－30°－E，N－80°－W。調査区北端でほぼ直角に屈曲し，一方は東方向に延びる。他方は南南西方向に延び，調査区中央部で西方向に折れて，調査区域外へ延びている。方向や形状から，11区西部の第38号溝とつながるものと思われる。

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。



A－A'土層解説
1 黒褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム中ブロック・粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物少量
6 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
7 暗褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

第503図 第32号溝土層実測図

遺物 土師器片7点及び須恵器片2点が出土している。いずれも細片で，混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は，判断できる遺物が出土していないため不明である。比較的浅く，調査区域境にある小道に沿って確認されていることから，区画溝あるいは根切り溝と考えられる。

第35号溝（第504図，付図3）

位置 調査11区の東端から西端，F12j4区～G10i2区。

重複関係 第811・829・831・845～849・853・858・890・906号住居跡を掘り込み，第813・818・830・885号住居，第36・37・39・41・45号溝及び第574・579・607号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 上幅2.0m，下幅1.0mで，確認できる長さは105mである。深さは最深部で115cmで，断面は逆台形である。調査区中央部を東西方向に延び，東端，西端でそれぞれ直角に曲がってともに南に延びている。

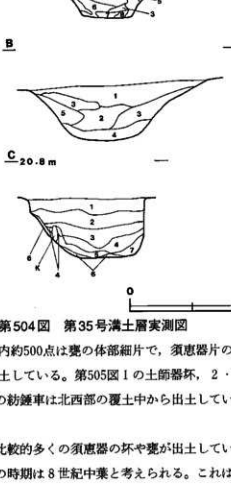
方向　N－85°－E，N－5°－W

覆土　レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

A－A'土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
3　明褐色　ローム中・小ブロック多量
4　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
6　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量
7　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子少量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
10　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム大ブロック少量
11　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

B－B'土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム中ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　暗褐色　ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子・ブロック・粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量

C－C'土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム大・小ブロック微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・粒子中量
7　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量



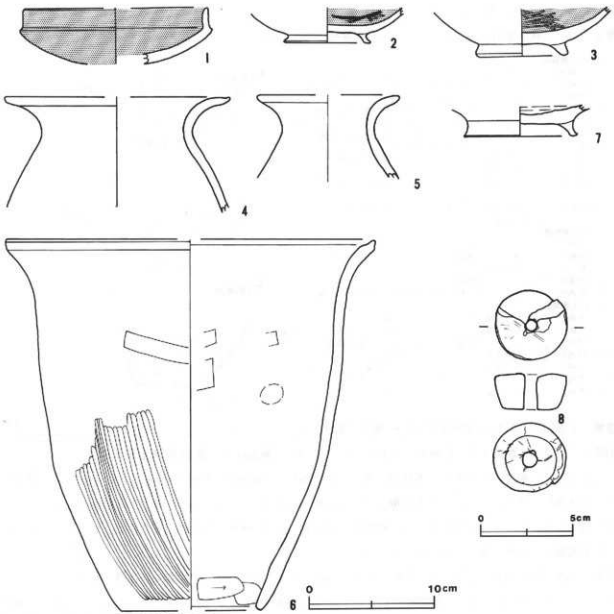
遺物　土師器片1,674点，須恵器片177点，縄文土器片７点，陶器片７点及び石製品１点（紡錘車）が出土している。出土した土器は，縄文から近世まで多時期に渡る。土師器片の内約500点は甕の体部細片で，須恵器片の多数が甕の体部細片である。ほとんどが溝の覆土中から分散して出土している。第505図１の土師器坏，２・３の土師器高台付坏，４・５の土師器甕，７の須恵器高台付坏，８の紡錘車は北西部の覆土中から出土している。６の土師器甑は北西部の覆土中から出土している。

所見　本跡の第８調査区部分から，遺構に伴うと判断できる比較的多くの須恵器の坏や甕が出土している。これらがいずれも８世紀中葉に位置づけられることから，本跡の時期は８世紀中葉と考えられる。これは，他の遺構との重複関係とも矛盾しない。

第505図　第35号溝出土遺物

第35号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 1	坏 土師器	A [14.6] B (4.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英に赤い褐色 普通	P110520　30% P L102 覆土中層
2	高台付坏 土師器	B (2.3) D 6.8 E 0.7	高台部から体部にかけての破片。高台は短く，「八」の字状に開き，端部が広がる。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面丁寧なヘラ磨き，外面ヘラナデ。高台部内・外面ナデ。底部に回転糸切り痕が残る。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子に赤い褐色 普通	P110521　20% P L102 覆土中層
3	高台付坏 土師器	B (3.8) D 6.6 E 1.1	高台部から体部にかけての破片。高台は短く，「八」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面丁寧なヘラ磨き，外面ロクロナデ。高台部内・外面横ナデ。底部に回転糸切り痕が残る。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子に赤い褐色 普通	P112320　20% P L102 覆土中層
4	甕 土師器	A [18.0] B (8.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英に赤い黄褐色　普通	P110522　10% P L102 覆土中層



第505図　第35号溝出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 5	甕 土師器	A [11.4] B (6.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は「コ」の字状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P 110323 P L 102 覆土中層　10%
6	甕 土師器	A [29.4] B 29.5 C [10.8]	体部から口縁部にかけての破片。無底。体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄色　普通	P 112321 P L 102 覆土中　30%
7	高台付坏 須恵器	B (2.2) C 8.8 E 1.0	高台部から底部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部には回転ヘラ切り痕が残る。高台部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰白色　普通	P 110524 P L 102 覆土中層　40%

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第505図8	紡錘車	3.8	1.9	0.7	32.0	滑石	覆土中	Q 112016

第36号溝（第506図，付図3）

位置　調査11区の西部，G10・H10区。

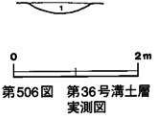
重複関係　第853号住居跡・第35号溝を掘り込んでいる。

規模と形状　長さ5.3m，上幅90～130cm，下幅31～52cm，深さ18～20cmで，断面は浅い「U」字形をしている。

方向　H10a3区から北方向（N－5°－W）に，直線的に延びている。

覆土　単一層である。覆土が薄いため堆積状況は確認できない。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量



第506図　第36号溝土層実測図

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため，不明である。8世紀前半と考えられる第35号溝を掘り込んでいることから，それ以降と考えられる。浅いことから，区画溝と考えられる。

第37号溝（第507図，付図3）

位置　調査11区の西部，G10区。

重複関係　第35号溝を掘り込み，第607号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長さ9.2m，上幅72～90cm，下幅35～50cm，深さ20～32cmであり，断面は「U」字形をしている。

方向　G10e3区から北方向（N－2°－E）に，直線的に延びている。

覆土　第4層はロームブロックの含有状況から人為堆積と考えられるが，他の層はレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量
3　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　暗褐色　ロームブロック多量

第507図　第37号溝土層実測図

遺物　土師器片120点，須恵器片39点が出土している。いずれも小片である。

所見　本跡の時期は，8世紀前葉と考えられる第35号溝を掘り込み，9世紀後半と考えられる第607号土坑に掘り込まれ，古墳時代後期から9世紀にかけての土器が出土していることから，9世紀と考えられる。

第38号溝（第508図，付図3）

位置　調査11区の西部，G10区。

重複関係　第858号住居跡，第37号溝を掘り込んでいる。

規模と形状　長さ21.2m，上幅90～120cm，下幅8～20cm，深さ15～60cmであり，断面は浅い「U」字形または，浅い「W」字形をしている。

方向　G10b3区から東方向（N－85°－W）に，直線的に延びている。

覆土　ロームブロックの堆積状況から，人為堆積と考えられる。

A－A′，B－B′土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量
2　明褐色　ローム大・中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，炭化粒子中量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子少量

第508図　第38号溝土層実測図

遺物　土師器片32点，須恵器片９点が覆土中から出土している。いずれも本跡に伴うものではなく，混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器が細片であるため不明である。９世紀と考えられる第37号溝を掘り込んでいることから，それより新しいと考えられる。比較的浅く，区画溝と考えられる。

第509図　第39号溝土層実測図

第39号溝（第509図，付図３）

位置　調査11区の西部，G10区。

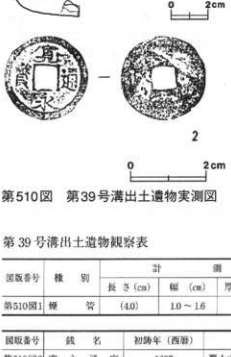
重複関係　第574A・574B・594A・594B・596・597A・597B，599号土坑，第35・38号溝をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状　長さ45.5m，上幅36～96cm，下幅６～52cm，深さ35cmで，断面は「U」字形をしている。

方向　G10h7区で屈曲し，北方向（N－5°－E）と西方向（N－90°－W）に，逆L字状に延びている。

覆土　レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量



第510図　第39号溝出土遺物実測図

遺物　土師器片140点，須恵器片16点，鉄製品１点（煙管），古銭１点が覆土中から出土している。第510図１の煙管，２の古銭（「寛永通宝」）は覆土中から出土している。土器片は本跡に伴うものではなく，混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，近世と考えられる。比較的浅いことから，区画溝と考えられる。

第39号溝出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第510図1	煙管	(4.0)	1.0～1.6	2.0	(5.50)	覆土中	M112022	PL110

図版番号	銭名	初鋳年（西暦）	出土地点	備考	
第510図2	寛永通宝	1697	覆土中	M112023　新寛永通宝	PL110

第40号溝（第511図，付図3）

位置　調査11区の南部，G11･H11区。

重複関係　第880号住居跡を掘り込み，第34号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長さ12.5m，上幅91～130cm，下幅55～77cm，深さ32～35cmであり，断面は「U」字形をしている。

方向　H11a5区から北西方向（N－54°－W）に，直線的に延びている。

覆土　レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

第511図　第40号溝土層実測図

遺物　土師器片122点，須恵器片11点が覆土中から出土しているが，いずれも小片で，混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，古墳時代後期から8世紀にかけての土器が出土していることから，8世紀以降と考えられる。また，重複関係からは，8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる第34号掘立柱建物跡より古いと考えられる。

第41号溝（第512図，付図3）

位置　調査11区の西部，G10･H10区。

重複関係　第865号住居跡・第604号土坑・第35号溝を掘り込み，第855・864・871・872・883号住居跡，第28号掘立柱建物跡，第609・610号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長さ39.3m，上幅60～138cm，下幅30～116cm，深さ8～16cmであり，断面は浅い「U」字形をしている。

方向　H10a0区から北方向（N－8°）に，直線的に延びている。

覆土　ロームブロックが多量含まれるものの，レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量
2　明褐色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量

第512図　第41号溝土層実測図

遺物　土師器片93点，須恵器片22点が覆土中から出土しているが，いずれも混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器が細片で判断できないため，不明である。重複している6世紀後葉と考えられる第865号住居跡より新しく，8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる第871・872号住居跡より古いと考えられる。

第42号溝（第513図，付図3）

位置　調査11区の中央部，G12c3区～G12d6区。

重複関係　第819・822・824・828・837A号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　上幅0.8m，下幅0.5mで，直線的に延び，長さは約12mである。深さは最深部で30cmで，断面は浅い「U」字形である。

方向　N－90°

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

A－A′土層解説
1　黒褐色　ローム中ブロック・粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量

第513図　第42号溝土層実測図

所見　本跡の時期は，判断できる遺物は出土していないが，8世紀後半に位置づけられる824号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降である。比較的浅いことから，区画溝あるいは根切り溝と考えられる。

第45号溝（第514図，付図3）

位置　調査11区の中央部，G13g3～G13i3区。

重複関係　第849・890・906号住居跡及び第35号溝を掘り込んでいる。

規模と形状　幅約1.2m，長さ約8mで，深さは15cmである。断面は浅い「U」字形である。

方向　N－10°－E

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

A－A′土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

第514図　第45号溝土層実測図

所見本跡は，時期を判断できる遺物は出土していないが，古墳時代の3軒の竪穴住居跡と8世紀前半に位置づけられる第35号溝を掘り込んでいることから，それ以降である。

(4)　道路状遺構

第4号道路状遺構（第515図，付図3）

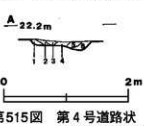
位置　調査11区の北西部，G11e8区～G11i9区。

重複関係　第754・761・766号住居跡を掘り込んでいる。

方向　N－10°－Wで，直線的に延びる。南端は調査区域内で確認面と同じ高さになって確認できなくなり，北端は調査区域外へ延びている。

規模と形状　上幅0.8m，下幅0.7mで，確認できる長さは22.5mである。深さは最深部で12cmで，断面は浅い「U」字をしている。

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。



土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子微量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック少量
6　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

第515図　第4号道路状遺構土層実測図

遺物　土師器片87点及び須恵器片7点が出土している。出土した土器はいずれも細片で，混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，判断できるような遺物が出土していないため不明である。重複する3軒の竪穴住居跡の中で一番新しい，8世紀前半に位置づけられる第754号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降である。

(5) 地下式壙

第17号地下式壙（第516図）

位置　調査11区の中央部，H12c2区。

重複関係　第762号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　竪坑は長軸1.20m，短軸1.10mの，長軸が主軸と直行する方形で，深さは80cmである。主室は長軸2.15m，短軸2.10mの，長軸が主軸と直行する方形で，深さは85cmである。天井部は崩落していて不明である。壁は竪坑・主室ともほぼ垂直に立ち上がる。底面は竪坑・主室とも平坦で，竪坑に比べて主室が5cmほどひくくなっている。

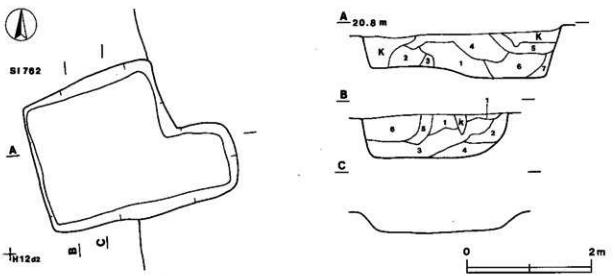
主軸方向　N－73°－E

覆土　粘土質土で，7層からなる。堆積状況から，1・2・6層が天井部の崩落土と考えられる。他の層はながれこんだもので，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム大ブロック・粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム大ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック・粒子少量
7　黒褐色　ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片62点及び須恵器片16点が出土している。土師器片の59点，須恵器片の13点は甕の体部細片で，他は坏細片である。いずれも混入したものと考えられる。

所見　本跡は，時期や性格を判断できる遺物は出土していないが，形状から中世の埋葬関連施設と考えられる。



第516図　第17号地下式壙実測図

第18号地下式壙（第517図）

位置　調査11区の中央部，H11c9区。

重複関係　第766号住居跡を掘り込み，第653号土坑に掘り込まれている。

主軸方向　N－73°－E

規模と形状　不定形である。竪坑及び主室の配置は「Y」字形で，Yの下部が竪坑で，「V」部分がそれぞれ主室と考えられる。竪坑はわずかに南に張り出しているだけで，ほとんど形を止めていない。主室はそれぞれ

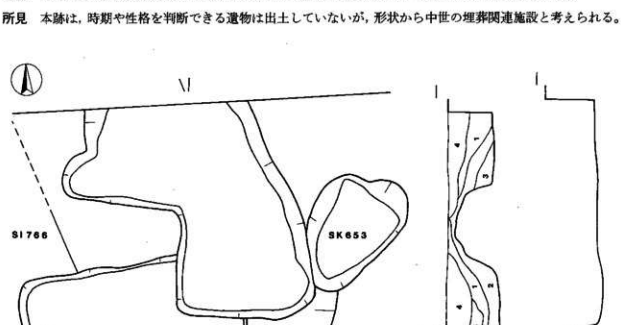
長軸3.60m，短軸1.40mで，深さは90cmである。天井部はいずれも崩落しており，形状は不明である。底面は平坦で，竪坑と主室の高低差はない。壁は竪坑・主室ともにほぼ垂直で，壁高はいずれも90cmである。

覆土　粘土質の土で，5層からなる。ローム ブロックや粒子が中量含まれることから，2・3層が天井部の崩落土と考えられる。その他の層は，流れ込んだものと考えられる。

A－A'土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
5　黒褐色　ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片12点及び須恵器片2点が出土している。いずれも細片で，混入したものと考えられる。

所見　本跡は，時期や性格を判断できる遺物は出土していないが，形状から中世の埋葬関連施設と考えられる。



第517図　第18号地下式壙実測図

第19号地下式壙（第518図）

位置　調査11区の中央部，G11j0区。

重複関係　第734号住居跡を掘り込んでいる。

主軸方向　N－85°－E

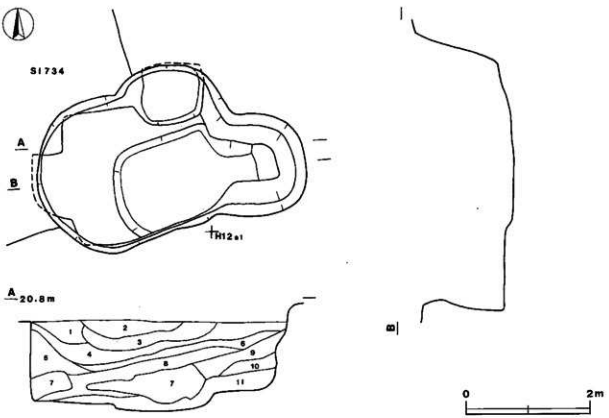
規模と形状　竪坑は長径1.60m，短径1.30mの，長軸と主軸が直行する楕円形である。主室は長径3.20m，短径2.50mの，長軸と主軸が平行な楕円形である。深さは竪坑・主室ともに160cmである。天井部は崩落していて，形状は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がり，壁高は160cmである。

覆土　粘土質の土で，11層からなる。ローム ブロックを多く含んでいる7～11層が天井部の崩落土と考えられる。その他の層は，流れ込んだものと思われる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック中量，炭化物少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量
5　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，ローム大ブロック・炭化物少量
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
7　褐　色　ローム大・中ブロック多量，ローム小ブロック中量，炭化物・炭化粒子少量
8　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
9　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム大・中ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
10　褐　色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量
11　褐　色　ローム中・小ブロック多量，ローム大ブロック・粒子中量，炭化物・炭化粒子少量

遺物　土師器片12点及び須恵器片２点が出土している。いずれも細片で，流れ込んだものと考えられる。

所見　本跡は，時期や性格を判断できる遺物は出土していないが，形状から中世の埋葬関連施設と考えられる。



第518図　第19号地下式壙実測図

第20号地下式壙（第519図）

位置　調査11区の中央部，G12b4区。

重複関係　第819・821・822号住居跡を掘り込んでいる。

主軸方向　N－11°－W

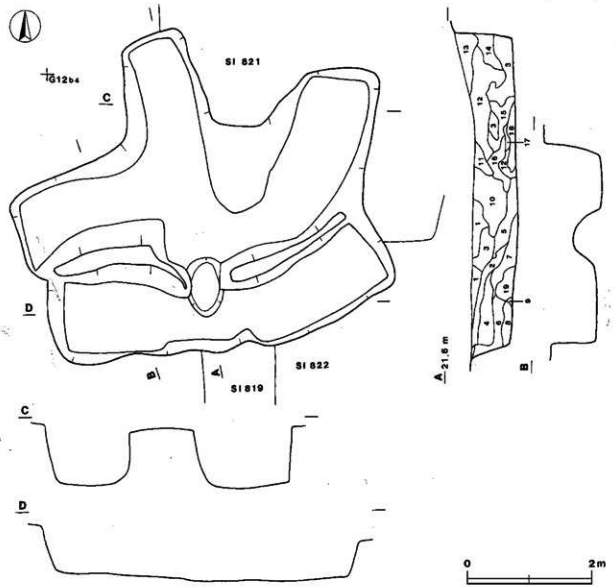
規模と形状　長軸2.30m，短軸0.90m，深さ100cmの５つの主室を，楓の葉形に配置した形状である。南壁中央部のわずかに張り出している南部中央部が竪坑と考えられ，ほとんど形を止めていない。天井部は崩落していて，形状は不明である。壁はいずれもほぼ垂直に立ち上がり，壁高は100cmである。底面は平坦で，竪坑と主室の段差はない。

覆土　粘土質の土で，19層からなる。ロームブロックや粘土ブロックが多く見られることから，埋め戻しによる人為堆積と考えられる。

土層解説
1 黒 褐 色 粘土大ブロック中量，ローム大ブロック・粘土粒子少量
2 黒 褐 色 ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・粘土大ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量，ローム大ブロック少量
4 極暗褐色 ローム大・中ブロック中量，粘土大ブロック少量
5 褐 色 ローム大ブロック中量，ローム粒子・粘土大ブロック少量
6 暗 褐 色 ローム大・中ブロック中量，ローム粒子少量
7 暗 褐 色 ローム大ブロック中量，ローム粒子少量
8 黒 色 ローム粒子・粘土中ブロック少量
9 褐 色 ローム粒子多量
10 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
11 黒 褐 色 ローム中ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック少量
12 極暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土中ブロック少量
13 黒 褐 色 ローム大ブロック・粒子少量
14 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
15 極暗褐色 粘土粒子中量，ローム粒子・粘土大ブロック少量
16 暗 褐 色 粘土粒子中量，焼土大ブロック少量
17 黒 色 ローム粒子・粘土粒子少量
18 明 褐 色 ローム粒子多量
19 明 褐 色 粘土大ブロック多量

遺物 土師器片12点及び須恵器片２点が出土している。いずれも細片で，混入したものと考えられる。

所見 本跡は，時期や性格を判断できる遺物は出土していないが，形状から中世の埋葬関連施設と考えられる。



第519図 第20号地下式壙実測図

(6) 土坑

第606号土坑（第520図）

位置　調査11の西部，G10c4区。

重複関係　第850号住居に掘り込まれている。

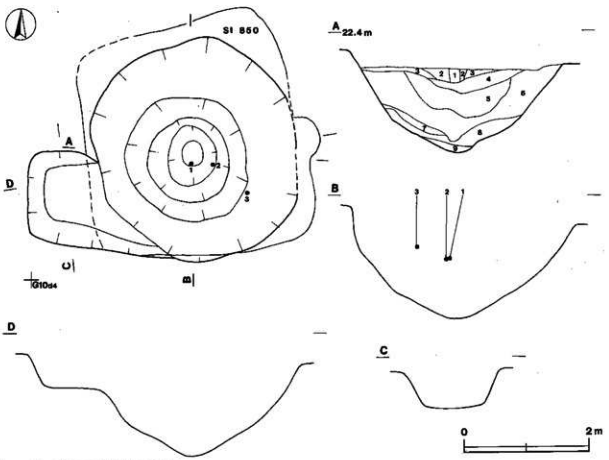
規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.30mの不定形で，深さ165cmである。壁は外傾して立ち上がる。底面は皿状である。灰白色の粘土層を掘り込んでいる。

長軸方向　N－0°

覆土　9層からなり，レンズ状の堆積状況から第7～9層は自然堆積と考えられる。第1～6層はブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。また，第1層から炭化材が多量に出土しているが，本跡上に第850号住居が構築されていることから，それに伴うものと考えられる。

土層解説

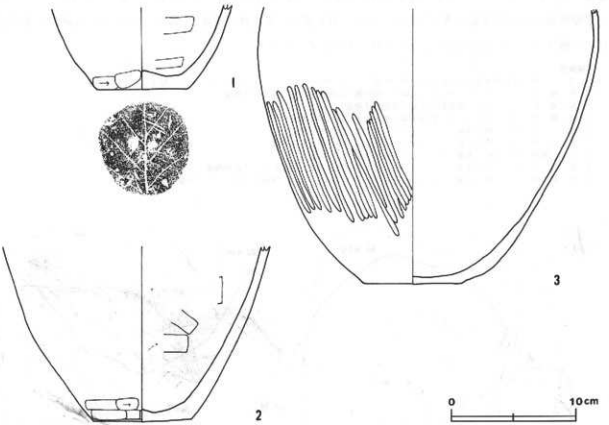
1	黒　色	炭化材多量，炭化物・炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量，炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
6	褐　色	ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，炭化粒子微量
7	にぶい褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
8	暗 褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
9	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒褐色土小ブロック少量，炭化物微量



第520図　第606号土坑実測図

遺物　土師器片255点，須恵器片20点が出土している。第521図１の土師器甕底部片は，中央部の覆土中層第５層から横位で出土している。２の土師器甕底部片は，中央部やや東寄りの覆土中層第５層から正位で出土している。３の土師器甕は，南東部の覆土中層第５層から出土した破片が接合したものである。第５層から土師器坏片24点，甕片98点，須恵器甕片３点，蓋片２点，第６層から土師器坏片19点，高坏片１点，甕片92点，鉢片２点，須恵器坏片１点，甕片６点，鉢片３点が出土しているが，いずれも小片である。

所見　本跡の時期は，10世紀前葉と考えられる第850号住居が本跡の上に構築されていることや，古墳時代後期から８世紀後半にかけての土器が出土していることから，８世紀後半以降から10世紀前葉以前と考えられる。



第521図　第606号土坑出土遺物実測図

第606号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第521図 1	甕 土師器	B（6.5） C 7.2	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ナデ。下端ヘラ削り。内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色　普通	P112328　20% P L103 中央部覆土中層
2	甕 土師器	B（14.0） C 7.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ナデ。下端ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 白色粒子 赤色　普通	P112327　40% P L103 中央部からやや東寄り覆土中層
3	甕 土師器	B（22.0） C 7.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面斜位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰褐色 普通	P112329　40% P L103 南東部覆土中層

第607号土坑（第522図）

位置　調査11区の西部，G10e2区。

重複関係　東部で第35・37号溝をそれぞれ掘り込み，南部で第608号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.30m，短軸2.70mの不定形で，深さ150cmである。壁は外傾して立ち上がる。底面は皿状である。青灰色の粘土層を掘り込んでいる。

長軸方向　N－13°－E

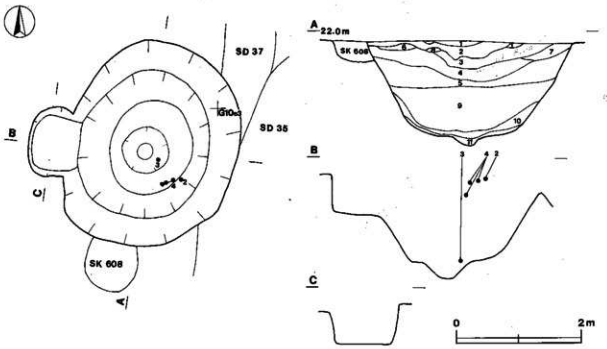
覆土　11層からなり，第9層以外はレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第9層は約70cmほどの，ロームブロックを中量含む同一質の褐色土層であり，一挙に埋め戻されているものと考えられる。

土層解説

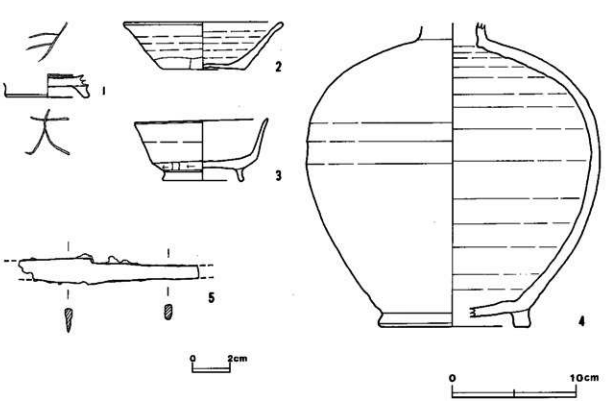
1　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子多量，炭化物少量，ローム小ブロック・粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
6　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量

遺物　土師器片418点，須恵器片121点，灰釉陶器片12点，鉄製品1点（刀子），鉄滓6点が出土している。第523図1の土師器高台付坏は遺構確認面から出土している。2の須恵器坏は，中央部からやや南東寄りの覆土上層第2層から横位で出土している。3の須恵器高台付坏は，中央部の覆土下層第9層からほぼ正位で出土している。4の灰釉陶器長頸瓶は中央部覆土中層から上層にかけて出土した破片が接合したもので，猿投窯折戸10号窯式と考えられる。5の刀子は覆土上層から出土している。その他，覆土第1層から土師器片5点，須恵器片1点，覆土第2層から土師器片53点，須恵器片1点，鉄滓13点，覆土第3層から土師器片3点，須恵器片1点，覆土第4層から土師器片22点，須恵器片6点，覆土第5層から土師器片46点，須恵器片26点，鉄滓2点，覆土第6層から土師器片7点，須恵器片5点，その他覆土中から土師器片，須恵器片，鉄滓がそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，古墳時代後半から9世紀後半にかけての土器が出土していることから，9世紀後半以降と考えられる。



第522図　第607号土坑実測図



第523図　第607号土坑出土遺物実測図

第607号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第523図 1	高台付坏 土師器	B (1.8) D 6.5 E (1.0)	高台部から底部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，ナデ。内面丁寧なヘラ磨き。高台部貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母にぶい橙色 普通	P112322　5% PL103　底部刻書「大」，底部内面線刻　遺構確認面
2	坏 須恵器	A 12.7 B 4.3 C 6.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，上位で軽く外反し，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部切り離し痕を残す二方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P112323　80% PL103　中央部やや南寄り覆土上層
3	高台付坏 須恵器	A 10.7 B 4.9 D 6.4 E 0.9	口縁部・体部一部欠損。体部は下位に稜を有し外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削りの後，高台貼り付け。	砂粒・長石・石英・黒色粒子 灰色 普通	P112324　90% PL103 中央部覆土下層
4	長頸瓶 灰釉陶器	B (24.4) D 11.8 E 1.3	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部上位ロクロナデ。体部下位横ナデ。内面横ナデ。底部・口縁部ナデ。	砂粒・長石・黒色粒子 灰色 釉暗オリーブ 緻密　良好	P112026　30% PL103　覆土中層，覆土上層 折戸10号窯式

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第523図5	刀子	(9.7)	1.4	0.4	(12.0)	覆土上層	M112024　PL108

第659号土坑（第524図）

位置　調査11区の南部，H12c4区。

重複関係　第789号住居跡を掘り込んでいる。

長軸方向　N－2°－W

規模と形状　南部が調査区域外へ延びているため，確認できたのは長軸（2.15）m，短軸2.10mで，深さは85

cmである。平面形は長方形と推定される。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

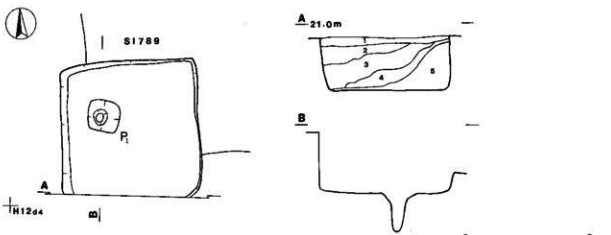
ピット　1か所。P1は北西コーナー寄りに位置し，上端は一辺約40cmの方形，下端は径約20cmの円形で，深さは65cmである。形状から柱穴と考えられるが，性格は不明である。

覆土　5層からなる。ロームブロックが相当量含まれていることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム大・中ブロック中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片13点及び須恵器片6点が出土している。いずれも細片で，混入したものと考えられる。

所見　竪穴住居跡として調査を開始したが，床面の硬化が見られないことや，竈や炉等の施設が確認できなかったことから，土坑として取り扱った。時期は，判断できる遺物は出土していないが，8世紀後半に位置づけられる第789号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降である。



第524図　第659号土坑実測図

第707号土坑（第525図）

位置　調査11区の北部，H12c5区。

重複関係　第789・793・794号住居跡を掘り込んでいる。

長軸方向　N－2°－W

規模と形状　南部が調査区域外へ延びているため，確認できたのは長軸（2.20）m，短軸2.15mで，深さは90cmである。平面形は長方形と推定される。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

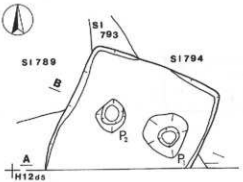
ピット　2か所（P1・P2）。P1は北東コーナー寄りに位置し，径約60cmの円形で，深さ67cm，P2は北西コーナー寄りに位置し，径約40cmの円形で，深さは65cmである。規模と形状から柱穴と考えられるが，性格は不明である。

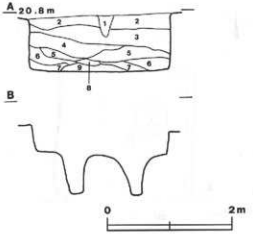
覆土　9層からなる。ロームブロックや粘土ブロックが多量に含まれることから，人為的堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化物微量
5　極暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量
6　黒 褐 色　ローム中・小ブロック・粒子微量
7　暗 褐 色　ローム大ブロック少量，ローム中・小ブロック微量
8　黒 褐 色　粘土大ブロック多量，ローム中・小ブロック少量
9　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック少量，ローム中ブロック微量

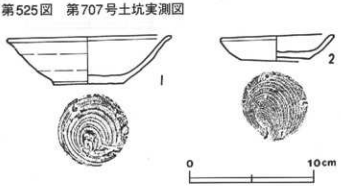
遺物　土師器片14点及び須恵器片20点が出土している。第526図1の土師器坏，2の土師器皿は覆土中から出土している。

所見　竪穴住居跡として調査を開始したが，床面の硬化が見られないことや，竈や炉等の施設が確認できなかったことから，土坑として扱った。時期は，出土した土器や，9世紀末から10世紀初めに位置づけられる第793号住居跡を掘り込んでいることから，10世紀後半と考えられる。





第525図　第707号土坑実測図



第526図　第707号土坑出土遺物実測図

第707号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第526図 1	坏 土師器	A 13.0 B 3.8 C 5.6	口縁部・体部一部欠損。平底。底部突出気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色　普通	P110518　70% PL103 覆土中
2	皿 土師器	A 8.9 B 2.0 C 5.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は軽く内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110519　80% 覆土中

表 12　熊の山遺跡 11 区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
574	G 10h3	N- 0°	楕円形	2.30×[2.10]	88	緩斜	平坦	人為		SD－35と重複
594A	G 10h4	N- 6°-W	[円形]	[1.34]×[1.34]	108	外傾	平坦	－		SD－39・SK－594Bと重複
594B	G 10h4	N- 6°-W	[楕円形]	[1.36]×1.26	108	外傾	平坦	人為		SD－39・SK－594Aと重複
595A	G 10h5	N- 0°	[円形]	[1.10]×[1.04]	84	垂直	平坦	人為		SK－595B・SK－596と重複
595B	G 10g5	N-90°-E	[楕円形]	[1.24]×[1.06]	108	内傾	平坦	人為		SK－595A・SK－596と重複
596	G 10h5	N- 3°-E	[隅丸長方形]	[2.84]×0.76	110	垂直	平坦	－		SK－595AB・SD－39と重複
597A	G 10h4	N-90°-E	[楕円形]	[1.24]×0.94	92	垂直	平坦	－		SD－39・SK－597Bと重複
597B	G 10h4	N- 0°-W	[楕円形]	1.10×[1.00]	78	垂直	平坦	－		SD－39・SK－597Aと重複
598	G 10j3	N-76°-E	楕円形	0.80×0.68	42	緩斜	皿状	人為		SI853→本跡
599	G 10h3	N-23°-E	楕円形	1.10×1.00	80	垂直	平坦	人為		SD－35・SD－39と重複
602	G 10d5	N-26°-W	円形	1.54×1.54	98	垂直	平坦	人為		
604	G 10h0	N-80°-E	[楕円形]	[0.80]×0.58	22	緩斜	平坦	人為		SD－41と重複
605	G 10i5	N-50°-W	楕円形	1.30×1.18	34	外傾	平坦	自然	土師器片	
606	G 10c4	N- 0°-W	不定形	3.50×3.30	165	外傾	皿状	自然	土師器(甕)，須恵器片	本跡→SI850
607	G 10e2	N-13°-E	不定形	3.30×2.70	150	外傾	皿状	自然	土師器(高台付坏)，須恵器(坏・高台付坏)，灰釉陶器(長頸瓶)，鉄製品(刀子)	SK608・SD－35・SD－37と重複
608	G 10e2	N-39°-W	楕円形	1.00×0.90	30	外傾	平坦	－	土師器片，須恵器片	SK－607と重複
609	H 10a0	N-90°	長方形	(2.35)×0.80	76	垂直	平坦	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(甕)	SI844→本跡，SD41→本跡
610	G 10j0	N-11°-W	円形	0.80×0.75	32	外傾	平坦	人為	土師器(坏・甕)	SI883→本跡，SD41
653	G 11c0	N-33°-E	不整楕円形	0.95×0.70	82	外傾	平坦	人為		第18号地下式横一本跡
654	G 11f7	N-21°-W	楕円形	1.10×0.95	52	外傾	平坦	自然	土師器(坏・甕)，鉄滓	SI764→本跡
655	G 11e8	N- 2°-W	円形	1.00×0.95	25	外傾	平坦	自然		SI764→本跡
659	H 12c4	N- 2°-W	不明	(2.15)×2.10	70	垂直	平坦	自然		SI789→本跡
661	G 11c2	N-77°-E	楕円形	0.95×0.70	32	緩斜	皿状	人為	土師器(甕)，須恵器(甕)	SI868B→本跡
662	G 11c2	N-88°-E	楕円形	1.00×0.80	50	外傾	皿状	人為		SK665と重複
664	G 11c3	N-45°-E	楕円形	1.15×1.00	38	外傾	平坦	人為		
665	G 11d2	N-78°-E	楕円形	1.10×[0.95]	52	緩斜	皿状	人為		SI876，SK662と重複
666	G 11e3	N- 0°	隅丸長方形	1.10×1.10	36	緩斜	皿状	自然	土師器(坏・甕)	SI876→本跡
667	G 10f0	N-52°-W	楕円形	0.92×0.78	38	外傾	平坦	人為		SI872→本跡
669	G 11h1	N-90°	不整楕円形	0.72×0.60	60	緩斜	皿状	人為		SI871→本跡
670	G 10h0	－	円形	0.60×0.60	58	外傾	皿状	自然	土師器(甕)	
671	G 11i1	－	円形	0.85×0.85	46	外傾	皿状	人為	土師器(甕)，須恵器(壺)	S1838→本跡
701	G 12j9	N-87°-E	隅丸長方形	1.90×0.85	60	外傾	平坦	自然	縄文上器(鉢)，土師器(甕)	S1838→本跡
705	G 12i6	N-22°-E	楕円形	1.02×0.80	42	緩斜	皿状	人為	土師器(坏・甕)	
706	H 12c4	N-88°-E	楕円形	1.10×0.95	55	外傾	平坦	不明	土師器(甕)，須恵器(甕)	SI888→本跡
707	H 12c5	N- 2°-W	不明	(2.20)×2.15	90	垂直	平坦	自然		SI789A→本跡
709	G 12b8	N-48°-E	楕円形	0.90×0.72	50	緩斜	皿状	人為	土師器(坏)	SI903→本跡
711	G 12h7	N-48°-E	[楕円形]	(0.64)×0.50	48	緩斜	皿状	人為		SI888→本跡
716	G 12e4	N- 4°-W	楕円形	1.60×1.35	35	外傾	平坦	自然		SI835B・SI837B→本跡
717	G 12e4	－	円形	1.40×1.40	45	外傾	平坦	人為		SI837A→本跡
720	G 12f5	N-90°	楕円形	1.00×0.80	40	垂直	平坦	人為	土師器(坏)	SI835B→本跡

(7) 遺構外出土遺物

11 区遺構外出土遺物観察表

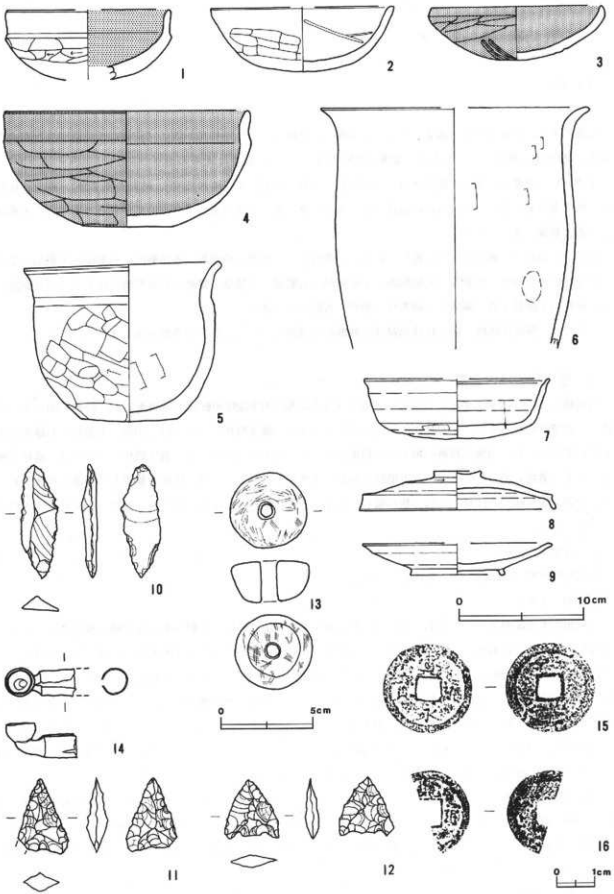
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第527図 1	坏 土師器	A [12.9] B (3.6)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内面黑色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 112165 40% 表採
2	坏 土師器	A [14.6] B 5.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。輪積痕。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P 112166 40% 表採
3	坏 土師器	A 13.4 B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜をもち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黑色処理。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色　普通	P 110527 95% 表採
4	坏 土師器	A 19.2 B 9.1 C 7.0	口縁部から体部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面強い横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ撫り後，ヘラナデ。内・外面黑色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P 110526 85% 表採
5	甕 土師器	A 15.4 B 12.7 C 7.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。底部不定方向へのヘラ削り。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P 112167 60% 表採
6	甕 土師器	A [21.0] B (19.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色　普通	P 112168 20% 表採
7	坏 須恵器	A [14.6] B 4.8 C 8.3	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄色 普通	P 112169 30% 表採
8	壺 須恵器	A 15.4 B 3.1 F 3.6 G 0.5	外周部・口縁部一部欠損。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は想曲し，短く垂下する。つまみは環状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P 112170 90% 表採
9	皿 灰釉陶器	A [15.0] B 2.5 C [7.5] D 0.5	高台部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	体部外面ロクロナデ。高台部貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石 胎土　灰黄色 釉灰オリーブ色 緻密	P 112325 50% P L 103 表採 黑笹 14 号窯式

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第527図10	石刃	6.0	2.0	0.7	7.55	頁岩	表採	Q 11020　P L 107
11	石鏃	2.0	1.4	0.5	0.94	黑曜石	表採	Q 11017　P L 107
12	石鏃	1.6	1.6	0.4	0.73	黑曜石	表採	Q 11014　P L 107

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第527図13	紡錘車	4.0	2.2	0.85	49.0	凝灰岩	表採	Q 112018

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第527図14	經管(羽口)	(3.9)	1.3～1.5	1.7	7.05	表採	M 112026

図版番号	銭名	初鋳年(西暦)	出土地点	備考
第527図15	寛永通宝	1097	表採	M 112027　新寛永通宝　P L 110
16	寛永通宝	1097	表採	M 11023　新寛永通宝　P L 110



第527図　遺構外出土遺物実測図

第4節　ま　と　め

はじめに

本報告書は，平成9年度に調査したつくば市熊の山遺跡のうち，平成10年度に『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集で報告したものを除く遺構と遺物を扱っている。概要は次のとおりである。

確認された遺構は，竪穴住居跡242軒（古墳時代115軒，奈良・平安時代124軒，時期不明3軒），掘立柱建物跡19棟，溝14条，井戸3基，道路状遺構4条，地下式壙7基，土坑93基（その内性格がわかるものは，火葬施設2基，墓壙1基）である。

出土した遺物は，縄文時代の土器片・石器，古墳時代の土師器・須恵器・金属製品・石製品・土製品，奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・金属製品・石製品・土製品，鎌倉から室町時代にかけての青銅鏡，中・近世の土師質土器・陶器片・磁器片・煙管・古銭などである。

ここでは，竪穴住居跡，掘立柱建物跡及び特徴的な遺物について，若干の考察を加えまとめとしたい。

1　竪穴住居跡の変遷

当遺跡では，今回報告するものを含め，過去4年間に竪穴住居跡850軒以上を調査した。時期不明のものを除き，古墳時代から奈良・平安時代にかけてのものである。縄文時代については，少数の土器片と石鏃が出土していることから，当地が狩猟の場として利用されていたことがうかがえる。弥生時代については，遺構も確認されず，遺物も出土していない。古墳時代前期（4世紀）になって，竪穴住居を構築して集落が形成されたが，中期（5世紀）には竪穴住居の数が減り，後期（6・7世紀）になると際だって増加し，奈良・平安時代に至っている。

(1)　古墳時代

古墳時代の竪穴住居跡を，4期に分けて検討してみたい。

第1期（4世紀）

今回報告する範囲では，中央部の5区で1軒，隣接する北部の11区で18軒の竪穴住居跡が確認されている。平面形は方形または長軸・短軸の差が小さい長方形で，規模は11区の第858号住居跡の長軸5.70mが最大で，11区の第808号住居跡の一辺2.70mが最小である。確認面からの掘り込みは，比較的浅いものが多い。主軸方向は，西に比較的大きく振れ，住居跡の向かい合うコーナーを結ぶ対角線が，それぞれ東西方向，南北方向を指すものが多い。炉は16軒で確認され，中央部，中央部やや北寄り，あるいは北コーナー寄りに設置されている。貯蔵穴は11区の第751・764・772号住居跡で確認されている。11区のこの時期の竪穴住居跡は，調査区域の東部に多く，比高7mほどの谷に臨む台地縁辺部を中心に分布している。

過去4か年の調査で，この時期の竪穴住居跡は46軒確認されている。表2は各区における1000㎡あたりの各時期の竪穴住居跡数を表したもので，表から5区，南東部の6区，11区がそれぞれ1000㎡あたり，1.14軒，1.91軒，2.66軒であることから，この期の竪穴住居跡が調査区域の北部から南東部の台地縁辺部付近に比較的密に分布していることが読み取れる。

第2期（5世紀）

今回報告する範囲では，4世紀末から5世紀前葉に位置づけられるものを含めて，4軒だけである。過去4

か年の調査では12軒確認され，南東部の６区に６軒が集中している。

第３期（６世紀）

今回報告する範囲では，５区で１軒，11区で18軒の竪穴住居跡が確認されている。平面形は方形または長軸・短軸の差が小さい長方形で，規模は11区の第811号住居跡の長軸9.90m，短軸9.50mが最大で，11区の第787号住居跡の一辺3.05mが最小である。確認面からの掘り込みの深さは，他の時期に比べて深い。主軸方向は，N－0°～40°－Wの範囲に比較的集中している。N－40°－Wを超えるものが２軒，N－１～11°－Eが７軒である。確認できるものについては，すべてに竈が付設され，その場所は北壁または北西壁である。４区の第416号住居跡と11区の第827号住居跡は竈が西壁に付設されている。貯蔵穴は15軒で確認され，５区の第738号住居跡には２か所の貯蔵穴が設けられている。また，多くの竪穴住居跡が４か所の主柱穴と１か所の出入口ピットをもっている。

過去４か年の調査で，この時期の竪穴住居跡は131軒確認されている。表２から，各調査区域の竪穴住居跡は，1000㎡あたり，中央部の３区が4.19軒，11区が6.95軒であることから，調査区域の北寄りに住居跡が密に分布していることがわかる。

第４期（７世紀）

今回報告する範囲では，西部の４区で５軒，５区で６軒，南部の７区で６軒，南西部の８区で６軒，11区で11軒の竪穴住居跡が確認されている。平面形は方形または長軸・短軸の差が小さい長方形で，規模は11区の第876号住居跡の長軸8.52m，短軸8.36mが最大で，11区の第834B号住居跡の１辺3.00mが最小である。確認面からの掘り込みの深さは，他時期に比べて深い。主軸方向は，N－０～40°－Wの範囲で比較的分散している。確認できるものについては，すべてに竈が付設され，その場所は北壁または北西壁である。貯蔵穴は８軒で確認されている。また，多くが４か所の主柱穴と１か所の出入口ピットをもち，他に性格不明のピットをもつものも少なくない。11区の第870号住居跡は貯蔵穴と４か所の主柱穴，１か所の出入口ピットの他に６か所のピットをもっている。

過去４か年の調査で，この時期の竪穴住居跡は99軒確認されている。表２から，1000㎡あたり，３区で2.66軒，５区で4.25軒，６区で2.62軒確認されていることから，東部に入り込んだ小さな谷を回むように，竪穴住居跡が比較的密に分布していることがうかがえる。

(2) 奈良・平安時代

奈良・平安時代を３期に分けて検討する。

第１期（８世紀）

今回報告する範囲では，４区で２軒，５区で３軒，６区で８軒，８区で１軒，９区で１軒，11区で32軒の竪穴住居跡が確認されている。平面形は方形または長軸・短軸の差が小さい長方形で，規模は11区の第886号住居跡の長軸6.48m，短軸6.44mが最大で，６区の第686号住居跡の一辺2.75mが最小である。確認面からの掘り込みの深さは，前期に比べて浅くなっている。主軸方向は，６・７世紀に比べて北からの振れ幅が小さくなり，N－０～20°－W・Eの範囲にほとんどが収まっている。確認できるものについては，竈はほとんどが北壁に付設されている。貯蔵穴はわずかに３軒で確認されただけである。また，４か所の主柱穴と１つの出入口ピットが確認されるのが一般的である。

過去４か年の調査で，この時期の竪穴住居跡は156軒確認されている。表２から，1000㎡あたりの竪穴住居跡数は，６区，７区，11区がそれぞれ5.13軒，5.12軒，4.73軒で比較的多く，１区及び２区には分布しておらず，３区，４区，８区，南西部の９区が少なくなっている。この期の竪穴住居跡も調査区域の東部に多く，西

部に少ないことがわかる。

第6期（9世紀）

今回の報告では，4区で2軒，5区で1軒，6区で1軒，8区で11軒，9区で2軒，11区で29軒の竪穴住居跡が確認されている。平面形は方形または長軸・短軸の差が小さい長方形で，規模は8区の第918号住居跡の長軸6.55mが最大で，11区の第866号住居跡の一辺2.50mが最小である。前期に比べて小形になっている。また，確認面からの掘り込みの深さも，一段と浅くなっている。主軸方向は，N－0°が8軒，N－1～10°－Wが18軒，N－11～21°－Wが3軒，N－1～10°－Eが9軒である。N－10°－Eを超えるものが8軒あり，その内第838・841・898号住居跡は主軸方向が東西を向く。この期の主軸は西への振れ幅が小さくなり，同時に東に振れるものが多くなるのが特徴である。確認できるものについては，竈はほとんどが北壁に付設されている。貯蔵穴は4軒で確認されるだけで，前期よりさらに少なくなっている。また，4か所の主柱穴と1か所の出入口ピットが確認されるのが一般的である。

過去4か年の調査で，この時期の竪穴住居跡は172軒確認されている。表2から，竪穴住居跡が7区に比較的密に分布していることがわかる。前期に比べ竪穴住居の密な部分が南に移る傾向がうかがえる。

第7期（10世紀）

今回報告する範囲では，4区で5軒，5区で3軒，8区で1軒，11区で20軒の竪穴住居跡が確認されている。平面形は南北より東西が長い長方形で，規模は11区の第795号住居跡の長軸4.20m，短軸3.80mが最大で，11区の第874号住居跡の一辺2.58mが最小である。前期に比べて，さらに小形になっている。確認面からの深さも，極めて浅くなっている。主軸方向は，11区の第863・902A号住居跡がN－0°の他は，いずれも東に振れていて，特にN－83～106°－Eの範囲に86%が入り，画一化，規格化されている。竈は東壁中央部または南東コーナー部に付設しているが，6区の第672号住居跡は北東コーナーに付設されている。貯蔵穴は5軒で，主柱穴は5軒で，出入口ピットは8軒で確認されるだけで，前期に比較して際だって少なくなっている。

過去4か年の調査で，この時期の竪穴住居跡は206軒確認されている。表2から，北東部の1区，4区，5区8区，9区が極めて少なく，6区，7区に密に分布していることがわかる。また，11区は少し離れた場所で平均的な分布を示している。表2からは，集落の最も密な場所が次第に南下しているように読み取れる。

2　掘立柱建物跡

今回の報告では，4区で3棟，8区で11棟，11区で8棟，合計22棟の掘立柱建物跡が確認されている。調査区域外へ延びていることなどから不明なものを除き，内訳は，東西1間，南北3間の側柱建物跡が1棟，東西2間，南北2間の総柱建物跡が3棟，東西2間，南北3間の総柱建物跡が2棟，同側柱建物跡が7棟，東西3間，南北2間の側柱建物跡が2棟，東西3間，南北3間の総柱建物跡が2棟，同側柱建物跡が1棟である。総柱建物跡は4区に2棟，8区で2棟，11区で3棟が確認された。掘立柱建物跡の時期については，判断できる遺物が出土しない場合が多く，重複関係から8～9世紀と考えられるものがほとんどであり，どの竪穴住居跡とどの掘立柱建物跡が同時期に存在したかは明確でない。8区の北部では，東西方向に延びる第5号道路状遺構に近接して，11棟の掘立柱建物跡が狭い範囲で確認されている。しかも，柱穴の重複から同じ場所での建て替えをしたと考えられる箇所が見つかっている。律令制下で税として納められたものを保管しておく建物は，建物の規模や配置及び建てる場所まで細かく取り決められていたと考えられている。建て替える時に，他の場所に移さず同じ場所に建て直していることから，そういった規制に従ったのではないかと考えられる。また，11区の調査区域西部には，第28・29・32・33・34号掘立柱建物跡が，同じように狭い範囲で重複している区域

がある。ここについても，律令制下で特定の目的を課せられ，基準に従って設置された建物群ではないかと考えられる。また，この掘立柱建物群と隣接する第871号住居跡からは，「大殿墨ヵ研」と墨書された須恵器の円面硯が出土していることから，近くに役所的な大きな建物があり，これらはその関連施設であった可能性もある。

過去4か年の調査では，掘立柱建物跡が43棟確認されている。4区で3棟，5区で2棟，6区で1棟，7区で17棟，8区で11棟，11区で8棟である。掘立柱建物跡はこれまでの調査では，調査区域の南部にあたる7区と8区，北部の11区に集中している。7区の二列平行に規則的に配置された16棟の掘立柱建物群について，『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集では，「収納物の一時的保管場所」としている。本報告書で扱った8区は7区に隣接する調査区で，位置的にも7区の掘立柱建物跡群と一連の建物である。7区，8区を合わせると，確認されただけで28棟になる。ある時期この区画が大規模な倉庫群であったと考えられる。竪穴住居跡が主として東側に入り込んだ谷に臨む台地近くに広がり，北に役所の出先機関を配し，南部と西部に収穫物や税として納めさせた物を保管する倉庫群が広がるという景観が想定できる。

3　出土遺物

古墳時代前期の竪穴住居跡からは，土師器（坏・甕・甑・器台・坩）や碧玉製管玉，土玉などが出土している。この時期に位置づけられる，11区の第904号住居跡からは土師器の異形器台が4個体出土している。

古墳時代後期の竪穴住居跡からは，土師器（坏・椀・高坏・鉢・甕・甑など）や土玉，土製勾玉，石製紡錘車，碧玉製管玉，刀子などが出土している。この期に位置づけられる11区の第888号住居跡は，長軸8.00m，短軸7.80mと大形で，貯蔵穴及び貯蔵穴周辺から，完形もしくはほぼ完形の土師器の坏や高坏，甕，甑などが50点ほど出土している。規模や出土土器の量から，集落内でも特別な意味を持った竪穴住居跡と考えられる。

8世紀になると，土師器に須恵器（坏・高台付坏・盤・蓋・壺・甕・長頸瓶など）が加わっている。その他に刀子，鉄鏃，鉄斧，鉈尾，鉄製紡錘車などが出土している。須恵器坏は，前半は底部が丸味を帯びているのが特徴で，中期になると丸味は消え，大きな底径に比べて，器高が低いという特徴をもっている。。また，11区の第872号住居跡から出土した須恵器の蓋は，口縁部近くの内面に，下向きの明確な突出部（かえり）が付いている。この時期に位置づけられる，第871号住居跡からは，「大殿墨ヵ研」と墨書された円面硯が出土している。「大殿」が大きな建物を意味することから，「大殿墨ヵ研」は大きな建物に所属する硯という意味になり，周囲にそれに該当する建物があったものと考えられる。この時代に文字を書くのはごく一部の人で，多くの場合役人と考えられることから，周辺にそういった人物がいたか，もしくは役人が事務を執る施設などがあった可能性がある。

9世紀の出土遺物は，土師器（坏・皿・高台付坏・甕・甑など），須恵器（坏・蓋・捏鉢・鉢・甕・甑・盤など），灰釉陶器，転用硯（須恵器盤の底部片），鈹具，腰帯具の丸鞆や巡方，刀子，鎌，鉄鏃，鉄製紡錘車などである。この時期には，内面にヘラ磨きが施され，黒色処理された土師器坏が多くなり，須恵器が少なくなってくる。また，土師器に小形の皿が加わり，甕はさらに長胴化する。

10世紀に入ると，須恵器がほとんど出土しなくなる。出土するのは，主に，土師器（坏・椀・高台付坏・皿・甕・甑）で，特に扁平な土師器の皿が増加する。底部には，回転ヘラ切り痕や回転糸切り痕が見られる。

墨書土器は11区の第763号住居跡から出土した高台付坏底部外面や第881号住居跡から出土した土師器坏片の体部外面の「上山」，8区の第930号住居跡から出土した須恵器坏体部外面に朱書された「川ヵ」，11区の第871号住居跡から出土した円面硯裏面の「大殿墨ヵ研」などがある。

また，11区の第774号住居跡からは，体部内面に金が付着した東山72号窯式の灰釉陶器の椀が出土している。金が付着した陶器の報告例は少ない。埼玉県上里町の中堀遺跡では，底部から体部にかけて内面に金が付着した灰釉陶器の大形の椀が竪穴住居跡から出土している。山形県酒田市の後田遺跡は国司の館か国府内の主要官衙と考えられていて，底部内面に金が付着した灰釉陶器の高台付椀が出土している。宮城県の多賀城跡及び多賀城跡近くの山王遺跡では，出土した高台付皿と高台付椀に金が付着していた。群馬県の上野国分寺中間地域では高台付椀の底部片に，群馬県高崎市の綿貫遺跡では高台付椀の底部内面に，東京都府中市の武蔵国府関連施設の調査で出土した灰釉陶器高台付椀の底部内面に，千葉県市原市の上総国分寺関連の荒久遺跡では緑釉陶器の小瓶の内面に，山梨県大月市の御所遺跡では石杵の頭部に，それぞれ金が付着していた。いずれも，官衙や寺院関係の施設であることから，当遺跡についてもそういった施設と何らかの関係があることが考えられる。

むすびにかえて

当遺跡は律令時代の行政組織である常陸国河内郡島名郷に属しており，その中心的な集落跡になるものと考えられる。平成6年から平成9年までの熊の山遺跡の調査の成果を，竪穴住居跡や掘立柱建物跡を中心にまとめてみたが，集落はさらに西に広がっていると思われることから，今後の調査によって律令制下の郷の構造がさらに明らかにされるものと期待される。

（まとめ表1）熊の山遺跡各期・各区竪穴住居跡数

区＼期	4世紀	5世紀	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	計（軒）
1	3	1	13	4	13	12	3	49
2		1	3	1		3	24	32
3			11	7	5	4	9	36
4		1	7	6	3	4	10	31
5	7	2	16	26	13	13	10	87
6	16	6	16	22	43	27	72	202
7	2		12	10	37	63	54	178
8			6	12	9	15	4	46
9					1	2		3
11	18	1	47	11	32	29	20	158
計（軒）	46	12	131	99	156	172	206	822

（まとめ表2）熊の山遺跡各時期・各区1,000㎡あたりの住居跡数

区＼期	4世紀	5世紀	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	各区（軒）
1	0.48	0.16	2.07	0.64	2.07	1.91	0.48	0.74
2		0.14	0.43	0.14		0.43	3.41	0.48
3			4.19	2.66	1.90	1.52	3.43	0.54
4		0.07	0.52	0.45	0.22	0.30	0.75	0.47
5	1.14	0.33	2.61	4.25	2.12	2.12	1.63	1.31
6	1.91	0.72	1.91	2.62	5.13	3.22	8.59	3.02
7	0.28		1.66	1.38	5.12	8.72	7.47	2.67
8			0.78	1.57	1.17	1.96	0.52	0.69
9					0.87	1.74		0.05
11	2.66	0.15	6.95	1.63	4.73	4.29	2.96	2.37
各期	0.69	0.18	1.97	1.49	2.34	2.58	3.09	12.34

（まとめ表３）熊の山遺跡掘立柱建物跡一覧表

番　号	区	東西（間）	南北（間）	総柱	側柱	桁 行 方 向
4	8	2	2		○	N－87°－E
6	6	4	2		○	N－83°－E
7	5	2	1	○		N－3°－W
8	7	2	3		○	N－0°
10	4	2	3	○		N－3°－W
11	4	2	3	○		N－3°－W
12	7	2	3		○	N－16°－E
13	7	2	2		○	N－0°
14	7	2	3		○	N－5°－E
15	5	2	2	○		N－32°－E
16	4	2	(1)	○		N－3°－W
17	7	2	2		○	N－0°
19	7	3	2		○	N－105°－E
21	7	2	2		○	N－10°－E
22	7	2	3		○	N－10°－W
23	7	2	3		○	N－10°－E
24	7	2	3		○	N－5°－E
25	7	2	3		○	N－0°
26	7	2	3		○	N－0°
27	7	3	2		○	N－90°－E
28	1	2	3		○	N－8°－W
29	1	1	3		○	N－16°－W
30	1	2	2	○		N－7°－W
31	1	3	2		○	N－86°－E
32	1	3	3		○	N－8°－W
33	1	2	2	○		N－5°－W
34	1	3	3	○		N－10°－W
35	8	3	3	○		N－3°－E
36	1	2	3		○	N－5°－W
37	8	(1)	2		○	N－0°
38	8	3	2		○	N－90°－E
40	8	2	3		○	N－0°
41	8	2	3		○	N－8°－E
42	8	2	3		○	N－10°－E
43	8	2	3		○	N－15°－E
44	8	2	2	○		N－7°－E
45	8	2	3		○	N－3°－E
46	8	2	(0)	－	－	N－10°－E
47	8	2	(0)	－	－	N－2°－E
48	7	2	(2)		○	N－0°
49	7	2	3		○	N－20°－E
50	7	2	2		○	N－5°－E
52	7	2	3		○	N－8°－E

参考文献

・埼玉県埋蔵文化財調査事業団　「御陣場川堤調節池関係埋蔵文化財調査報告　中里遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書』第190集　1997年

・茨城県教育財団　「(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』120集　1997年3月

・茨城県教育財団　「(仮称) 島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』133集　1998年3月

・茨城県教育財団　「(仮称) 島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』149集　1999年3月

写 真 図 版

第401号住居跡完掘状況

第407号住居跡完掘状況

第407号住居跡遺物出土状況

第407号住居跡遺物出土状況

第416号住居跡完掘状況

第417号住居跡完掘状況

第911号住居跡完掘状況

第911号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

第913号住居跡完掘状況

第913・915号住居跡遺物出土状況

第916号住居跡完掘状況

第916号住居跡遺物出土状況

第405号住居跡完掘状況

第405号住居跡甕遺物出土状況

第406号住居跡完掘状況

第406号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

第408号住居跡遺物出土状況

第409号住居跡完掘状況

第411号住居跡完掘状況

第412号住居跡完掘状況

第415号住居跡完掘状況

第912号住居跡遺物出土状況

第287号土坑遺物出土状況

第11号掘立柱建物跡完掘状況

第726号住居跡完掘状況

第728号住居跡遺物出土状況

第729号住居跡完掘状況

第729号住居跡遺物出土状況

第730号住居跡完掘状況

第730号住居跡遺物出土状況

第731号住居跡完掘状況

第731号住居跡遺物出土状況

第738号住居跡完掘状況

第739号住居跡完掘状況

第739号住居跡遺物出土状況

第741B号住居跡完掘状況

第744号住居跡完掘状況

第744号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

第746号住居跡完掘状況

第750号住居跡完掘状況

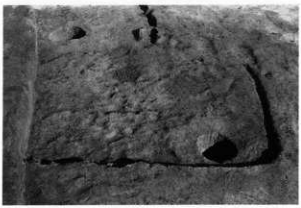
第737号住居跡完掘状況

第740号住居跡完掘状況

第740号住居跡遺物出土状況

第741A号住居跡完掘状況

第743号住居跡完掘状況


第745号住居跡完掘状況

第745号住居跡竈完掘状況

5区完掘全景

第662・663号住居跡完掘状況

第662・663号住居跡遺物出土状況

第665号住居跡完掘状況

第665号住居跡遺物出土状況

第669・670号住居跡完掘状況

第671号住居跡遺物出土状況

第686号住居跡遺物出土状況

6区完掘全景

第917号住居跡完掘状況

第918号住居跡完掘状況

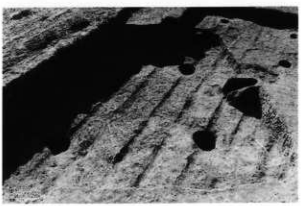
第919号住居跡完掘状況

第922・923号住居跡完掘状況

第924号住居跡遺物出土状況

第924号住居跡竈遺物出土状況

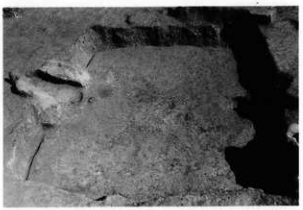
第925号住居跡完掘状況


第926号住居跡完掘状況

第926号住居跡遺物出土状況

第927号住居跡完掘状況

第928号住居跡完掘状況



第929号住居跡完掘状況

第929号住居跡遺物出土状況

第930号住居跡遺物出土状況

第931号住居跡完掘状況

第932号住居跡完掘状況

第932号壶遗物出土状况

第933号住居跡完掘状况

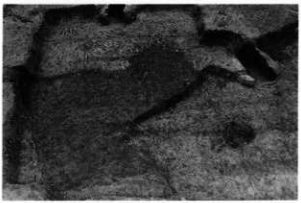
第934号住居跡完掘状况

第935号住居跡完掘状况

第935号住居跡遗物出土状况

第936号住居跡完掘状况

第937号住居跡完掘状况


第938号住居跡完掘状况

第942号住居跡完掘状況

第38号掘立柱建物跡完掘状況

第41号掘立柱建物跡完掘状況

第42号掘立柱建物跡完掘状況

第44号掘立柱建物跡完掘状況

第45号掘立柱建物跡完掘状況

第46・47号掘立柱建物跡完掘状況

第35号溝遺物出土状況

第950号住居跡完掘状況

第950号住居跡竈遺物出土状況

第951号住居跡完掘状況

第952号住居跡完掘状況

第35号溝完掘状況

第7号道路状遺構完掘状況

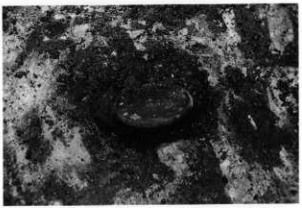
第953号住居跡遺物出土状況

第25号井戸跡完掘状況

第26号井戸跡完掘状況

第27号井戸跡土層断面

第16号地下式壙完掘状況



第16号地下式壙遺物出土状況

第681号土坑完掘状況

第681号土坑遺物出土状況

11区完掘全景

11区完掘全景

第733号住居跡完掘状況

第733号住居跡遺物出土状況

第734号住居跡完掘状況

第734号住居跡遺物出土状況

第735号住居跡完掘状況

第736号住居跡完掘状況

第751～753号住居跡遺物出土状況

第751号住居跡炉完掘状況

第752号住居跡完掘状況

第753号住居跡完掘状況

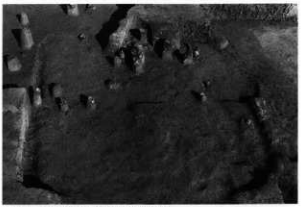
第753号住居跡遺物出土状況

第754号住居跡完掘状況

第754号住居跡遺物出土状況

第754号住居跡遺物出土状況

第756号住居跡完掘状況

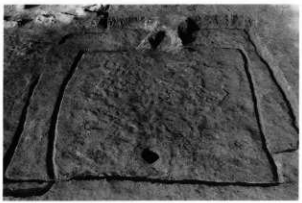

第756・757号住居跡遺物出土状況

第757号住居跡完掘状況

第758号住居跡完掘状況

第758号住居跡竈遺物出土状況

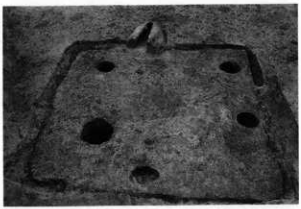
第759号住居跡完掘状況


第759・760号住居跡完掘状況

第759・760号住居跡遺物出土状況

第761号住居跡完掘状況

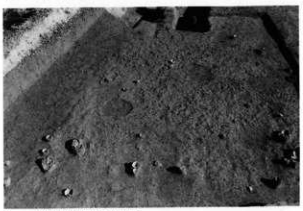
第762号住居跡完掘状況



第763号住居跡完掘状況

第764号住居跡完掘状況

第766号住居跡完掘状況

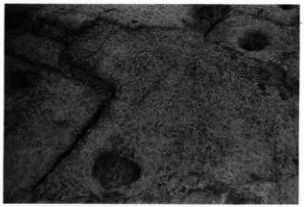


第766号住居跡遺物出土状況

第766号住居跡遺物出土状況

第767号住居跡完掘状況

第767号住居跡遺物出土状況


第768号住居跡完掘状況

第768号住居跡遺物出土状況

第769号住居跡完掘状況

第769・770号住居跡完掘状況

第769～773号住居跡遺物出土状況

第770号住居跡遺物出土状況

第771号住居跡完掘状況

第772号住居跡完掘状況

第772号住居跡完掘遺物出土状況

第774号住居跡完掘状況

第775号住居跡完掘状況

第776号住居跡完掘状況

第776号住居跡遺物出土状況

第777号住居跡遺物出土状況

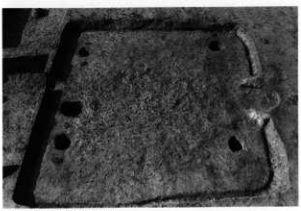
第778号住居跡完掘状況

第779号住居跡遺物出土状況

第780号住居跡完掘状況

第780号住居跡遺物出土状況

第781号住居跡遺物出土状況


第782号住居跡完掘状況

第783号住居跡遺物出土状況

第784号住居跡完掘状況

第784号住居跡竈遺物出土状況

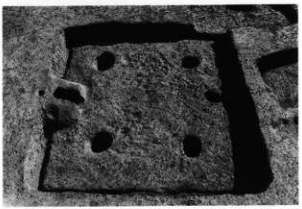
第785号住居跡遺物出土状況

第785号住居跡竈完掘状況

第786号遺物出土状況

第787号住居跡完掘状況

第787号住居跡遺物出土状況

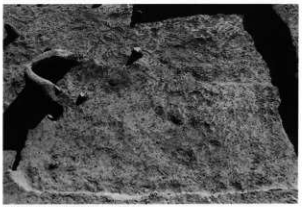


第788号住居跡完掘状況

第788号住居跡遺物出土状況

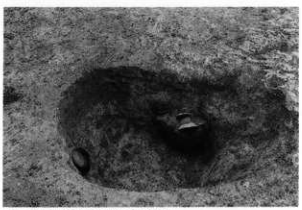
第789号住居跡完掘状況

第789号住居跡竈完掘状況


第791号住居跡遺物出土状況

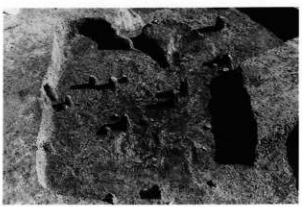
第792号住居跡完掘状況

第792号住居跡遺物出土状況

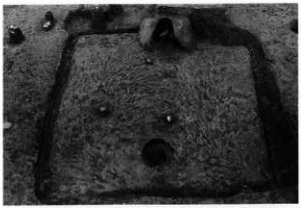

第792号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

第794号住居跡完掘状況

第795号住居跡完掘状況


第795号住居跡遺物出土状況

第796号住居跡完掘状況



第797号住居跡遺物出土状況

第798号住居跡完掘状況

第799号住居跡完掘状況

第800号住居跡完掘状況

第800号住居跡遺物出土状況

第800号住居跡遺物出土状況

第801号住居跡完掘状況

第802号住居跡完掘状況

第803号住居跡遺物出土状況

第804号住居跡遺物出土状況

第806号住居跡完掘状況

第807号住居跡遺物出土状況

第808号住居跡完掘状況

第809号住居跡完掘状況

第809・836・842号住居跡完掘状況

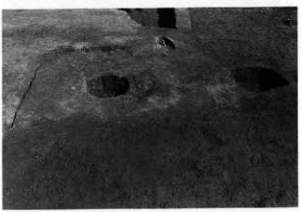
第809・839・842号住居跡遺物出土状況

第809号住居跡竈完掘状況

第810号住居跡完掘状況

第811号住居跡完掘状況

第812号住居跡完掘状況



第813号住居跡完掘状況

第814号住居跡完掘状況

第814～818号住居跡完掘状況